ISSN 0912-8182

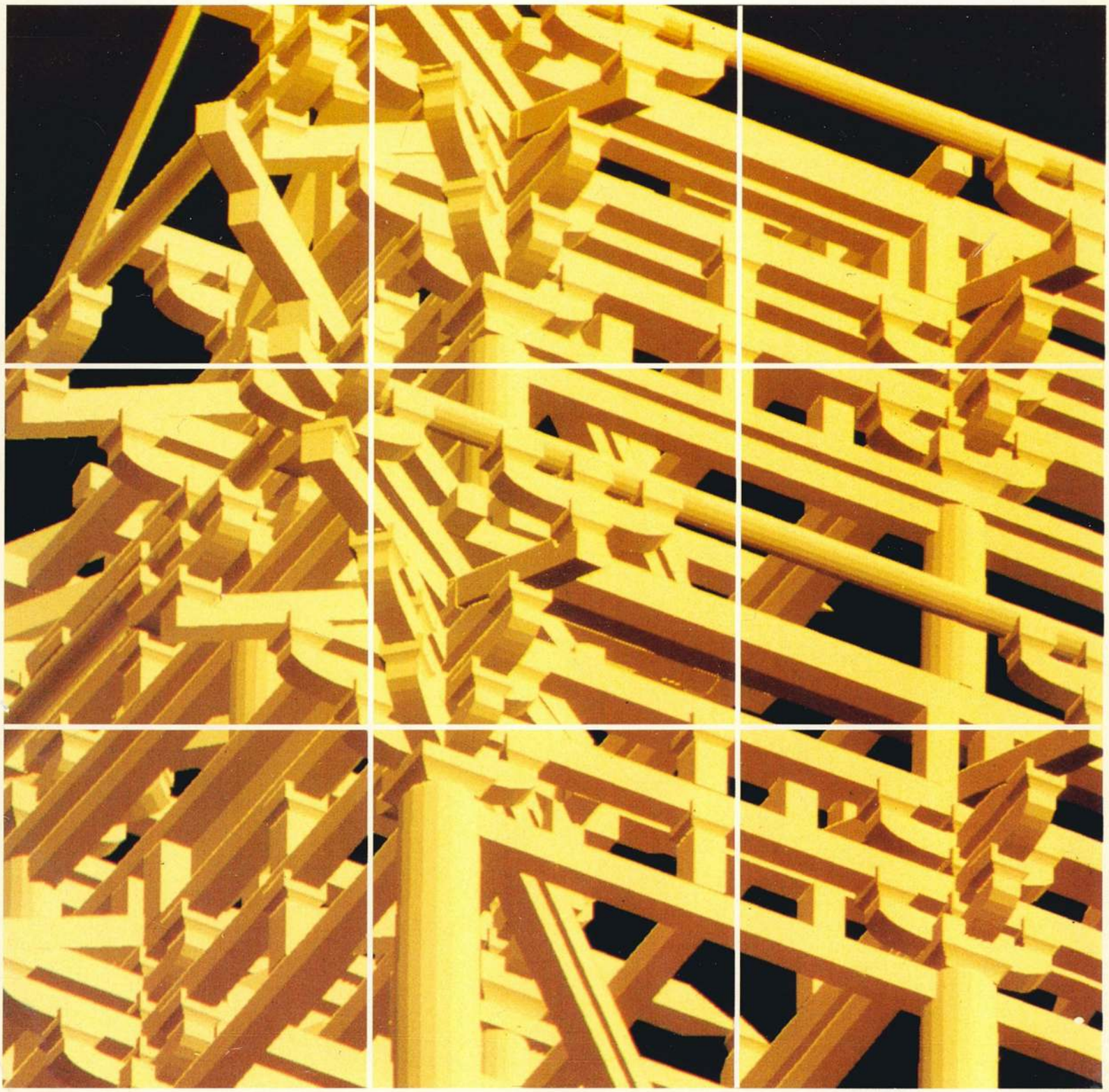
Vol. 69 通巻790号 昭和63年1月25日発行・毎月1回25日発行・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

1988 1

特集■ホテル物語



日本建築協会

Day by Day——きっといい明日

大阪ガス

いまどきの、お湯。

ウチじゅうの快適さ、ぜ〜んぶお湯まかせ。



1.風呂・シャワー

給湯能力はビッグな16号。だから、お風呂わかしのスピードアップも、オールシーズンシャワーもOK。さらに、お湯はりから足し湯・追いだきまで、ぜんぶ自動で。



3温水サウナ

ご家族全員で安心して楽しめる低温の遠赤外線方式。省スペース・省エネのヘルシーなサウナです。

2給湯

お台所はもちろん洗面所でもお湯を。冷え込む冬の洗いものや洗顔もぽかぽか。

4浴室換気乾燥機

浴室がそのまま便利な乾燥室に。雨の日や夜でも衣類のふっくら乾燥、おまかせ。

5床暖房

ふく射熱により、床面からダイレクトに暖かさを伝えます。"頭寒足熱"の効率暖房です。

6暖冷房

温水暖房ならではのソフトな暖かさに、さわやか冷房をプラス。一年中快適に。

うきうき暖冷房からわくわく給湯まで。
さらにおまかせ自動風呂わかし機能付!

エックスプリオール・オート

PRIOR AUTO

資料請求券

資料請求・お問い合わせは…〒541 大阪市東区平野町5-1大阪ガス営業部 エックスプリオール係まで TEL06-202-2221

謹賀新年

1988年を迎えて

社団法人日本建築協会会長　佐野正一

新年を迎え、皆様のご多幸と建築界の繁栄を祈りあげます。

何年かつづいた不況のなかで、建築界もさえない歳月を重ねておりましたが、昨年春以来流動する複雑な国際経済を背景に、内需拡大に転じて以来、住宅建設、公共投資をきっかけに設備投資が活発化して産業全般に景気回復のきざしを見せ、建築界は今年しばらく遠のいていた明るい雰囲気を思い出したようであります。

こうした状況のなかで本協会は大正６年の創立から70周年の記念の年を迎えて、昨年３月には創立記念式典を挙行し、この記念すべき年に向かって創設した日本建築協会賞７件の表彰を行い、また８月には「昭和生まれ―関西の建築家50」の出版と作品展を開いて大きな反響を呼んだほか、11月には記念事業の一環としてヨーロッパ研修旅行団を編成して「ふたつの世紀末の建築を訪ねて」の企画を意義深く終了しております。

記念事業はさらに今年に受けつがれ、この春「大正『住宅改造博覧会』の夢展」企画と大阪市関係部局編集に協力してユニークな「住まいの絵本」の発行企画を展開して終結する予定であります。激しい起伏を経験した建築界70年を回顧したこれらの企画が、多数の会員の大きな努力によって実現したことを心から感謝し、これこそ建築界各分野を包含した本協会ならではの社会に寄与する輝かしい成果であり、大きな喜びを感ずるのであります。

この上はこの成果をふまえ、21世紀をのぞんでさらに一層の前進をはかりたく、各位のお力添えをお願いいたしたいと願うのであります。

建築界は新しい年を迎えてさまざまな課題をかかえております。社会・経済環境は一新いたしましたが、都市問題、住宅問題をはじめ国際的な拡がりのなかで一層多彩に、一層対応の複雑な状況に立ち向かう局面にあると申せましょう。建築という仕事が多様な技術分野を組み合わせ調整しながら、生活と社会に関わる改善を使命とするものである以上、この仕事に伴う困難にはあえて挑戦し、工夫と努力をしなければならないのでありましょう。

より慎重に、より積極的に建築界の英知を発揮してゆくことを期待いたしたいと存じます。

皆さまのご健勝を心から祈ってやみません。

伝統の中に若々しさを保つ－編集委員会－

編集委員長 長谷部朔郎

昨年、古希を迎えた、日本建築協会の機関誌「建築と社会」は、本年中に通巻800号を迎えることになります。建築に関するあらゆる分野の人々が、平等な立場で参加し、その業を通して社会に貢献するという、本会の目的を、委員一同、今一度噛みしめ、内容の高さ、豊富さではすでに定評のある誌面をさらにテーマを選択し、経験豊かな人々、新しく建築を目指す人々、双方に親しまれる雑誌造りを目指したいとおもいます。

そのために、昭和63年は、フレッシュで読みやすい誌面への転換を目指し、伝統の中に、常に若々しさを保つことをかけ声に、委員、事務局一同一層頑張りますので、会員の皆様のご協力、ご支援をお願いします。

1月号より、まず表紙を変えました。これは、まず第一歩です。

伝統のある事業をさらに魅力的に

－教育委員会－

教育委員長 片倉健雄

会員の皆様には教育委員会の活動がお目に留まる機会が少ないかもしれませんが、多くの建築関係団体がさまざまな活動を行っている中で、協会の教育事業は特長のあるものに絞っているためでもあります。

その中で、本号で入選作品を紹介している「工高生デザインコンクール」は、今年は34回目を迎えることになります。昨年は前年に引き続いて応募が活発で、東北から九州まで過去最高の194点が寄せられ、協会の存在を広く示す機会にもなっているので、担当小委員会の方々と共に一層の魅力化を図りたいと思っております。

一方、「建築工事実務講習会」は43回を数えて、施工と監理にたずさわる中堅技術者の研修機会として定着しています。今年はその見直しの時機に当たっているので、企画を一新すべく、担当小委員会で検討を進めています。新たな小講習会の提案もあり、他委員会や会員各位のご支援と協力を得て充実を図りたいと思っております。

魅力ある事業を—事業委員会—

事業委員長 西村良平

昨年は、建築協会創立70周年に当たり、記念式典はじめ「関西建築家50展」、ヨーロッパ研修旅行等、記念の諸行事と当委員会の諸事業が、会員諸兄のご協力により大成功裏に遂行できたことを感謝して、ご報告申し上げる。

多様化する現代社会において建築協会の現況はきわめてきびしい。委員方のご努力により団体会員の増加等が計られているが、協会発展の⅓には協会自体の魅力が第一であることは言うまでもない。

当事業委員会としては、建築関係各分野を統合する協会独自の性格を生かしたテーマをとりあげ、会と会員を結ぶ会誌の内容と連動する形で、事業企画を充実させ、数多く実施することを本年の目標と考えている。年に一度は必ず協会の事業に参加されることで、会員諸兄の一層のご支援をお願い申し上げる次第である。

温めている企画の実現に向けて

－出版委員会－

出版委員長 須賀好富

当委員会において、昨年度までに企画・出版しました図書は、

- 建築技術選書……38冊
- プロのノウハウ……13冊
- 建築技術選書（特装版）……3冊

計54冊

の多きに至りました。そして会員・会員外の建築技術者に多大の貢献をしてきたことは誠に喜ばしいことです。とくに昨年は、プロのノウハウと技術選書（特装版）が多く発刊されたことは、時代のニーズにあった企画と、努力いただいた著者先生方のご努力の賜とありがたく思っています。

新年度も前年度を踏しゅうして、現在温めている企画を実現すべく委員一同努力するつもりですので、会員の皆様方の応援をお願いします。

正確な情報で、良い建材を－建材委員会－

建材委員長 金井弘次

年間数多くの新しい建材が開発され、反面、また多くの建材が姿を消していきます。その建物にふさわしい良い建材を選ぶということは、日常、建築に携わる人達はもちろん、広くユーザーを含め共通した関心事であります。単に素材の良否だけでなく、使用個所、目的による美観性、施工性、耐久性、またメンテナンスの容易性など多様な条件の要求されるのも、建材のもつ特色であります。

建材委員会は、建築の設計、施工、監理、研究機関など幅広い分野の委員によって構成され、毎回熱心な討議を重ねて、本誌「新建材紹介コーナー」を通じ、皆様のお役に立つよう努めております。

昨年、景気はようやく立ち直りの兆しが見え、建築界においても本年の活況が期待されておりますが、同時に建築物の性能と品質に関する問題は、ますます重要になるものと思われます。建材委員会としても「正確な情報で、良い建材を」をモットーに、本年も頑張ります。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

■作品名 「朱雀門」■作者 大阪大学工学部環境工学科笹田研究室■使用ハードウェア PC-9801、COMTEC301A（グラフィック・ディスプレイ）■使用ソフトウェア 自作およびマドレール（モデラー）■平城京にあった朱雀門を、実際の復元に先立ち、コンピュータの中に再現した。すべての部材の継ぎ手、仕口はもちろんのこと、かんぬき受けやちょうつがいなどの金物にいたるまで現物の形に忠実に作られている。

1917創刊
1988
69集

建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1 通巻790

年頭のことば
本年の抱負
作品作風・新建築

■特集予告
2月号／軟弱地盤と基礎
3月号／設備におけるLCCとリフレッシュ
4月号／建物の外装リフォーム／"都心居住"特集（予定）

Gallery
being
作品作風探訪
大先輩に聞く
東海ルネサンス
ニュース
東海の建築マップ
スケッチブック
会員グループの頁
法令コーナー
書評

GBRCニュース

デザインコンクール
新建材紹介コーナー
建築の眼

特集
総論
各論 I
各論 II
資料編

レポート
構造の頁154
設備の頁157
施工材料の頁
月報

会　長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
　　松村雄二・桑袋公明
編集委員会（昭和62年度）
編集理事
井上　滉
金井　弘次
金多　潔
小島　雄
高木　登
竹中　練一
若山　繁
長谷部朝郎
松村　慶三
渡辺　忠
編集委員長
長谷部朝郎
代 上田　信也
編集委員
（特集小委員会）
■計画分科会
角島　健二
川前　勉
河端　秀直
小浦　久子
☆佐野　潤一
清水　肇
鈴木　克彦
田附　尚
★田中　直人
高田　佳子
☆平岡　博
北條　誠
吉村　英祐
■構造分科会
和泉　一義
高垣　利夫
谷　明勲
出口　節夫
外園　隆
★向井　久夫
安田　光世
■設備分科会
安倍　浩一
石河　信治
石野　幸義
遠藤　進
梶井　宏修
河津　隆之
★田中　脩
別所　清
■施工材料分科会
大木　利文
内山　修之
水口　譲
山下　仁志
★山田　敏捷
横井　征夫
■法令分科会
笠井　精二
★中島富三郎
松田　洋三
南出　和延
（作品作風小委員会）
荒川　朱美
遠藤　公介
◇加藤　力
北澤　修一
小林　正純
○高瀬　由康
唐　伸夫
中山　隆
林　浩二
水川　尚彦
宮崎ひろ志
（投稿欄小委員会）
浅野　貴志
伊藤　郁郎
北村　恭一
柴田　厚
◇高田　光雄
塚口　明洋
堀畑　裕一
○増渕　昌利
宗行　昌弘
吉本　安邦
（広告企画小委員会）
池渕　俊男
篤　秀明
北村　潤
嶋田　聖二
下村　甫
中井　進
中川源治朗
原田　常介
広田　和正
○藤田　孝吉
山下　修司
○渡辺　忠

○ 副委員長　◇ 副委員長代行
★ 幹事　☆ 幹事代行

印　刷　昭和63年1月20日
発　行　昭和63年1月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　電　06—348—0635
　　振替口座 大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
　　電　06—606—1111㈹
　　大信印刷株式会社
　　電　06—451—7631
　　青葉印刷株式会社
　　電　06—351—5428㈹
定　価　950円（送料共）

特集●ホテル物語

SPECIAL FEATURE ON HOTEL STORIES

1988年を迎えて／会長・佐野正一 —— 1
常設委員会本年の抱負／常設委員会委員長 —— 2
太陽神戸銀行神戸本部ビル —— 4
　設計監理：安井建築設計事務所
　施工：竹中工務店・大林組・清水建設・大成建設・新井組共同企業体
アーバンヒル上町・大阪市立社会福祉センター —— 10
　設計監理：大阪市住宅供給公社・日建設計、施工：竹中工務店
武庫川女子大学薬学部新学舎 —— 総合施工：東洋不動産　設計施工：大林組 —— 16
橘女子大学管理・特別教室棟 —— 20
　設計：ARPA・K地域計画・建築研究所　施工：戸田建設
大阪電気通信大学四条畷学舎 —— 設計施工：大林組 —— 22
ぐらん・ぱれ　毎日産業ビル㈱曽根崎新地レジャービル —— 設計施工：鹿島建設 —— 24
スパイヤー…釣鐘町の摩天楼／小林正純 —— 26
今現陶藍姫—堤展子／田中初芳 —— 28
〈自然〉な設計—太陽神戸銀行新本店ビル／宮崎ひろ志 —— 29
東畑謙三（東畑建築事務所会長）／北村恭一 —— 30
産業技術の中枢都市名古屋をめざして／西尾武喜vs中島一 —— 32
第19回中部建築賞 —— 35
景観としての建築—三重県立美術館．皇学館大学100周年記念講堂 —— 36
最近竣工した新建築9点（No.2080～2088） —— 37
大阪市交通局 —— 38
建築基準法・同施行令の一部改正(1)—その背景—／南出和延 —— 39
「あめりか屋商品住宅」／太田隆信．「生の建築：中野誠一作品集」／高口恭行．「大江戸観光」／高田昇．「東京路上博物誌」／橋本敏子．「VOYAGE D' ORIENT CARNETS（東方への旅…手帖）」／加藤邦男．「風景と都市の美学」／伊藤郁郎．最近の「ウォーターフロントの開発」
新刊事情／増渕昌利．ル・コルビュジエ生誕百年を回顧して／伊従勉 —— 40
大阪府のコンクリート工法に関する指導要綱によるコンクリート用骨材試験の試料採取
巡回工場について —— 43
第33回工高生デザインコンクール入選作品（テーマ：学校に隣接して建つ同窓会館） —— 44
コルクタイル「イマコルク」／西川純一 —— 49
モダンとポストモダン／川崎清．街なみ景観／原田明治．
庭／出江寛．大地震と予知と心がまえ／松谷輝雄 —— 60

ホテル物語

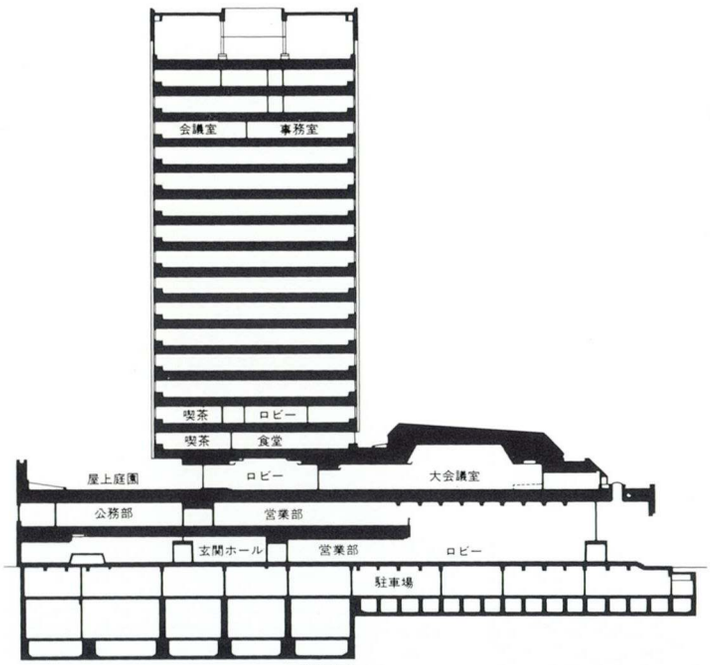
ホテル今昔物語 —— 太田土之助 —— 62
対談●これからのホテル—アメリカホテル業界の現況とこれからの日本のホテルの動向 —— 副島有年vs小川清一 —— 65
ホテルを語る（アンケートとインタビュー） —— 68
伝統の蓄積を基礎に新しい実験を試みたホテル／佐々木成人．これからのホテルに望まれる個性／丹野太郎．Home away from home／宇田川伸子．都市ホテルを内包したコンプレックス／松尾廣巳．マン・トゥ・マンのサービス／田附隆．新しい価値／柴田陽三．かけだしの都市ホテル／小川正．人間性と偶然性の演出される建築空間／古田敏雄．本当のホスピタリティ／横川隆一．大衆文化の指標としてのラブホテル／片木篤．
ホテル機能の分類—ホテルは日常と非日常のはざまで— —— 76
　担当：小浦久子／高田佳子／田中直人
日本のホテルおもしろランキング —— 担当：吉村英祐 —— 78
京阪神三都市"ホテル事情" —— 担当：角島健二／鈴木克彦／田中直人／平岡博／吉村英祐 —— 80

R・ロジャースと100人の日本建築家たち／薄田学 —— 83
レーザーによるμ単位に穿孔したセラミックス型枠／羽賀久芳 —— 84
インテリジェントビル用複合配線器具／安井孝明 —— 86
（休載）
日本建築協会月間の動き（昭和62年11月分） —— 87

太陽神戸銀行神戸本部ビル

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　竹中工務店・大林組
　　清水建設・大成建設
　　新井組共同企業体

電気設備　近畿電気工事・関電工・大宮電気工業
　　三宝電機・六興電気・三和大榮電氣
　　山陽電氣工事・住友電設共同企業体
空調設備　朝日工業社・ダイダン・日立プラント建設
　　高砂熱学工業・新菱冷熱工業
　　東芝空調共同企業体
衛生設備　朝日工業社・高砂熱学工業・須賀工業・三冷社
　　第一設備工業・東芝プラント建設共同企業体
昇降機設備　三菱電機・東芝・日立製作所
　　日本オーチス エレベータ



断面図



山手よりポートアイランドを望む


太陽神戸銀行



玄関



1階本店営業部



3階大ホールロビー

所在地　神戸市中央区浪花町56番地
敷地面積　6,473㎡
建築面積　4,695㎡
延床面積　38,776㎡
構造規模　SRC、B2、18F、S、P2
工　期　昭和60年4月～昭和62年10月
最寄駅　JR東海道線元町駅

撮　影　名執一雄

敷地は、兵庫開港（1868年）に併って設けられた外国人居留地跡の一画にある。この地域は近代神戸発祥の地としての歴史的環境に調和した、にぎわい、親しみ、うるおいのある街づくりを目指し、「旧居留地都市景観形成地域」に指定されている。三方道路に囲まれた敷地の南側を総合設計制度による公開空地とし、開放された前庭は市民に小公園的な憩いを提供する。また、東西の建物外周部は歩道と一体になった緑道としてうるおいのある街並みをつくっている。

全体は、神戸のイメージにあう明るい色調の花崗石と、緩くカーブしたガラスのカーテンウォールで構成された外観をもつ〈高層棟〉、バンキングホール、大ホールの大空間を内包するシェル状の金属板葺屋根をもつ〈低層棟〉で構成され、地域に密着した明るく、親しみ易い企業イメージを意図した。

高層棟については両サイドコアーで約29M×29Mの無柱でフレキシビリティーの高いオフィス空間を確保している。高度な技術革新により、ますます情報化が進んで、金融機関においてもエレクトロニクスバンキング（EB）等が進められ、将来的には、オフィスは数多くのOA機器が導入され、大幅にオフィス業務の効率化及びオフィス環境の整備が要求される。将来のLANシステム導入のための、光ファイバー幹線ルートの確保、電源及び配線スペースの確保、快適なオフィス環境の確保等OA化に対応できるよう計画されている。

防災設計は充分に考慮されているが、特に高層棟は、日常動線と関連づけた明快な2方向避難とし、安全な避難ルートを確保した平面計画となっている。

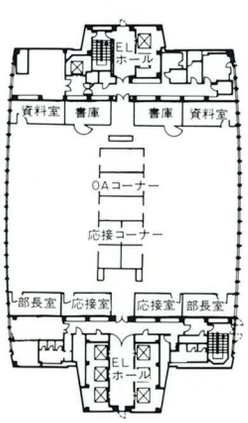
（安井建築設計事務所）



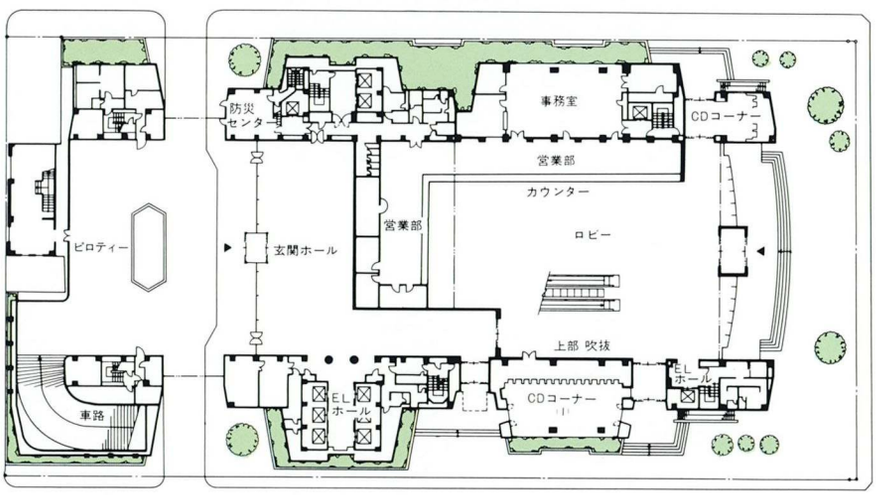
2階本店営業部



正面本店営業部玄関



基準階平面図

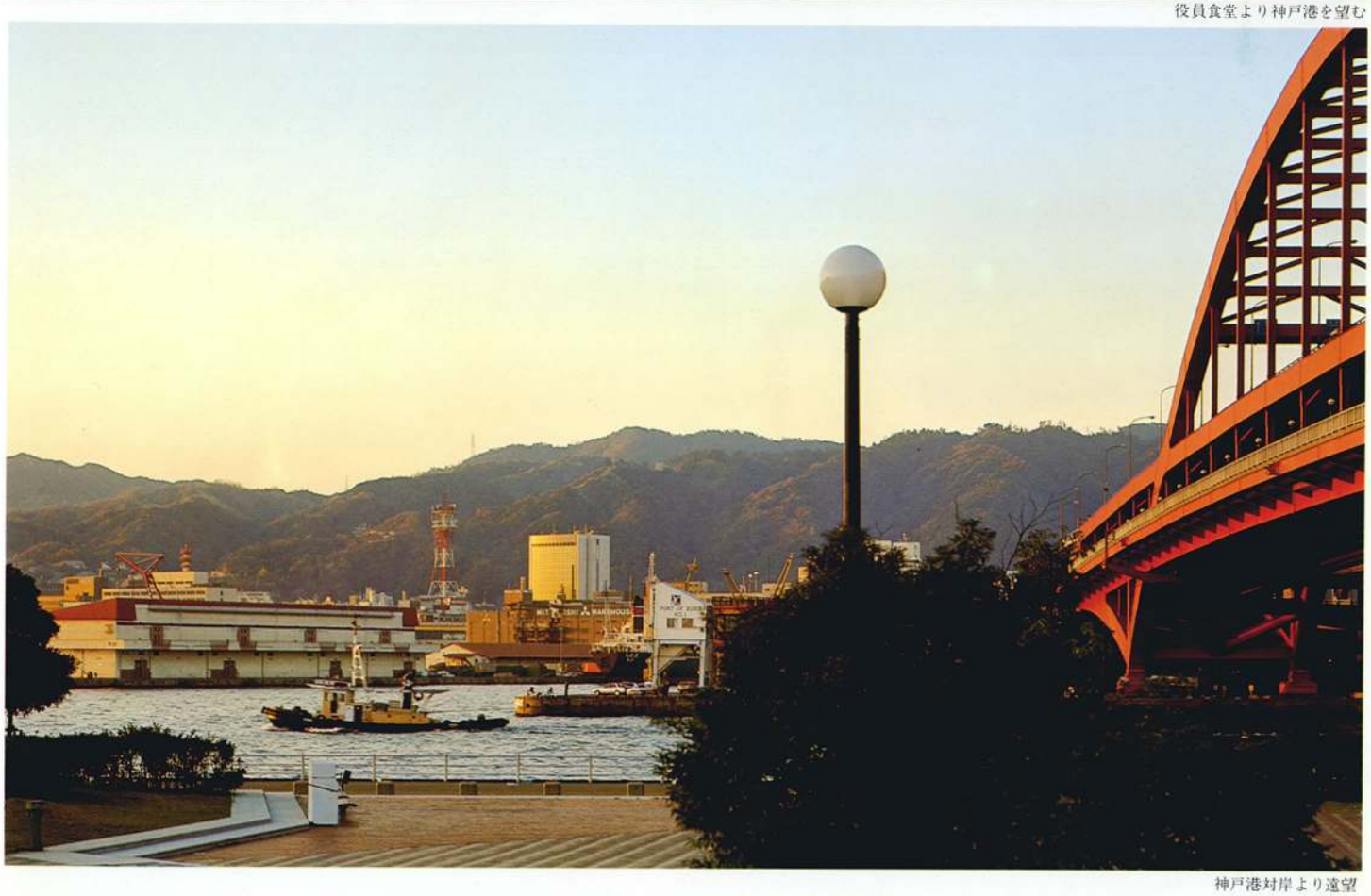


配置・1階平面図　1：1000





役員食堂より神戸港を望む



神戸港対岸より遠望



アーバンヒル上町・大阪市立社会福祉センター

設計監理　大阪市住宅供給公社
　　日建設計
施　　工　竹中工務店
電　　気　近畿電気工事
空調衛生　朝日工業社
エレベータ　東芝



南東上空より望む。左端は都ホテル大阪



南面広場と彫刻(伊藤隆道作「空へ、地へ・光」)



住宅・北面アプローチ


社会福祉センターエントランスホール


住宅用エレベータホールとタピストリー(安東早苗作「街・プリズム」)

大正12年に建設されたランバス女学院に端を発する大阪市社会福祉会館の老朽化した建物を建替えるに当って、大阪市は都心の人口定着を図る大阪市住宅供給公社と協力して事務所と分譲住宅の複合施設を作ることにした。具体的な企画は公社と日建設計により約1年に亘って種々の角度から検討がなされた。とりわけ、800%の容積率が「住む」という機能に相応しい建物にうまく使いきれるかが作業のポイントとなり、日照、通風、日影、風害などの物理的な環境基準を自他双方に満足させるプランタイプの作成にはかなりの時間を費やした。また、近年その整備が急速に進められているターミナル上六に位置する敷地は、界隈のにぎわいとアメニティを正しく継承すべく、前面広場、緑、屋外彫刻などの地表レベルでの配慮は勿論、都心型施設に相応しい外観構成も種々検討がなされた。

設立20周年を迎えた大阪市住宅供給公社は、今回の本格的な超高層マンションの企画に際して、その過去の豊富な経験に加えて、幾つかの新しい試みを行なった。例えば、安全で管理のしやすい積層構成、居住性の高いSRC構造の採用、合理的なプレコンによる外装、都市景観を乱さないファサードや色、空中庭園や遊び場、躯体組込型立体駐車場、吹抜システムと太陽追尾装置、ガスエネルギーの採用、オートロックやTVドアホン装置、などがその主たるテーマである。


4階スカイプラザプレイロット

地理と歴史に恵まれた上町台地に位置することも幸いして、最上階の8戸のフリープランを含む総数184戸の住宅は全て即日完売の好結果を得た。この建物が上六一帯の一層の活性化に寄与することを願わずにはいられない。

(日建設計)

所在地　大阪市天王寺区東高津町
敷地面積　3,045.50㎡
建築面積　1,912.66㎡
延床面積　25,003.69㎡
構造規模　SRC、B1、24F、P3
工　期　昭和60年4月～昭和62年9月
最寄駅　近鉄上本町駅　地下鉄千日前線及び谷町線　谷町九丁目駅

撮　影　大島勝寛　上諸尚美



24階フリープランタイプ・ポーチ



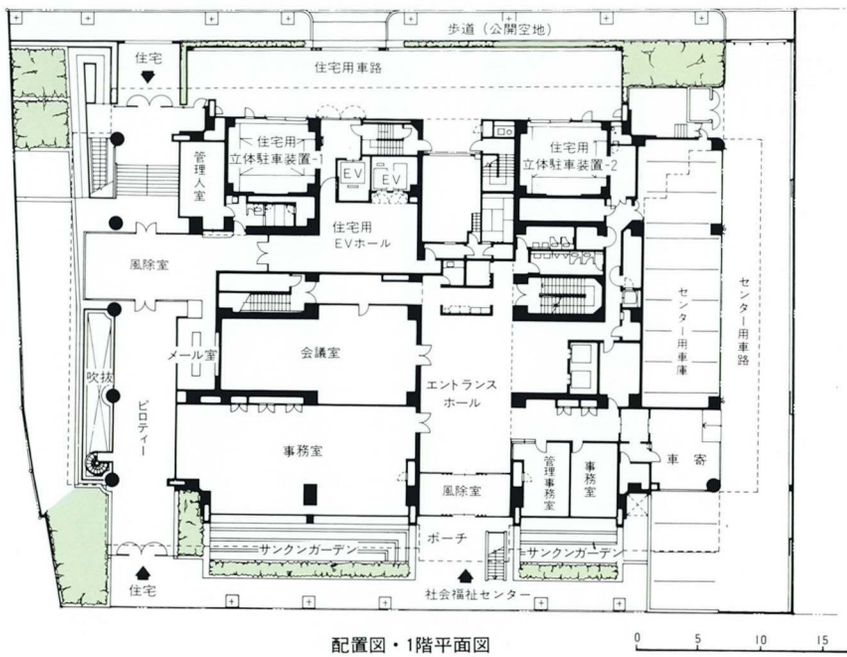
住宅4階茶室



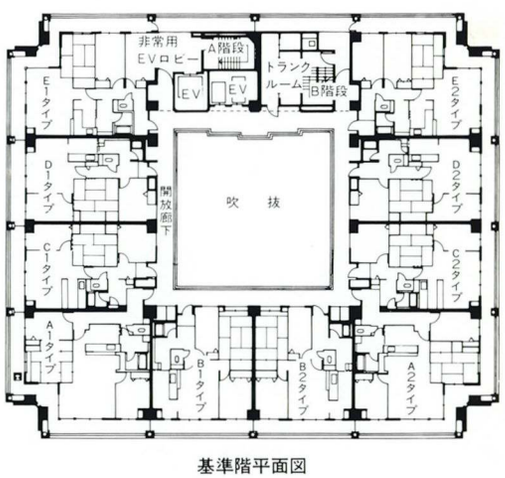
A_1タイプ居間及び和室



屋上太陽追尾装置



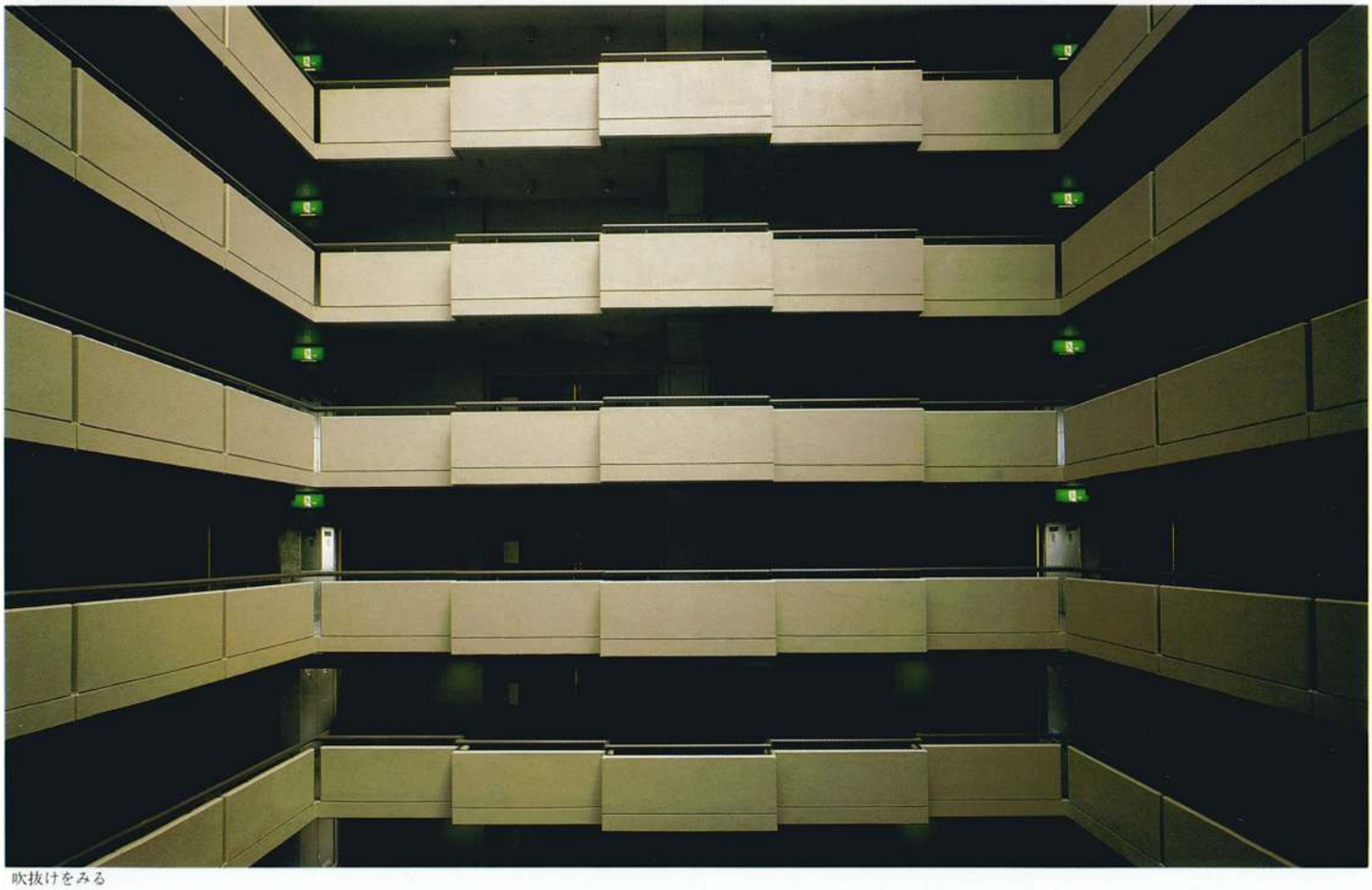
配置図・1階平面図



基準階平面図



西北面屋上展望台



吹抜けをみる



4階スカイプラザ

武庫川女子大学薬学部新学舎

総合施工　東洋不動産
設計施工　大林組


図書館


研究棟アプローチ


全景

大学の学舎（キャンパス）を創り上げていくという行為は、望ましい未来を予測した教育・研究に対する大学の意志、即ち一つの理念に集約されたアカデミックプランの具現化に他ならない。このキャンパスは、昭和64年に創立50周年を迎える武庫川学院が、教育と研究のより一層の充実を図る為に、中高と同一の現キャンパスにある薬学部をほど近いこの地に移転・新設されたものである。

計画にあたって学院から提示された新キャンパスのアカデミックプランは、つぎの３点に要約される。

- 将来の薬系キャンパスに求められる最高の研究、教育環境の「居住性」を確保すること。
- 施設の膨張に対応して、省力・省エネルギー化を前提としたキャンパスのオートメイション化を図ること。
- 伝統ある武庫川学院のアイデンティティを継承、発展させていくこと。

キャンパスの施設構成にあたっては、周辺環境との調和、大学利用者の安全性確保の２点から施設を低層でまとめることとし、薬系キャンパスにおいて最も重要な構成要素である研究室、学生実習室、講義室を各々別棟で括り、渡り廊下で接続する「渡り廊下分離型」を採用した。又、各ゾーンが重なりあう中央部に情報センターとしての図書館を設け、コミニュティスペース（食堂・談話室・学生ロビー）とのリレーションシップからキャンパスの活性化を求めた。これらのことが、各々の空間に求められる構造計画、設備計画、コミニュティ計画の充実と大学にふさわしい居住性の確保を可能にしたと思われる。

更に、時代に即した最新鋭の設備システムが採用されており、ここでも各ゾーンの異なる要求に対し「分離型」の施設構成が質の高い計画を実現させている。

- 講義棟・実習棟での空調・照明設備のスケジュール運転。
- 研究棟での講座単位ごとにゾーン分けされた24時間稼働可能の個別空調設備。
- 昼光センサー・人体センサーによる照明の自動点滅システム。
- I・Dカードとキーポストシステムの採用によるセキュリティシステム。
- 実験排水の自動中和処理、実験排気の洗滌・脱臭処理等の環境保全設備。

これらの設備システムを有効かつ機能的に運営してゆく為に、設備・防災・防犯管理を一体化したコンピュータ利用の総合管理システム（ビルコンΣ）を導入し、管理面における省エネルギー化を積極的に図っている。

「分離型」採用にあたり最も期待していたことは、複数の棟構成から発生する棟間の空間に各々個性をもたせ、豊かなキャンパスを演出することである。正門から２方向に別れるアプローチ、食堂・講堂・ホールに囲まれた庭園、その他各所にコミニュティスポット、図書館屋上の庭園等、多種多様の集い語らう場所を用意した。その中にあって、深い色あいの小口タイルによるシンプルで清潔なデザインは、アプローチしていくにつれ、その重なりを変化させる建築群の美しさを、より一層精神性の高いものとしている。

キャンパスの随所に見られる並木・庭園・植込等は、ほとんどが薬木・薬草である。やがて季節を迎え、樹々が繁り、グランドカバーが建物の足元を覆いつくす時、武庫川女子大学薬学部新学舎の新の文字を外していただくことを、切にお願いする次第である。





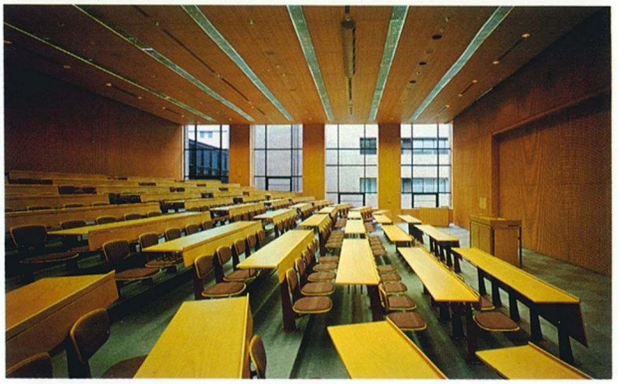
エントランスホール



講義棟2階ホール

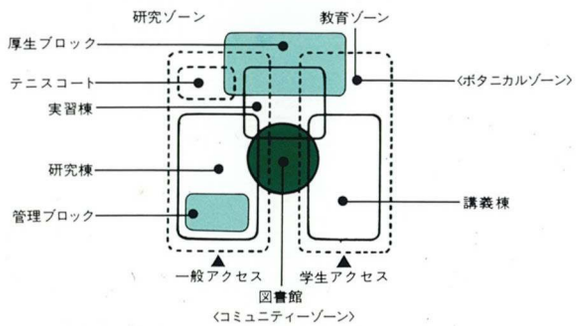


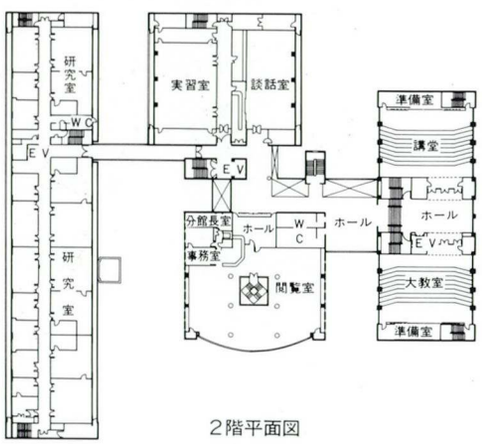
実習棟2階談話室



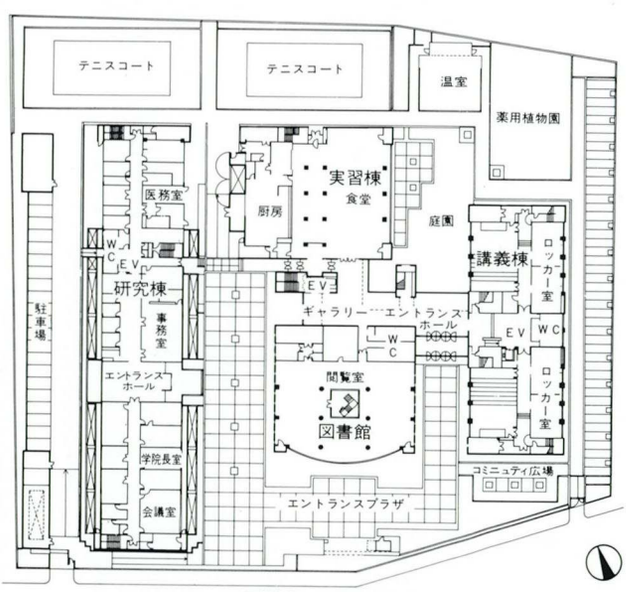
講堂

所在地　兵庫県西宮市甲子園九番町11－68
敷地面積　13,271.59㎡
建築面積　5,125.58㎡
延床面積　22,426.66㎡
構造規模　RC、B1、5F、P1
工　　期　昭和61年7月～昭和62年10月
最寄駅　阪神甲子園駅





2階平面図



配置図・1階平面図



撮影　山本富實成　島　修一　武庫川学院

図書館クリスタルボックス

橘女子大学管理・特別教室棟

設計監理　ARPA・K地域計画・建築研究所
施　　工　戸田建設



正面外観



南面

京のまちの東詰め、音羽山の麓に橘女子大学管理特別教室棟が完成した。

本学では10年前からキャンパス再整備を開始し、一般教室棟、体育館、図書館研究室棟と順次整備を進め、今回の管理特別教室棟に至っている。

Face to Faceの教育を実現するため、本学では施設の計画段階から、教職員、学生と共に我々も含めて全学的な議論を展開する。その結果、教学環境としての施設は十分に理解され、使いこなされている。こうした計画・設計のプロセスが、建築に決定的な生命を与えているといっても過言ではない。この態度は施工の段階になっても貫かれ、教職員の人々と職人さんが笑顔で言葉を交し合うことも少なくなかった。これらはまた、建築の品質を水路づける大きな要因ともなろう。

さて、この建物は、地下1階と1階を管理部門に、2階3階を特別教室にあてられた。管理部門は、キャンパスの動線の中心軸に平行に1階をメインフロアーとし、軸線に沿うようにして全面的にオープンカウンターを採用した。学生と教職員のコミュニケーションをはかろうとするものである。2階には、自然科学系の実習室と視聴覚の専用教室を、3階には、書道教室を配し、それぞれの機能に応じたAVシステムを取り入れている。このAVシステムは、既に竣工している図書館のAVホールに採用したもので、誰にでも簡単に利用できることを基本方針としている。紙面の都合で、その詳細に触れることができないのは残念である。



エントランスロビー

橘女子大学は、小規模な文学部単科大学であるにも関わらず、このように常に積極的に教学環境を整備していく学園の姿勢に敬意を表すとともに、時代の急激な変化の中にあって、自立した女性を育てる器として、この建物が存分に機能していくことを願う次第である。

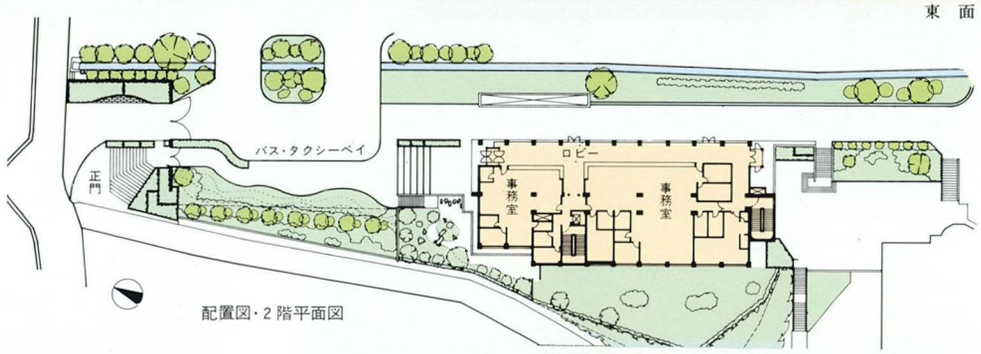
（高坂憲治／ARPA・K地域計画・建築研究所）



東　面

所 在 地　京都市山科区大宅山田町34
敷地面積　62,400.00㎡
建築面積　　896.29㎡
延床面積　3,467.54㎡
構造規模　RC、B1、3F
工　　期　昭和61年12月～昭和62年９月
最 寄 駅　JR東海道線山科駅

撮　　影　SS大阪



配置図・2階平面図



ロビー



ギャラリー

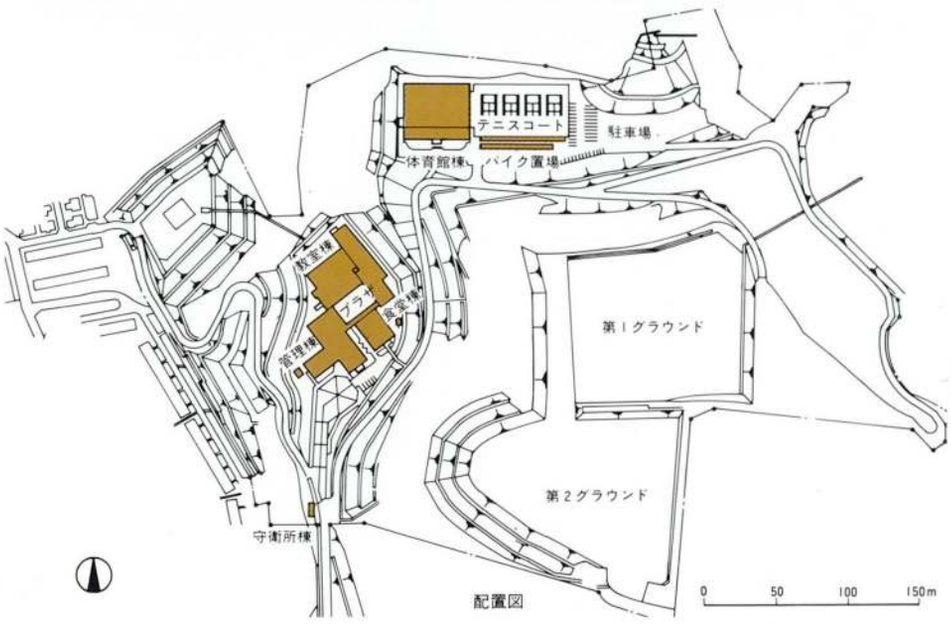
大阪電気通信大学四條畷学舎

設計施工　大林組

所 在 地　四條畷市大字清滝1130-64他、岡山1212他
敷地面積　149,734.68㎡
建築面積　5,598.59㎡
延床面積　9,792.11㎡
構造規模　RC、3F、体育館　RC+S、2F
工　　期　昭和62年1月～昭和62年9月
最 寄 駅　JR片町線四條畷駅よりバス
撮　　影　名執一雄



食堂



配置図

大阪電気通信大学は〝エレクトロニクスによる真理の探究〟を建学の精神として創立された学園で、これまで時代の要請に従って順調に発展してこられましたが、科学技術の急速な進歩に対応できるようさらなる拡充整備が急がれ、京阪奈学術研究都市のエントランスゾーンに位置する当敷地を得て、総合的な学術教育研究センターを建設する計画になっています。今回はその第1期として教養課程を中心とした四條畷学舎が建設されました。施設内容は教室・自習室・食堂・管理諸室等からなる学舎棟、4面のテニスコートを併設した体育館棟、2つのグラウンド、守衛所棟、その他の附属棟からなっています。

敷地は、金剛生駒国定公園に隣接した、大阪平野を一望できる丘陵地で、教育環境にふさわしい充分な日照と静かな場を提供できる優れた立地条件をそなえています。建物は緑豊かな山の稜線内におさまるようマッシブな外観を避け、低層でクラスター状に配置し、各棟をサーキュレーションした廊下やブリッヂで結び連続感をもたせながら周辺環境との調和を図っています。



キャンパス計画に於ける最も大切なテーマは先生と学生、学生同志が人間として触れ合い、共に学び・憩い・語り・歌い・悲しむ環境づくりだと考えています。その為にコミュニティーのシンボルとしてプラザを学舎の中央に据え、それを取り囲む型で大・中・小の教室群、次に食堂・喫茶・談話室等の生活施設、アプローチ側に研究室・事務室・会議室等の管理諸室を配置しています。又、壁のペインティング・床タイルの模様貼・ベンチをほどこしたスペースを随所に設け、1人きりの孤独な空間から、多数の集団の場に至るまで各段階に応じた場を提供しています。キャンパスの屋内・屋外を問わずコミュニティーのネットワーク網をかぶせる事により、多彩で潤いのあるキャンパスライフを過せるよう意図しました。

関西文化学術研究都市と対応して、近い将来大学院や国際学術センター・新学部等を設置され、開かれた大学として社会的使命を果たされることを期待している、と同時にこのキャンパスが青春の一時期を過せ、ハイテックを学びハイタッチを感じる思い出の泉となるよう願っています。

（奈良鎂一、小川芳弘／大林組）





ぐらん·ぱれ　毎日産業ビル㈱曽根崎新地レジャービル

設計施工　鹿島建設



吹抜階段



6階　中納言



2階　木曽路



1階　キリンシティ



地階　藩

所 在 地　大阪市北区曽根崎新地1丁目3-26
敷地面積　997.93㎡
建築面積　421.78㎡（1期工事分）
延床面積　2,904.59㎡（1期工事分）
構造規模　RC、B1、6F、P2
工　　期　昭和61年8月～昭和62年10月
最 寄 駅　JR大阪駅、地下鉄西梅田駅

撮　　影　島　修一　藤　義則

キタ……大阪の代表的な夜の街、北新地にも変化のきざしが少しずつあらわれてきている。この度、親しみと特徴のある店で構成された新地には珍らしい全館グルメビルが誕生した。この辺りを歩いてみると環境やイメージの似通った店が軒を並べ、やたらと看板ばかりが目につく。小規模建築が多い雑然としたこの界隈に、ひと味ちがった顔をもち、周辺の活性化に役立つ空間をつくることを目指して計画された。

正面四ツ橋筋側に2基のシースルーエレベーターを配置し、国道2号線からは、大きなゲートとなるアーチを表現させるとともに、壁面を道路より後退させ、更に1階、2階の吹抜を設けることにより、アプローチにゆとりとプレステージを感じさせ、且つアイキャッチとしての視覚的な印象づけを狙った。ファサード、特に赤御影石のアーチはビル全体のイメージ・アイデンティティとして、北新地西玄関としてのシンボル性を意図している。壁面は淡い桜色の御影石を基調にしてビル全体を落ち着いたシックな雰囲気の建物とし、昼間は石の壁が日の光に映えて重厚なイメージを生みだし、夜間にはシースルーエレベーターによる光の移動が、華やいだイメージを与えてくれる。昼には昼の、夜には夜の格調の高さを感じさせることを期待している。

設備計画

防災上は全館スプリンクラー設置、機械排煙とし空調設備は空冷ヒートポンプ方式を採用している。換気設備は、各テナントから直接外部に給排出来る様1フロア当り7ヶ所の換気枠を設定している。給排水設備については、改装の際の上下テナント間で問題になるところであるが、部分的に二重床として床上配管とすることによりトラブル解消を図った。

（木下　守・松原　和弘／鹿島建設）



1階平面図　1：400


Kirin City

Gallery

まち・建築・ひと





昭和50年から続けて来た都住創（都市住宅を自分達の手で創る会）の第13番目のプロジェクトである。たまたま３年前に完成した〈第10号釣鐘町〉に隣接して55坪の土地を入手する事が出来た。15m程の露地の奥のこの土地に摩天楼を建てようと10人の仲間が決心した。10号のデザイン事務所の人達、ヘキサ＋都住創事務局、都住創仲間で最近設立した都住創情報センター等極く身内の人達だけで気ままなコーポラティブオフィスを建てようとしたのである。

敷地の一隅に設けられた深さ６mの光井戸（夜は文字通り底から光が照射される）を通って隣接する都住創センターや地下のヘサキの事務所にアプローチする。

1920年代の昔から摩天楼は資本の側の存在だった。それも資本の欲望のシンボルだった。庶民は街路からため息まじりに見上げるしかなかったのだ。しかしこれは庶民の摩天楼（スカイスクレーパー）である。地面の底からあるいは10階から僕達のささやかな欲望のシンボルを誇らしげに顕示するのである。

（ヘキサ・都住創事務局　中筋　修）

都市のランドマークとなるスカイスクレーパーが、街並に非常にマッチしてヴィヴィッドな光を放っている。

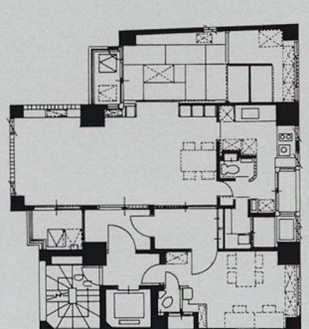
住居をその住人と一緒になって創り上げることで、一つの集合体のポテンシャルをあげることに成功してきた都住創シリーズが、オフィスもそのクライアントと一体になり、コーポラティブオフィスのアイデンティティを確立した。

建築が常にそれを使う側と一体となり機能する姿を、空に向かってまた一つ突き上げた作品である。

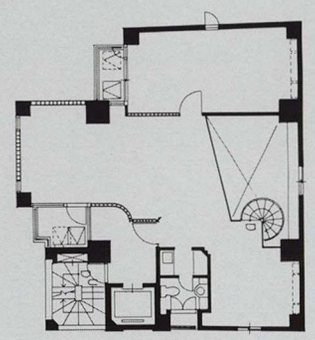
（小林正純）

設　　計　ヘキサ／中筋修
施　　工　モリタ建設
敷地面積　181.19㎡
建築面積　111.32㎡
延床面積　868.86㎡
規　　模　地下２階　地上10階　塔屋１階
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
工　　期　1986年１月～1987年７月

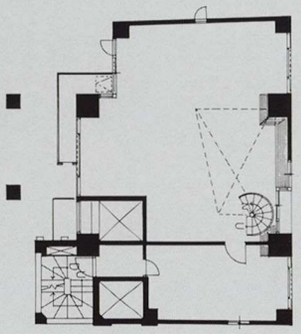
企画編集　作品作風小委員会　小林正純
撮　　影　名執一雄



4階平面



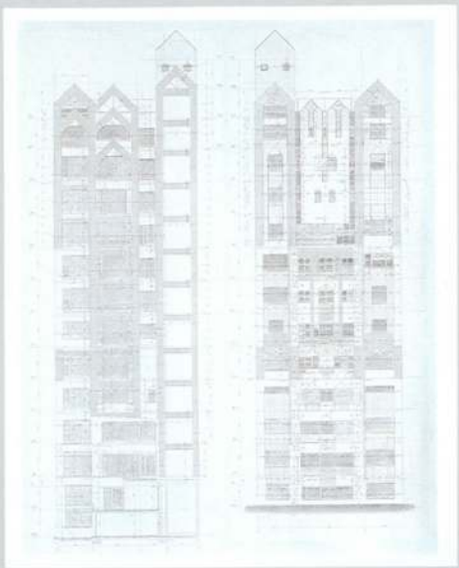
3階平面

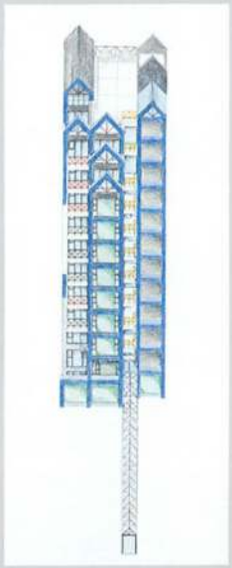


2階平面

スパイヤー

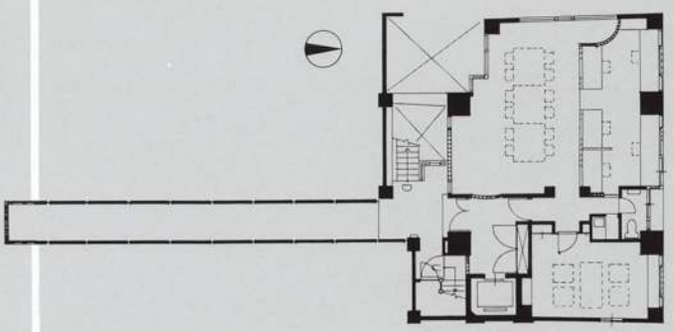
釣鐘町（まち）の摩天楼（スカイスクレーパー）



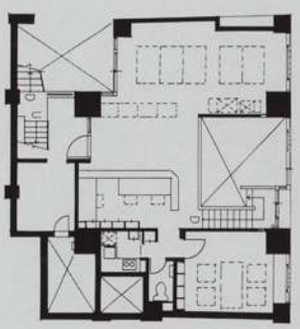








1階平面



B 1階平面



B 2階平面　1:300

being 6
今現陶轟姫



堤　展子



堤展子さんは陶芸家です。

そこには理解に時間を必要とするロジックも歴史を語る説明書きも存在しない手放しに心愉快な芸術があります。

半魚人のバレリーナ。桃から生まれたパンダ。

今を生きる私にしか出来ない事、茶室の上をジェット機が飛ぶ、そんな現代を表現したい。――そう彼女は語ります。

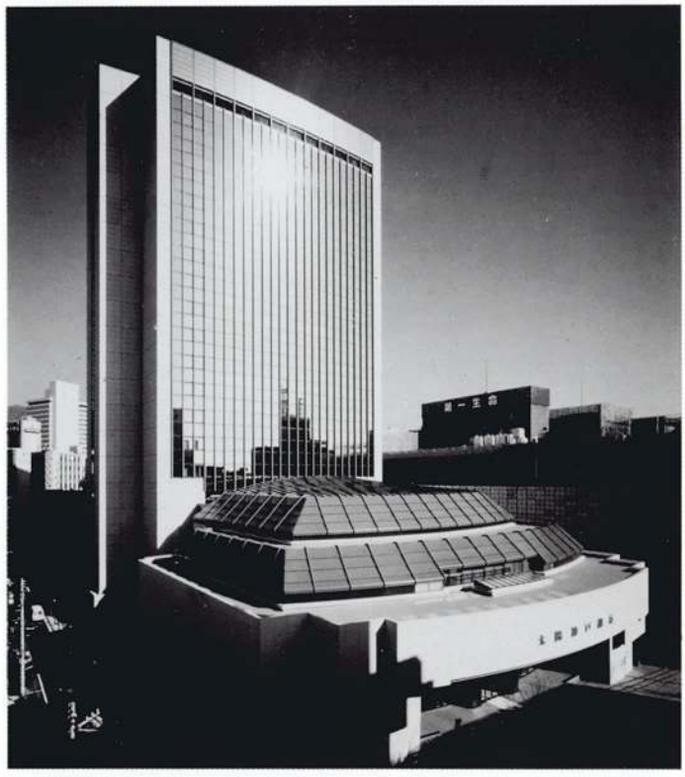
彼女には創造の喜びを、私たちには懐かしく奇妙なときめきとの出逢いを、それらは与えてくれます。

日本の伝統をすすめたい。――そうも彼女は語ります。過去の技術に振りまわされる事なく今を求める彼女こそ力強い伝統の継承者なのかもしれません。

（田中初芳／志野陶石）

〈自然〉な設計

宮崎　ひろ志



神戸では、このところ高層ビルの建築が相次いでいる。

山手の新神戸駅前の「新オリエンタルホテル」(37階建、156メートル)、三宮の東遊園地北の「神戸市役所新庁舎」(30階建、132メートル)、海岸通りメリケンパークの「ホテルオークラ」(35階建、130メートル)、の三つのビルが建設中で、神戸のスカイラインが日々変貌している。

これまで、神戸で高層ビルと言えば、貿易センタービルは例外として、ポートアイランドの海の上の処女地に建てられてきたが、総合設計制度の利用などにより、最近では既成市街地の中に建設されるようになってきた。

太陽神戸銀行新本店ビルも、そうした既成市街地の中に現れた高層ビルの一つである。

このビルは、周囲の建物と比べて随分高いので、大人しい外観のわりに、大変良く目立つ。このビルを見学した時に気が付いたのだが、このビルの4階にも昇れば、北隣にある朝日会館(旧神戸証券取引所、昭和9年、渡辺節建築事務所設計)などは、もう目の高さ程になっているのだ。この新本店ビルは歴史のある建物の多い旧居留地の真ん中に建っており、あたりのビルも朝日会館位の高さのビルが主体なので、新本店ビルの高層部はそっくり周りから飛び出している。

神戸の旧居留地にとっては、こうした高層ビルの出現や、旧神戸商工会議所の解体など、昨年はいろいろと話題の多い年であった。

新本店の建つ敷地は、今から120年前の慶応三年、兵庫開港に伴って外国人居留地となった約22ヘクタールの一画にあたる。居留地は英国人技師ジョン・ウイリアムス・ハートによる整然とした町割りが行われ、今も通りの姿は当時のままであるが、建物で当時の面影を残しているのは(株)ノザワ本社(旧居留地15番館、明治14年竣工)だけとなっている。

太陽神戸銀行の前身、神戸銀行は、この新本店ビル敷地南東の一角、旧居留地56番地に昭和11年に生まれ、以来この場所に本店を置いている。(営業室が、駅などが集まる方向とは逆の、南の港の方向を向いているのも、この頃からの伝統である。)

昭和58年、この地区は、神戸北野町などに続いて神戸市都市景観条例による「旧居留地都市景観形成地域」に指定され、歴史的な環境と調和した、特色のある都心業務地を目指した街づくりが進められることになった。そしてちょうどこの年より新本店建設の計画がスタートした。

*　　*　　*

計画の当初より設計の立場から建設計画に携わってこられた、安井建築設計事務所の紙取締役、桑原副部長のお二人にお話を伺った。

かねてより、安井建築設計事務所のような、大組織の中で集団で行う設計に対してどういうシステムで運営され、組織力がどのように発揮されるか、また大勢であるが故の弊害などないものであろうか、などと興味を持っていた。そこで、特に個人の発想に頼るところの多いと思われる、建築全体のプロポーションが固まっていったプロセスについて主に伺った。

設計にあたっては、先の条例により、歴史的環境との調和という姿勢を求められていた事に加えて、施主の銀行側より、荘重であるよりは親しみ易い建物にしてほしいという、デザインに対する課題が与えられていた。

こうした中で「白い花崗岩とガラスのカーテンウォールで構成された軽快な外装」、「高層部の、緩くカーブした南北の外壁面」、「建物出隅の柔らかいアール面」、「低層部の甲羅状の金属屋根」といった、全体のプロポーションは“自然に”まとまっていったのだという。

設計者のお話の中で“自然に”という言葉が何度も強調されていたが、自然にまとまると言うのは、施主の要望に対する合理的解決を積み重ねていって誰もが当然と思うカタチにまとめていくという、大変な努力が必要なのであろう。現に桑原副部長のダイエットに相当貢献したようである。ところで、こうしたことの積み重ねだけでは、この新本店の造形が生まれてはこないように思われるし、「安井らしさ」の味付けがどのように行われるのか、結局分からなかった。

安井建築設計事務所が、この太陽神戸銀行新本店のために作成した図面は千枚以上になったという。佐野社長はこの図面全てに、印鑑を使う代わりに、サインをされている。印鑑なら誰かに押してもらう無精もできるかも知れないが、サインではそれができないから、さぞかし大変な作業であったろうと思われる。安井建築設計事務所では、このように社長自ら全ての図面に目を通し、全てに(サインだけのこともあろうが)手を加えることになっているという。

こうした習慣が、ひょっとしたら安井建築設計事務所の作風の源となっているのかも知れないと思うのだが、如何であろうか。

(みやざき　ひろし／作品作風小委員会)

東畑 謙三



とうはた　けんぞう
1902　三重県に生まれる
1926　京都大学建築学科卒業
1927～31　京都大学大学院にて研究
1929　京都大学人文科学研究所設計
1932　欧米建築界視察
　　東畑謙三建築事務所開設
1941　京都大学講師
1949　大阪大学講師
1951　(株)東畑建築事務所に改組
1964　(社)日本建築協会会長
1969　大阪市建築審査会会長
主な受賞
1960　建築関係功労者として
　　建設大臣表彰
1962　藍綬褒章受章
1969　日本建築学会賞受賞
　　(作品・大阪駅前市街地改造事業)
1972　勲三等瑞宝章受章
1981　日本建築学会賞受賞
　　(作品・筑波研究学園都市)

1．産業建築の分野で設計業務を確立

事務所開設の計画を胸に、東畑謙三が欧州航路に旅立ったのは、軍部がようやくその軍靴の音を高めようとしていた昭和７年５月初めであった。5･15事件は香港に停泊中の船内新聞で知った。そんな時期であった。

イタリアに上陸の後、欧州を駆巡っての感想は、一言で表現するなら近代建築思想に対する一種の幻滅であった。古代建築やルネッサンス建築をはじめとする歴史を経た重厚な建築群の中にあって、ペルチッヒ、タウト、グロピウス、コルビジェなどのセセッション後の、書物で熟知しているつもりだった新建築は、予想を越えてか細く力に欠けていた。〝ツヴェック メイシヒカイト(合目的性)、マテリアル ゲレヒティヒカイト(適材適所)〟と覚えていた東畑の眼に、近代合理主義の指導精神が精神論としての力しか持ち合わせないように映ったのだった。

アメリカに渡ると世界が一変する驚きを感じた。アメリカは第１次大戦後の繁栄の絶頂にあり、その繁栄を象徴する産業建築の“量”はすべてを圧倒する力があった。特にデトロイト（自動車工場)、ピッツバーグ、シカゴ（製鉄所）に見られた、アルバート・カーン設計による全溶接のＨ型鋼で構成された力強い剛接合のフレームは、産業建築が一般美術建築に比べて格下の建築のように思っていた東畑の眼に鮮やかに別の世界を開いた。建築は工学であり、文学や絵画ではない。用を重んじ、強を重んじてしかるべきとの思いが強く刻まれたのである。ヨーロッパの近代建築に物足りなさを感じた東畑にとって、理論より実であり、何にも増して存在感のあるアメリカの産業建築は、東畑の一生を決める建築スタイルの根幹となったのである。

2．建築技師の萌芽

建築技師（東畑は自らを、建築を構成する技師と称している）東畑謙三が、建築に進んだいきさつは有名である。大正12年京都大学建築学科の新校舎が、学内初めての鉄筋コンクリート造チョコレート色のタイル張で落成した（それ以前はレンガ造だった)。たまたま三高に通う道すがら、これを眼にした美術好きの青年東畑は興味を覚え、同年４期生として武田五一教授率いる建築学科の新入生となったのである。

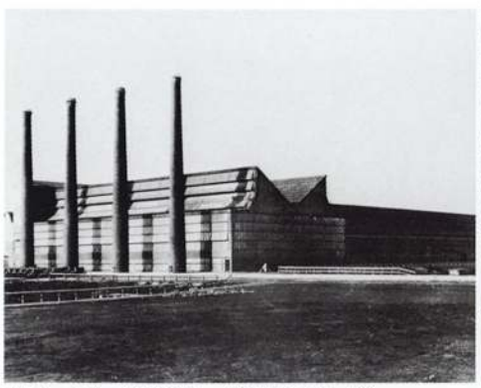
その後、武田教授の指導下、読書好きの本性を発揮し、外国の新進建築家や作品の知識において比肩する者も無い程になった。コルビジェの名前と作品を日本で初めて紹介したのも、京大で発行していた「建築学研究」に載せた東畑であったという。特選給費生として大学院を終えようとしていた時、武田教授の紹介で、今も京都北白川に京都大学人文科学研究所として使われている、美しいスパニッシュスタイルの東方文化学院京都研究所を設計した。処女作である。引き続き新大阪ホテルの設計の仕事もし、いよいよ実務の楽しさを覚えた。

しかし、当時建設業界の景気はさほどでも無く、独立しての設計事務所開設を思案していた東畑に、義父の岩井勝次郎氏は、「これからは産業建築だ。美術建築や住宅と違って、工場の設計は一つやればまた仕事が来る。初めの仕事は世話してやろう。」と励まされ、「冒頭に述べた海外に出たのである。従って当時、方針は決まっており、当初から、雑誌で知識を得ていたアルバート・カーンの自動車のオートメーション工場は、メインエベントとして旅程に組み込まれていたのである。

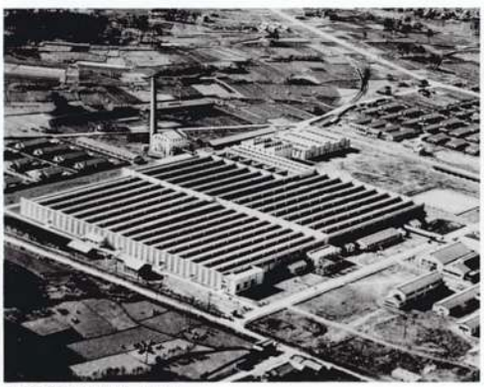
3．建築事務所創設

昭和７年12月帰朝後、事務所創設。初仕事は、予定通り義父の用意してくれた中央毛糸紡績四日市工場であった。その後の糸へん景気もあり、Ｈ型鋼の単材によるラーメン架構は、紡績工場の繊維の塵の積もりが少ないと好評を博した。

戦時色が強まるにつれて、鉄鋼の需要が増大し、産業建築事務所としてつとに有名になっていた東畑事務所は、室蘭、広畑、戸畑などの製鉄所の仕事が続いた。「広畑製鉄所は、何もない所に連れていかれて、製鉄所の偉い人がステッキを立てられ、ここが溶鉱炉の位置だと言われた。そんなところからお世話させていただいた。」と述懐する東畑への、施主の信頼の深さは相当のものだったに違いない。当時は鋼材30ｔ規制（１棟当たりの使用鋼材量規制）というのがあり、製鉄所の建屋といえども鉄骨造というわけにはいかず、木



アルバート・カーン設計のフォード社ガラス工場　1922



呉羽紡績鈴鹿工場　1953



エルサルバドル紡績工場　1955

造小屋組の建屋であった。開戦と共に海軍の仕事に忙殺された。横須賀の山下寿郎、呉の竹腰健造そして舞鶴と佐世保を東畑が担当した。兵舎、病院、格納庫、倉庫と数限りなく仕事があった。短期決戦の仕事ばかりで“待てしばし”（東畑の決まり文句で所々に登場する）の無い世界な上、有能な熟練スタッフまで徴兵されている為、専ら当時は徴兵の無い韓国人スタッフと女子スタッフに頼ってシステム建築で対応した。

戦後は昭和21年に事務所を再開するが、木造12坪までの建築しか許可されない時勢で（進駐軍関連は別格であったが縁が無かった）、設計の仕事は無いに等しかった。そんな中で、ある朝、事務所に出社すると、そこに元所員が復員してきて座っている。所は異にしても苦しんだ仲、しかし仕事は無い。幸い大阪豊中の蛍池に相当敷地のある寄宿舎を持っていたので、それを処分して半年位凌いだ。この体験が、戦後の繁栄期に、不動産を初めとする含み資産を会社で購入するという、東畑式事務所安定経営へとつながっていく。

12坪の規制で食える方策を捜す内、個人的な信用が縁で、建設業設立の話になり、現在の不二建設を創設した。48の部品からなる量産住宅を考案し（プレハブのハシリである。柱が無いといって叱られたこともあるというから、今のツーバイフォーも脱帽といったところか）、山口吾郎専務が売り歩いた。しかし、生来の構成技師東畑は請負業にあきたらず、山口氏に不二建設を委ね、元の設計専業に戻った。

話は変わるが、この12坪の家こそ、後の公団サイズの元凶になったと東畑は叱る。それまで、関西間あるいは江戸間といい、内法寸法が基本であった。それが、12坪が真々寸法に依ったために、現在に至るまで、集合住宅における単位寸法に混乱があり、畳文化に依拠した家具什器などの伝統工芸や空間の基準単位に齟齬をきたしていると嘆く。

4．事務所経営の基本

戦後の危機を乗り切った事務所は、朝鮮戦争を契機とする景気の高揚と、戦前からの得意筋であり好況を迎えた繊維業界の仕事を得て、順調に発展した。

戦後日本の回復と共に着実に成長を遂げた東畑建築事務所は、永い歴史の中で得た多くの知恵を擁しているように見える。一つは、作品の確実性であろう。5,000を越す事務所作品は常に、堅実に時流に流されることなく、10年20年先にその良さが判ると言われる質の高さを、昔も今も維持している。これはひとえに東畑謙三の主義である“建築は技術のアッセンブリー。事務所は技術者の集団”による成果である。二つ目は経営の安定であろう。“技術を極めて仕事がくる。腕と才で仕事を取る”という一方で、戦後の教訓を生かした事務所の資産蓄積と運用である。清林社という不動産会社を経営しており、現在事務所が入居しているビルを含めて貸ビルが四ヶ所ほどあり、社員や元社員の持株会社としている。その他にも世界的名画、中国陶磁器、あるいは本好きな東畑自身が蒐集し寄贈した建築・美術工芸に関する書物や古地図を母体とした清林文庫なども、普通の建築事務所にはない資産として着実な経営基盤を構成していると思われる。このような二本柱を確立すると同時に、事務所の最大の財産である人材は、京大講師を23年間、阪大講師を17年間勤めることにより強力なパイプを維持し、教育者として指導を行うと同時に、事務所の人材発掘にも役立ててきた。

5．勉学のすすめ

明治の偉丈夫、東畑謙三は身の丈6尺近い。関西建築界のドンに相応しく威風堂々としている。その東畑が凛とした信念に基づいた55年を越える設計人生を後立てにしての話には、説得力がある。「建築は技術のアッセンブリーです。設計、構造、設備などの各分野に秀でた技術者の集団が構成するのが、設計事務所です。そして、その中の一芸に堪能な人で、統率力のある人が、オーケストラの指揮者のように集団を率いて作品を作っていけば良いと思っています。大衆の中に融け込み、科学を信奉し、独断を廃することです。自然の法則に独断が無いと同じように、科学にも独断はありません。科学は没個人と銘ずべきです。勉強しなさい。自らの術を上げずして、とやかく言ってはいけません。識らずしてやるべからずです。」

北村恭一（編集委員・大建設計）記

産業技術の中枢都市名古屋をめざして

西尾 武喜 VS 中島 一
名古屋市長　東海支部長・愛知工大教授


中島 一


西尾武喜

略 歴　1925年岐阜県中津川市生まれ　技監を経て、1971年水道局長、
1949年京都大学工学部卒業後、　1981～1985年市助役を歴任後、
名古屋市水道局工務課に奉職、　1985年４月名古屋市長に就任、
上水部工業用水課長、同部長、　現在に至る。

中島　国土庁が四全総を発表しました。東京一極主義に対する反省が出て、名古屋は産業を中心とした都市と位置づけられており、もっと大きく遷都論あり、中部新国際空港、第２東名、第２名神高速、中央新幹線ありで、名古屋は、日本の名古屋になりそうですが、行政としてもすばらしい構想や計画があると思いますが…。

市長　四全総では、世界的な産業技術の中枢圏域として位置づけられています。四全総は定住と交流を基本とし、東京の一点主義を是正するとともに、多極分散型国土の形成をはかろうとするものです。ただ、集積のメリットも大きいので、そう簡単にはいかない。特に金融面で東京は、ロンドン、ニューヨークに次ぐ国際金融都市になりつつある。世界から東京へ集中し、ビル需要を促し、地価高騰へとつながった。そして更に海に向って拡げようとしている。それだけに地方都市は東京に吸い上げられる危険性をどう防ぐかを考えている。

300粁圏構想といって東京から新幹線で２時間といえば仙台、新潟、名古屋までが東京圏になる。更に将来１時間で来れることになれば名古屋が東京の郊外になる心配がある。新幹線が出来た時も名古屋にあった支店が出張所になってしまった。中央新幹線を陳情してますが逆にそういう心配もないわけではない。

中島　アメリカの東海岸で、ボストン、ニューヘブン、ニューヨーク、フィラデルフィア、ワシントンD.C.がメガロポリスを形成しているが、各都市が持っている固有の文化と産業を生かした上で、情報を交換し全体として発展しようとしている。日本の場合は、東海道新幹線が昭和39年にでき、オリンピックがやってきて、どうも東京が中心になってしまった。東京に近くなるからよいではないかとの説もあるが、東京や大阪に近いことは便利ではあるが市民としては多少淋しさがあるのではないでしょうか。

市長　東京は、政治、金融、商業の中心として全てのものが集っている。アメリカでは行政はワシントン、商業はニューヨーク、ドイツではデュッセルドルフは商業でボンには行政機能があるなど或る程度機能が分散してますね。

名古屋は従来から物を造ることに優れていた地域で、愛知県の製造品出荷額は今でも日本一です。しかし、産業技術の中枢圏といっても、工場地域だけでは困るんです。多業種にわたる総合的な研究が行われ、情報が発信できるようにならなければならない。

中島　そうですね。名古屋は従来から芸どころといわれるように、文化の華が咲いた時代もあり、今でもそういう基盤は残ってますね。勿論、工場といっても明治初期のマニュファクチャーでなく、インダストリアル・パークとして知的な生産と文化が醸し出されなければいけませんね。

市長　研究所を作る場合に、土地、建物、技術があれば研究者が来るかというと、やはり文化というか、魅力がないと単身赴任で来ても、すぐ帰りたがる。技術者や研究者が定住できる雰囲気が都市には必要です。私が「住みたくなる街づくり」といってるのはその辺をねらっている。そういう街になると研究者も「名古屋なら一回住んでみよう」ということで割合話が早いんです。研究所を作っても「これはまあ、…あまり住みたくないなあ」といわれれば、大体奥さんが反対するとかね。……(笑)。その辺の難しさがあると思うんですね。

デザインマインドのある都市づくり

中島　そうですね。機能分化というか単独機能だけを負担する街ではいけませんね。それを支える文化的環境とか自然環境と合わせて生活環境とかが必要ですね。しかし、名古屋の緑というのは存外多

いですね。特徴的なのは屋敷林が多い。山あり川ありとかでなく、視覚的、平面的に緑をつくろうという市民意識が相当高いですね。

市長　名古屋の緑被率は非常に高いんですけどね。ただ地形が平坦なため街路樹が何百本植っていても自分の視線では極端にいえば1本しか見えないですね。だから少しづつずらして植えることも考えないといかんと思う。坂がある所では登っていくと沢山の木が自分にかぶさってくる感じを受けますね。そういう違いが名古屋には緑が少ないといわれる原因のひとつじゃないかと思います。

名古屋は幸い戦後日本一の都市計画ができ、40年かかってようやく終ろうとしている。今までは機能中心に道路を拡げ中心部を便利にするといった発想で来たんですが、これからはそれに付加価値を高め、特に環境づくりといったデザインマインド（デザインをする心）のある都市づくりが非常に重要になるんではないでしょうか。建物を造る時にも周辺の景観や環境にどうマッチさせるかを基本的に考えないと自分の建物だけがいくら立派でも雰囲気は出ませんね。

中島　市長さんは都市景観条例を作られましたが、日本でも早いですね。

市長　え、そうですね。非常に早いです。

中島　その中で、久屋大通を名古屋の顔にするというのは我々も高く評価しています。100ｍ道路の中にグリーンあり、公園ありで、そんな所から街並みをみると確かに高いビルも低いビルもありますが、やはり建物には個有の顔がないといけません。

市長　難しいですね。何でも屋根を揃えるといった東京の丸の内のような高度制限のやり方もありますが、私は、少なくとも色だとか、看板のような屋外広告物を揃えるぐらいの努力はすべきだと思う。日本は看板が多すぎますね。色もある程度制限したいですね。

中島　例えば従来からこの街はこういう固有の美しさが作られてきたので、こんな色彩が望ましいとかいったマニアルがほしいですね。

市長　建築依頼主や建築家同士が話し合うとかね。

中島　それにやはり市民の理解が必要ですね。建主もそれならということで順応してくれることにもなるでしょうね。あの突出し看板は日本独特ですよね。豊田市には外国の人が多く来るので、名古屋に倣って都市景観懇話会を作って色々検討しています。外壁に対する突出し看板の面積率をどうするかということもやっていますが、人間は変なものですね。あまりそういうことをやると淋しくなりすぎるというんですね。……(笑)。やはり習慣は非常にこわいと思いますが、市民が勇気をもってあるべき姿を話し合って方向を見つけ出さないといけませんね。

市長　フランスへ行った時のことですが、有名な日本のファッションデザイナーのいる店でも突出し看板がないので家の前まで行かないと店の名前がわからない。前まで行って「あ、ここがこういう店か」というほど看板が少ないですね。店の人自身にも特徴のある商店街になるように考えてもらわないといけませんね。

都市景観はこれからの重要な都市戦略として位置づけられると思いますね。この前ニューヨークの四角いビルが並んでいる真ん中に、エレベーターは外側にあるため柱は鉄骨がそのままで、工場のような建物を造った証券会社が出来て物議をかもしたようですが……。

中島　そういうのが他にもありますが、これが21世紀のポストモダンだといわれても、市民はやはり戸惑いますね。

市長　いいのか悪いのかこれから評価されるでしょうが、市民としては戸惑いますね。

21世紀へのまちづくり

中島　ところで、名古屋市も多くの人口が定住していますが、日本住宅公団（現住宅・都市整備公団）が昭和30年に出来た頃、公団住宅というと名古屋を見做えということで、我々も名古屋の都市計画や公団団地を参考にさせていただいたのですが、今後人が定着する住宅づくりが重要になると思いますね。市民等しく庭つき1戸建を欲しがりますが、かといって、ただっ広いロサンゼルスのような街になってもいけませんね。都市計画上から考える住宅というのは、世紀末を控え大切な時期にきていると思うんですが……。

市長　今、新しい基本計画を作ろうとしてますが、都市における土地利用をどう考えていくか、住まう、働く、憩うという三部門で考えようとしています。そこで住まうについては、市の周辺部では1戸建か、せいぜい3～4階までのマンションにし、中心部に行くに従って高いマンションを建てるといった誘導策をとったらどうかと考えている。やはりマンションも便利さとか、若い人の考え方からしても必要だと思うが、環境との関係もあって周辺にどんどん大きなマンションを建てるのはどうかと思いますね。

中島　確かにそうですね。そのためには市民の意識を高めなければいけませんが、そこで再開発が必要になってきますが……。

市長　今、地区総合整備事業を12地区で取り組んでいますが、或る意味では再開発です。それに建築関係では住環境整備モデル事業を組合せて土地の再整備をやってますが、これからはこういうものが増えると思っています。

中島　それも都市のデザインということになりますね。

市長　ええ、道路が広けりゃいいだけでなく、人々がそこに住んで、それぞれの目的に合ったコミュニティーがうまくできるようなことでないとね。昔は車が通れないような道路があり、そこは近所の人のおしゃべりをする場所でもあった。外国でいう広場を兼ねていたんですね。名古屋では、屋根神さまというのがありますが、あれは将に地区の守り本尊でして、屋根に神様を祀っておいてお祭をやり、人々のふれあいが図られたんですが、そういうものを残した再整備が必要です。消防車が入れるよう何米以上に拡げよといいますが、それなら1本おきにして裏から消火するということはできないかと思っているんですがね。要するに人が住む所は、便利さもさることながら隣近所の助け合いというかふれあいが大切で、特に高齢化社会になってくると一人だけで生きることは非常に難しいので、コミュニティーの場がうまくできるように住宅を作り、道路を確保することを地区総合整備事業でやってほしいといっているんです。

中島　結講ですね。日本は欧米と違って広場とかプラザということでなく、界隈という言葉があり、やはり道筋、道すがらということですね。広小路通りは昔は良かったですね。楽しく屋台を覗いたり、友達をみつけて「やぁー」てなこともやれたんですが、今は淋しいですね。銀行や証券会社などが多いんですが、みんな一階で営業をしていますが、むしろ二階でも営業ができるし客溜りがあっていいのではないか。一階はオープンスペースにして人が集まる場とかギャラリーとかにしてくれると、広ぶらが復活するんじゃないかと思うんですがね。

市長　証券会社や銀行などが入って夜が暗くなっているが、せめてウインド・ショッピングができるような飾りをしてほしいと申し上げてるんです。今年初めてウインド・ショッピングのコンペをやりましたが、毎年やってだんだん定着させようと思っています。銀行が二階に入ったのは銀座のマリオンが日本で初めてですよね。今までは銀行は一階の一番良い所をとろうとするんですが、二階でも結

構やれるという前例が出来れば全国に拡げたらいいと思うんです。銀行も変ってきて現金の引出しなんか自動でやれるから、一階のどこかに置いてあれば大部分のお客さんはそこで用が足せます。建築する時に設計する方がそういう中味まで指導をしていかないとね。

中島　建築家というのはお抱え大工的な発想はなくなってきましたが、建築主の意識が高まってこないといくら説得しても難しい所がありますね。その点行政の指導が重要だと思うんですね。

市長　今、商店や百貨店に中二階が増えてますね。あれが割合に人を引きつけている。又、真中を抜いたアトリウムですか、ああいう発想が商店街にあってもいいですね。ニューヨークにも真中をバーンと抜いたのがありますが……。

中島　ニューヨークのフォードファンデーションですね。あれはケビンローチの設計ですが、マンハッタンの１等地で用地費は相当高い所ですが思い切ってやったので人々の話題になり、自然に人が集って建物自体が大いにＰＲになり、ひいては営業の成果が期待されるものですから、そういう点建築主なり市民に理解があれば面白い街ができると思いますがね。

市長　名古屋でも東急ホテルが幾分そういう発想を入れてますね。

中島　今工事中のヒルトン、朝日新聞もそうですね。

市長　外国の成功例を参考に拡がるようですね。人間というのは狭い建物に居るより、何となく視野の開けた所の方が居心地が良いようですね。

デザイン都市への試み

中島　ところで、名古屋には戦前各町内毎に小規模ですがお祭りがあり楽しかったんですが、戦争によりいっぺんに崩れ去りました。市制100周年を記念して、世界デザイン博覧会が開かれますが、これもお祭りと考えていいと思いますが、その構想を……。

市長　明治22年10月１日に市制がしかれまして、昭和64年が丁度100周年で大きな節目を迎えます。これを記念して様々な行事や市民に使ってもらえる建物も先取りしてでもやろうということで沢山の計画があります。その中でもメインになるのが世界デザイン博覧会なんです。デザイン都市を目指す名古屋としてアーバンデザインをどう位置づけるか、デザインを「人間の夢と心を形に表わすもの」と定義づければ、名古屋の人が夢と心をアーバンデザインの中にどう活かすかという一つのきっかけにしたい。もう一つは多くの人々がデザインに対して肥えた眼、秀れた眼をもつことにより、都市が良くなっていくのではないか。更に名古屋が産業技術の中枢都市といわれるが、今までのような機能性、堅牢性、経済性などは、どこの国も匹敵するレベルまできてしまった。勝負になるのはデザインではないか。産業技術の中枢都市として、本市では中でも工業デザインが大きなウエイトを占めるだろう。たまたま昭和64年の世界デザイン会議を名古屋に誘致できたので、これが一つの大きな要因となりました。国の内外から3,000人ぐらいのデザイナーが集ってきます。もう一つ通産省で昭和64年をデザイン・イヤーとして位置づけ全国でデザインに関する催しや展示会をやって頂く計画が進められています。ところで世界デザイン博覧会は名古屋城と白鳥と名古屋港の三会場で同時開催いたします。こういう博覧会で三会場というのは珍しいんです。便利は悪いし危険性はありますが、今までのように広い土地一ヵ所でやるというのは将来は難しくなる。大都市での将来の博覧会のあり方を考えるきっかけにもなるだろう。もう一つ会場選定の理由は、名古屋は名古屋駅、東名のインターができて東西線が発展してきた。名古屋駅だけの頃はむしろ堀川が大きな交通の要衝として、堀川の周辺に文化もあり商業も発展した。だから原点に帰って堀川を中心にして名古屋の文化軸を南北の縦軸で考えようという発想もあります。メイン・テーマとしては「ひと、夢、デザイン～都市が奏でるシンフォニー」としています。そんな中で名古屋城の会場は、中世の遺跡が沢山あります。城の石垣そのものもデザインに優れています。むしろ今よりも秀れたデザインがある。古き良きものを訪ねてデザインの良さを現在と比べて学んだらどうか、温故知新、歴史から学ぶものを名古屋城でやろう。また、ガウディーについては、映像だけでは面白くないので中に入って体験できるようなガウディーの建物を小さくても作れないかといってるんですがね。まあガウディーのサグラダファミリア教会、あれは100年先を見越した発想ですよね。

中島　まだ200年ぐらいかかるんでは、といわれてますね。ガウディーは今から100年程前にああいったことを設計したんですが、家も財産も投げ出して教会を一生懸命造りだして、末期はみすぼらしい姿で亡くなりました。その遺志を継いで残されたものをこれからも造っていこうというのは、デザインの必要性をみんなが理解し支えているということですね。ですから世界デザイン博はお祭りでもあるが、人の出会いの中で今の人が何を期待しているのか、次の世代に何を残すのかを考え、勉強し、理解するいいチャンスですね。

市長　建築の方からいえば、コルビジェのいう〝２点を結ぶ直線が合理的で美しい〟というのが変ってきて、モダニズムの前のアールデコとか、そういう古い曲線を大切にするというように変化の時期にあると思うが、そういう意味でガウディーをみるというのは結構人の心を打つんじゃないかと思う。

５、６年前から出版物で紹介されるなど、評価が高まってきたんじゃないですか。

中島　去年、アジア・デザイン・フォーラムをデザイン関係の10団体でやったんですが、デザイン関係のイベントは何とかバック・アップして成功することを大いに期待しています。

トータル・インテリア

市長　もう一つは、インテリア関係ですが、住宅を作るにしてもインテリアをどう考えるか、今までと違って住みよさを勉強できるようなものを作りたい。アメリカのデザイン・センターをみて思ったのは、インテリアといえば壁は壁、絨毯は絨毯、椅子は椅子とそれぞれの専門の所へ行かないと見付からない。ところが向うのは、センターに事務所なら事務所が作ってありましてね。絨毯も敷き花瓶や飾り物も一式並べて、隅の方で事務をとっている。要するに凝ったインテリアをみせている。こういうやり方がこれから出てくるんじゃないですか。

中島　トータル・インテリアですね。通産省の肝入りでインテリアコーディネーターだとか、建設省の方でインテリア・プランナーという制度ができて、やっと今、市長のいわれるように豊かさを求める内部空間効果、インテリアですが、建築家の役割が非常に重要になってきましたが、インテリア・デザイナーの方も建築の方へどんどん入って頂きたいと思います。これからは物を創るということと同時にその物の中に豊かさと住まい易さが必要だと思いますし、大きい意味で都市もそれと全く同じだと思います。

市長　美術館や博物館など建築家が作るときは、そういうところまで、しかも細部までお願いしたいと思います。

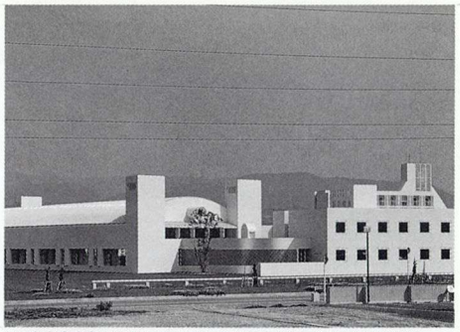
中島　今日はいろいろと貴重なお話しを長時間お伺いでき、どうもありがとうございました。

第19回中部建築賞

昭和62年度（第19回）中部建築賞の入賞作品（一般部門９点、住宅部門２点）および入選作品（一般部門８点、住宅部門２点）が決まった。中部建築賞は、昭和62年３月31日までに中部圏で竣工した作品を対象とし、応募数は、一般部門が71作品、住宅部門が18点であった。



中部大学21号館・22号館　春日井市　設計／第一工房ほか



源 東宏産業新保工場　富山市　設計／永田・北野建築研究所

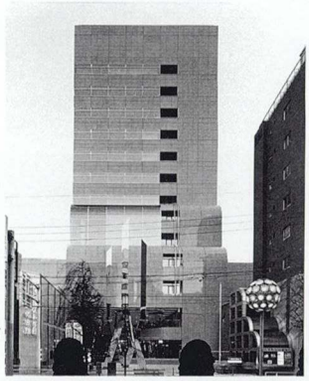
入賞作品（一般部門９点）



石川県立歴史博物館　金沢市　設計／五井建築設計研究所ほか



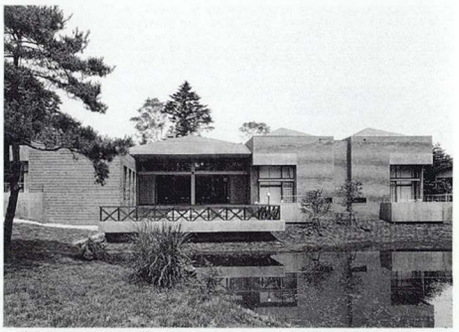
上市町和合団地　富山県　設計／高松建築設計事務所



電気文化会館　名古屋市
設計／中部電力・日建設計

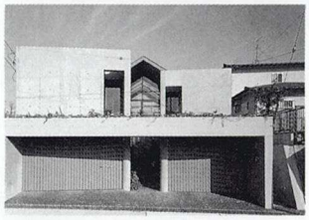


日本電気北陸ソフトウエアセンター　石川県　設計／日本電気ほか



日本火災海上保険軽井沢山荘　長野県　設計／秋元和雄設計事務所

（住宅部門２点）



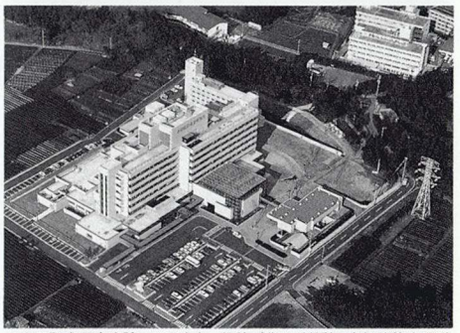
岩田邸　名古屋市
設計／新田鷹雄



駿河平の家　静岡県
設計／木村誠之助



待月楼　静岡市　設計／川口建築都市設計事務所



小山田記念温泉病院　四日市市　設計／藤川原設計・東畑建築事務所

入選作品（一般部門８点）

（住宅部門２点）



名古屋三井ビルディング本館



香林坊アトリオ



レイクグリーンゴルフ倶楽部クラブハウス



福井県中小企業産業大学校



春岡通りの家



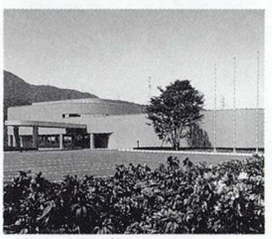
ＪＲ安城駅前広場デッキ



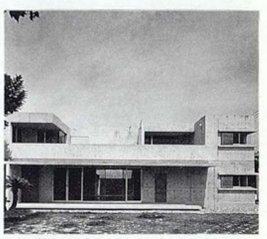
川島総合学院・岐阜情報ビジネス専門学校



岡部町庁舎



日本原子力発電敦賀原子力館



松岡教授の家

三重県立美術館

所 在 地　津市大谷町11
設　　計　富家建築事務所
施　　工　大成建設
敷地面積　24,403.80㎡
建築面積　 4,718.58㎡
延床面積　 8,036.07㎡
規　　模　地下1階　地上2階　塔屋1階
構　　造　鉄筋コンクリート造
　　一部鉄骨鉄筋コンクリート造
竣　　工　1982年3月



既存の三重県総合教育センターの向いの高い台状地に炻器質白れんがタイルの外壁が、周囲の緑とほどよく調和していて、心をなごませてくれる。

この美術館は、元県立大学水産学部の跡地、津駅に近い丘の上にある。

拡幅整備された進入路は、教育センターと共用させ、美術館へは、スキッププラザでの彫刻の屋外展示を眺めつつアプローチを上り玄関に至るのである。とはいっても20数段もの幅広い階段をいま登ってきたものの、登りながら展開し移りゆくこの景観のすばらしさのため、何の抵抗も感じさせなかったからだろう。あるいは、いろいろの期待を醸し出させる景観のなせる演出から来ているからだろう。吹抜けのエントランスホールを中心に企画展示群、県民ギャラリー、中庭に沿った歩廊で導かれる講堂。移ろいのなかに日本人の心を知ることができた。



皇学館大学100周年記念講堂

所 在 地　伊勢市神田久志本1604－5
設計施工　鹿島建設
敷地面積　62,000㎡
建築面積　 1,355.7㎡
延床面積　 3,388.4㎡
規　　模　地下1階　地上3階
構　　造　鉄筋コンクリート造
竣　　工　1981年8月

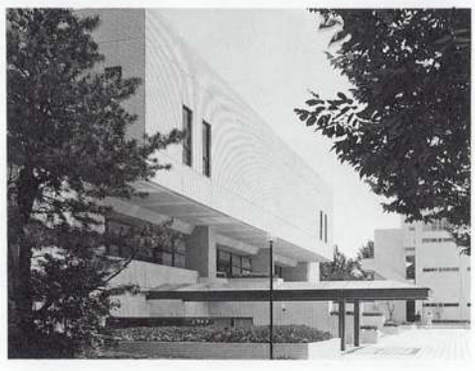


伊勢神宮の深い緑は、〝ただかたじけなさに涙こぼるる〟西行法師とまではいかないにしても、心に〝浄〟意識をもたらすものである。この宮域に近い森に囲まれた皇学館大学の100周年記念講堂が静かなたたずまいをもって建っている。

この講堂の高さは15mを少し割るというが、風致保全のための〝都市計画法の風致地区内〟とのことのようであるが、とはいっても、周囲の緑とほどよく均衡がとれているのはうれしい。

校門を入り坂を上ってくると正面に往時六角講堂へ上る道であった広い石段が草におおわれて残されているが、これもまた演出効果をもたらされている。

講堂のボリュームと広場とのバランスは、ほどよく保たれ、外壁の白磁タイル、左右対称のどっしりと落ちついたファッサードは、隣りのガラス屋根のキャノピーで雰囲気を和らげている。



■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



2080 高萩十王斎場

設　計：岡設計
施　工：呉羽・日興ＪＶ
a．茨城県高萩市大字安良川字上原1327
b．6,225.99㎡
c．1,466.21㎡
d．1,239.58㎡
e．RC、S、２F
f．昭和60年９月～昭和62年３月
g．JR東日本常磐線高萩駅



2081 千代田生命京都御池ビル

設　計：大成建設一級建築士事務所
施　工：大成建設大阪支店
a．京都市中京区間之町通押小路下る高田町499-5他
b．　861.62㎡
c．　731.11㎡
d．6,408.75㎡
e．SRC、B１、９F
f．昭和61年１月～昭和62年３月
g．地下鉄御池駅



2082 県立那覇西高等学校

設　計：近代設計・渡久山建築設計事務所ＪＶ
施　工：小波津組・大旭建設・他15社ＪＶ
a．沖縄県那覇市小禄字金城180
b．35,000.00㎡
c．　6,377.55㎡
d．10,136.85㎡
e．RC、３F
f．昭和61年９月～昭和62年３月



2083 多賀城市文化センター

設　計：岡設計
施　工：大成建設
a．宮城県多賀城市中央２-451
b．14,305.96㎡
c．　6,712.24㎡
d．12,639.29㎡
e．SRC、４F
f．昭和60年10月～昭和62年３月
g．JR東北線多賀城駅



2084 山口県婦人教育文化会館・山口市働く婦人の家

設　計：金子信建築事務所
施　工：鴻池組・鴻城土建工業ＪＶ
a．山口市湯田温泉5-1-1
b．3,187.90㎡
c．1,349.50㎡
d．3,004.40㎡
e．RC、S、４F
f．昭和61年６月～昭和62年３月
g．JR西日本山口線湯田温泉駅



2085 医療法人厚生会虹が丘病院

設　計：鹿島建設九州支店建築設計部
施　工：鹿島建設九州支店長崎営業所
a．長崎市虹が丘町1-1
b．32,891.72㎡
c．　2,056.10㎡
d．　7,496.00㎡
e．RC、７F
f．昭和61年４月～昭和62年３月
g．JR九州長崎本線長崎駅



2086 阿寒町公民館

設　計：岡設計札幌支店
施　工：西松・村井・小野寺ＪＶ
a．北海道阿寒郡阿寒町辞原野16線29-8
b．6,664.00㎡
c．2,610.10㎡
d．3,027.82㎡
e．RC、２F
f．昭和61年５月～昭和62年３月
g．JR根室本線釧路駅



2087 大宮スカイビル

設　計：三井建設一級建築士事務所
施　工：三井建設東京建築支店
a．大宮市桜木町1丁目土地区画整理事業地内14街区
b．10,015.87㎡
c．　7,841.84㎡
d．83,184.32㎡
e．RC、SRC、S、B３、13F
f．昭和60年９月～昭和62年２月
g．JR・東武大宮駅



2088 ヤナセ名古屋支店ビル

設　計：鹿島建設名古屋支店建築設計部
施　工：鹿島建設名古屋支店
a．名古屋市中区新栄1-46-32
b．2,637.96㎡
c．1,946.35㎡
d．9,753.97㎡
e．RC、B１、４F、P1
f．昭和61年５月～昭和62年３月
g．市バス丸田町



8

大阪市交通局

●はじめに

大阪市交通局は、大阪市が進める総合交通体系の担い手として、現在、地下鉄・バス・ニュートラムの三つの事業を行っています。

会員は、これらの事業の停留場その他関連施設の建築設計・施工監理を行う建築課と、小規模改造工事・補修工事の設計・施工監理を行う工務課に在籍しており、両課合わせて100名程度の建築技術職員がおります。

現在、総合交通体系の根幹としての地下鉄を中心に仕事を進めており、昭和65年に鶴見緑地で開催される花の博覧会へのアクセスとして、重要な役割を果たす地下鉄鶴見緑地線の建設や、御堂筋線の各駅改造工事に取り組んでいるところです。

●会員グループ

大阪市交通局の建築協会の会員グループは、現在11名です。以前は若い人の入会も多く、活気がありましたが、1人抜け、2人抜けしている間に会員は30歳以上の者ばかり11名となってしまいました。

また、グループとしての活動はなく、一同に会する機会もないため、誰が会員であるのか各々がわかっていない状態でした。

今回「会員グループの頁」に掲載されるということで、一同に会する機会を得まして、誰が会員であるのかを知るいい機会となりました。

しかし、集まったところで何をすればいいのかということになり、話し合いの結果、討論会でもということで落ち着き、建築協会について話し合うことにしました。

●建築協会について

• 池田光太郎

「会員数をふやす努力をしていない様な気がする。」

「最新データシートを発行してほしい。企業とタイアップすれば、無料で会員に配れるのではないか。」

• 大村泰治

「〝建築と社会〟の内容をもっと技術的に突っ込んだものにしてほしい。また、特集を組むなどを考えてはどうか。」

• 原田奉紀

「〝建築と社会〟は内容がいまいち薄いし、ニュースも遅い。年間を通してシリーズものを組むとか、内容の充実を図ってほしい。」

• 坂野　明

「若い人が入ってこないのは、会のメリットが少ないからではないか。もっと、入会してやっぱり良かったと思えるものが欲しい。」

• 林　義春

「関西中心はいいが、全国ネットのいろいろなデータを載せてほしい。見学会の内容が、この頃寂しくなったように思う。」

• 奥田　収

「新建築物及び新材料等の見学会は近畿中心なので近畿外も増やしてほしい。」

• 向井　淳

「〝建築と社会〟のサイズをB_5判程度にすれば通勤の車内でも気軽に読める。」

• 野田　宏

「会費を少しあげてもよいから、内容の充実を図ってほしい。」

• 鳥井豊秋

「内容の充実を図ってほしい。新材料・新工法など最新のものを〝建築知識〟的な内容で載せてほしい。」

• 鈴木茂夫

「〝建築と社会〟が届いてもざっと目を通すだけで終ってしまう。グラビアは美しいが、内容にもう一つのものがある。」

• 塩崎達成

「〝建築と社会〟は同人雑誌の様な建築雑誌である。もっと突っ込んだ内容があってもいいのではないか。」

●おわりに

以上の様な意見が各々の会員から出たわけですが、全体をまとめると、「もっと地域性のある突っ込んだ内容を〝建築と社会〟に期待しながら、会員どうしが気軽に交流できるような場を設けていってほしいし、入会してやっぱり良かったと思える様な会づくりを目指してほしい。」ということでした。

この討論会を切掛けに、会員の少なさに嘆きを感じながらも、日頃あまり考えない協会のあり方や要望を言いあえたと、会員一同満足しています。

（文責：坂野　明／大阪市交通局）

法令コーナー

編集委員会法令分科会

221

建築基準法・同施行令の一部改正(その1)—その背景—

建築基準法の一部を改正する法律は、昭和62年6月5日に公布され、改正法に基づく技術的基準等を内容とする建築基準法施行令の一部を改正する政令についても昭和62年10月5日に公布され、昭和62年11月16日に施行された。

建築基準法は、昭和34年および昭和45年の大改正を経て、昭和50年代以降は、昭和51年の日影規制の導入、昭和55年の地区計画制度の導入、昭和58年の建築確認および建築検査制度の合理化等の改正が行われてきたが、今回の改正は、「昭和62年改正」と呼ぶべき大改正となっている。

今回の法令改正の背景として、つぎのような課題が生じていることが指摘されていた。

(1) 商業業務地等における土地の高度利用の傾向等に伴い、とくに道路と建築物との関係に関する形態制限を中心として、合理的な建築計画と、適切な市街地環境との調和を保つ上で適応性に欠ける面があり、その合理化を図る必要がある。これについては、建設大臣が昭和59年3月29日、建築審議会に対し、「経済社会の変化に対応した市街地環境整備の方策はいかにあるべきか」について諮問し、建築審議会は昭和61年12月10日、諮問に対する答申をまとめ建設大臣あて報告し、今回の法改正に答申の内容が取り入れられている。

(2) 木造建築物に関する防火等の制限については、近年、木造建築物の防火性向上に関する構法および計画技術が確立されてきた。このことは、わが国の建築技術の発展とともに、経済水準、生活水準が向上し、建築物に対するニーズが多様化、高度化するなかで、依然として、優れた木造住宅、木造建築物に対するニーズ、愛着には根強いものがあり、今後、供給の増加が見込まれる国産材の有効活用の観点からも、木造建築物の振興が望まれていた。これらの状況を踏まえ、建設省では昭和61年度から総合技術開発プロジェクト「新木造建築技術の開発」に着手し、木造住宅等について構造耐力、防火性、耐久性等の性能向上のための技術開発を行うとともに、従来、木造以外の構造によっていた体育館等の大空間を有する建築物や中高層建築物等についても同様の技術開発を行い、建築を可能にしたものであり、これらに対応した法改正が行われている。

*

設計者として設計に反映するためには、各条文ごとの詳しい解説が必要であり、次号以降に詳細に、運用上の取り扱いを含め説明する予定である。

(神戸市住宅局建築部審査課　南出和延)

法改正関連の概要一覧

法改正概要	施行令改正概要
1．単体規定関係	
○法第21条関係 木造建築物に係る高さ制限の合理化 1．高さ13m又は軒の高さ9mを超えて建築ができることとした。(法第21条第1項)	(1) 高さが13m又は軒の高さが9mを超えて建築することができる木造建築物の技術的基準等は、次のとおりとする。(令第129条の2及び令第82条の2から第84条の4まで) ① 構造方法……大断面木造建築物とする。(令第46条第2項) ② 主要構造部等の防火の措置……7項目あり。(令第129条の2) ③ 用途……倉庫及び自動車車庫以外の用途とする。(令第129条の2第2項) ④ 構造計算……許容応力度計算のほか、所要の計算を行う。(令第82条の2～第82条の4)
○法第26条関係 防火壁設置義務の合理化 1．火災の発生のおそれが少ない用途。(法第26条第二号ロ)	(1) 防火壁の設置を必要としない木造建築物等の技術的基準は、次のとおりとする。(令第115条の2第1項) ① 大断面木造建築物とする。(令第46条第2項) ② 主要構造部等の防火の措置……9項目あり。
2．畜舎等の建築物で特定行政庁が認めるもの。(法第26条第三号)	(2) 認められる用途……畜舎等(令第115条の2第2項)
○法第62条関係 準防火地域内の建築物の防火制限の合理化 1．準防火地域内で木造3階建が建築することができる。	(1) 3階建て木造建築物等の技術的基準(令第136条の2) ① 開口部構造及び面積の制限等8項目あり。
○その他	(1) 軟弱地盤区域における木造建築物等の布基礎の構造の合理化(令第42条・第53条) (2) 3階建て木造建築物の柱の小径の合理化(令第43条) (3) 小屋裏隔壁の設置義務の合理化(令第114条) (4) 防火上主要な間仕切壁の構造制限の合理化(令第114条) ① 児童福祉施設等を加えた。 (5) 排煙設備の設置義務の合理化(令第126条の2及び令第126条の4) ① スポーツ施設の緩和 ② 共同住宅の住戸200m²以内緩和 (6) 非常用の照明装置の設置義務の合理化(令第126条の4) ① スポーツ施設の緩和
	(7) 内装制限の合理化(令第128条の3の2から令第129条) ① 無窓の居室天井高6m超えるもの内装緩和 ② スポーツ施設の内装緩和 ③ 共同住宅の住戸200m²以内の内装緩和 ④ 特殊建築物以外の100m²以内区画の内装緩和 (8) 特殊な使用形態の昇降機の特例(令第129条の3) ① ホームエレベーターの追加
2．集団規定関係	
○法第52条関係 道路幅員による容積率制限の合理化 1．幅員6m以上の前面道路が延長70m以内で幅員15m以上の道路に接続する場合における道路幅員による容積率の限度の割増し。 2．壁面線の指定がある場合において特定行政庁が許可した建築物についての道路幅員による容積率の限度の割増し。	(1) 幅員15m以上の道路から敷地までの道路延長に応じ前面道路に加える数値を定める。(令第135条の4の4)
○法第55条関係 第1種住居専用地域内における建築物の高さ制限の合理化 1．第1種住居専用地域内の高さの限度として従来の10mのほか12mを加える。	
○法第56条関係 道路斜線制限及び隣地斜線制限の合理化 1．道路斜線制限の適用範囲について、一定距離以下の範囲内のみとする。 2．前面道路の境界線からセットバックした建築物について、その距離に応じて、道路斜線制限を緩和する。 3．高さ20m又は31mを超える部分が隣地境界線からセットバックした建築物について、その距離に応じて隣地斜線制限を緩和する。	(1) 建築物の敷地が2以上の用途地域にわたる場合の適用範囲について定める。(令第130条の11) (2) 前面道路の境界線からの算定距離に当たり、建築物から除く部分について定める。(令第130条の12)
○法第86条関係 総合的設計による一団地の建築物の取扱いの整備改善 1．手続き関係の整備を行う。	
○法第59条の2関係 総合設計の許可に係る空地規模要件の引下げ	(1) 高さ制限のみの緩和に係る空地規模要件を引き下げる。(令第136条第2項)
○法第92条関係 駐輪場の延べ面積への不算入	(1) 容積率制限に係る延べ面積の算定における駐輪場の用途部分について、対象延べ面積に算入しないものとする。(令第2条第1項、第3項)

書　評



あめりか屋商品住宅「洋風住宅」開拓史

内田青蔵著　　住まいの図書館出版局刊　1,500円

新年おめでとうございます。今年もよろしく。

面白く、楽しく読める本、お正月、炬燵で読むのに丁度よい。こんなふうに書きだすと、いかにも軽少短薄な読みものと誤解されそうだが……。冗談じゃない。内容がしっかりしているからこそ面白く、楽しいのであって、専門書、研究書の場合、この点にいささかの誤解がありそうな気がする。住宅研究がなんとなく低調なのも、そこいらあたりに原因がありはしないか。正月そうそう、いきなり大上段に振りかざした感じだが、この本には、軽妙なタッチのなかに、思わずそこ迄考えさせる内容がある。住宅研究もまだまだ色々な切り口があるんだな、思わず一気に読み終えた。

私達の生活、そして、住宅設計、和風でもなし、洋風でもなし、和洋折衷を超えて、今や現代日本風としか言いようのない独特のスタイル、首をかしげて、和魂洋才がうまくいっていると言うべきであろうか。そのあたりの現代風、住宅だけでなく、私達の生活そのものが現代風、和風と洋風とがたくみに調和されている。うまくやったな、ずるいな、という感じが欧米人にはきっとあるんだろうな、今年こそ正念場をむかえるに違いない貿易摩擦の遠因でもあるに違いない。

まあ、それはそれとして、この現代日本風住宅のルーツ、大筋は解っているつもり。日常の設計活動のなかで、あまりにもスムーズに、現代風が身についてしまっていて、いったい、いつから、どんな人々が、このかたちを創りあげたのだろうかと、かえって怪しい感じ。例えば、ヴォーリズさん、藤井厚二さん、現代日本風住宅が形成される過程での、重要な点ではあるが、お二人の仕事が、どう現在につながっているのか、そこんところが、解っているようで、今ひとつ解らない。西洋館のストーリーのなかで、一般住宅は民の系譜である。だから、それを支えてきた作家は、無名の人、いわゆる建築史、住宅史には、ついぞ登場しなかった多数の人々ではなかろうか。極言すれば、ヴォーリズさんでも、藤井さんでもない、市井の建築家の努力の結晶が、今日につながっているのではないか。住宅設計の実務のなかで、そこんところが気になってしょうがなかった。

この本は、そういった疑問に答えてくれている。「商品住宅」というタイトルが著者の視点を明確に示している。これ迄の住宅史、住宅論にはない庶民生活のレベルで、生活のなかから、近代化、洋風化を論じてゆこうとするところに、この本の新しさがある。面白さがある。昨年末、川添登さんの「今和次郎　その考現学」を読んだあとだけに、その考現学にも通じるこの本の視点に、強く共感するものを感じた。

近代化、洋風化を、そのルーツを追うのではなく、その系譜を論ずのでもなく、生活のなかへの浸透、普及といった点から論じているところが、考現学であろうか。少し大げさに言えば、住宅研究も、ようやく生活のレベルで、ものとしての住宅ではなく、生きている住宅を論ずるときなのだなと、頼もしく読ませていただいた。

最後に付け加えさせて頂くと、あめりか屋の住宅、関東でよりも、関西での方が実り多かったと思うのだが、そのあたりの事にあまり触れられていないのが残念。その点は続刊に期待したいと思う。

関西の事が出たついでにもう一言。こういった新しい切り口の研究、関西でも、もっと活発になってほしいものだと思う。

この「住まいの図書館出版局」のシリーズ、好企画が続いているようで、これからも目が離せなさそうだ。　　**太田　隆信**



生の建築：中野誠一作品集

高松伸・井上章一編著　　グラフィック社刊　2,900円

2年前。1985年11月8日。気鋭の若い建築家が交通事故で死亡した。中野誠一君である。彼は京都大学建築学科の私の後輩にあたる。私が所属した同じ上田篤研究室、そして設計課題について私が教えた可能性もある学年ではあったが、当時奈良女子大学へ移りつつあった私の記憶に彼のことはない。年があけて86年1月の新建築住宅特集に安藤忠雄の住宅コンペ〈抵抗の砦〉の入選発表があって、そこに京大の後輩の名を発見し、しかし仔細にみると前年11月8日急逝とあって驚きをいっそう強くした。

その頃、彼、中野誠一はすでに関西の若手建築家仲間のあいだでは話題になる存在であったらしい。学生時代から目立っていたという彼の設計は、その後高松伸のアトリエに入ってさらに特異な光を放ちはじめ、独立してから後の京大経済研究所佐和隆光教授邸をはじめとする作品やドローイングによって急速に独自の建築を形成しつつあった。そのさなかに彼は急逝した。

そしてこの書。高松伸と彼の同期生で国際日本文化センター助教授の井上章一がまとめた彼の作品集。不思議なことに、この作品集には〈遺作〉という言葉が登場しない。むしろ反対に〈生の建築〉というタイトルすら冠されている。今日の建築がポストモダンとよばれる状況のなかで、工業主義のテーマや進歩のイメージと訣別して以来すでに久しいといえようが、そのこと自体が死のイメージと隣りあわせに進行してきたといえなくもない。作者の死を前提にしてこれらの建築を眺めなおしてみるとき、それらのデザインは不思議な輝きを見せはじめる。そして彼の作品の多くに〝grave post－墓標〟というタイトルが冠されているように、まさしく墓標としかいいようのない建築のありかたが、今日の建築デザインの主たるテーマなのではなかろうか。ページをめくりつつ、彼の惜しむべき才能を発見しつつ、今日のさまざまな状況が脳裏をよぎっていく。

高口　恭行



大江戸観光

杉浦日向子著　　筑摩書房刊　1,200円

東京が今おもしろい、という感じだ。東京はすでに、ニューヨークと同じように、日本の首都というより世界の東京になりつつある。それだけなら特にどうということはないのかも知れないが、同時に「江戸回帰」ともいうべきもう一つの流れがだんだんと大きくなっているところに、この都市の底知れぬところがある。

その流れの旗手といえるのは、若き建築史家・陣内秀信であり、さらにもっともっと若いマンガ家・杉浦日向子である。杉浦日向子のマンガは、江戸時代の風景、風俗、人情、文化を克明に描きながら、主人公達の表情は現代を生きているという、不思議なものがある。同じ著者が「サンデー毎日」に連載している江戸の風景画とエッセイ、週刊朝日の人生相談、いずれにも過ぎた時代の常識を知りつくしながら、視点に新しさ、語り口に現代っ子らしさをちゃんともっているなと感じるものがある。

さて「大江戸観光」は著者の言葉を借りれば「ちょっと、江戸を散歩してみませんか？　理屈やウンチクにわずらわされるよりも、はとバスにでも乗った気分で出かけてみましょう。遠い昔の江戸の街がホラ、こんなに愉快なワンダーランドだったなんて……」とい

うノリのエッセイ集である。終章には「二十一世紀の風景」がついているが、ここで杉浦は「軽々しく口に出す『わたしたちの地球』というコトバはオコガマシイですね。『地球に生かされている人類』であって、養い親の勘忍袋の緒の限界に、ビクビクと首をちぢめる良い子に帰れるといいのにナ」と説く。本人が二十一世紀前夜をどんなふうにすごすのか、という空想もそこで語られているが、親子三人で銭湯に行き、古時計のボーン、ボーンという音を聞きながら……と見事な下町派ぶりである。

今日のレトロブームが、若い杉浦のような感性で支えられているとしたら、これは本物なのかも知れない。私は東京が好きでも、江戸のファンでもない。でも現代におぼれることなく、以前にもっとおもしろい、楽しい時代があったのではないか、と確めずにおれないところに強い共感を覚える。建築も都市も、ライフスタイルのあり様やら考え直す時にきていると思う。

高田　昇



東京路上博物誌

藤森照信＋荒俣宏著　　鹿島出版会刊　2,800円

裏切られるのもまた楽し。などというと著者に対して大へん失礼になるのですが、巷にヘンナモノ捜しの本があふれると、これもまた、そのての本かとつい思ってしまいたくなるのが、情報あふれる今日の悲劇なのでしょう。

そんな予想を裏切って、この本はなかなか立派。三人の役割が明確で、かつ三人三様の博学多識ぶりを堪能させてくれるところが、読む楽しみを倍増します。しかし、それにもましてこの本の魅力は、美あるいは芸術という一面的な尺度から対象をみる一種の合理的、目的的な視点をすてて、ひとつのものの中に混然として取り込まれていたにちがいないモノそのものの魅力、あるいは存在していることのオモシロミ、ひいてはそれらにこだわった人間、時代のオカシサをあぶりだしていることです。

例えば、東京の怪建築と蜂須賀家の話。型破りの人生をおくった当主のすがたを表すかのように残された住宅や別荘の写真をみると、今日、このような人物がもはや生きえない時代になっていることを改めて思い知らされるのです。大山候の温室にしてもしかりです。そんな偉い方々の話もあれば、東京風景論のなかに語られる東京の人々の富士山へのおもいや、二宮金次郎の話。

軽みをおびた語りくちの魅力につられて、いつのまにか三人とともに路上をさまよっている気分になってしまいます。しかし、現実にかえると、すっかり洗練されてしまった今日の都市空間のなかに、私たちはどれほどの自分の人生を刻みこみえているのだろうか、と考えさせられてしまいました。

橋本　敏子



Voyage d'Orient Carnets（東方への旅―手帖―）

Le Corbusier著
（ル・コルビュジェ）　　Moniteur刊限定3,000部　1,600fr.

P.ヴァレリーは、261冊の「カイエ」と呼ばれる手帖を残したが（「ヴァレリー全集カイエ篇、全9巻、筑摩書房、1980～1983）、それを、「無限のひとり討論」であり、また「自分自身にかかわる理論」であると言う。また個人的な下書き、模索ではあるが、その全体が、「思考そのものの所為を材料として作られた芸術作品」であるとも言う。ヴァレリーのように、「忍耐強い探求」を自らの制作の金言とし、それこそが建築作品の実質とみなしたル・コンビュジェも膨大な手帖を残している。それにはこのヴァレリーの言葉がそっくりそのまま当てはまるであろう。それは、Le Corbusier archive,32 vols. Garland Publishing, New York/Fondation L.C., 1982～85として公表され、またその73冊の手帖をコンパクトにまとめて、Le Corbusier Sketchbook, 4 vols. (1914—1964), M.I.T. Press/Fondation L.C., 1981が出版されている。ル・コルビュジェは、まず眼で見ること、観察すること、発見することを第一とする。そのために、描き、線を引き、ボリュームと表面を組み立てる。そこでインスピレーションが訪れ、発明創造が起こるのだと言う。残された彼の手帖は、この「眼と手の人」の証人であり証言である。

1981年以後、ル・コルビュジェの「東方への旅」の時期に相当する1911年の6冊の手帖があらたにル・コルビュジェ財団に寄贈され、それが去る11月に、パリのモニトゥール社からファクシミル版で限定出版された。近日入手した本書をみると、装丁やサイズや内容が原物と同じように作られていて、眺めているうちにル・コルビュジェの世界に溶け込んで行く思いがした。最後の第6巻には、校訂者のGiuliano Gresleriによる紹介があり、手記の全内容が活字に移され、それに注記が付されていて便利である。ル・コルビュジェは、1911年にドイツからイスタンブールをめざして旅にでて、トルコ、ギリシア、イタリアを巡ってスイスに帰っている。この旅行は彼が建築家の道を自覚してゆく重要な契機であり、同時に、建築を原初の「はじまり」として了解しようとする近代の大切な出来事と言える。この旅の記は、1965年、ル・コルビュジェが死の直前に旧稿に手を入れて、死後に出版されている。voyage d'Orient, Forces Vives, Paris, 1966.「東方への旅」（石井勉他訳）ＳＤ選書、鹿島出版会、1979. Journey to the East, cditcd & annotated by I. żaknic, M.I.T. Press, 1987, しかしこの「東方への旅」の意義について論じることは、また別の機会に譲らねばならないが、ここではとりあえず、その時期の様子を直接に伝える資料の公刊を紹介した。

加藤　邦男

注記：本書の購入は、Librairie Moniteur, 7 Place de l'Odéon 75006 Paris まで問い合わせられるとよい。



風景と都市の美学南北ヨーロッパの旅から

内田芳明著　　朝日新聞社刊「朝日選書」　1,000円

「都市の景観」、「美しい街並」ということが云われて久しいが、現実はどうであろうか。確かに伝統や歴史を大切にした街づくりや現代的個性的な建物が建ち並ぶ一見きれいで新鮮な街づくりが現れはじめている。しかし建物は個性的でも周囲の環境から切り離されて自己主張を始め、どこかしっくりしない。これが本当の街づくりだろうか。西欧の街づくりとは明らかに違う。何故だろうか。そんな疑問に対して、この本はひとつのヒントを与えてくれるようだ。

著者は西欧の各地で「都市」が周囲の自然風景と調和した美しい「風景」になっている事に素直に驚きを感じる。

何故か。西欧の都市の美しさの構成要素を次の様に分析する。建物の屋根の存在、特に傾斜屋根の存在。風土的な色彩体験からくる屋根・壁の色彩の統一。風景の全体構図に対する視覚的秩序の限界からくる建物高さの制限。これらは原体験として国土的自然に根ざした風景の印象体験が、歴史的文化的背景の中で、自然風景に対する市民的感情、自然風景と調和した生きた都市風景の形成という都市風景

感情として熟成され、その感情の表現として都市の表情が生み出されてきたということではないか。しかし重要な要素は、例えば西独の法規制の中で「風景」が住民参加の広い合意のもとにその最優先目的として実行されてきたという歴史的蓄積、更にその広い合意は、キリスト教社会に見られる神の名の下による普遍的な市民集団としての共同体意識の形成と古い歴史を持つ大学の存在により育まれたことがあるという著者の考察は、西欧と日本の精神的社会構造の成立基盤が決定的に違う事を知らしめる。いずれにせよ自然と都市の統一ある景観を生み出す為には、自然をいかに生きた対象として意識するかが重要で、その為には風景を観る眼と風景への感情がいかに養われ、著者の云う「風景の切なる委託」を感じとった文化の形成を可能とするか否かが、残された「課題」であると結論づけている。

西欧文化史・精神史の研究者である著者は、セザンヌやターナーの風景画・構成をも引用しながら、自分の現象的風景体験を分析しており、建築家の眼とはまた違った視点からの考察は興味深いものがある。尚、著者の前著「風景の現象学」(中公新書) も合わせて一読をお奨めしたい。

伊藤　郁郎

最近の「ウォーターフロントの開発」新刊事情

関西のインナーハーバー再開発の成功例として、華々しくオープンした神戸港メリケンパークを訪れてみた。独特のシルエットを持つ「海洋博物館」、あのフランク・ケイリーのデザインによる「フィッシュダンス」は、今も多くの若者を引きつけている。然し、海際の水親性については、弱い。人は、海の際に来て、尚、海水に触れる事が出来ない。海は、護岸の遙か下に見えるだけだから。むしろ、近くの古い埠頭の方が、私には、好ましく感じられた。海面は、僅か1m余り下にある。また、小型の船に乗り移る為に設けられた石段を5～6段降りると海水に触れることが出来る。そして、なんと、浸食の進んだ岸壁には、蟹の姿があちこちに見える。神戸港には、したたかにも、蟹が生息していた。都心のすぐ傍の海には、覗き込むと、他にも、その季節になれば、鯵の群れが見られ、釣りの穴場でもあるのだ。

私は、インナーハーバーの開発にタッチするようになってから、海の生物との共存・共生を考えてみたいと思っている。海は魅力的だ。港に立って遠くを見ているだけで、心が和む。安らぎを求める現代人にウォーターフロントの開発はアピールするだろう。然し、昨今の開発ラッシュとも思える瀬戸内海の各種ウォーターフロント開発報道を聞くと、またぞろ、海岸線の埋め立てによる環境破壊の恐れを抱かざるを得ない。かつての高度経済成長の中で、日本人が得た一つの良識、エコロジー感覚を忘れているのではないかという疑念だ。確かに、開発指向の経済政策に対して登場したエコロジーの概念は、開発計画に対してなんら積極的な役割を果たせないという致命的な欠陥を持っていたために、その後、プランナーが忘れてしまったものの一つと思われる。然し、今、開発ラッシュのこの時に再評価していいのではないか。

こういう観点で、最近の「ウォーターフロントの開発」新刊事情を概観してみたい。

(1)「ウォーターフロント再開発」日本開発銀行都市開発研究グループ訳編

アメリカ商務省発行の「Improving Your Woterfront」の訳文に編者のオリジナルな主張を加味したもの。編者の問題意識のひとつに「川、野原、森との共生」があることに引かれて読み進んだが、原書は、アメリカの開発事例の体制、管理、地域地区指定、用地取得、行政の助成の内容紹介が中心である。

(2)「ウォーターフロント開発」日経産業新聞編

首都圏のMM21、大川端のウォーターフロント開発から、地域活性型と称される観光漁港（釧路、宮城）開発計画まで、国内の事例が豊富に紹介されており、最新情報を勉強するのに好都合だ。また世界各地の事例が載っているのはいうまでもない。

(3)「ウォーターフロント映像資料集」総合ヴィジョン

海外の代表的な十都市を独自に取材し、十巻のVTRに収録したもの。ビデオの画像による事例紹介は非常に判り易い。

(4)「海辺」レイチェル・カーソン著

その著「沈黙の春」で生態学的視点から農薬の乱用に警告を発したカーソン。海洋生物学者であった彼女は海辺の様々な環境と生物達の生態とをあますところなく紹介し、その魅力を伝えている。ウォーターフロント開発に携わるプランナー必読の本としてすすめたい。

増渕　昌利

ル・コルビュジエ生誕百年を回顧して

昨年は、ル・コルビュジエ生誕百年にあたり、去る10月からパリのポンピドゥーセンターでは、「有用なものが美しいわけではない」と題された回顧展が開かれ、欧州のいくつかの建築誌は特集を組んだ。その回顧展のカタログ「ル・コルビュジエ百科事典」や、1985年に完結した膨大な「ル・コルビュジエ　アルシーヴ」(New York, Garland)などとともに、これでル・コルビュジエに関するかなりな部分の資料が陽の目を見たことになる。残るは、ル・コルビュジエ財団に収蔵される絵画デッサン類と手紙などの資料の公刊である。

さて、昨年特集を組んだ建築誌のなかで特にその編集方針の上で群を抜いていたのは、グレゴッティ編集による「カサベッラ」誌（イタリア）であった。（1987年1、2月号併号）。「A．A．」誌（フランス、2月号）が同誌のかっての一連のル・コルビュジエ特集の再録・編集と数編の見開き記事でお茶を濁したのに比較して、全誌を最新の研究動向のいくつかを要約する書き下ろしの小論文で構成し、巻頭に最近20年のル・コルビュジエ研究を総括したのは立派といえる。

そこに取り上げられたいくつかの新鮮なル・コルビュジエへの視点を列挙してみよう。1）ル・コルビュジエは一連の独創的な作品の作者としてよりも、そこに表出される「類稀なる見る力」の艱難辛苦の軌跡としてみることに意義があること、2）その眼差しの形成の初期、「東方への旅」にも携行された写真機への興味（後に放棄されるが）が果たした役割、3）飛行機の上からの眼差しがもたらした造形思考上の大きな影響、4）彼のパリ改造計画の歴史的淵源、などである。

これらの視点は、欧米の研究の水準を示してもいる。日本における諸建築誌・研究者の更なる奮闘を願おう。

伊従　勉

書評委員（敬称略）
伊藤郁郎（日建設計）
伊従　勉（京都大学教養部助教授）
太田隆信（坂倉建築研究所大阪事務所長）
加藤邦男（京都大学建築学科助教授）
高口恭行（奈良女子大学家政学部教授）
高田　昇（COM計画研究所代表）
橋本敏子（生活環境文化研究所所長）
増渕昌利（神戸市営繕課）

大阪府のコンクリート工法に関する指導要綱によるコンクリート用骨材試験の試料採取巡回工場について

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1　〒565
電　　話…(06)872－0391　FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
　　土曜：9：00～12：00

昨年、大阪府下特定行政庁連絡協議会制定の「コンクリート工法に関する指導要綱」が改正され、これに伴い当試験所は、工事施工者に代わり生コン工場から骨材試験用の試料を採取する業務を昭和62年10月1日から行っています。その詳細は、前号のGBRCニュースに紹介したとおりです。これはあらかじめ各生コン工場を月1回巡回して試料を採取し、試験を行い、工事施工者から報告書の発行依頼を受けて報告書を発行するシステムです。

試料採取巡回工場とは、大阪府下の指導要綱対象建物に使用するコンクリートを納入される生コン工場をいい、10月は大阪府下と尼崎市・伊丹市・川西市内の生コン工場127工場を、また11月には更に長岡京市・八幡市・生駒市の地域の生コン工場を加えて計130工場を巡回しました。11月末現在における巡回工場のリストは表のとおりです。また巡回リストにない工場につきましては、巡回の希望があれば随時対応いたしますのでご一報下さい。

この巡回による骨材試験の報告書の発行依頼も併せて行っておりますのでご利用下さい。

なお、昭和62年9月30日以前に確認申請を受付けた旧指導要綱適用物件についても、10月1日以降コンクリートを打設される場合は、骨材試料巡回採取による試験結果報告書を発行することにしておりますので、併わせてご連絡します。

表　巡回生コン工場リスト（昭和62年11月末現在）

1．大阪地区

桜島生コン㈱
ツルガ生コンクリート工業㈱大阪工場
関西スミセ生コン㈱春日出工場
安治川生コン
松島生コンクリート工業㈱
淀川生コンクリート㈱
関西菱光コンクリート工業㈱大阪工場
関西小野田レミコン㈱尻無川工場
港生コン㈱
阪竜生コン㈱
徳山生コンクリート㈱大阪工場
大阪アサノコンクリート㈱津守工場
大阪生コンクリート㈱千島工場
八幡高炉コンクリート㈱大阪工場
有田建材㈱生コンクリート工場
報栄生コン㈱
新淀生コンクリート㈱
永菱工業㈱

2．北大阪阪神地区

茨木小野田レミコン㈱
麻生近畿コンクリート工業㈱茨木工場
灰久生コンクリート㈱
東淀工業㈱
大同生コン㈱
大阪アサノコンクリート㈱淀川工場
三和生コン㈱
タイコー㈱千里工場
ナニワ生コン㈱
北摂生コン㈱
新鳥飼興業㈱
安威川生コン工業㈱
㈱永進高槻工場
北大阪菱光コンクリート工業㈱箕面工場
関西スミセ生コン㈱茨木工場
新大阪生コン㈱茨木工場
摂津生コン㈱
㈲植田生コンクリート工業
㈲千原資材
豊中レミコン㈱
関西菱光コンクリート工業㈱尼崎工場
大阪アサノコンクリート㈱尼崎工場
尼崎小野田レミコン㈱
㈱北口商店
㈱天城建材センター
三信生コン㈱
宮本生コン㈱
伊丹宇部コンクリート工業㈱
岩城生コン㈱
大阪ライオンコンクリート㈱
摂津阪急生コン㈱
宝塚生コン㈱
土藤生コン㈱

3．北摂地区

能勢生コン㈱
福井生コン㈱
北大阪菱光コンクリート工業㈱猪名川工場
㈱協栄建設生コン部
妙見宇部生コン㈱

4．東大阪地区

タイコー㈱枚方工場
寝屋川コンクリート㈱
伸光生コンクリート工業㈱
㈱永進守口工場
大喜生コンクリート㈱
徳山生コンクリート㈱大東工場
新大東生コンクリート㈱
土梅建材㈱
大東生コンクリート㈱
㈱村上建材店
本多生コンクリート㈱
河内生コンクリート工業㈱
大阪アサノコンクリート㈱城東工場
東大阪生コンクリート㈱
菱江建材㈱
加美コンクリート㈱
㈱浪速建材
藤井コンクリート工業㈱
村野興産㈱
三和生コン㈱
㈱新和生コン大吉組
枚方生コンクリート工業㈱
枚方坂井生コン㈱
枚方小野田レミコン㈱
和興生コンクリート㈱

5．阪南地区

朝比奈建材㈱
麻生近畿コンクリート工業㈱
王水産業㈱
興和生コン㈱
堺小野田レミコン㈱
堺生コンクリート㈱
関西スミセ生コン㈱堺工場
河内菱光コンクリート工業㈱
新和生コン㈱
美原生コン㈱
千代田生コンクリート㈱
徳栄生コン㈱
関西菱光コンクリート工業㈱泉北工場
関西菱光コンクリート工業㈱阪南工場
平木商店
八幡高炉コンクリート㈱堺工場
光徳生コン㈲
伸栄生コンクリート㈱
誠界生コン㈱
菱木生コン㈱
松原生コンクリート㈱
南大阪生コン㈱
安田生コンクリート工業
大進建材㈱
関西生コンクリート㈱
㈱大和総業
睦実業
新栄生コン㈱

6．南大阪地区

和泉生コンクリート㈱
砂川生コンクリート㈱
泉洋レミコン㈱
泉州コンクリート工業㈱
㈱西野建材店
日光生コン㈱
橋本生コンクリート㈱
阪南生コンクリート㈱
雪本建材㈱
貝塚生コン
岸和田生コンクリート㈱
吉川生コンクリート㈱
㈲南建材社
山口建材生コン㈱
山口生コン㈱
日本一生コンクリート㈱
㈱太平洋

7．京都方面

㈱ダン生コン
平井建材㈱
松原生コン㈱

8．奈良方面

㈱北和生コンクリート

第33回工高生デザインコンクール入選作品

審査総評

審査委員長　太田隆信

このデザインコンペは高校野球に似ている、それも夏の大会の雰囲気、審査委員一同アンパイヤーの精神で頑張ったつもり。なぜ、高校野球なのか、思うに応募者各位の若さあふるるプロジェクトに触発されて、ついついこちらも若かりし頃を思い浮かべて熱がはいってしまう。そこいらあたりの応募者と審査委員の関係、キーワードは青春というあたりが高校野球であろうか。

応募数194点はコンペ始まって以来のこと、質的にもすぐれたものが多かった。そのなかから10点の入選案をえらぶのは大変なこと。限られた時間ではあったが、十分に審査を尽くしたつもりである。

審査風景を記録にすると、下記審査経過のように、案を絞ってゆくための投票の記録になってしまうが、毎回、投票と投票との間に議論があった。ひさしぶりにうかがう委員各位それぞれの立場からの鋭い発言が、楽しく有意義であった。投票は、むしろそういった議論のまとめであった。194点のなかから、10点の入選案を選ぶ過程が侃侃諤諤であったのに対して、最優秀作1点は簡単にすっと決まった。入選案を選ぶ議論のうちに、最優秀作のイメージ、そして、椎葉さんのバランスのとれた作品がそれにふさわしいこと等が、素直に理解された。

194点の応募案のすべてが紙一重の差でひしめき合っていたと言うと嘘になるが、いい作品が多かったこと、どれを入選とするか、いやどれを落とさざるをえないか、ぎりぎりのしんどい議論であった。そんななかで、当落を分けたのは設計者が今回のテーマをどれだけ自分のものとしているか、言いかえると、なにをこのテーマで主張したいのか、そこいらあたりの強弱めりはりが、当落明暗を分けたと思う。やや唐突感ある発言かもしれぬが、コンペで日頃の努力を十分に発揮するには、リラックスしてテーマに取り組むゆとりがほしい。

表彰式後、今回初めて先生方との懇談会がもたれた。コンペ参加側からの意見、現場の状況等、生の声を聞かせていただけ有意義であった。今後も続けてほしいと思った。

ともあれ、昭和63年、今年も数多くの力作の応募を期待しています。

審査記録

9月19日　応募作品受理

10月15日　予備審査―応募作品について募集規定の点検（工高生教育小委）
規定不適合事項のある作品　181／194点

10月23日　事前審査―審査会欠席の審査員1名による。

10月23日　審査会　審査員12名
募集規定不適合事項のあるものも含め、全応募作品について投票討議、意見交換によって審査を進める。（審査時間 13:30～20:10）

審査経過

1次　全応募作品について審査員1人が12点を選び、投票する。
欠席の審査員3人のうち事前審査終了の1審査員の投票（10点）も含める。
（時間13:55～15:30）審査員計11名

集計結果

得票	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
作品数	0	1	0	0	0	1	6	1	2	7	10	22	50/194

＊得票1以下の作品（166点）について、各審査員が1点を選び投票、上位5点を選出する。
＊得票2以上の作品28点に、この5点を加えた33点を以後の審査対象とする。

2次　パースの別紙添付、スペースオーバーの作品、立面図の色鉛筆による着彩の作品などについて話題となる。
上記33点の作品について、審査員1人が7点を選び投票する。
（時間　16:20～16:50）審査員12名

集計結果

得票	9	8	7	6	5	4	3	2、1	
作品数	1	0	3	1	4	2	3	3	5	22／33

3次　得票4以下の作品（13点）について、各審査員が2点を選び投票する。
（時間　17:00～17:15）審査員12名

集計結果

得票	4	3	2	1	0	
作品数	2	2	3	4	2	7／13

＊得票0、1票の作品を除き、2次審査にて得票5以上の9作品とこの結果の7作品の合計16点を以後の審査対象とする。

4次　〈討議〉「テーマ」に対する取組、作品表現、コンセプト等について協議・討論。
上記の様な討議をふまえ、16作品について各審査員が10点を選び投票。
（時間　17:55～18:15）審査員12名

集計結果

得票	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
作品数	3	0	2	4	1	2	2	1	0	0	1	15／16

＊上記のうち得票7以上の10作品を中心に討議。
＊得票4以上の15点を審査対象とする。

5次　15点の作品より各審査員が5点を選び投票する。
（時間　18:35～18:45）審査員12名

集計結果

得票	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
作品数	2	0	1	1	1	2	0	2	1	1	4	11／15

＊上記のうち得票1～3の作品を中心に討議。

6次　得票1～3の作品（4点）より各審査員が2点を選び投票する。
（時間18:50～19:00）審査員12名

集計結果

得票	8	7	2	
作品数	1	2	1	3／4

7次　得票7の2作品について投票を行うが、同数の結果となり再討議。

8次　上記2作品を含むこれまでに得票の低い4作品より、各審査員が1点を選び投票する。
（時間19:10～19:15）審査員12名

集計結果

得票	5	4	2	1
作品数	1	1	1	1

＊各作品について討議

9次　得票の低い別の4作品の組合せにより、各審査員が1点を選び投票する。
（時間19:20～19:25）審査員12名

集計結果

得票	4	3	1	
作品数	2	1	1	

＊各作品について討議

10次　得票の低い別の作品の組合せの5作品より、各審査員が1点を選び投票する。
（時間19:45～19:50）審査員12名

集計結果

得票	7	2	1	
作品数	1	1	3	1／5

＊討議の結果、得票7の作品を除き、入選作品10点を決定する。

11次　入選作品10点より、設計条件・応募心得などを参考に各審査員の投票により1点を最優秀作品と決定。審査会を終了する。
（時間　20:00～20:10）審査員12名

以　上

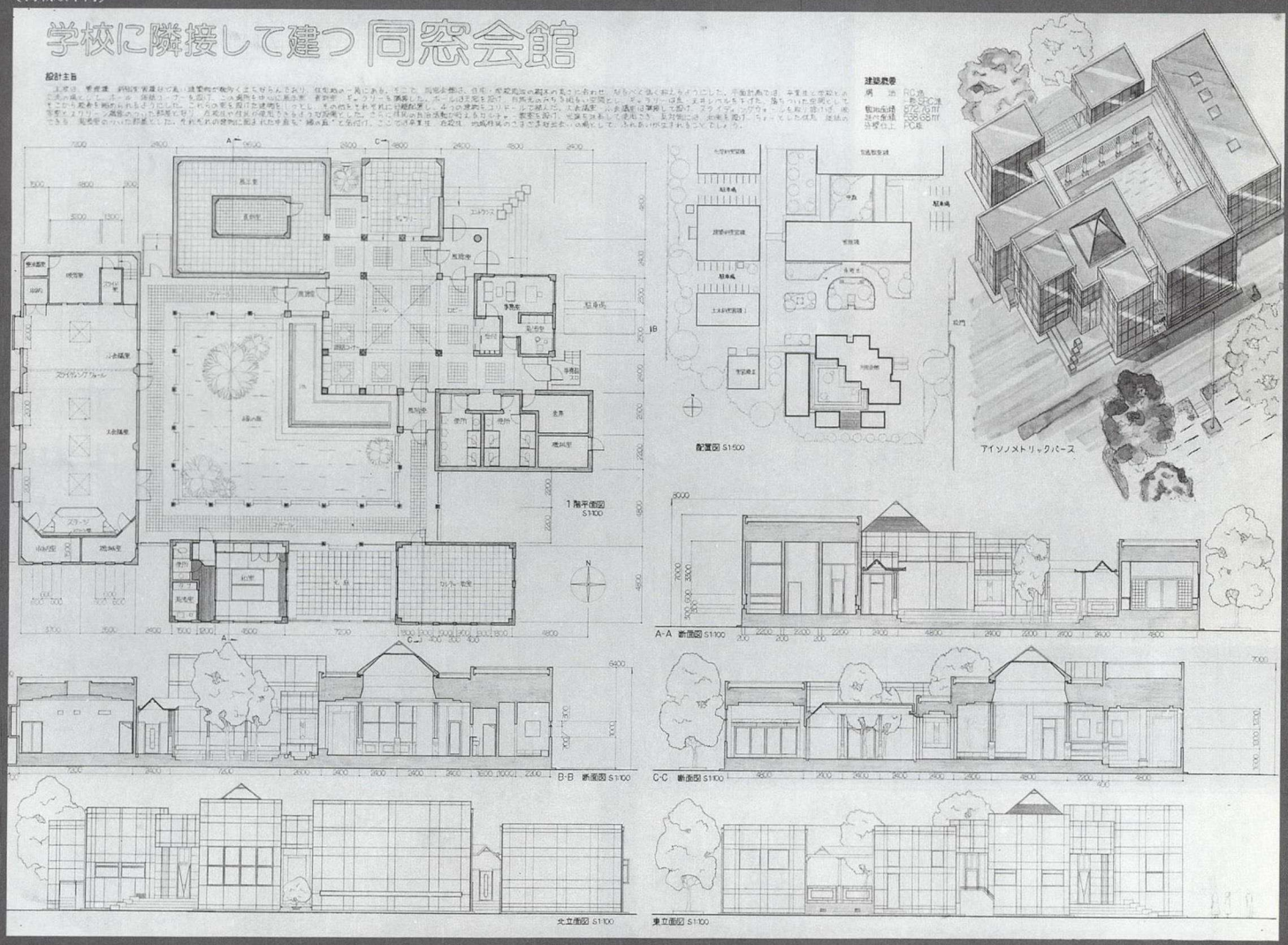
設計課題　学校に隣接して建つ同窓会館

主　　催　日本建築協会
応募校数　32校
応募作品数　194点
締　切　日　昭和62年９月19日
審　査　会　昭和62年10月23日
表　彰　式　昭和62年11月21日

審　査　員

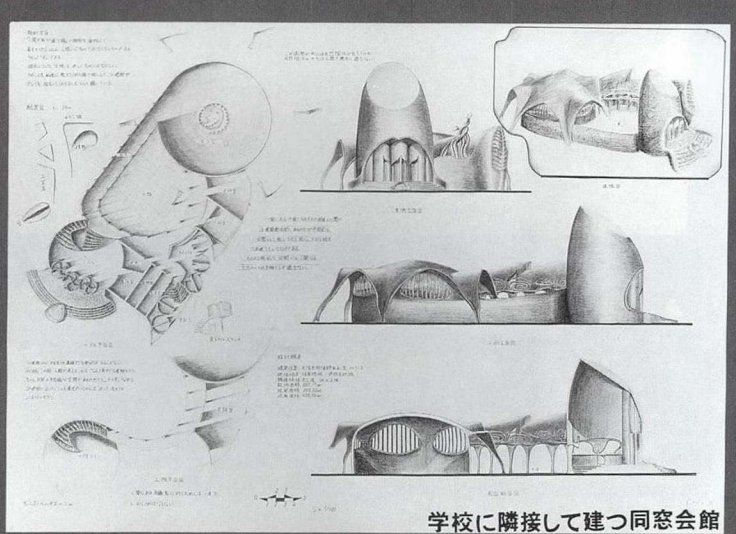
太田　隆信／㈱坂倉建築研究所取締役大阪事務所長
間野　洋三／㈱安井建築設計事務所設計部統括主任
東　　孝光／大阪大学工学部環境工学科教授
歌　　一洋／歌一洋建築研究所主宰
大泉　研二／㈱日建設計大阪本社設計主管
大西　　晃／㈱昭和設計設計監理部主管
狩野　忠正／㈱竹中工務店大阪本店設計部副部長
川道　麟太郎／関西大学工学部建築学科助教授
葛輪　泰通／清水建設㈱大阪支店設計部環境開発設計課長
重村　　力／神戸大学工学部環境計画学科講師
白澤　靖博／㈱あめりか屋設計部設計係長
新田　　隆／大阪芸術大学芸術学部建築学教室教授
針崎　権蔵／权建築設計事務所所長
三谷　幸司／㈱大林組本店建築設計第二部設計課長
山崎　正史／京都大学工学部建築学科助手

〔掲載順不同〕



▲入選・最優秀賞　椎葉美和（大分県立大分工業高等学校・３年）

周囲の建物とのバランスをとりながら、どう自然と融合させた建物にするか。まず、これを頭において計画をはじめましたが、建物の表情を内からと外からの２通りを表現するために、中庭形式として設計にあたりました。学校側からと地域住民側からの動線を考慮しながら、各室にそれぞれの機能を満たした施設として、親しみやすく使いやすい同窓会館を目指しました。まさか、自分がこのような賞をいただけるとは思ってもいませんでしたので、通知を受け大変うれしく思います。


学校に隣接して建つ同窓会館

◀入選　稲田敦士（大阪市立工芸高等学校・３年）

「人間が再び逢う場」としての同窓会館の設計を進める上で、最も大切なもの、忘れてはならないものがある。それは「友」である。この作品は、その大切さを強く象徴化し表現したものである。そのために、めぐり逢いや会合の場として十分な交流ができるよう空間を広くとり、光のデザインにも注意を払った。まさか、自分の作品が入選するとは思っていなかったので、通知を受けた時は、睡眠時間を削って苦労した分だけ、心の底からうれしかった。

課題の主旨

本課題は、卒業生と学校との接点となりうるものである。学習や遊び、クラブ活動や教師とのふれあいから生まれるたて・横のコミュニケーションや、各種行事などを通しての学校生活の体験は、社会人として、さまざまな生活の上で必ず役に立つものである。
それらの中で、うれしいにつけ、悲しいにつけ相談や報告などに気軽に立ち寄ることのできる場があってもよいであろう。
また、住民の自治活動や各種のカルチャー教室などが行えるような、施設・設備の整っている場があってもよいであろう。
このように卒業生と学校との交流の場として、また地域住民のふれあいの場として、さらにさまざまな出会いの場としての清新な「同窓会館」の提案を期待する。

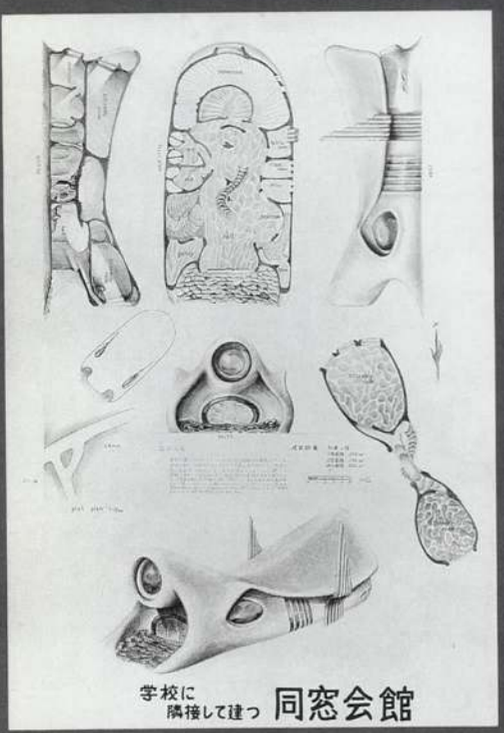
設計条件

1．敷　地：800㎡程度を想定する。
2．規　模：延べ面積500㎡程度。平家または2階建、構造は自由とする。
3．所要室：

（室　名）	（面　積）	（室　名）	（面　積）
会議室 大	80㎡程度。	資料室	40㎡程度。
会議室 小	40㎡程度。	湯沸室	10㎡程度。
和　室	20㎡程度。	便　所	男女各15㎡程度。
事務室	15㎡程度。	倉　庫	適　宜。
展示室	40㎡程度。	機械室	適　宜。

※談話コーナー・ギャラリー・喫茶コーナー、その他必要と思われるスペースを加える。

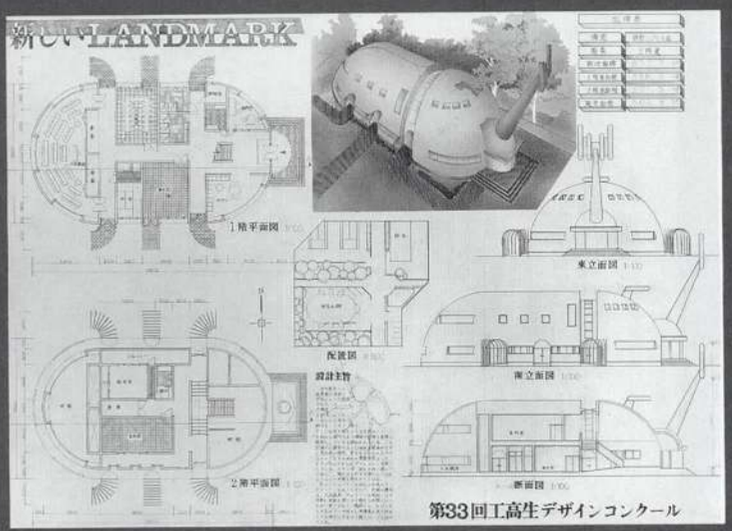
4．屋　外：駐車場を（2台程度）設け、その他植栽計画などを行う。



◀入選　原田新司

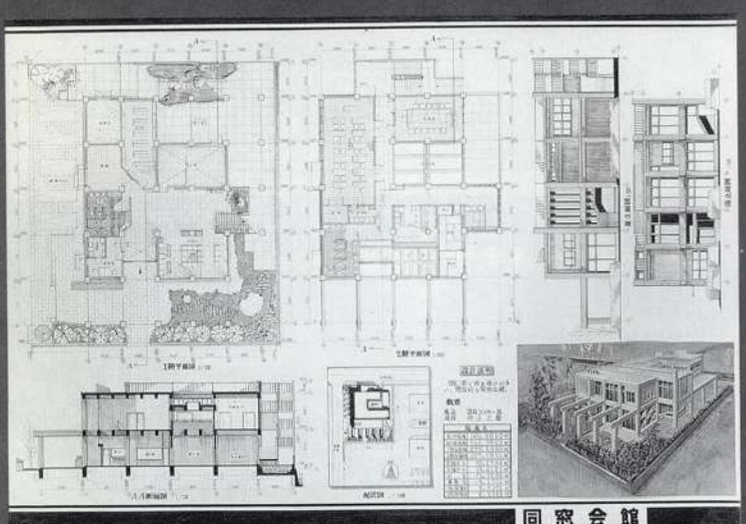
（大阪市立工芸高等学校・3年）

建築物は、外観もデザインの大きなポイントである。そのため、この作品を考えるにあたり、今までとは発想を変え外観のスケッチから入ってゆくことに決め設計を進めていった。これは、クジラの目をイメージしてデザインしたものである。なぜクジラかというと、クジラの持つやわらかいイメージが自分のイメージと合ったからである。三年間建築を学び、最後にこのような賞をいただけた事で、自分の進む道が開けてきたように思います。これからも頑張ってゆきたい。



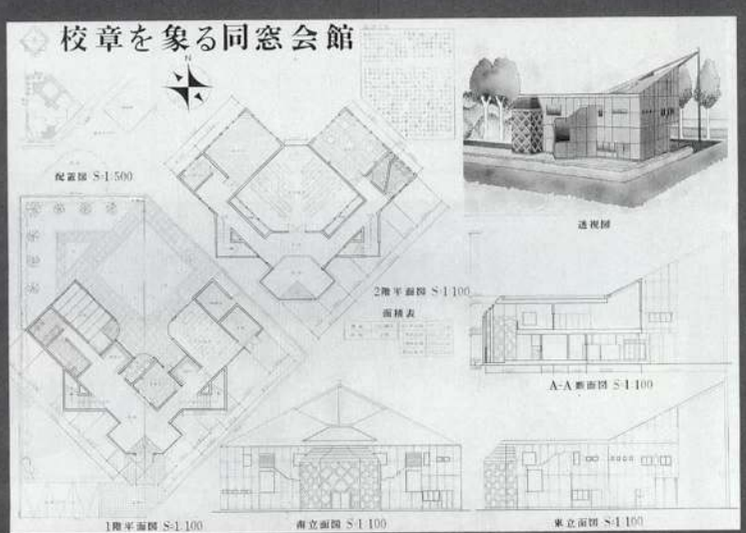
▲入選　鈴木新吾・絹川和昭（共同制作）（群馬県立高崎工業高等学校3年・3年）

学校に隣接する同窓会館には、その学校の象徴、その街のランドマークとして誇れるものがほしいと考えた。人の目に、心に焼きつくような形、ユーモアがあってリアル感があり、そして人の心にとまる思い出の形、それが「かぶとむし」だったのです。力強く、それでいて優しく、何といってもかっこうのいいところが私達の幼い時の魅力だったのだと思います。そのかぶとむしをモチーフにしてこの作品を表しました。通知を受けた時、まさか自分が入選するとは信じられませんでした。



▲入選　片山　真（岡山県立水島工業高等学校・3年）

この同窓会館の設計にあたり、まず最初に、同窓生および地域住民が集会等なごやかに集え、かつ親しみやすくするための空間を、開放的な吹き抜けとして計画しました。展示室は、吹き抜けと共に意匠的にはりを見せ、上部はルーバー付きのトップライトをとり、明るく変化に富んだ空間にしました。この作品は、今までで一番計画について研究し書き込んだ設計で、プランも自分なりにまとめることができました。入選と聞いて大変うれしく思いました。



▲入選　寺島嘉美・山田陽子（共同制作）（群馬県立高崎工業高等学校2年・2年）

私達にとって、とても身近かな課題であるため、学校の象徴である「校章」をモデルとしたものを造りたい……そんな二人の意志をもとに制作にとりかかりました。学生時代には欠かすことのできない、そして思い出がたくさんつまっている「校章」。そんな「校章」を新鮮なまま生かした同窓会館を考えてみました。この作品は、二人で議論しあいながら苦労して制作したものなので、入選できたことは大変うれしく、一生のよき思い出になることだと思います。

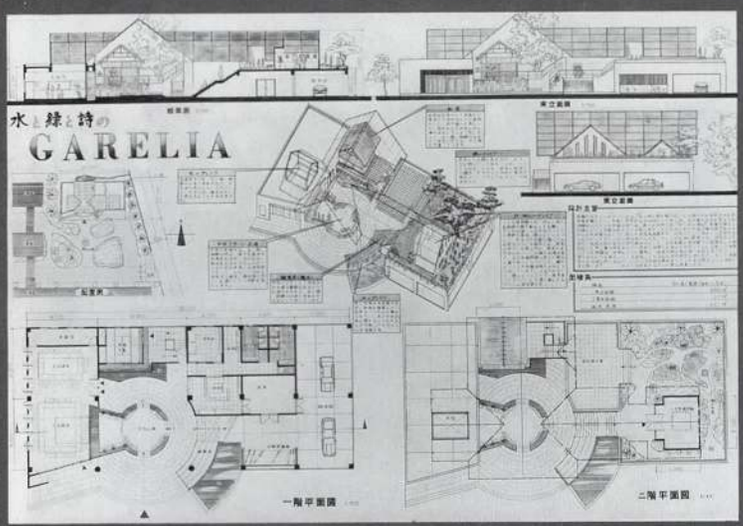
所要図面

1．配 置 図：縮尺１：500(既存の学校敷地の一部を含め、学校との位置関係をあらわす。前面道路・駐車場・植栽等及び方位を記入する)。
2．平 面 図：縮尺１：100(建物周囲の状況を示す)。
3．立 面 図：縮尺１：100(２面)。
4．断 面 図：縮尺１：100(１面以上)。
5．透 視 図：外観着色仕上げ。
6．設計説明：設計主旨および建築概要（構造・階数・面積表示など）を簡明に記入する。
7．そ の 他：平面図、断面図には主要寸法を記入する。

▶入選賞牌

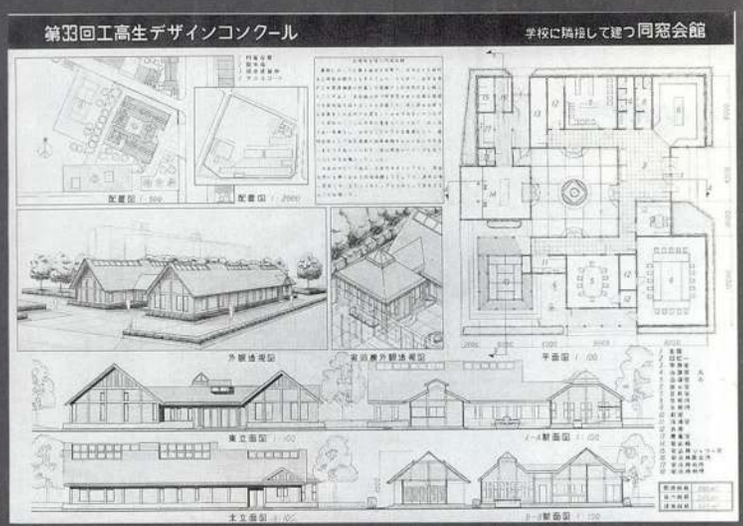
賞牌の原案は、サモトラケで発見された「ニケの像」をモチーフとしたものです。





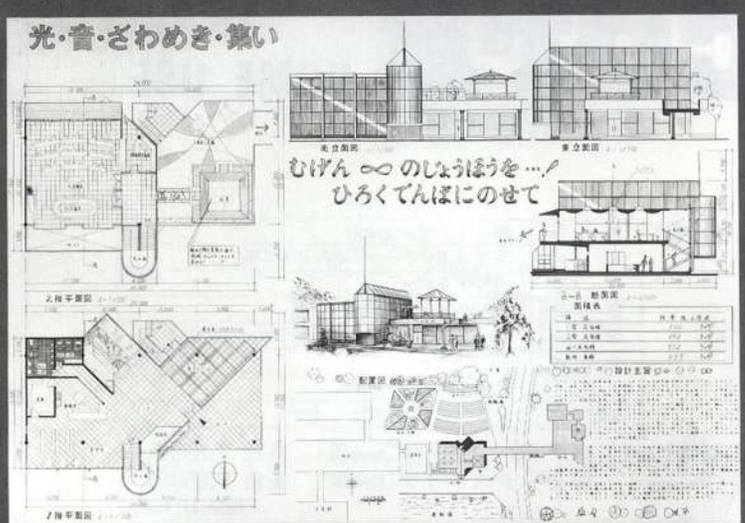
▲入選　黒岩真一（群馬県立前橋工業高等学校・３年）

この作品は、実際に私達の学校の敷地内を想定しました。建物は、前橋市のキャッチフレーズ「水と緑と詩の街」をもとにし、人々が気軽に立ち寄れ、自然に親しむことができ、郷土についての知識も得られるような夢のあるものにしたい、と考えてできたのがこの作品です。多くの時間をかけて自分自身で悩んだ作品なので、入選の知らせを受けた時、素直に「やった！」と思いました。今までの中で一番気に入った作品でもあり、大変うれしく満足感と喜びでいっぱいです。



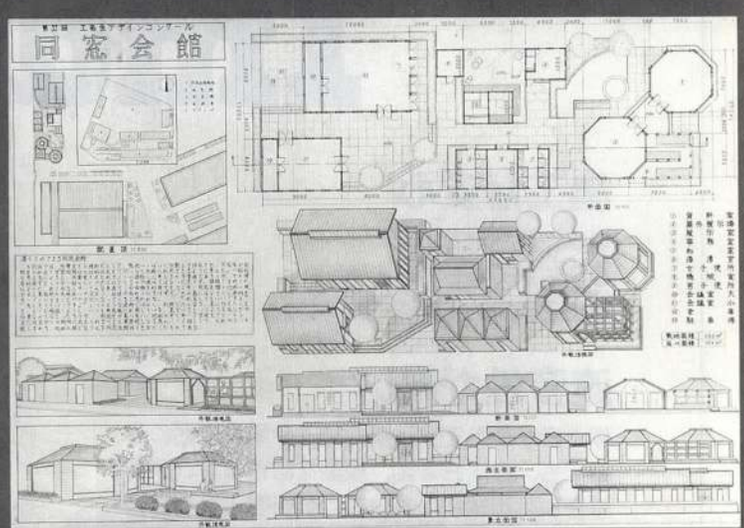
▲入選　金平光次（兵庫県立尼崎工業高等学校・３年）

この設計にあたって、単に同窓生が利用するという機能としてだけでなく、在校生のための部活動合宿所を併設することを考えた。それは、自分が部活動をしていて、合宿練習のための合宿所のないことに気づいたからです。建物全体としては、大規模木造建築物の少なくなった今日、あえて木造にこだわり、昔の学校のイメージをもたせた外観としました。夏休みを使ってこの作品を仕上げるのに頑張りましたが、入選することができて本当にうれしく思います。



▲入選　新田山直紀（群馬県立前橋工業高等学校・３年）

一度学校を卒業してしまうと、再び学校を訪れる機会はなかなかないものです。そして、次第に母校を忘れてしまうのでは、私達にとって悲しいことです。そういった縦のつながりをいつまでも持ち続けたいと思い、この同窓会館を提案しました。情報化社会の今、電波を通じて全国に散った卒業生に情報を提供し、より深い愛校心とふれ合いの和を広げたいと思いました。三年間、諸先生方にご指導いただいた成果として、入選できたことを大変うれしく思います。これからも一層頑張りたいです。



▲入選　細山寛寿（兵庫県立尼崎工業高等学校・３年）

この作品は、同窓生や生徒だけでなく、地域の人々が気軽にこの会館を利用できるようにと考え設計しました。建物を分棟形式として、敷地全体に分散配置させることにより敷地が十分に利用でき、人々が気軽にどこからでも出入りできると思いました。３年間の最後の思い出にと初めて応募したのですが、思いがけず入選し、今までの努力が実ったようで本当にうれしいです。これからも、この入選をはずみとして頑張っていきたいと思います。

※上記入選者の感想文は、誌面の関係上委員会にて要約の上掲載しました。（文責・出雄　陸／教育委員会委員）



千里住宅公園展示場施工例(大阪府吹田市)

新・感・覚　生まれ変った天然コルクフロア

イマコルク Imacork HOME USE

実用新案出願中

施工が安心

●水性接着剤でOK!
●床によくなじむ。
●施工後突き上げ等しにくい。

遮音性が高い

歩く音が静かです。また椅子や家具などの移動にも、音をおさえ、振動を防ぎます。(床衝撃音レベル試験において、軽衝撃・重衝撃共にL-55をクリアー=デラックスタイプ8㎜厚)

ソフトな感触

やわらかな弾力性が快適です。飛んでも跳ねてもころんでも、優れた弾力性がやさしくガード。落下物の破損も防ぎます。

仕様:

表　面	強化ウレタン仕上げ
上　材	天然コルクシート(ポルトガル産)
下　材	特殊樹脂フォーム
裏　面	ピールアップ補助シート
厚　み	5㎜(スタンダードタイプ)・8㎜(デラックスタイプ)
サイズ	300×600㎜
色	淡色・自然色・濃色
梱包入数	18枚(3.24㎡)・36枚(6.48㎡)

価格(上代)　スタンダードタイプ(5㎜厚)　各色 7,800円/㎡
デラックスタイプ(8㎜厚)　各色 9,800円/㎡
1987.11.1 現在

株式会社ダイワレ
大阪府大東市御領4-3-11 〒574
TEL.(0720)71-3161(代) FAX.(0720)73-6271

コルクタイル

イマコルク

株式会社ダイウレ
大阪府大東市御領4－3－11　〒574
TEL(0720)71－3161㈹　FAX(0720)73－6271

Ⅰ．はじめに

多種多様化する床材の中で、天然コルクの色と、やさしさに特殊樹脂フォームのソフト感をプラスした、ハイブリッドな商品が開発された。

クッション付きコルクタイル「イマコルク」は、従来のコルクタイルに、より高い断熱性、遮音性、弾力性、施工性をプラスした、ダイウレ独自の新建材である。

この商品は、天然嗜好の現代にマッチする新感覚をそなえた材料として、今後ホームユーズはもとより多種多様な用途への展開が期待される。

Ⅱ．特徴

1．弾力性に優れ、足の疲れが少なく、落下物の破損等を防ぐ。

2．遮音性が高く、歩行音、椅子や家具等の移動音、振動をおさえる。

日本建築総合試験所における床衝撃音レベル試験において、軽衝撃、重衝撃共にL－55をクリアーし、軽衝撃床衝撃音レベル改善量は500Hzで32dBの遮音性能を有す(デラックスタイプ8㎜)。

3．施工は水性接着剤による片面接着工法で速くて容易。
合板、プラスターボード・モルタル仕上げなどの下地に施工できる。（モルタルの場合、20日以上の乾燥、含水率15%以下にする）
又、カッターナイフで簡単にカットできる。

4．ピールアップ補助シートの働きで、補修の際きれいにはがれ、一枚毎の部分補修が容易にできる。

5．施工後の寸法安定性が高く、隙間突き上げ等しにくい。

Ⅲ．メンテナンス

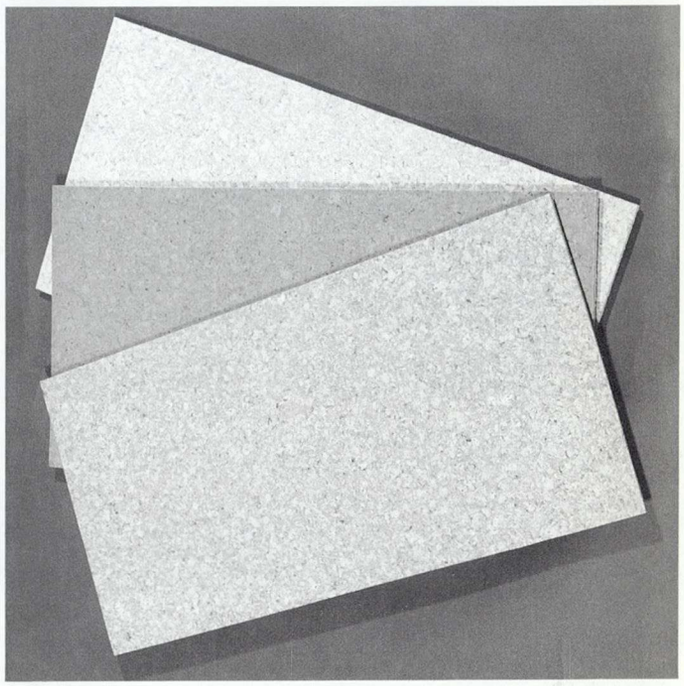
日常の手入れは、簡単なから拭きで良く、6ヵ月に一回程度樹脂ワックスを塗布するとより美しく保てる。

Ⅳ．用途

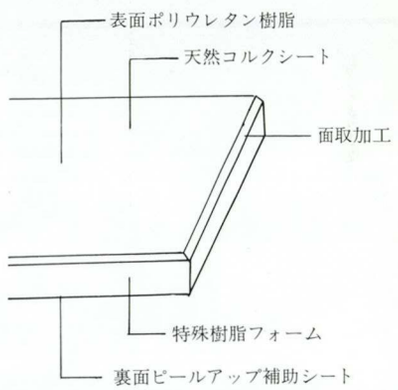
一般住宅用

戸建住宅はもとより、マンション、集合住宅のリビング・キッチン、洗面所、子供室等の床材として最適である。

西川純一／建材委員



構造

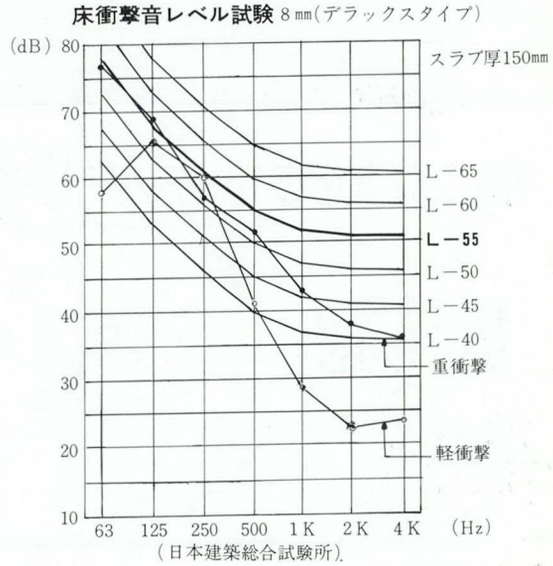


性能

項　　目	試　験　結　果
1.硬　　度 Hs(JIS A)	65－75
2.熱伝導率（kcal/mh℃）	0.027
3.加熱による長さ変化(%)（80±1℃×6hrs）	＋0.05
4.耐汚染性（しょう油・ソース・コーヒー・クレヨン赤・マジックインキ赤・マジックインキ黒）	異状なし
5.耐摩耗性(g/100回転)（A試験）	0.09
6.復元性試験	96%復元
7.浸せきはくり試験	合格
8.耐薬品性（大豆油、潤滑油、2%苛性ソーダ、5%酢酸、5%塩酸、95%エチルアルコール、セメントペースト	エチルアルコール・セメントペーストを除き変化なし

試験方法：1.ＪＩＳ Ｋ 6431　2.柴山式　3.ＪＩＳ Ａ 5705に準じる
4.当社規格　5.ＪＡＳフローリング　6.当社規格
7.当社規格　8.ＪＩＳ Ａ 5707

床衝撃音レベル試験 8㎜(デラックスタイプ)



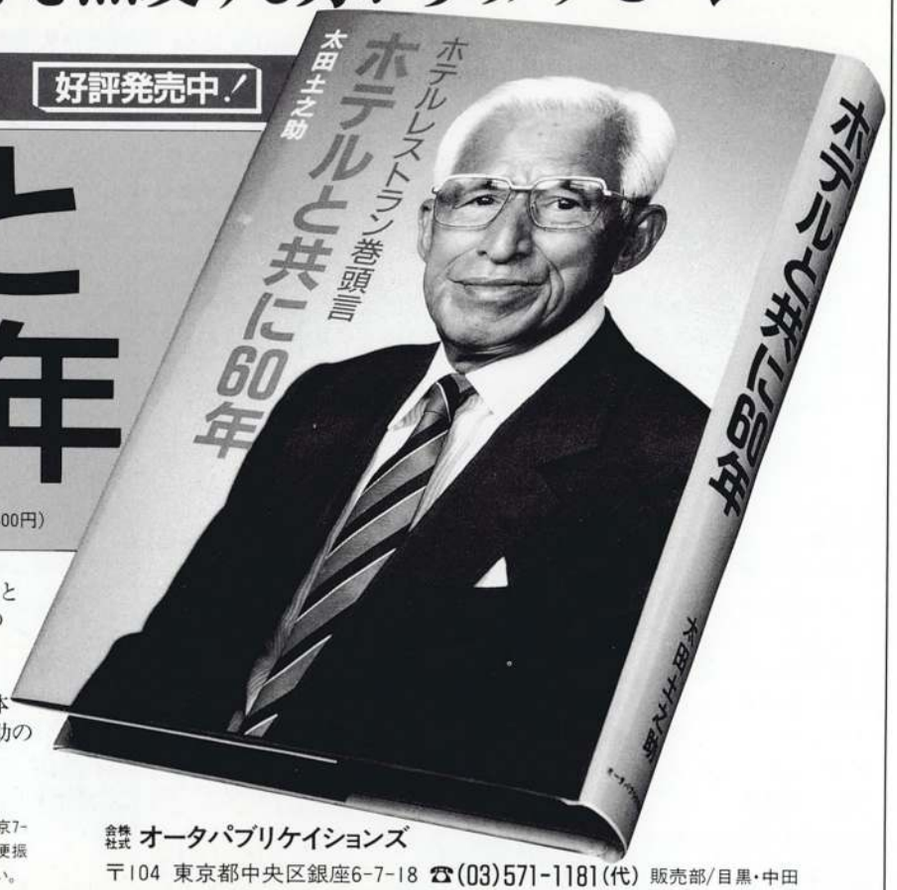
（日本建築総合試験所）

ホテル、レストラン業界を熱愛する男からのメッセージ

◎ホテルレストラン巻頭言　好評発売中！

ホテルと共に60年

太田 土之助著　定価1,800円（〒300円）



ホテルレストラン誌創刊以来、"フロム・ザ・パブリッシャー"と題し掲載してきた巻頭言のなかから抜粋した195のコラムの集大成。時にはマネジメントの真髄を、時にはサービス論について、またメニュー開発やエンターティメント論まで、ホテル・レストランにおける種々のテーマを、戦前からの現場体験や、戦後のさまざまな取材体験を通して綴った太田土之助の"もうひとつのホテル・レストラン史"。

★同書をご購入希望の方は、右記販売部まで郵便振替（口座番号:東京7-97211）にてご送金いただければ、折り返し送付申し上げます。その際、郵便振替用紙の裏面（通信欄）に「ホテルと共に60年」＿＿部希望とお書きください。

株式会社 オータパブリケイションズ
〒104 東京都中央区銀座6-7-18 ☎(03)571-1181(代) 販売部/目黒・中田

オータパブリケイションズの定期刊行物

宿泊飲食業界総合情報雑誌
週刊ホテルレストラン

海外旅行業界専門誌
TRAVEL TIMES

ホテルを核にした新しいライフスタイル誌
the HOTEL

ホテル業界総合資料
日本ホテル年鑑

世界ホテル&コンベンションディレクトリー

週刊ホテルレストラン別冊
酒のSP（セールスプロモーション）

週刊ホテルレストラン別冊
料理のSP（セールスプロモーション）

the HOTEL BAR '88（日本のホテルバー特選ガイド）

株式会社 オータパブリケイションズ　〒104 東京都中央区銀座6-7-18 ☎(03)571-1181

謹賀新年

昭和63年元旦　(50音順)

青山幸夫

株式会社 青山建築積算事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1-10-19江南ビル 電話06(443)0430
〒610-11 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6
電話075(331)8082

生島道春

社団法人 日本建築積算協会関西支部 支部長
〒542 大阪市南区鰻谷中之町62番地 市川ビル2F
電話06(245)6645

指宿真智雄

株式会社 **建築デザイン**1級建築士事務所 代表者
〒564 吹田市江坂町1丁目23番101号 大同生命ビル12F
電話06(386)1311代
〒606 京都市左京区下鴨北野々神町8—5 電話075(781)6573

浅井泰

株式会社 笠谷工務店 専務取締役
〒659 芦屋市業平町4—1 電話0797(22)0703
〒659 自宅・芦屋市翠ヶ丘町13—5 電話0797(22)5291

泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区神山町14番3号 木津信ビル
電話06(364)9071代

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社 代表取締役
〒547 大阪市平野区加美北5丁目11番12号 電話06(792)4425
FAX06(792)5837
〒547 大阪市平野区平野北2—9—15 電話06(792)4404

浅野昭夫

株式会社 浅野建築設計事務所 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区城南寺町5—35 電話06(768)0201代
〒631 自宅・奈良市西登美ヶ丘6丁目4番5号
電話0742(46)4346

礒岩武

大機建材工業株式会社 代表取締役
〒666 兵庫県川西市久代6丁目1番16号 電話0727(70)8563
〒665 自宅・宝塚市中山台2丁目18番9号
電話0797(88)3698

今西茂雄

株式会社 今西建築デザインルーム 代表取締役
〒550 仮事務所・大阪市西区北堀江1丁目13番21号
山田ビル1F
電話06(541)3051～3

淺沼茂夫

株式会社 淺沼組 取締役社長
〒543 大阪市天王寺区東高津町12番6号 電話06(768)5222
〒168 自宅・東京都杉並区下高井戸3丁目17番1号
電話03(302)1922



カサ・バトリョ外観

今西祥郎

財団法人 大阪住宅センター 理事長
〒542 大阪市南区南船場4丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4F
電話06(253)0071～3
〒591 堺市新金岡町3丁1—23—102 電話0722(51)1902

会長 **浅海正雄**
社長 **浅海伸之**
浅海電気株式会社
〒530 大阪市北区西天満3丁目7番4号 電話06(362)8701
〒665 自宅・宝塚市御殿山2丁目31番50—109号
電話0797(85)0745
〒665 自宅・宝塚市栄町2丁目10番26—712号
電話0797(81)1174

取締役会長 **今村騰**
取締役社長 **糸岡義太郎**
中央電気工業株式会社
〒530 大阪市北区太融寺町3番24号 電話06(312)8881代表

井上隆

井上窯業株式会社 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区生玉町11番28号 電話06(771)2851代
〒659 自宅・芦屋市川西町4番23号 電話0797(22)5930

市川繁雄

日本管工業株式会社 取締役社長
〒601 京都市南区西九条豊田町20 電話075(681)5101～6
〒606 自宅・京都市左京区下鴨芝本町37 電話075(781)0289

今村祐三郎

社団法人 大阪建設業協会 専務理事
事務局長
〒540 大阪市東区京橋3丁目70 電話06(941)4821

飯田精次郎

共同設計株式会社
〒530 大阪市北区西天満5丁目10番4号 電話06(364)5836
〒560 自宅・豊中市本町2丁目2番24号 電話06(852)5775

市川宏

株式会社 東畑建築事務所 取締役社長
〒541 大阪市東区伏見町5—19 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4丁目4—32
電話078(811)0216

専務取締役 **岩崎弘**
常務取締役西日本本部長 **吉竹寛**
株式会社 教育施設研究所 大阪事務所
〒550 大阪市西区立売堀1丁目13番1号 電話 06(531)0916
大信ビル 電話 06(541)7301
〒630 自宅・奈良市法蓮立花町1046-2 電話0742(22)2217
〒560 自宅・豊中市東寺内10—36 電話 06(339)3550
グリンパークハイツ304

謹賀新年

昭和63年元旦　(50音順)

上西圭治

株式会社 大気社 代表取締役会長
〒530 大阪市北区中之島3－2－18 住友中之島ビル7階
電話06(448)3603
〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12—14 電話0797(22)5949

大西孝夫

株式会社 日建設計 常務取締役 大阪統括
〒541 大阪市東区高麗橋5丁目21番地1 電話06(203)2361

数井利美

株式会社 西村建築事務所 取締役社長
〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-8 楠六パレスビル
電話078(521)0205～0207
〒654 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39—13
電話078(792)5862

植野寿雄

株式会社 寿建築積算事務所 所長
〒542 大阪市南区東清水町48つるのすビル電話06(244)1561
〒588 自宅・堺市大美野5－9 電話0722(37)1162

岡澤勇

岡澤建築設計事務所 所長
〒530 大阪事務所・大阪市北区西天満4丁目4番12号
近藤ビル6F 電話06(362)6082代表
〒567 茨木市藤の里2丁目16番6号
電話0726(43)5230・8953

亀井晃治

一級建築士事務所 株式会社 A.R.I.(あり)建築事務所 代表取締役
〒542 本社事務所・大阪市南区谷町7丁目3番4—203
新谷町第3ビル2F
電話06(768)1771代 FAX06(768)1406
〒577 アトリエ・東大阪市上石切町2—14—35
電話0743(73)6137
〒631 自宅・奈良市中町1番地の479 電話0742(43)1226

尾亀清四郎

株式会社 三晃空調 取締役会長
〒540 大阪市東区城見ツイン21MIDタワー 電話06(949)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15－4 電話0720(41)3427

岡本行善

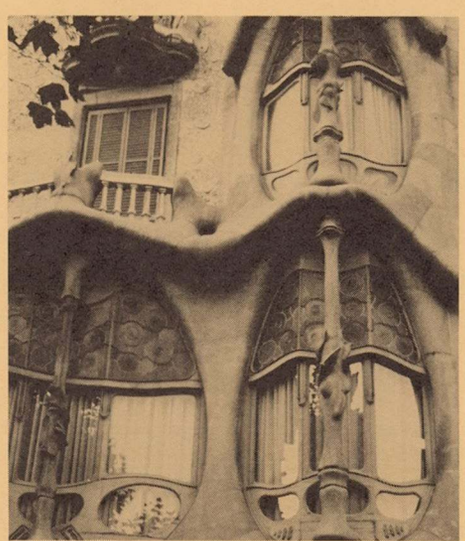
株式会社 昭和設計 代表取締役社長
〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル
電話06(532)3421代
〒659 自宅・芦屋市岩園町35—7 電話0797(31)3201

亀田六夫

株式会社 増島製作所 大阪営業所 取締役所長
〒530 大阪市北区西天満3丁目13番18号 島根ビル
電話06(364)1951
〒560 自宅・豊中市刀根山元町8－12 電話06(855)5356

尾原重信

株式会社 和光建築設計事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区北堀江2丁目9番15号 電話06(531)4488
〒532 自宅・大阪市淀川区十三東3-14-13 電話06(302)1051



カサ・バトリョのディテール

鎌谷秀男

修成建設専門学校 理事長
〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19-30 電話06 (474)1644
〒665 自宅・宝塚市千種3丁目8番23号 電話0797(72)1380

多井幸男

(オオイ)

多井建築研究所 所長
〒541 大阪市東区今橋1丁目1番地 1番館ビル
電話06(226)0008
〒657 自宅・神戸市灘区曽和町3丁目1—11
電話078(821)6133

川岸繁夫

株式会社 川岸窯業商店 代表取締役会長
〒550 大阪市西区西本町1丁目13—33 電話06(532)0461代
FAX06(535)5181
〒563 自宅・池田市天神1丁目10—10 電話 0727(61)8598

大井弘治郎

株式会社 大井建築設計事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1丁目10－8 福岡ビル
電話06(444)4521～2
〒562 自宅・箕面市百楽荘4丁目4—11 電話0727(21)4113

奥村紘行

奥村重兵衛株式会社 取締役社長
〒530 大阪市北区西天満5丁目3番7号 電話06(312)4131代
〒662 自宅・西宮市南郷町14番34号 電話0798 (71) 0011

川瀬甲子雄

扶桑管工業株式会社 代表取締役
〒616 京都市右京区太秦和泉式部町12番地 電話075(861)1157
大阪支店 電話06(304)0777 東京支店 電話03(263)0501
〒565 自宅・吹田市津雲台6－7－2 電話06(834)1734

大槻國秋

日本電設工業株式会社 大阪支店 常務取締役支店長
〒531 大阪市大淀区豊崎3丁目17—15 電話06(372)3533
〒658 自宅・神戸市東灘区西岡本6-5-23 電話078(411)1673

加藤忠三郎

株式会社 平田タイル 代表取締役会長
〒550 大阪市西区阿波座1丁目1番10号
電話06(532)1231代
〒601 自宅・京都市南区東九条北鳥丸町24電話075(691)1334

河井覚弘

河井建築事務所 所長
〒631 奈良市中山町3丁目210—25 電話0742(44)8100
(45)4378

謹賀新年

昭和63年元旦　(50音順)

河裾和夫

螢光産業株式会社　代表取締役
〒531 大阪市大淀区本庄西3丁目9番20号
電話06(371)5146代
〒560 自宅・豊中市中桜塚4丁目6-4　電話06(852)4148

鴻池藤一

株式会社鴻池組　代表取締役会長
〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地
ダイヤルイン電話06(244)3500(受付台)
〒603 自宅・京都市北区平野鳥居前町86 電話075(461)1526

堺徳吾

西日本建設業保証株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区立売堀2丁目1番2号　電話06(543)2553

木原正雄

近畿工業株式会社　専務取締役
〒540 大阪市東区谷町2—1　近鉄大手前ビル
電話06(943)5500
〒663 自宅・西宮市浜甲子園1—10—16　電話0798(41)6580

佐々木森一

株式会社佐々木建築事務所　代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1-3-22 東亜ビル 電話06(443)0675
〒617 京都府向日市上植野浄徳11—15 電話075(921)0728

笹野敦

高砂熱学工業株式会社大阪支店　取締役
大阪支店長
〒530 大阪市北区芝田1丁目4番8号北阪急ビル
電話06(372)8411

会長

木下國男

内外パーキング施設株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区江戸堀2丁目6—25—508
電話06(441)0477代
〒665 自宅・宝塚市逆瀬台6丁目15番11号 電話0797(73)3228

佐野正一

株式会社安井建築設計事務所　代表取締役社長
〒540 大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798(72)1569

四方靖郎

四方設計工務株式会社
一級建築士事務所　代表取締役社長
〒612 京都市伏見区深草関屋敷町32—2 電話075(642)9516
〒612 自宅・京都市伏見区深草関屋敷町32—2



サグラダ・ファミリア聖堂外観

名誉正会員

白石登喜男

株式会社藤木工務店　常務理事
〒540 大阪市東区両替町1丁目13番地　電話06(944)1468
〒558 自宅・大阪市住吉区墨江1—7—39　電話06(671)3792

小阪永一

大信印刷株式会社　代表取締役
〒531 大阪市大淀区大淀中4丁目13—11　電話06(451)7631
〒553 大阪市福島区福島6丁目20—10　電話06(451)5346

城口庸平

株式会社　大阪城口研究所　取締役社長
〒530 大阪市北区角田町2番15号　電話06(372)7151代

小島勝巳

有限会社小島勝巳建築事務所　代表取締役
〒541 大阪事務所・大阪市東区南本町4丁目41番地
イヨビル8階　電話06(252)8088代 FAX06(243)0640
〒103 東京事務所・東京都中央区日本橋本町4—15—10
山本ビル7階　電話03(661)0768代 FAX03(661)0769
〒166 自宅・東京都杉並区成田西1丁目16—17
電話03(315)5435

斉藤國義

株式会社斉藤工業所　代表取締役
〒557 大阪市西成区岸里2丁目6番5号　電話06(661)3325代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東1丁目21番3号
電話06(652)0208

須賀好富

近畿大学理工学部建築学科　助教授
〒577 東大阪市小若江3—4—1　電話06(721)2332
内線4519
〒577 自宅・東大阪市小阪3—4—B911
電話06(789)8114

取締役会長　**小西岬**
取締役社長　**橋本正章**

株式会社小西設計
〒550 大阪市西区立売堀1丁目12—16　電話06(532)4051

小林清

株式会社新住宅社　代表取締役
〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号　電話06(443)6641代
FAX06(443)6642
〒545 自宅・大阪市阿倍野区北畠3丁目1番7号
電話06(654)0584

雑賀幸夫

株式会社大阪雑賀建築事務所　代表取締役
〒543 大阪市天王寺区上本町8丁目3番23号
電話06(772)4426・4436
〒573 自宅・枚方市香里ヶ丘7丁目11-16 電話0720(54)0004

菅谷節

ダイダン株式会社　代表取締役社長
〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話06(441)8231
〒158 自宅・東京都世田谷区等々力6丁目3番18号
電話03(703)1027

謹賀新年

昭和63年元旦

(50音順)

鈴木隆二

株式会社 鈴木隆二設計事務所 代表取締役
〒460 名古屋市中区松原1丁目17—6
電話052(321)1763・6720
〒463 自宅・名古屋市守山区小幡池下73 電話052(792)3505

知見義夫

〒601 自宅・京都市南区西九条春日町48 電話075(691)3860

傳馬正明

ムツミ産業株式会社 代表取締役
〒550 大阪市西区靱本町1丁目17番15号
電話06(441)0378大代
〒558 自宅・大阪市住吉区長居東3丁目14番22—515
電話06(699)5326

田中忠明

大阪エスピー紙工株式会社 代表取締役社長
〒540 大阪市東区玉造2丁目25番20号 電話06(765)5650

名誉会長

塚本猛次

株式会社 日建設計 最高顧問
〒541 大阪市東区高麗橋5丁目21番地1 電話06(203)2361
〒665 自宅・宝塚市清荒神2—6—27 電話0797(87)1940

名誉会長・名誉正会員

東畑謙三

株式会社 東畑建築事務所 取締役会長
〒541 大阪市東区伏見町5—19 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4-4-35 電話078(851)5043

田中優

株式会社 ユソニアン一級建築設計事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区天神橋2-5-25 若杉グランドビル10F
電話06(354)2781〜4
〒536 大阪市城東区成育4丁目20番2号 電話06(931)8857

辻本豊

株式会社 ツジモトユタカ設計事務所 代表取締役
〒640 和歌山市東長町中の丁12—3 電話0734(26)2030代
〒640 自宅・和歌山市東長町中の丁12-3電話0734(26)2030代

徳岡昌克

徳岡昌克建築設計事務所 所長
〒530 大阪市北区西天満6丁目3番11—205号 電話06(314)1688
〒661 尼崎市次屋3丁目6番60号 電話06(499)0701
〒813 福岡市東区千早2丁目3番41-305号 電話092(682)5301
〒532 自宅・大阪市淀川区新高6丁目6番18号 電話06(391)1438

田村真二

株式会社 竹中工務店 常務取締役
〒541 大阪市東区本町4—27 電話06(252)1201
〒663 西宮市浜甲子園2丁目5—19 電話0798(41)4300



サグラダ・ファミリア聖堂を中よりみる

内藤正克

株式会社 内藤建築設計事務所 代表取締役会長
〒675-13 兵庫県小野市上本町240 小野ビル 電話07946(2)4757代
〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063 電話07946(2)4668

取締役会長 高橋慶夫
取締役社長 上田宏二

株式会社 高橋上田設計事務所
〒550 本社・大阪市西区新町1—4—21 大幸ビル
電話06(533)0971〜3
〒113 東京事務所・東京都文京区本郷3-5-4
朝日中山ビル5F 電話03(818)5173

中原英雄

株式会社 創美設計 代表取締役
〒530 大阪市北区末広町3番21号 星和地所扇町ビル
電話06(312)3587代
〒565 吹田市桃山台4丁目3番1—808

橘泰治

東邦パーライト株式会社 取締役社長
〒540 大阪市東区森ノ宮中央2丁目7番15号 電話06(941)9445〜9
〒590-01 自宅・堺市若松台3丁26番3号 電話0722(91)2267

津村芳仁

オリエンタルメタル製造株式会社 代表取締役社長
〒660 尼崎市昭和南通3丁目26番地 電話06(412)5131代
〒330 自宅・埼玉県大宮市高鼻町3丁目58番地
電話0486(41)0204

長澤孝行

日本住宅パネル工業協同組合大阪支所 支所長
〒530 大阪市北区西天満5丁目6番10号 富田町パークビル
電話06(313)3321
〒598 自宅・大阪府泉佐野市佐野台20-52 電話0724(63)1260

立野一郎

株式会社 ユニオン 代表取締役
〒550 大阪市西区南堀江2丁目13番22号
電話06(532)3731代

寺嶋繁久

株式会社 Sim建築事務所 代表取締役
〒604 京都市中京区東洞院通蛸薬師下ル
エステートビル402 電話075(256)3993
〒616 自宅・京都市右京区嵯峨鳥居本化野町12-45
電話075(871)3921

西村昭三

大鉄工業株式会社 取締役社長
〒532 大阪市淀川区宮原4丁目4番44号
電話06(394)1281
〒663 自宅・西宮市上甲子園1丁目6-27-202
電話0798(41)3082

謹賀新年

昭和63年元旦　　(50音順)

蜷川守男

大阪装飾株式会社　代表取締役社長
〒550 大阪市西区京町堀1丁目13番24号　電話 06(444)1410
〒665 自宅・兵庫県宝塚市社町3番10号　電話0797(72)6045

野村文英

野村建設工業株式会社　取締役社長
〒541 大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話06(202)4791代

名誉正会員
浜口幹三郎

株式会社 淺沼組 社友
〒543 大阪市天王寺区東高津町12番6号　電話06(768)5222
〒631 自宅・奈良市二名町南登美ヶ丘3336—7
電話0742(43)1091

林唯夫

株式会社 昭和設計　代表取締役副社長
〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号　四ッ橋ビル
電話06(532)3421
〒565 自宅・吹田市青山台3丁目41—11　電話06(872)3608

原精一

コーナン建設株式会社　代表取締役
〒532 大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号
電話06(308)1551大代
〒662 自宅・西宮市名次町12番9号　電話0798(72)1504

伴一郎

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長
〒531 大阪市大淀区中津六丁目8番4号 電話 06(458)3628
〒563 自宅・池田市石橋3—11—14　電話0727(61)8652

福永薫

株式会社　建設技術センター　代表取締役
〒532 大阪市淀川区西中島5丁目7番17—602号
電話06(304)1148代
〒542 自宅・大阪市南区南船場4丁目7—3
電話06(252)8626

藤木鐵三

株式会社 藤木工務店 取締役社長
〒540 大阪市東区両替町1丁目13番地　電話06(944)1468代

堀亀久治

三機工業株式会社大阪支店　取締役支店長
〒541 大阪市東区北浜2丁目22番地　電話06(202)3071
〒664 伊丹市北本町1-110-1 伊丹パークホームズ
電話0727(75)3095

堀内史郎

第一工業株式会社大阪支店　常務取締役支店長
〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号　電話06(364)6661代
〒573 自宅・大阪府枚方市朝日丘町12-18 電話0720(41)5396



グエル公園の門衛館

前田平一郎

ゼネラル事務機株式会社 社長
〒550 大阪市西区靱本町3丁目2番7号 第1横井ビル
電話06(441)1462代
〒560 自宅・豊中市上野東1丁目16—21　電話06(849)5764

前田敏男

財団法人　日本建築総合試験所　理事長
〒565 本所・吹田市藤白台5—8—1
電話06(872) 0391
〒531 大淀分室・大阪市大淀区長柄西2—1—18
電話06(351)7217
〒592 堺分室・堺市浜寺石津町西2—1—34
電話0722(44)3912
〒612 京都分室・京都市伏見区中島前山町24—2
電話075(622)0713
〒675-01 加古川分室・加古川市別府町新野辺字畑下1311-3
電話0794(35)5811

松田恒彦

株式会社 ART建築設計事務所　代表取締役所長
〒530 大阪市北区東天満2丁目3—10 トップス天満ビル
電話06(357)5351代
〒546 大阪市東住吉区西今川2丁8—7　電話06(702)6738

松原満佐子

有限会社 柳々堂　代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1—12—3　電話06(443)0167—8
営業所：鴻池ビル1階　電話06(251)8233

松本重太郎

松本金物株式会社　取締役社長
〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目5番47号
電話06 (774)2200
受付案内台

名誉正会員
松本与作

建築家 第一生命保険相互会社 顧問技師
〒145 自宅・東京都大田区田園調布3-17-3 電話03(721)4723

三品哲夫

財団法人　大阪市建築技術協会　理事長
〒541 大阪市東区大川町27番地 住友生命淀屋橋ビル4階
電話06(208)8144
〒560 自宅・豊中市上野東1-10-45-205　電話06(848)9067

三谷忠義

株式会社 三谷設計　代表取締役
〒694 島根県大田市久手町波根西777の1
電話08548(2)8121代
〒694 自宅・島根県大田市久手町波根西225の2
電話08548(5)8320

三富和

東海興業株式会社 大阪支店　常務取締役 支店長
〒530 大阪市北区堂島浜2-2-8 東洋紡ビル 電話06(348)5602

謹賀新年

昭和63年元旦　(50音順)

三輪泰司

株式会社 地域計画・建築研究所　代表取締役所長

〒600 京都市下京区四条通高倉西入ル立売西町82番地
大和銀行京都ビル　電話075(221)5132代
〒540 大阪市東区石町1丁目1番地 天満橋千代田ビル2号館
電話06(942)5732
〒460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 ツボウチビル
電話052(962)1224
〒612 自宅・京都市伏見区桃山南大島町95—45
電話075(601)3962

両角保

浦安工業株式会社　専務取締役 大阪支店長

〒130 本社・東京都墨田区錦糸2丁目8—7 電話03(624)2441
〒530 大阪支店・大阪市北区天満2丁目3—5
電話06(351)7502代

山内恒男

株式会社 石本建築事務所　大阪支所長

〒542 大阪支所・大阪市南区島之内1—20—19 白水ビル
電話06(251)7507
〒102 本社・東京都千代田区九段南4-6-12 電話03(262)7161
札幌・名古屋・九州・仙台・横浜

薬袋公明

株式会社 日建設計　取締役社長

〒541 大阪市東区高麗橋5丁目21番地1　電話06(203)2361

森淳

三和電気土木工事株式会社　取締役社長

〒530 大阪市北区南森町1丁目4番19号　電話06(361)6451代
〒596 自宅・大阪府岸和田市別所町2丁目3番5号
電話0724(22)7710

山田恒治

株式会社 山田工務店　取締役社長

〒651 神戸市中央区雲井通4丁目1番3号
電話078(232)1800代
〒651-11 自宅・神戸市北区泉台4丁目9番12号
電話078(592)5902

水間義雄

株式会社 水間組　代表取締役社長

〒534 大阪市都島区東野田町1丁目1番4号
電話06(352)3121代
〒538 自宅・大阪市鶴見区今津南4-10-15　電話06(961)0785

八木喜美蔵

八木惣株式会社　代表取締役社長

〒593 堺市津久野町3丁28番10号 電話0722(62)3838代
〒593 自宅・堺市津久野町3丁28番10号　電話0722(62)0722



グエル公園の待合い館

山田保

株式会社 山田保建築設計事務所 代表取締役

〒733 広島市中区本川町2丁目6番11号第7ウエノヤビル2階
電話082(292)8211代
〒733 自宅・広島市西区己斐東2丁目12番27号
電話082(271)0690

宮後浩

株式会社 コラムデザインセンター
株式会社 大阪パースアカデミー　代表取締役

〒542 大阪市南区南船場4—13—15 コラムビル
電話06(245)4631
〒546 自宅・大阪市東住吉区山坂5—19—24—704
電話06(607)7571

山本貴士

朝陽電気株式会社　代表取締役

〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06(385)1361代
朝日ビルディング内
〒565 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号
電話06(871)0851

村石全

浪速合板株式会社　代表取締役社長

〒556 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06(568)3671
〒659 自宅・芦屋市岩園町25番15号　電話0797(34)0835

米倉豊夫

日本住宅パネル工業協同組合　理事長

〒113 東京都文京区本駒込6丁目15番7号
電話03(945)2311大代

室谷山水

室谷商事株式会社　取締役会長

〒650 神戸市中央区三宮町3丁目7-6 神戸フクトクビル
電話078(331)0881
〒650 自宅・神戸市中央区山本通4丁目17—17
電話078(221)5050

八十島健二

株式会社 竹中工務店　取締役副社長

〒541 大阪市東区本町4—27　電話06(252)1201
〒663 自宅・西宮市甲子園二番町5—30　電話0798(41)0598

和田眞一

株式会社 東和組　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満4丁目5番14号　電話06(363)4051
〒659 自宅・芦屋市公光町3番8号　電話0797(22)3282

毛利哲三

松尾橋梁株式会社　取締役社長

〒551 大阪市大正区鶴町3丁目4番18号
電話06(552)1551代表

取締役会長 簸本弦三
代表取締役社長 曽我部輝雄

株式会社 笹川組　取締役社長

〒520 大津市打出浜13—15　電話0775(23)2314
〒520-21 自宅・大津市一里山5—9—11　電話0775(45)3966

和中勝

株式会社 和中商店　取締役会長

〒531 大阪市大淀区豊崎5丁目8番11号　電話06(371)0731—5
〒150 東京都渋谷区桜丘町11—5　電話03(464)9723
〒453 名古屋市中村区黄金通3丁目34番地
電話052(481)7338
〒659 自宅・芦屋市楠町16—18 芦屋フラッツ201
電話0797(31)7950

謹賀新年

昭和63年元旦

(50音順)

渡辺健一

株式会社 曽根組 代表取締役

〒676 本社・兵庫県高砂市曽根町2257の1
電話0794(47)1551代

〒541 大阪支店・大阪市東区伏見町2丁目15 ホンダビル
電話06(203)4415代

〒650 神戸支店・神戸市中央区北長狭通4丁目 高橋ビル
電話078(321)3471代

渡辺恵

東洋シヤッター株式会社 取締役相談役

〒540 大阪市東区両替町1—12 日本生命谷町ビル
電話06(943)6571代

〒560 自宅・豊中市緑丘3丁目21番8号 電話06(856)0983

渡部慶一

株式会社 松田平田坂本設計事務所 大阪事務所 所長

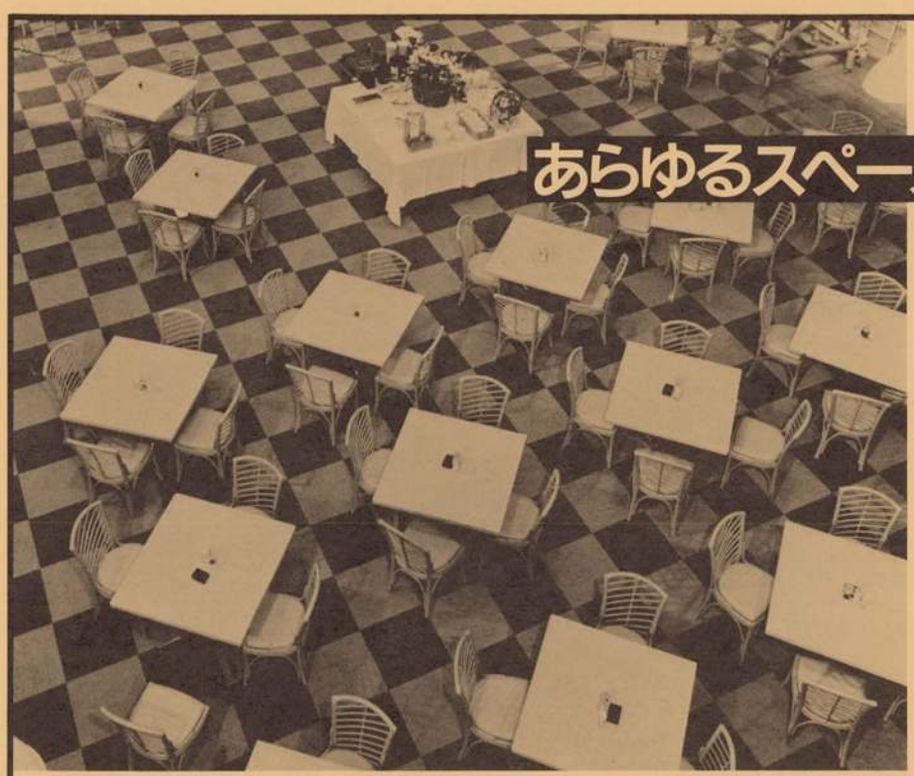
〒530 大阪市北区堂島2—2—25 電話06(344)7821

〒530 自宅・大阪市北区中之島5—3—92
ルイシャトレ中之島622号 電話06(448)5645

事務局一同

社団法人 日本建築協会





TAJIMA

あらゆるスペースで、発揮する性能。

個性豊かに揃った4タイプ、12種類。

スペースが異なれば、そこに求められる床の条件も異なります。オフィスなど機能や居住性を優先するスペース、ホテルや店舗など高級感やイメージを大切にするスペース。タジマセンイ床タイルは、そうしたスペースごとに異なる用途に、4つのタイプの製品群でお応えします。美しさにプラスしたさまざまな性能が、あらゆるスペースで発揮されます。
目的にあわせて、機能にあわせて、お選びいただけるタイルカーペットの実力派です。

タジマのセンイ床タイルシリーズ

●高級仕様のカットパイルタイプ
タピスSX タピスSXプリント ビショップ

●汎用性に富むループパイルタイプ
タピス タピスセレクト タピスFG ルーク プレーヌ

●特殊機能をもつ、スペシャルタイプ
タピスOA エレキャン プローチェ

●高歩行に耐える、ヘアータイプ
クラブ

床を創る
株式会社タジマ
東京●〒101東京都千代田区岩本町3-11-13
TEL03(866)6101代表
大阪●〒550大阪市西区京町堀1-10-5
TEL06(441)5951代表

「建築と社会」誌20年●特集一覧 ――――――昭和42年～62年

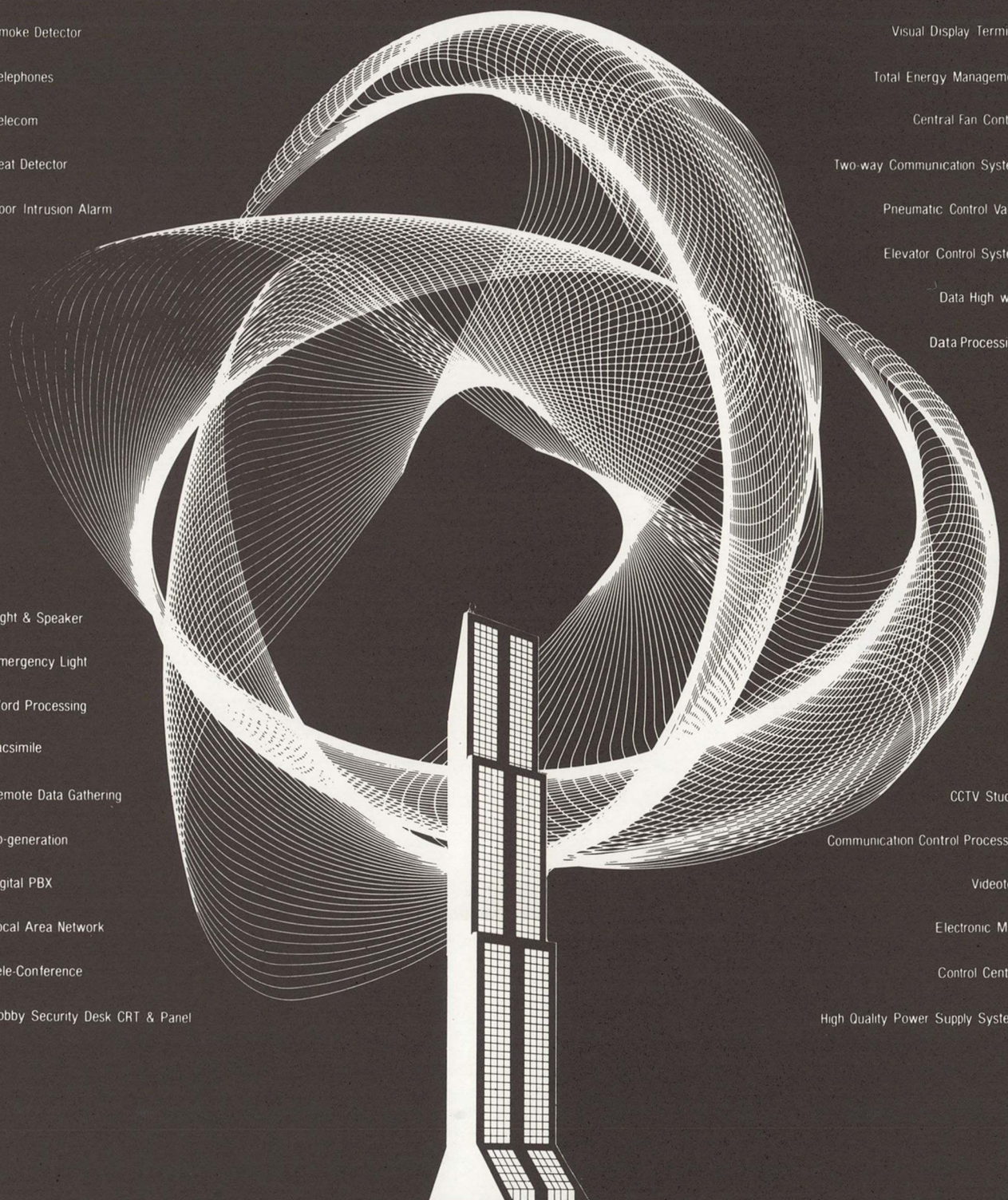
「建築と社会」誌は、昭和42年から大型化しＡ４変形判となった。特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。（58年４月号以降定価950円）購読希望者は事務局（06-348-0635）へ。

＊印は欠号

巻＼号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和42年（48集）	＊国立劇場	＊建設機械	＊日本建築協会50周年記念号	＊社会と建築	都市と流通空間	住宅と設備	生産施設	モントリオール万博	建設資金	最近の外装	第14回青年建築家	建築と生命
昭和43年（49集）	都市生活	＊都市のいこいの場	＊50周年記念事業記録号	＊幼児施設	＊教育施設	＊医療施設	＊都市交通施設	都市供給処理施設	＊群としての住居	都市のアクセサリー	第15回青年技術者	＊新都市計画法の諸問題
昭和44年（50集）	＊建築産業の構造と方向	鉄筋コンクリート構造耐震設計の再検討	計画と住民―中部からの報告	＊老人とすまい	＊建築史の方向―現代によみがえる過去―	＊建築行政に期待するもの	転換しつつある住宅生産	＊解決をせまられる公害問題	＊海洋開発	＊民家の系譜と保存計画	＊第16回青年技術者	＊九州からの報告
昭和45年（51集）	現代社会とは何か	建築と安全	日本万国博と技術開発	＊設計のシステム化	＊グッドデザイン運動	高層建築問題	欧米における契約	建築家の課題と責任	＊工事計画	ディベロッパー	第17回青年技術者	＊山陽・山陰からの報告
昭和46年（52集）	住宅―60年代の総括と70年代の展望	都市エネルギーと無公害化ビル	＊建築基準法	＊都市生活とみどり	＊企画と設計のプロセス	解体工学	都市と港湾	＊転換期のニュータウン	＊軟弱地盤と震災	変貌する建築生産	第18回青年技術者	＊自然とレジャ空間
昭和47年（53集）	冬期オリンピックと札幌	600号記念号	インテリアデザイン	＊都市交通問題	＊水利用	量産住宅の設備	＊一般号（桂中学）		＊都市住環境へのアプローチ	＊都市防災	第19回青年技術者	北陸の新建築
昭和48年（54集）	建築教育	＊泉北ニュータウンのコミュニティ施設	＊大阪大林ビルディング	レジャーと施設	＊大阪国際ビルディング	＊老人コミュニティ	住宅―建築家のすまい	＊新用途地域制と環境	構造と施工	仕上と材料	第20回青年技術者	＊ヨーロッパのまちづくり
昭和49年（55集）	歴史的環境保全	明日の建築はどうなるか	保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギ化	高層プレハブ住宅の構造設計	＊みどり	＊屋根防水工事の失敗例とその対策	第21回青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年（56集）	図書館	＊東海の新建築	＊インテリア	ＰＣ板を使用した工業化住宅	＊社会・建築・法	＊都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	＊人間環境のターミナル	騒音対策と防音材料	第22回青年技術者	＊集合住宅の設備
昭和51年（57集）	証言'76―建築デザインの動向	＊建築基礎構造の問題点	医療施設	＊床工法と材料	＊建築防災と法	＊市街地整備	工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	集住体のハードとソフト	＊結露防止対策と断熱材料	第23回青年技術者	設備からみた建築の問題点
昭和52年（58集）	＊デザインの動向―部分と全体	兵庫県―その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	＊日影規制と法	＊身障者施設	照明設備	埋立地における構造問題―大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	第24回青年技術者
昭和53年（59集）	デザインの動向―新旧のコントラスト	＊水	医療施設―病院建築と情報システム	外壁塗装材料	＊電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	ＣＡＤ―設計とコンピュータ	＊一般号	第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年（60集）	＊転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	＊日影規制	ホテル建築と情報システム	農村施設の変貌	建物の終局強度の検討	庄内のまちづくり	80年代のインテリア	第26回青年技術者	建設業の労務事情
昭和55年（61集）	80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望	＊●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	＊●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性	建築行政と法規	最近の防水工法	都市景観とアメニティ	屋内体育施設の設備	水ぎわのまちづくり	今後の外装吹付仕上材	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	設計のための新耐震設計法
昭和56年（62集）	職能論	中国の論文―北京の都市計画	＊ポートピア'81	台所まわりの計画と設備	シーリング材の知識	災害と法―安全な環境をめざして	都市住宅―住まい手からの発想	●建築物と風―デザイナーのために ●日建設計作品集	住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割	間仕切壁の性能評価	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年（63集）	新たな商業空間の展開	省エネルギーと開口部	医療施設―地域医療と設備計画	近畿の地盤と地質	都市景観―まちなみ美観への誘い	大阪市庁舎（第１期）	音とホール建築	大スパン構造	昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築	風土・空気と人間
昭和58年（64集）	＊関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	＊多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考える	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト(鉄筋)コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音
昭和59年（65集）	21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う――	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュー内外装補修技術の現状と発展―	建設産業とロボット開発	住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル（アバンティ）	消防設備のポイント	みどりとそれをとりまく人々	高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	光応用システムと建築
昭和60年（66集）	大阪湾物語	東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情	ホール―それが生みだす文化―	建物の表情―最近の外壁材料	大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	都市と健康スポーツ	●接合 ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●東海特集	第32回青年技術者
昭和61年（67集）	これからの住空間―都市型集合住宅にみる	屋根―そのデザインと素材	●現代デザインーポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	インテリジェントビル・の建築・設備計画	自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎	21世紀の住居と設備	●開発 ●ツイン21	ＣＡＤ―その応用と展開	オフィス空間の構成	第33回青年技術者	インテリア・イクステンションとリニューアル
昭和62年（68集）	入浴物語	腐食	創立70周年記念号	躍動する東海へ	保管・貯蔵施設	室内の仕上床	駅	行政建築家の可能性	シティホテルの設備	宝塚の街づくり	建物と街並みの接点―建物の外構―	第34回青年技術者

知能と感性のオフィス・情報世紀への離陸!!

ビルをインテリジェント化する近電エトータル ファシリティ システム



Smoke Detector
Telephones
Telecom
Heat Detector
Door Intrusion Alarm
Light & Speaker
Emergency Light
Word Processing
Facsimile
Remote Data Gathering
Co-generation
Digital PBX
Local Area Network
Tele-Conference
Lobby Security Desk CRT & Panel

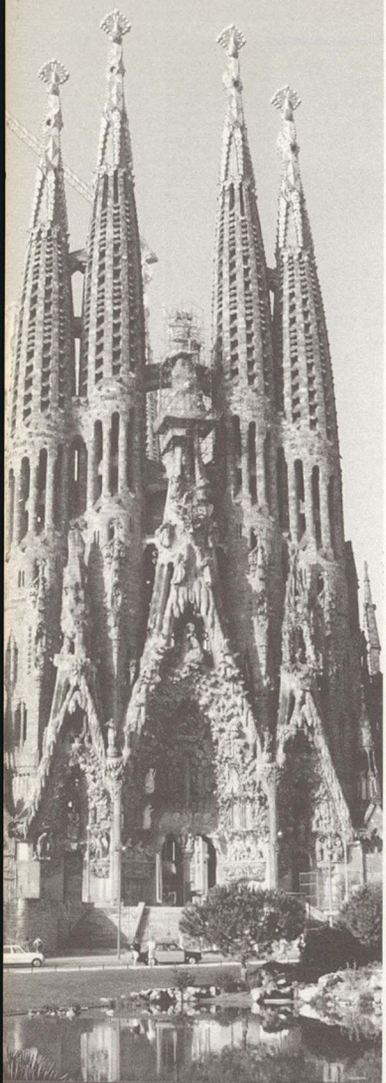
Visual Display Terminal
Total Energy Management
Central Fan Control
Two-way Communication System
Pneumatic Control Valve
Elevator Control System
Data High way
Data Processing
CCTV Studio
Communication Control Processor
Videotex
Electronic Mail
Control Center
High Quality Power Supply System

エネルギー・情報・環境　設備総合エンジニアリング

近電工

近畿電氣工事株式會社

大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号 〒531 ☎06・375・6000



建築の眼

川崎 清
京都大学工学部教授

原田明治
大阪府建築部技監

出江寛
出江寛建築事務所

松谷輝雄
鴻池組設計部長

正月号から6月号まで上記の4氏が担当

モダンとポストモダン

今から150年ほど前、産業革命によって、鉄とガラスによる建築がはやり出した。1851年の万国博に建てられたロンドンのクリスタルパレスを皮切りにその後、特にパリの万国博で何回も鉄とガラスが使われ、急速にモダニズムが進行した。50年ほど立った20世紀の前後、危惧を抱いた人達によって、アールヌーボーやアールデコなどの反動が興った。ウイーンもハブスブルグ家の崩壊と共にリングシュトラーセを中心とする都市の近代化が行われたが、進み過ぎた近代化に歯止めをかけたのがワーグナーの分離派やクリムトなどのアールヌーボー派であった。彼等は根強く残っている様式主義と進み過ぎた近代主義の両面と斗った。第2次大戦後、復興と貧困から立ち直るために再びモダニズムが進行し、それによって経済的な豊さと生活に便利な都市化を達成することができた。戦後40年ほど経った現在、ポストモダンという反動が現われた状況は、20世紀の初頭と類似していると言えなくもない。しかしどうも皮相的で独善的な建築家の言動が横行している様である。先日京都の歴史都市会議で、参加者の一人が「モダニズムは社会科学を達成した。ポストモダンは哲学を基礎に考えるべき時代の到来を意味しているのではないか」と。この意味をじっくり考えて見たいものである。（K.K）

街なみ景観

近年、市街地において「総合設計制度」を活用した建築物が目立つようになってきた。その結果、公開空地が確保され、緑が人々の目を楽しませてくれる。アメニティーを高めるうえでも結構なことだ。又、建築基準法の一部改正では、建築物の街路からのセットバックを積極的に評価して、斜線制限の緩和がはかられた。街路空間と建築敷地の外部空間が一体となった解放空間は、魅力ある街なみを形成するうえで、重要な手がかり空間である。

これらの一連のうごきは、従来の仕様書型の建築基準法ではみられない、建築の敷地内での配置や形態、オープンスペースの位置・形状といった計画面の自由度が、飛躍的に増したといえよう。このことは反面、建築物の本来の個性化と建築物が街なみを構成するといった連続性、社会性との調和がより一層問われ、建築に携わるプランナーの社会的な責任や役割は、今まで以上に大きなものとなってきたといえる。「自由」には「自己規制」が伴ない、案外「不自由」なのかも知れない。同時に、自治体は、街なみ美観をどうとらえて誘導していくか、真剣に取組む時期にきている。（A.H）

庭

家と庭と書いて「家庭」という。良い家庭とはいい庭があってこそ、そういえるのかもしれない。なぜなら庭は人間にとって、最も身近な自然であり、特に都会に住む者にとっては自然との心の交流の場であって、情操性の育くまれるところなのである。ところが近頃、土地が我々庶民には到底手の届かない高嶺の花となってしまい、土地付庭付の家などとても望むことはできなくなった。かつての家のように四季折々に美しい花が咲き、小鳥や蝶が舞う庭などよほどの金持ちでなければもてない時代になってしまった。このような状況の中で我々はいつしか次第にドライになり、エコノミックアニマルと呼ばれる情操性のない人間になりつつあるのではないだろうか。今こそかつて「庭」が我々に与えてくれた情操性を現代建築の中に取り込むことが重要といえる。余りにも高価な土地に庭を作れないとすれば、この庭に代わるべきもの、すなわち情操性を考えれば良い。それを住宅のインテリアや外観のデザインに求めれば良いのであるが、密集した住宅地やマンションでは、特にインテリアにその情操性を求めていきたい。それにはわが国において千利休が茶室のなかで第二の自然を見せたように、現代建築の中にこの心と手法を持ち込めば良いのではないだろうか。第二の自然とは、心とは、手法とは—。それはまたの機会に。（K.I）

大地震と予知と心がまえ

マグニチュード8クラス、震度6以上の最大級の地震が東海地方でいつ起きてもおかしくない状態にあるという。関東地震・東海地震の切迫を背景に『大規模地震対策特別処置法』が法制化（1978.12施行）され大地震発生の予知を含めて、発生した時の被害を最小限にくい止めるべく対策が講じられている。現在地震予知は本当に可能なのだろうか。政府を中心にして地震予知に真剣に取りくんでいるし、一市民としては地震予知が成功することを願いたい。しかし、予知が成功するとして、予知としての報道から地震の発生までの時間はどのくらいの余裕が持てるのだろう。余裕がないと地震直後の正確な情報が把握出来ないことなどからパニックなどの社会的混乱を引き起こす事が心配である。事実、関東大地震の際の最大の人的被害は地震後の火炎とパニック的に群集となった無秩序の避難にあったといわれている。そこで、地震の際にベストの行動をするために、イメージトレーニングを竹内均氏（物理学者）が勧めておられたので紹介したい。日ごろから常に置かれた状態で、今地震があったらどうすれば良いか、どの様な行動をとるべきか、を考える習慣をつけておくとよいというものである。（T.M）

特集●ホテル物語

きらめく陽光に映えて新しい年が明けました。
昨年は〝国際居住年〟ということで数多くの
都市居住についての動きがありました。
蠢めき移りゆく都市の生きざまは
その中の生活空間のいでたちをも変容させてゆきます。
とりわけ〝ホテル〟は都市居住の魅力を
非日常性と日常性の交錯する中で
演出する舞台の一つであるといえます。
〝ホテル〟はもはや単なる宿泊施設ではなく、
〝ホテル〟そのものが〝街〟そのものであり、
より多くの機能を多様なユーザーのニーズに応え、
あるいはニーズを開発すべく変化してきています。
言い換えれば〝ホテル〟は都市居住空間の縮図ともいえます。
そして近年全国レベルでのホテル建設の動きがあります。
その中で都市・建築・インテリアのデザインレベルで新しい
試みもなされているようです。
僕たちはこのような背景をふまえ、これからの〝ホテル〟
とくにシティホテルを中心にその行方を探ってみる
ことにしました。
さあ、これからの〝ホテル物語〟の始まりです。

（編集幹事　田中直人）

ホテル今昔物語

太田土之助



ウォルドルフ・アストリアホテルにて—
左は天皇陛下、その右が通訳の外務省参与・真崎秀樹氏、右端はウォルドルフ・アストリアホテル支配人のF. G. WANGMAN氏

ホテルはその都市の顔である。

パリといえば、コンコルド広場の「HÔTEL DE CRILLON」。天皇陛下もお泊まりになったことがあり、パリがドイツに占領されたときのドイツ軍指令官の宿舎にもなった。そこから真裏のフォーブルサントノーレの大統領官邸のそばにある「LE BRISTOL HÔTEL」、これはパリのホテルの中で唯一洒落た室内プールがある。そこからルーブルの方へ歩いて行くこと5分。パリの名所となっているバンドーム広場に城を思わせる「RITZ HÔTEL」、フランスの香水王、マダムシャネルの有名なロマンスがそこにあり、またパリが連合軍に解放されたとき従軍記者であったアーネスト・ヘミングウェイがパリに入って真っ先に駆けつけたのが、このRITZのバーであった。また、シャンゼリゼに近いジョルジュサンク通りにある「HÔTEL GEORGE V」は、ハリウッドのスターの宿舎としてあまりにも有名である。

ロンドンに行けば、なんといってもアメリカの歴代大統領がかならず宿泊するブリックスストリートの「CLARIDGE'S HOTEL」である。1919年(大正4年)、故国を離れ、言語に絶するロンドンの孤独と戦いながら、29歳の日本の青年がホテルで最も危険な仕事といわれる高い窓ガラスを磨いていた。この人こそ、日本のホテルの基礎を作った元帝国ホテル社長、今は亡き犬丸徹三氏であった。

また、カルロスプレスにある「THE CONNAUGHT」、そしてストランド通りの「THE SAVOY」、隣にはローストビーフ専門店で有名な「シンプソン」など、まずこれらがロンドンの顔であろう。

さて、アメリカへ行けば、なんといってもこの国のシンボルにもなっている、ご存知の「THE WALDORF-ASTORIA」がある。アスターと彼のいとこのジョン・ヤコブ・アスター4世が、5番街と33番街につづいた彼らの所有地に、1893年3月、この13階建ての贅沢なホテルを建てたものである。そしてフランス人のシェフをはじめ、ヨーロッパの一流のホテルマンを呼んで人気を博し、ニューヨーク社交界の中心でもあった。

しかし1928年、このアメリカ最初の豪華ホテルは取り壊されオフィスビルにすると発表された。今でも有名なエンパイヤステートビルが世界一を目指してそこに建築されることになり、ウォルドルフ・アストリアホテルはこれで一巻の終わりになるやと思われたが、この発表がすんでわずか1ヵ月後、ニューヨーク・セントラル鉄道会社およびニューヨーク・ニューヘーブン・アンド・ハートフォード鉄道会社を中心に、銀行、金融業者21社が700万ドルを投資して、現在のパークアベニューそしてレキシントンアベニューに跨がるワ

CRILLONの夜景



CRILLONのロビー



CRILLONのロビー



ンブロックの広大な敷地に、世界一の超豪華ホテル、新ウォルドルフの再建を決定した。

その翌日は、1929年の歴史的なパニックの始まり、あの有名な「不吉な火曜日（ブラック・チューズディ）」が起こった。しかし、ウォルドルフの再建には何ひとつ影響しなかった。現在アメリカは世界一の債務国であるが、このときは〝アメリカの時代が到来した〟という風潮が世界中にあった。リンドバーグのニューヨーク～パリ間の大西洋無着陸飛行、そしてホームラン王ベーブルース、ボクシング界では世界的人気のジャック・デンプシーがジェーン・タニーを倒し、そしてハリウッドの映画産業の世界的発展など、アメリカは世界一を目指すような〝意気〟に燃えていた。

そして、ドアのノブ、バスルーム、ワードローブ、すべてのリネン類、食器、グラス、要するに世界一を目指すホテルにふさわしい贅沢な備品が特注された。たとえば、スペインのある芸術家のごときは、一枚の壁画を描いただけで一生食べていかれるだけの報酬を得た。

1931年10月１日、オープンの日には、２万５千人の人々が招かれ、その豪華さに驚いた。時の大統領ハーバート・フーバーは「このホテルの開業はアメリカ国民に自信と勇気を与えた」と祝電を送った。

旧ウォルドルフの豪華さを発展的に受け継いだ現在のウォルドルフ・アストリアホテルは、超豪華ホテルの最後のものとなるだろう。今後のホテルは、機能本位で装飾性は犠牲にされるに違いないといわれている。

３年前、このウォルドルフの飲食担当の支配人であるトーマス・モメッティ氏が東京に来て驚いたことは、日本のホテルのエレベーターのスピードであった。1980年代の今日、同ホテルの悩みは50年以上たったエレベーターの老朽化であり、何度か改修工事を計画したが、アメリカのエレベーター業者の気の遠くなるような改修工事期間に二の足を踏んでいる。

さて、1932年開業から太平洋戦争終了まで、ウォルドルフは長い間苦難の時代を迎える。超豪華ホテルへ来る客もなく、ましてパーティ需要もない。しかし、ホテル経営陣はアメリカの威信にかけて経営不振の片鱗さえも見せなかった。夕方、ニューヨークに太陽が落ちる頃、ロビーの15人は見事な制服に身を包み、胸に20個以上の金ボタンを付けた海軍士官候補生のようなページボーイが1852室の部屋に一斉に駆けあがり、各部屋の電気を点けて回った。そして、パークアベニューにそびえるこのホテルの夜景は、人々の目を奪ったという。

第二次世界大戦中、フランスを逃れてロンドンでフランスのレジスタンス運動を指揮していたシャルル・ドゴール将軍がニューヨークに来て、ドイツに占領されているフランスを奪い返すため、在米フランス人によるプロモーションのパーティをニューヨークで開く必要を感じ、真っ先にこのウォルドルフ・アストリアホテルの総支配人に面会を求めた。

ドゴールが驚いたことに、ウォルドルフのワインセラーにはフランスにもない銘柄のシャンパンや、白・赤ワインをはじめ、冷蔵庫の中には一級品のキャビア、フォアグラが驚くべきことに２千人分用意されていた。もちろんパーティは大成功に終わった。

さて、ウォルドルフがやっと経営的に息をついたのは、太平洋戦争終了直後である。サンフランシスコの日米講和会議ののち、国連の本部はニューヨークに決定された。これをもって、世界中の外交官はそれぞれの国の威信を保つため、ウォルドルフに殺到したことはいうまでもない。

GEORGE Vの客室



GEORGE Vのバー



アメリカの迎賓館と呼ばれるこのウォルドルフ・アストリアホテルには、開業以来、イギリスのエリザベス女王をはじめ、ニューヨークを訪れた世界各国の元首すべてが宿泊した。

マッカーサー元帥は1945年、日本占領連合軍最高司令官として日本に駐留、その後、当時の大統領トルーマンによって解任された。アメリカに帰ったマッカーサーは、しばらくニューヨークに落ち着くためウォルドルフ・アストリアに電話をかけ、当時の総支配人エドウィン・ヘースティング氏に「一週間くらい滞在したい」むね依頼した。そのころ、同ホテルは、ちょうどヒルトンが買収する前であったため、マッカーサーとの交渉はすべてヘースティング氏がとりはからった。そして、なんと元帥一族に用意された部屋は同ホテル最高のウォルドルフタワーにある部屋で、当時としても破格のディスカウント料金で、わずか13ドル50セントの料金に決められた。(その後、しばしばこのレートは改定され、元帥一族は30年近く同ホテルに住むことになる)

1975年、天皇陛下がご訪米中、ニューヨークの宿舎であるウォルドルフ・アストリアホテルで、故マッカーサー元帥夫人と歴史的な出逢いがあった。マッカーサーが使ったスイートは、現在一泊3千5百ドルといわれている。

さて、最近読んだアメリカの女流作家シルリー・R・デイが書いた「オハイオ　ニューヨーク物語」では、オハイオ州から夜行バスで来た21歳の女性がレキシントンアベニューのバス終着駅に着き、彼女が真っ先にニューヨークでみたかったものはなんとウォルドルフ・アストリアホテルであった。しかも宿泊するのではなく、パークアベニューの玄関から豪華絢爛たるロビーにあるシャンデリアを仰ぎみて、レキシントンアベニューへ抜けてでること、つまりシャンデリアみたさに超豪華ホテルのロビーを横切ることであった。

明治22年、当時の外務大臣井上馨が連日の各国大公使との会見の最後に彼らにいわれたことは、東京に本格的ホテルのないという苦情であった。各国の外交官は、日本が発展するためにも外国人のライフ・スタイルにあったホテルの設立を強く外務大臣に訴えた。早速、井上馨は当時の日本の財界を代表する人々を呼んで、東京に国際ホテル設立の要請が行われた。敷地は、適当な場所がなければ〝今わしがいるこの場所〟―つまり外務大臣官邸。これが現在の帝国ホテルである。帝国ホテル建設には宮内省からも多額の資金援助が行われた。

73年前、ロンドンのクラリッジで修業した犬丸徹三氏が帝国ホテル総支配人であった昭和4年、当時の関一大阪市長、この人は大阪市の市長最長在任記録を持つ人で、大正12年から昭和10年まで市長の職にあった。この関市長から大阪に本格的なホテルを建設したいという要請が帝国ホテルの犬丸総支配人になされた。そこで、住友および帝国ホテル社長大倉喜七郎と犬丸氏の尽力により、昭和10年中之島に新大阪ホテル(現在のロイヤルホテルの前身)がオープンした。

犬丸氏はホテルの設計を、川奈ホテルを設計した高橋貞太郎に命じた(現帝国ホテル本館も彼の手になるものである)。そして、この新大阪ホテルのメインキッチンの設計は、犬丸徹三氏が全知全能をもって貴重なサービス動線のアドバイスが行われた。同ホテルのオープンには帝国ホテルから総支配人郡司茂をはじめ75名が新大阪ホテルに移り、この人たちは二度と東京に帰ることなく、ホテルマンとしての生涯を大阪に捧げた。そしてこのホテルは、西の迎賓館として大阪人に大きな自信とプライドを与えた。

現在、日本のホテルの評判は他の国を凌ぎ、そのサービスの良さにも定評がある。

話は変わるが、昔、世界の人々は観光旅行のひとつの憧れをヨーロッパに求めたが、いまや、日本に行きたいというブームが世界的に起こりつつある。将来、日本は世界一の観光国になろうとしている。

日本のホテルブームはまだ続いている。ホテルが出来て一番うれしい顔をするのは市長であり、県知事で、そしてなによりもそのことを自慢してくれるのがそこに住んでいる人たちである。ホテルはそれほど、その町、その国の文化に貢献をしている。

ホテルも数多く建てられているが、単に外国のものまねでなく、これが日本のホテルだという建築設計がなされないと世界各国から訪れる観光客も日本に来たような気がしない。たとえば、奈良には奈良の、京都、大阪も同様にその町の情緒を感じさせる日本のホテル、つまりこれが日本のホテルという建築設計が望ましい。ものまねの時代は終わった。日本のホテルも自分で考え、自分の足で新しいホテルを開発しなければならないのであろう。

(おおた　とのすけ　株式会社オータパブリケイションズ社主)

これからのホテル——アメリカホテル業界の現況とこれからの日本のホテルの動向——

副島有年（ＡＳインターナショナル取締役・日本ヒルトン株式会社取締役社長）
小川清一（竹中工務店設計部）



副島有年氏



小川清一氏

Ｏ：お忙しい中、お時間を割いていただきましてありがとうございます。ＡＳインターナショナル取締役として、さらに永い間の外交官としての経験から今日の日本問題解決の掛け渡し役として、ご活躍と伺っております。また、日本ヒルトン株式会社の社長としては、大阪ヒルトンインターナショナル、そして現在のベイヒルトンインターナショナル、名古屋ヒルトンインターナショナルの建設中と、国内におかれましても東奔西走の毎日と察するところです。

本日は、アメリカのホテルの現在の状況についてのお話を伺いながら、これからの日本のホテルの動向について話が進めばとおもっています。

Ｓ：そうですね。この前の大阪での講演の資料がありますので、それをもとに話をしてみましょう。

アメリカのホテルは多層化現象

Ｓ：日本のホテル業界も、東京オリンピック、1960年を機に大きく現代のホテルの時代に入ったと言えるわけですが、それから26年、日本のホテル業界は、現在のアメリカの業界の動向からするとまだ10年ぐらい後れていると思います。これはサービスの面を言っているわけではないので誤解しないで下さい。

Ｏ：それはホテルという業体の後れということですね。

Ｓ：そう、ホテルという業種の全体の流れとして後れているということです。

現在のアメリカのホテルの動向について話をすると、まず第一に、歴史的に見てチェーン化が進んできたこと。当然、経済ベースの話としてスケールメリットの追求がなされました。宣伝・仕入れ・雇用・集客という面でメリットの追求がなされたわけですが、このチェーン化にセグメント化——あまり英語を使うといけないから日本語で言うと——階層化とでも言うのでしょうか、が進んできました。ヒルトン、スタッドラーチェーンという上級ホテルから、シェラトン、センチュリーハイアット、マリオットという60～80ドル以上のホテルがチェーン化することにより、それ以下の中級ホテルチェーン化が触発されました。ホリデイ・イン、ラマダイン等40～60ドルクラスがクウォリティインをつくりチェーン化しだしたことです。

Ｏ：そのクウォリティインとはどの程度のものなのですか？

Ｓ：それは客室とレストランを持ったホテルで、商品とサービスを標準化し、備品を企画化し、コストの逓減をねらいながら各地にチェーン展開をしたものです。

Ｏ：それは、私たちがアメリカを旅行した際に各地の小さい街で見る、ホリデイ・インに代表されるホテルのことですね。

Ｓ：そうです。実は多くのチェーン展開をしたのだけれど、全体のイメージは下がりませんでした。現状ではまあまあのホテルとして位置づけられております。そこで、つぎに現在アメリカで爆発的に伸びているのが、バジェットホテルチェーンというものなんです。

Ｏ：バジェット、すなわち限定予算とか、限られた集団とかいう意味ですね。

Ｓ：そうです。40ドル以下の宿泊中心の施設チェーンで、モ

ーテルミックス、スパーエイト——これはラマダがやっています——、ナイトイン、ファミリーイン等で、代表格のモーテルミックスは全米で20位の売り上げ、394店、43,881 室を成し遂げています。

O：43,881室とは，394 店とは、凄じい数ですね。

S：以上三つのアメリカでの現象を挙げたわけですが、今後10年間の見通しとしては、やはりバジェットホテルの伸びが一番高く、19%の伸び率として予想されています。クウォリティインは10%です。一方、現在のマーケットシェアから見ると、上級が35%、バジェットクラスが65%です。

O：日本ではそのような現象は起こるのでしょうか？

S：日本では少し難しい面がありますね。各企業なり、自治体なりの団体が施設を持っていますし……。

O：そうですね。また、日本には民宿やペンションなどという、企業化とは少し性格が違う施設がありますからね。

S：以上の現象を踏まえて、つぎにどんなことが起きているかというと、クロスオーバー現象、日本語では多層化現象といった方がわかりやすいのでしょうか。シティホテルからインまで揃えているというのではなく、その中の一部だけを取り出して商品とします。ホリデイ・イン、クラウンプラザ、エンバシー、グラナダロイヤルに代表されるオールスィーターズホテルが建設されていることが挙げられます。

O：オールスィートというホテルは、すばらしい超一流のホテルをイメージしてしまいますが……。

S：階層の格付けもさることながら、ビジネス用という性格が、顧客からの要望で出てきたもので、女性のセールスマネージャーも増加しているし、各会社の支店、営業所、出張所で役員室やマネージャールームを常時持っているよりも、必要な時にそのホテルを借りる方が宿泊室兼仕事場となるからです。そのほか、ビジネスサービスが十分に受けられます。すなわち、会社としては経済的であり、女性には安全であり、加えてホテルの格式からくる信用が得られるわけです。

O：その話を聞いて思い出したのですが、アメリカへセールスに出かけた友人が、宿泊はスィートルームを借りて商談をしないと先方の信用が得られない、とくに営業所、出張所を持たない日本の中小企業にとっては大変だよ、と話しておりました。しかし、今の話からすると、そのような現象は十分定着していると想像できます。

S：特殊なものとして、ハラーグループのやっているカジノ付きホテルも面白いと思います。とうぜん、マリオット等はモーテル、コートヤード、ミドルクラスホテル、マリオットスィートというようにこれこそ一般的な多層化路線を展開しています。バジェットクラスでもハンプトンインのような少し良いクラスも出てきています。

O：まさに、多様化と多層化ですね。

異業種参入、外資系進出時代の日本

O：それでは日本のホテル業として、これからどんな展開が出てくるのでしょうか？実情としては、さきほどのペンションのように、アメリカとはだいぶ違う立地状況ではあるのですが。チェーン化もだいぶ進んできていますし……。

S：そうですね、日本のホテルの成り立ちというか、動きを繙いてみますと、まず50年以後、日本でもたしかにチェーン化が進んできた、とうぜん人事問題が大きな要因とおもうけど、日本の都市化の成熟期とも合っている。つぎに異業種のグループがホテル業に参入してきた。クラスとしては上、中級クラスにですが、なかでも鉄道会社の参入が目を引いた。

O：鉄道会社の事業拡大と街における拠点づくり、とうぜんイメージアップというか都市生活の場づくりへの参加の先陣を担った場面がありましたね。

S：つぎに、大谷、大倉等専業が地方進出を行った。そうして、現在は外資系の進出が目立つ。ヒルトン、シェラトン等、チェーン化のメリットをベースにして、いいかえると日本におけるホテルのポスト確保を前提に出てきていることです。

O：日本にも自分のところのチェーンがぜひほしい、インターナショナルなチェーンを達成しようとすると、日本の地にチェーンがほしい。ところで、ポストの確保というのは、ポテンシャルが開業当初から十分確保できた状態で稼動しうるところという意味も含まれているのですね。

S：そうです。知名度と国際化、実際のマニュアル運営、技術指導がすぐさま日本においては対応できるからね。

O：いずれにしろ、50から60年代はいろいろな面でチェーン化が進み、地方分散というか地方都市立地現象が強く出てきた……。

S：データから見ると、東京全体の伸びは22%から19%にダウンしているけど、神奈川県以外の東京周辺は3.6%が6.6%にアップしている。これは60年のデータだから、62年にはもっと伸びているとおもう。アメリカの高級ホテルの伸びは50年代平均で11%だけど、日本の高級ホテルの伸びはやはり高いのだけどね。

O：日本の世界での地位の向上、外国人旅行者が増えた、日本人の所得が伸びた……。

S：基幹の日本におけるメインホテルが出来上がった時期としての要因が大きい。

O：一方、アメリカのお話に出てきたバジェットホテルのブームと言いますか、伸びはすごい。

ライフスタイルの変化はシティーリゾートをホテルに求める

S：アメリカも日本も、いろいろな意味で旅をすることが交



東京ベイ・ヒルトン・インターナショナル（パース）

通手段の発展に合わせて増加した。

O：都市、地方、年齢、ジャンルを問わず、何らかの形で旅をすることが生活の中に定着していった。

S：それだけ、全体として見ると経済活動がサイクルとして活発になった。一方、それに合わせ車の両輪のようにレジャーという考えが発展し、生活の中に定着していった。

O：レジャーのお話が出ましたので、その辺の要素を加味しながらお話をうかがいたいとおもいます。リゾート地の開発が日本でも活発化しており、高級化、多様化が進んでいる。しかし一方で、日本人の生活の中で長期休暇なり余暇の利用が実際に必要な階層に浸透していない、とくにリゾート地に行ってリフレッシュするというわけには、現実にはいかないわけですが……。

S：いろいろな要素がからみあってそうなっているわけだけど、だからシティーリゾートが必要なんだね。現在のシティーホテルは多かれ少なかれ、シティーリゾートとしての要素を持って発展している。

シティーリゾートがなぜ必要か？とうぜん休暇といっても、そこへ行く時間と費用が問題になる、バジェットホテルの展開においても土地代の問題が大きい、企業、団体にとっても保養所の維持費がたいへん、そうするとどうしてもセミパブリックの考えが出てくる。

O：立地の面でも運営の面でも、その魅力づくりの面でも、セミの考えが出てくる。

S：われわれが今、千葉の浦安でやっているベイヒルトンの周辺の開発ですが、前浜の五大ホテルが核になり、協議会をつくりやっている……、三世代の利用を前提に。まさにシティーリゾートの場づくりなんですよ。

O：大きなコンベンションホールをおつくりになってますね。

S：施設全体のマスト的存在だね！とうぜん多目的な利用が前提です。そしてこれはマスとしてのパンチ力がなければいけない。

O：ディズニーランドも三世代の利用を前提にすると、とうぜん必要な施設となるわけですね。そしてヒルトンインターナショナル、シェラトン等、国際色もハイレベルで豊かですね。さきほどお話に出ました日本におけるポストの確保も十分出来るし……。

O：全体が出来上がると、ほんとうに手近な所で、インターナショナルな情報とおもむきのなかで、リフレッシュの時間が都市生活の魅力につつまれながらあじわえるようになるわけですね。

ホスピタリティーの活用

O：東京のお話が出ましたので、一方の雄としての大阪について話してみたいのですが……。

S：日本に来る外国人の90%は東京に来る。滞在数をみても66%が東京である。

ここに良い例があります。ドイツの場合なんですが、フランクフルトに25、ベルリン24、ブラッセル20、ベルン14、ミュンヘン25、これはドイツで行われる国際会議の数です。毎年きめられた時期に、それも観光シーズンをはずしてセットされている常設の国際会議です。

大阪には常設の国際会議がいくつあるのでしょうか？アジアの常設の会議ぐらい20～25は持っていないといけない。今やっているのは、その時かぎりの、経営から見たら不安定な会議だね。来年はまたその誘致にお金をかけて走り回らなければならない。

すなわち日本全体に言えることなんだが、外人客誘致に不熱心である。外人は年間200万人しか来ない——それも東京中心になっているが、年間600万人が外国へ行っている。もう少し各地方都市が姉妹都市を結んだり、各地に各国の都市の人々が呼べるように、形式的なことでなくて人の誘致に熱心でなければだめだとおもう。街における日本人の外国人に対するホスピタリティーはもともとすばらしいものがあるんだから……。

O：そうですね。このごろアメリカの学生などが民宿を利用して旅行している。どこでもやさしくしてくれると言ってよろこんでいますね。駅や街路で道を一生懸命教えている姿も見かけます。日本人はもっと外国の人々と仲よくしたいとおもっているし、潜在的に日本人の持つホスピタリティーはすばらしい国民的資産なんですからね。

*

O：本日はどうもありがとうございました。アメリカの現況と日本の現状、そしてシティーリゾートの話、もっとくわしくゆっくりと聞きたいことばかりでしたが、十分な時間のセットが出来ず申しわけありませんでした。日本における国際人としての今後ますますのご活躍と、われわれへのご鞭撻をお願いして、お礼にかえさせて下さい。

ホテルを語る

近年のホテルラッシュの中で、とくにシティホテルは都市再開発型ないしは地方の拠点都市整備の核として建設され、しかも産業構造の変化による異業種の参入という新しい局面を迎えています。そして、ホテルの機能も宿泊・宴会中心からスポーツクラブやショッピング機能をもつ総合生活、ビジネスセンターへと変質してきています。子供から老人まで幅広い利用者の、多様な求めに対応できるように、ホテルの機能と空間も変化してきているように見受けられます。

このような状況を背景に、ホテルを特集としてとりあげるにあたり、私達は、ホテルは〝都市居住の非日常性の舞台〟とも捉えられるのではないかと考え、都市居住の機能を包摂するからには、シティホテルに留まらず広く〝都市に建つホテル〟の現況を足がかりに、これからのホテルの行方をも探りたいと考えました。

つきましては特集の一環として、ホテル考ということで、ホテルにかかわってこられたあなたのご意見をおうかがいしたいと存じております。

【設問】

★ホテル業界に聞く

A．これからの都市の中で、ホテルはどのような役割や機能を果たしていく、あるいは果たすべきであるとお考えですか。

B．ホテルのサービスと機能面における貴社の戦略的特徴等をご紹介下さい。

C．最近のホテルのデザイン傾向、特徴について、どのようにお考えですか。

D．あなたの夢の〝ホテル〟を描いて下さい。

★設計者・研究者に聞く

a．これからの都市の中で、ホテルはどのような役割や機能を果たしていく、あるいは果たすべきであるとお考えですか。

b．計画、設計もしくは施工上苦労したこと、配慮されたことがらがありましたら、ご紹介下さい。

c．最近のホテルのデザイン傾向、特徴について、どのようにお考えですか。

d．あなたの夢の〝ホテル〟を描いて下さい。

●インタビュー

伝統の蓄積を基礎に新しい実験を試みたホテル

ホテルニューオータニ大阪 **佐々木成人**

西部開拓の時代から、ホテルは〝人の集まる場〟、〝社交の場〟として都市の中で重要な役割を演じてきました。現在においても、人が集まる場として「宿泊」「宴会」「料飲」という三大要素を兼ね備えたホテルは、世界各地のまちづくりの核として位置づけられています。

ニューオータニ大阪の場合も、大阪ビジネスパークという新しく誕生したまちに「人と人が集まる場所をつくろう」というのが基本コンセプトでした。ただ単に人を集める空間をつくってしまったのでは、ホテルは単なるレジャー施設や商業施設に成り下がってしまいますので、いかにしてニューオータニとしてのクオリティを維持しながらそれを実現するかが最大の課題でした。

明治時代以降、日本におけるホテルは迎賓館の役割を補完する「国際レベルの接客空間」として存在してきたため、ホテルのグレードも、より大きな国際会議や催事が開催できることで決定されました。すなわち、一番大きな宴会場を持ち、かつ、そのクオリティに応じたサービスが提供できることであり、ニューオータニが大阪へ進出するにあたっても、地域で最も大きな宴会場がつくれなければ進出する意味はなかったのです。

しかし、1年365日国際会議が開かれるわけはなく、ホテルが産業である限りは、マーケティングを多重構造にせざるを得ない状況にあります。「産業」として展開するにつれて、ホテルは徐々に市民の身近な存在として様相を変えてきましたが、多くの人が集まるアーバンリゾートとしての空間をクオリティを保ちながら実現したホテル、それがニューオータニ大阪であると考えます。

大きなアトリウムやカルチャー、ヘルス等のリゾート性と創業20年のニューオータニ東京の蓄積を受け継いだクオリティとの調和の中で新しい提案、実験を試みたのがニューオータニ大阪であり、ホテルを計画する立場としては最も難しい道を歩んだと思います。

個人的な意見として、理想のホテルとは、ひとつは「均質化されたクオリティ」の追求できるホテルであると考えます。石鹸の質から、食事、インテリア、人的なサービスに至るまで、どこを切ってもクオリティが均質化されていることです。そのためには、ハード面の計画も最終的に提供するサービスのグレードに合わせて設定することが必要でしょう。たとえば、レストランの厨房なども、客席部分の面積に対する割合で設定するのではなく、調理人が最も働きやすい大きさ、形、レイアウト、サービスしやすい客席数等をまず検討したうえで、コストプランニングを考慮してターゲット等を明確にし、全体の設計をすれば、理想のホテルのひとつの形態が実現できるのではないかと思います。

その前提には、サービスする人の問題があるのですが、真のサービスをお客様に提供するためには、サービスする側が、ゆとりを持ち、〝ホンモノ〟を理解している必要があると思います。

この秋、ニューオータニ大阪のアトリウムを使って、ジャズコンサートを開催したのですが、期待していた以上に音響効果が良く、コンサートホールにいるようなすばらしい体験ができました。コンサート終了後、従業員のひとりが「私はこのホテルに勤めていて本当によかった」と私に告げたことを記憶していますが、働く人ひと

りひとりが自分の勤めているホテルに対して誇りを持ち、働くことに喜びを感じられることこそ、ホテルが真のサービスを提供できる基礎となるのではないでしょうか。

働く人が常に笑顔で、心からホスピタリティあふれる応対をし、新鮮でホンモノを提供できるとすれば、それは理想のホテルのひとつではないでしょうか。

（ささき　しげと　ホテルニューオータニ大阪営業推進支配人）

―インタビュア・河端秀直委員

●アンケート

これからのホテルに望まれる個性

ホテル西洋　丹野太郎

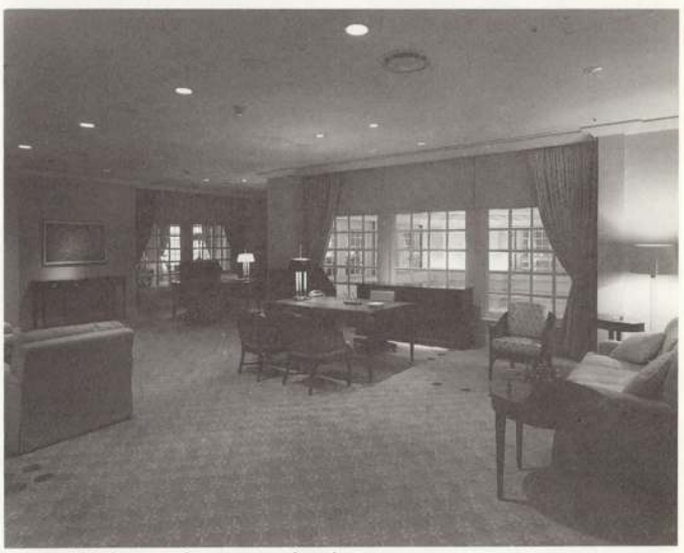
●ホテル業とは本来、人間生活のあらゆる部分をカバーし、その各場面を快適な状態で提供し、その対価を得るものです。ただし、ゲストには個性があり、各人の要求する機能、サービス水準は一概に均一ではありません。にもかかわらず、わが国のホテルの発展は常に一方向を指しており、各ホテルごとの極立った特徴は見受けられません。唯一、ホテルの持つ役割、機能を特徴づけてきたのはシティホテル／ビジネスホテル、といった多機能／単機能、高料金／低料金といった区分です。近年はいわゆるビジネスホテルのグレードアップが進み、〝普及型シティホテル〟とでもいったものが急速に増え、ゲストの選択肢を拡げています。このことは、なくてはならない都市機能のひとつとしてホテルを位置づけることに大きく貢献しました。が、またこのスタイルのホテルが、ややもすると、ビッグシティホテルのミニ版の域を出ず、本当にゲストが望むものかどうか多少疑問の残るところです。

いままでのシティホテル概念は、街の中の街、プラザ指向に傾き、ほとんどの機能をその建物内で完結することに集中していましたが、これからはその都市、その場所の特性を十分に考慮し、自らの役割、機能を問い直すべきでしょう。たとえば、ホテル西洋銀座には、ショッピングアーケードがありません。私どものショッピングアーケードは〝銀座の老舗や百貨店〟であり、ホテルの宿泊や食事と街のショッピング機能は両立し、補完し合うものである、と考えるわけです。これからのホテルに課せられる役割とは、ゲストが真に望んでいるもの、一番欲しいものを、そのロケーション、スケール、グレードに合わせて明確にプレゼンテーションしてゆくことではないでしょうか。ゲストはそのプレゼンテーションを評価し、自分に一番適したホテルを選べば満足度も高く、ホテルもゲストから評価が得られることになるでしょう。

●ホテル西洋銀座のマーケティングの基本は、〝個〟です。前段で述べたとおり、ホテルの社会的必要性の増大とともに、ホテルはそのターゲットに大衆を取り込み、あらゆるニーズの吸収に努めてきました。その結果、ある意味では画一化が進み、ホテル業として重要なイメージ、アイデンティティが希薄になってきたように思えてなりません。われわれのホテルはもう一度〝宿泊業としてのホテル〟という原点に立ち還り、人間の基本的単位としての〝個〟にマーケティングを絞り込みました。つまり〝質の高い静かなホテル〟をそうした居心地の良さを求める人々に、というセグメンテーションです。オペレーションのキーワードを「レジデンシャル」とし、滞在客にゆったりと寛いでいただける空間づくり、を主眼としましたが、そのようなことを追求してゆくと、あるいは限りなく「家庭」に近づいてゆくのかもしれません。



銀座テアトルビル　ホテル西洋銀座



ホテル西洋銀座のレセプションルーム（２Ｆ）

●最近建設されたホテルについていつも感じていることは、どのホテルも、ハードやデザインが非常に似かよっているということです。その空間配置、デザインのトレンド、カラースキム等、いずれも巧みではあるが、没個性的であり、ことにユニークなものが出来上がると、それはブティックホテルなどと称され、ホテル本来の信頼感、安定感とは違う次元で把えられているようです。これからは、シティホテルもそれぞれのアイデンティティが十分に表現されるよう、基本計画、基本設計の段階から、クライアント自らがコンセプトを主張し、建築家、デザイナーの協力のもとに行う商品づくりが望まれるのではないでしょうか。

（たんの　たろう　株式会社ホテル西洋営業部営業企画課課長）

●インタビュー

Home away from home

ヒルトン インターナショナル 宇田川伸子

「日本のホテルは、日本の伝統的な宿泊および宴会施設である旅館または、料理旅館の考え方からでてきているように思いますが、ホテル業としての真髄は、『home away from home』です」と、ヒルトンインターナショナル客室営業支配人の宇田川伸子さん。

home away from home——自分の生活する街を離れたところで、生活のベースを提供すること。「ホーム」の持つプライベート空間としてのくつろぎと安心、それに慣れ親しんだ使い勝手の良さが求められるところ、「アットホームなサービス」と「プライバシーを守る」という二つの要素のバランスのうえにある。「もともとクラシックなホテルの基本は、客室、ロビー、メインダイニングルームからの構成になっています。寝室と居間と食堂ということですね。そして、そこで提供されるサービスは『ホスピタリティ』という一言で表現されるものだと思います」

本来このようなホテルも、今、時代の要請、街の要請、地域性の要請により、多機能施設へと展開してきている。コンベンション機能と一体となったコンベンション・ホテル、観光開発と一体となったリゾートホテルなど、「ホーム」以外の会議室や宴会場、スポーツ施設やショッピング施設等が大きな要素になった、複合施設化の方向がみられる。

また、シティホテルの使いこなしには、日本の風土と近代的な都市生活の両方からくる需要がみられる。お盆や正月に家族で泊まって主婦を家事から解放すること、家への客の接待、仕事部屋代わり、アスレティック・クラブとの一体化など、個人の都市居住環境がまだまだ充足されていないことが背景にある。しかも一流ホテルであれば、日常の中で非日常感覚が楽しめる。「ホテル業の立場から言えば、『ホーム』の提供が基本ですが、使ってらっしゃる側からみると、ホテルは『街の中の洗練された街』として、演出効果を高める舞台になっているのではないでしょうか」という。


大阪ヒルトンホテル

ところでヒルトン・インターナショナルは、「各土地の風土と文化にあったホテルづくりを行う」ということをホテル経営上のポリシーとしている。これは、国ごとによって文化が異なるというだけでなく、同じ日本であっても各都市や都市の中の立地によって異なるという考え方である。たとえば、スカイラウンジ。ヒルトンは原則として、客室の安全性という面から、スカイラウンジはつくらない方針である。そのため東京ヒルトンにはスカイラウンジはないが、大阪では、高い場所に良いラウンジが少ないし、物見高い人々も多く、需要が大きいだろうということで、最上階をラウンジにしたそうだ。

土地の風土と文化を大切にするという考え方は、大阪ヒルトンの客室のインテリアを、障子とふすまを基調にしているところにも表現されている。一見、最近流行のジャポネスク調にみえるが、実は土地の文化に根ざした「home」づくりという意識がある。またレストランの組み合わせ、アスレティック・クラブやヒルトンプラザと一体となった複合的な施設づくりも「シティホテル」としての対応である。このような『街の中の街』は、日本という土地での地域マーケティングの結果といえる。

土地の風土を大切にしながらも、ヒルトンの一流ホテルとしてのステイタスとサービスは、世界共通のものとして決してくずすことはない。「ですから、日常の中の非日常性が生まれるのです。今、大阪ヒルトンのヒット商品のハネムーン前泊パックも、海外への新婚旅行が多くなっている中で、ヒルトンに泊まれば半歩海外という感覚を持てることが大きい。国際ブランドならではのイメージによるところが大きいでしょう」とのこと。

インターナショナルであって、しかも地域の中で生きるという展開において、ホテルは街にとって、どのような役割を果たしているのだろうか。

ヒルトンができて大阪駅前の顔が変わった。人の流れも変わった。向かい合わせの第一ホテルも、空港バス乗り場とあわせて改装した。「確かにヒルトンができたことで、周辺の建物、道路や人の流れが変わったと思います。しかし一番大きなことは、ホテル業としてのポリシーを持ったホテルが大阪にあるということが、大阪の国際化につながっていることではないでしょうか。どれほど地域差が施設面であるとしても、ホテルの基本はhome away from homeです。海外から来られる方々が、ホテルに期待するものを得られるということです。世界共通のものがここにあることです。まず『ホテル』業をすること。そしてショッピングやプール等のプラスα（アルファ）のサービスが、街へのサービスになるのではないでしょうか」

関西国際空港の建設が進み、今後、大阪の都市活動はますます国際化する中で、「大阪」の名はまだまだ海外では知られていない。街自身が街を売っていくと同時に、世界の共通語を持つことが国際化には必要なようである。それが、宇田川支配人の言うホテルであり、都市空間づくりの方向といえる。

最後に、都市がどんどんグローバルな活動の舞台となっていく現代、「ヒルトンは、国内の需要をいかに増やしながら、世界の一流ホテルとしてのイメージをいかに保っていくかが、今後の大きな課題ではないでしょうか」と語っていた。

（うだがわ　のぶこ　ヒルトンインターナショナル客室営業支配人）

—インタビュア・小浦久子委員／田中直人委員

●アンケート

都市ホテルを内包したコンプレックス

神戸セントラル開発　松尾廣巳

「新神戸オリエンタルシティ・C3（シースリー）」は、JR新幹線新神戸駅前、神戸市営地下鉄新神戸駅の上に立地しており、昭和63年秋の開業予定で、竹中工務店の設計施工により施工中であり、都市ホテル〝新神戸オリエンタルホテル〟、都心型ショッピングセンター〝新神戸オリエンタル(Oriental)パーク(Park)アベニュー(Avenue)・ÔPA（オーパ）〟、本格的中規模ホール〝新神戸オリエンタル劇場〟の三つの都市施設のコンプレックスです。

ところで、神戸セントラル開発は、〝C3（シースリー）〟の施設オーナーであり、〝新神戸オリエンタルホテル〟の経営当事者ではありません（経営当事者は、ダイエーグループとポートピアホテルグループのJVである新神戸開発株式会社）。したがって、大規模都市ホテルを内包し、地域開発の核の機能をもったコンプレックス全体としてのコンセプト、建物の特徴の一端を述べたいとおもいます。

施設全体としてのねらいは、要約すれば〝朝・昼・夜を通して、Meetingであれ、Gatheringであれ、Partyであれ、Banquetであれ、Conventionであれ、デートであれ、週1回または月1回は訪れる、衣・食・遊・動のディステネーション〟ということです。

建物は、つぎのように特徴づけています。

(1)　3階で新幹線新神戸駅、地下3階で神戸市営地下鉄、新神戸駅と連絡する。

(2)　施設全体の玄関を1階の海側（三宮方向）と山側に、ホテルのメインエントランスを山側の4階に、5階には宴会エントランスを設けた。

(3)　タワー部分は、背山（六甲山系）の景観と神戸都心部の都市軸を尊重して、南北軸とし、建物全体の外装は、オフホワイトのタイル貼りとした。

(4)　タワー頂部は、三角屋根風とし、神戸にふさわしいシンボル性を高めた。

(5)　タワーの南端に、淡路島から泉南地区までを視界に収められる3台のシースルーエレベーターを設けた。

(6)　建物の低層部の中心に高さ43m・360 ㎡の外部に面するアトリウム、そして、高さ18m・100 ㎡の内部アトリウムを備えた幅10～15m・長さ100 mの3層吹き抜けのアベニューを設けた。

(7)　地上3階より地下3階に至る、滝・せせらぎの水景を設けた。

（まつお　ひろみ　株式会社神戸セントラル開発専務取締役）



工事中の新神戸オリエンタルシティ・C3（シースリー）

●インタビュー

マン・トゥ・マンのサービス

ロイヤルホテル　田附　隆

都市の中にあって「シティホテル」が宿泊だけで成り立つ時代はすでに終焉し、ホテルがますます多面的な機能を要求されるようになってきていることは周知のことと思います。昔は、限られた人達のための社交の場、迎賓館であればよかったのですが、近年はいろいろな意味で多様な層の人に利用していただけるようにホテルは変貌してきています。

ロイヤルホテルの場合は、駅前立地型のホテルとは違って交通の便が良いとは言えず、ひとりでも多くのお客様にロイヤルホテルを知っていただくためのきっかけづくりを比較的早くから試みてきました。昭和45年頃には他のホテルに先駆けて「夏祭り」等のイベントを開催し、昭和50年には「エコール・ド・ロイヤル」という文化教室を、また、昨年はアネックスの建設に際して本格的なスイミングプールを設けました。また、いったんホテルに来られた方にできるだけ長時間滞在していただけるように、新館建設の際には、ショッピングアーケードや15店ほどのレストランを揃えました。

このように、常に新しいニーズに対応し、さまざまな人によって多様な用途に利用していただけるホテルづくりを展開してきたのですが、新大阪ホテルから培ってきた伝統を受け継ぎ、関西No.1ホテルとしてのグレードを保ちながら、すでに出来上がった器の中で対応していかなければならなかったことは非常に困難な問題でありました。

最近、若い女性をターゲットにして、色調も白を基調にしたホテルが流行しているようですが、それらのホテルが気軽に立ち寄ることのできるオープンなホテルを指向しているとすれば、ロイヤルホテルは、ちょっとおめかしして、よそ行き気分で出かけたくなるようなホテルであり続けることが必要であると考えています。「重厚で気品のあるホテル」――それがロイヤルホテルをご利用いただいている方々のイメージであり、それを変えて欲しくないという声もよく耳にします。

ただ、機能面については常に最新の技術を導入する必要があると考えています。とくに、ビジネスマンの方々にとっては利便性が最も重要視されるところであり、たとえば、国際情報の同時性やFAX、TELEX等の通信手段のプライベート利用の可能性等に対するニーズが今後さらに増大するものと思われます。

フロント業務にいち早くコンピューターを導入するなど、ロイヤルホテルではサービス面におけるハイテク化に努めてきましたが、それは、ひとつには業務の効率化、迅速化が目的ではありますが、さらには、それによって余ってきた人材をお客様との直接的な応対を充実させるために活用することを目的としています。ホテルのグレードは、本来サービスの質によって判断されるべきではないでしょうか。ホテル利用者の方が〝ホンモノ〟を体験してしまっている今日にあっては、サービスする側がその一歩先を行くことは容易なことではありません。

ロイヤルホテルでは、ここ数年来、ケータリングについてはフランス、マネージメントについてはアメリカで研修する制度を設けており、毎年数名ずつ、「本当のサービス」を提供できる人材の育成に努めてきました。お客様の「秘書」として多様なニーズに対し、

ホスピタリティーあふれるサービスを提供できる人材の層がどれほど厚いか、それがこれからのホテルのグレードを計る重要な指標のひとつであると思います。

（たづけ　たかし　株式会社ロイヤルホテル企画本部部長代理）

——インタビュア・河端秀直委員

●アンケート

新しい価値

観光企画設計社　柴　田　陽　三

先年他界された前川國男氏は、私の師である『坂倉準三への手紙』の中で、「近代の合理主義的建築は今日一敗地にまみれたことは事実かも知れない。だからといって、今日の建築が合理的思考を捨て去るわけにはいかない。つまり人間は一度手にしたものを捨てることはできないだろう。単なる経済的合理主義の論理でなく、新しい価値観の論理を見出す〈直感〉こそが残された唯一の活路ではないか」と結んでいる。

私は昭和22年、坂倉事務所の門を叩いて建築の道に入って以来、今日に至るまで、何の因果か、ホテルその他の観光施設に関わる仕事がそのほとんどであったが、終始この言葉の意味することが頭から離れない。というのは、ホテルにはその本質の一つとして、商業主義建築であり、経済的合理主義を離れて成り立つものではあり得ない。しかしその上に何らかの「新しい価値」が加わってこそはじめて「建築」になるのだと理解してきた。

では、この「新しい価値」とはどうやって得られるものか？その前に、氏は「現代社会における〈連体感〉欠落の故に、やがて合理主義精神の敗北という手痛い挫折感を味わわされることになる」というキーワードもこの難問を解く一つの糸口になり得るのではないかと考えた。

「人間性の回復」という言葉がもてはやされてかなり長い年月が流れているが、連帯感抜きにしてこの言葉を口にするとたちまち、そらぞらしいものになってしまう。真の人間性の回復を建築に求めるとき、人々との関わりを抜きに考えることはできない。もちろんその場合の〈価値〉は、単に外見的なものではなく、建築が包含する内容のすべてにわたったものでなくてはならず、その内外に流動する人々の共感を呼び起こすものでなければならず、少なくとも建築家の独善であってはならないはずである。

ひるがえって、わが国におけるホテルの歴史を考えてみるとき、それはさして長いものでなく、一般の人々の日常生活に関わりを持ち始めたのは、せいぜい30年ぐらい前のことである。それ以前は全く、欧米追随型で、駐留軍関係者や、ごく限られた人々が利用するにすぎなかった。しかし、その間、日本の高度成長を経て、その水準と社会との結びつきは世界的な水準あるいはそれ以上に達した。その経過は、当初の欧米先進国の模倣から、わが国の社会、経済の構造に根ざした独自のものを創り上げた歴史でもある。われわれの年代にとって、終戦直後から15年ぐらいまでの間は、ホテルなど、まさに高嶺の花であり、私にとってもたまたま坂倉事務所で国際文化会館や、東京ヒルトン等の計画に参加させてもらった頃は、胸をときめかせながら図面を引いたものである。一般の人々にとっても、ホテルに泊まることは、夢の一つであり、それが叶えられたときは、優越感に浸ったものである。そしていまだに良いホテルに泊まるというのが、人々の夢の一つでもある。このようなことを考えるとき、それは一つの新しい価値を創り上げてきたことになると思われるが、その裏には、ホテルが生きものとして存続するための厳しい現実が常に存在していることと、それを乗り越えて、いろいろな価値を高めるための真摯な努力を要することを忘れてはならない。

最近、外圧により日本の内需を拡大するために経済構造変革の必要性がさけばれ、その有力な手段の一つとして、リゾート法が成立し、在来ややもすると後廻しになっていた観光や、レジャーが一時に浮上し、著しい価値観の変化が求められている。ここにも当然、うまくいけば〈新しい価値〉を生み出す大きなチャンスと把える見方はあるが、反面、今まで厳し過ぎるとも思われる自然保護の立場や、地域の利害との調整等、数多くの現実を乗り越え、連帯感を生み出す努力の必要なことを忘れてはならない。

（しばた　ようぞう　株式会社観光企画設計社代表取締役）

●アンケート

かけだしの都市ホテル

元 竹中工務店　小　川　　正

都市ホテルの日常には無数の人と人との出合いがあり、また客と〝stuff〟（従業員）との接点がある。これらの出合いがより印象的であり、効果的な環境を創り出すことがわれわれ建築家に課せられた責任でもある。それは建築、設備、施設を含む〝hard〟と、〝hospitality〟（厚遇）と〝service〟（奉仕）を含む、〝soft〟との効果的な調和が、最も重要な原則であることはいつの時代にも変わりないことと信じている。

1957年（昭和32年）、大阪、中之島の新朝日ビルの建設は着々と進行していた。当時、朝日新聞社会長故村山長挙（ながたか）氏と新大阪ホテル社長故山本爲三郎氏との目論みは、'58年春の第１回大阪国際フェスティバル開催に多数の海外からの出演者の宿舎として間に合うように、北側の敷地に大阪グランドホテルとして400室の理想的な都市ホテルを実現することであった。

この2800席の大ホール、貸事務所、民間放送局を含む大計画には、若年の筆者には眠れぬ夜もたびたびあったが、山本社長の温かい配慮によって、新大阪ホテル・郡司総支配人、朝日ビル・藤森業務部長、小生の３名は欧米の代表的な都市ホテルの生きた視察の機会をいただいた。そして旅程の区切りには、現地での対談を録音して、その生の声を本社へ送ったのである。

'57年開館したLos.の〝ビーバリー・ヒルトン〟ではわれわれに対してとくに〝Hotel is born〟という記録映画を見せてもらい、部屋には飾り花、紅白のワイン、小さな数個の紙マッチの表には私の名前が印刷されている、小さな心遣いに圧倒された。また建築家W.ペケットのテーマカラーの手法に少なからず影響を受けたのである。

NYより欧州へ向かう大西洋の５日間は〝クィーンエリザベス一世〟の一等船客となり、その〝hospitality〟の見事さを注目した。〝君あれだよ、あのソムリエの態度を見給え〟と郡司氏は食事中ですら大声で教示されたことは、忘れ得ぬ感銘であった。

かくて大阪グランドホテルは'58年（昭和33年）３月、無事竣工した。当時bath-tubは国産はなく米国より２mのものを全室取り寄せ、浴室には飲用冷水を配置し、溺れるような豊かさを喜ぶファンは今もなお多いと言われる。今は珍しくもないが自動扉、エレベータの中のB.G.M.とページ、そのシャフト内の冷暖房の実施など、消防局と掛け合いながら初めて実施したのである。



1958年3月、大阪グランドホテル竣工の日、故山本爲三郎氏(右)と歓談する筆者(左)

とくに30年間にわたってウィーンフィル、コンセルトヘボー管弦楽団、ボリショイバレイ、パリオペラ座、ベルリンオペラ等、世界一流の演奏家を招いた国際公演で名声をあげたフェスティバルホールで各国の出演者に喜ばれたことは、その音響効果はもちろんのこと、ホール楽屋とホテル室、間の連絡裏通路である。とくにオペラ、演奏会の場合など、ホテル私室で用意をして、ホテルのサービスエレベータを利用し、直接楽屋入りができる、B.1の裏通路はこのホテルの隠れた特徴でもある。30年の年月に耐えて近く手入れをするとうかがった。

来るべき新しい時代、そして新空港の完成の暁には、極東の空路のlay outも変わるであろう。都市ホテルは、この広い視野から求められる政治、経済、学術、芸術、宗教等の交流によって要望される〝convention〟の舞台として見出され、かつそれに堪え得る快適な総合滞在機能と〝hospitality〟とが、その都市の繁栄とともに、果たすべき役割となるであろう。

(おがわ　ただし　元・竹中工務店常務取締役)

●アンケート

人間性と偶然性の演出される建築空間

清水建設本社　古田敏雄

a) 1980年代の後半を迎え、世界の先進国では工業化社会から高度情報化社会への移行が最終段階にあると言われている。

日本でも、世界の情報ネットワークの主要基地となった大都市では、新時代への対応のため、都市機能の変化が急展開されている。急激な昼間人口の集中、土地問題による都市構造のひずみは、人間性豊かな都市活動を阻み、居住者の環境の悪化等を引き起こし、数多くの難問を抱えながら都市は変化を続けている。

高度情報化時代において、既存の施設の中では最高の適応力を持っている都市施設は、ホテルである。24時間休みなく運営され、人々の交流の場として宿泊、飲食、集会の設備が用意され、交通の要所に配置されている。情報化時代においての重要な装備のすべてが揃えられているわけである。

これまでの都市ホテルの、その歴史と成立過程を見ると、「国際観光整備法」によって示されているように、外人に対して恥ずかしくない洋風宿泊設備をという考え方から都市ホテルは建設されてきたが、今日、すでに過半のホテルの収益の70%以上が飲食、宴集会を中心としたものであることからも、時代の変遷とともに、ホテルも大きく、その利用のされ方が変化、多様化してきていることがうかがえる。

現在進行しつつある高度情報化都市の中心施設として、ホテルは、その役割と機能を正確にとらえて再編成されるべきであろう。世の中にあふれている情報を選択し、新しい価値のある情報として取り出せる場づくりこそ、今求められている都市施設なのである。人と人との出会いの場、情報の火花の飛び交う空間、人間性と偶然性の演出される建築空間、それを裏からサポートするサービスシステムを盛り込んだ新しいタイプの24時間型都市ホテルが望まれよう。また都市で生活する人々の生活様式の変化も激しく、日常生活のひずみを和らげ、活性化の手助けをする場としても位置づけられる。

b) 商業建築としては、開業と同時に手直しの困難なのはホテル建築の特色である。運営中の整備を配慮した設備計画や将来変化に備えての増改築案を企画段階から盛り込むことが大切である。超高層ホテルや大型ホテルでは間仕切壁は乾式構造が採用されるが、遮音性能の確保に苦労させられている。軽量で加工性・施工性の高い遮音材の出現が望まれる。

都市における水質の悪化は急速であり、配管等の損傷は予想を上まわっている。材質・継手の工法等、技術の改善が必要であろう。

c) ホテル客室の利用は、一般的にははじめての使用というケースが多い。附設の各装備の使用法については出来得るかぎり単純明快でなければならない。

最新のホテルの客室のナイトテーブル等に盛り込まれた多数のスイッチ類、TVの遠隔操作ボタン等は、オーバースペックではないか。

ロビー、ラウンジ等のホテルのパブリックスペースは、元来利用客の自由自在の交流と休息の場である。また、都市の特質を代表する自由空間でもある。その主旨が忘れられ、すべての場所を商業スペースとして収益の対象として使用されているように思われる。巨大吹抜空間も人々の共用空間として有意義であろうが、親しみ、安息、人と人との出会いのための空間のデザインも大切であろう。

d) 24時間型社会の中で、人々の交流の場であると同時に、日常的な行事からお祭りごとまで絶えず何らかの関係を持ち続ける都市の中の「オアシス」、「鎮守の森」のような存在。

(ふるた　としお　清水建設株式会社設計本部統括部長)



ホテルニューオータニ大阪

●アンケート

本当のホスピタリティ

日建設計　横川隆一

ⓐ以前、ホテル業の方から、ホテルの起源はローマ時代に溯り、ホテルもホスピタルもホスピタリティという言葉もすべて語源が同じだという話を聞き、なるほどと思いました。病の治療にホスピタルへ、病の予防にホテルへ、という比喩は、まさしく、現代の都市の中で求められているホテル像を暗示しているのではないでしょうか。

これからの都市の中のホテルは、「健康回復の場」としての機能がますます強くなっていくことでしょう。また、日本のように都市の中に住みにくい情況や、家庭を社交の場としない習慣から、「社交の場」としての役割もますます高まっていくと思います。

都市に生きる現代人が、精神的にも肉体的にも健康を維持するためのサービスを提供する、最も身近な施設がホテルだとすると、ホテルの設計ほど、やり甲斐のある仕事はありません。

ⓑホテルニューオータニ大阪で初めて本格的なシティホテルの設計に携わりましたが、ホテル設計の常らしく、時間との闘いに終始しました。最近は、外国のインテリアデザイナーが参画することも多くなりましたが、その余裕に満ちた仕事ぶりは羨ましい限りです。日本のデザイナーも、優れた素質を生かして国際的に活躍できるよう、彼らに近い条件で仕事をしたいものです。

ⓒ東京オリンピックを契機に、わが国でも盛んにホテルがつくられましたが、欧米の表面的な模倣も多く、今ではすっかり陳腐化してしまいました。かつて私も、このホテルデザインという独特の分野に、一種の嫌悪さえ抱いていました。

さて、今日ホテルには多面的・総合的な価値が求められるようになり、デザインにも、本格的・創造的なものが求められています。いよいよ建築家・デザイナー本来の能力が問われる時代になりました。住建築はもとより、病院・劇場・美術館・生産施設等々、広範な分野の設計能力を備えていることが、ホテルをよく知っている、あるいはホテルばかりを設計していることよりも、はるかに重要なのです。建築は、確かな骨格と、豊かな存在感を持つこと。インテリアデザインは、明るく爽やかで女性にも好かれる細やかな感性、豊かな現代性と創造性を備えたものでありたいと思います。

ⓓ昨年ザルツブルグで、カラヤンによるモーツァルトの「ドン・ジョヴァンニ」を観る機会を得ましたが、劇的な音楽、巧妙な演出を支える見事な場面転換に、客席と舞台の関係は、ホテルの表裏の関係とまさしく同じだと実感しました。表と裏の施設がともに優れてこそ良いサービスに繋がるという意味で、ホテル設計もサービス

の質と深く関わっているのです。

そこで私の「夢のホテル」とは、誇りと働き甲斐を持てる広さと設備の整った従業員スペースのあるホテル——たとえば、緑豊かな庭に面した、カーペット敷きの従業員食堂や休憩室のあるホテルです。このようなホテルからこそ、本当の意味でのホスピタリティが提供されるのだと確信します。

（よこがわ　りゅういち　株式会社日建設計大阪第１事務所設計部副部長）

●アンケート

大衆文化の指標としてのラブホテル

京都精華大学　片木　篤

ラブホテルは、戦後日本の大衆文化が築きあげてきた特異なビルディング・タイプである。

19世紀のヨーロッパでは、中産階級の台頭と鉄道の発達に伴って商用・旅行用の宿泊施設、ホテルが生み出された。また、今世紀のアメリカでは、モータリーゼーションの発達によって自動車旅行用の宿泊施設、モーテルが誕生した。が、それらは宿泊の便宜を図る諸施設を含むものであり、日本のラブホテルのように性行為という単一の目的のみに供される宿泊施設ではなかった。

現在、日本を旅行すると、都市の盛り場や高速道路沿いの一角にラブホテルが林立する姿を必ずといっていいほど眼にする。それは、世界にも類を見ない日本独自の景観であると言えよう。戦前の儒教に基づく倫理観が喪われ、ましてキリスト教の束縛のない戦後日本において、性の解放は急速に進み、性行為は一種のレジャーと化しつつある。野球をプレイするために野球場が必要なように、性行為をプレイするための施設、ラブホテルが発達したと言うべきだろうか。あるいはまた、狭いウサギ小屋がひしめきあい、プライバシーも守れぬような住環境が、性行為を住宅から切り離す引き金となったと言うべきだろうか。産業革命によって、職住分離という近代の生活様式が確立されたが、今や性と住との分離が進行している。それが、性行為専用の休憩・宿泊施設を一つの産業までに押しあげたのである。

建築的な観点から見ると、ラブホテルは、まさしくヴェンチューリの言う「意味を伝達する建築」の典型である。その内外の意匠は、「形態は機能に従う」という近代建築の教義とは全く違った次元に立脚している。城郭や宮殿を象った外観、恋愛物語に題材をとったインテリアは、機能から出てきたものではない。むしろ、そこで、かつての王侯、貴族のような体験を可能ならしめる舞台背景として構想されているのである。

これように、形態それ自体ではなく形態が喚起する連想作用に重きをおいた建築、つまり一種の表題建築なるものは、18世紀後半のピクチュアレスク期に生まれた。その意味において、ラブホテルはピクチュアレスク建築の末裔に位置づけられよう。一方、それはボードリヤールのいう「シミュラークルとシミュレーション」という今日的な問題を最も端的に示す例ともなっているのである。

ラブホテルの意匠は、現在大きく変わりつつある。1958年の売春防止法施行によって、遊郭が連れこみ宿に転業され、1964年の東京オリンピックに相前後して、従来の木造建築がＲＣ造に新改築された。また郊外型連れこみ宿ともいうべき、「モーテル」が出現したのもちょうどその頃である。さらに1971年のオイル・ショックの翌年に「目黒エンペラー」が出現したが、それによって、ラブホテルという呼称が確立され、城郭風の外観と金ピカのインテリアが全国に普及したのである。しかし、80年代になって、高級マンション風やペンション風の外観が急増し、インテリアも白やパステル・カラーで統一したものへと変化してきた。またそうしたホテルは、レジャーホテルとかファッションホテルとか呼び慣らわされるようになってきた。シティホテルやペンションがラブホテル化するのと同時に、ラブホテルもシティホテル化、ペンション化しているのである。こうした意匠上の変化は、恐らく大衆の性に対する意識の変化、あるいは趣味の変化と関係しているに相違ない。今後ラブホテルがどのように変貌していくのか、それを見守ることはわれわれの大衆文化の行方を見守ることにほかならない。

（かたぎ　あつし　京都精華大学講師・工学博士）



大阪ヒルトンホテル内部



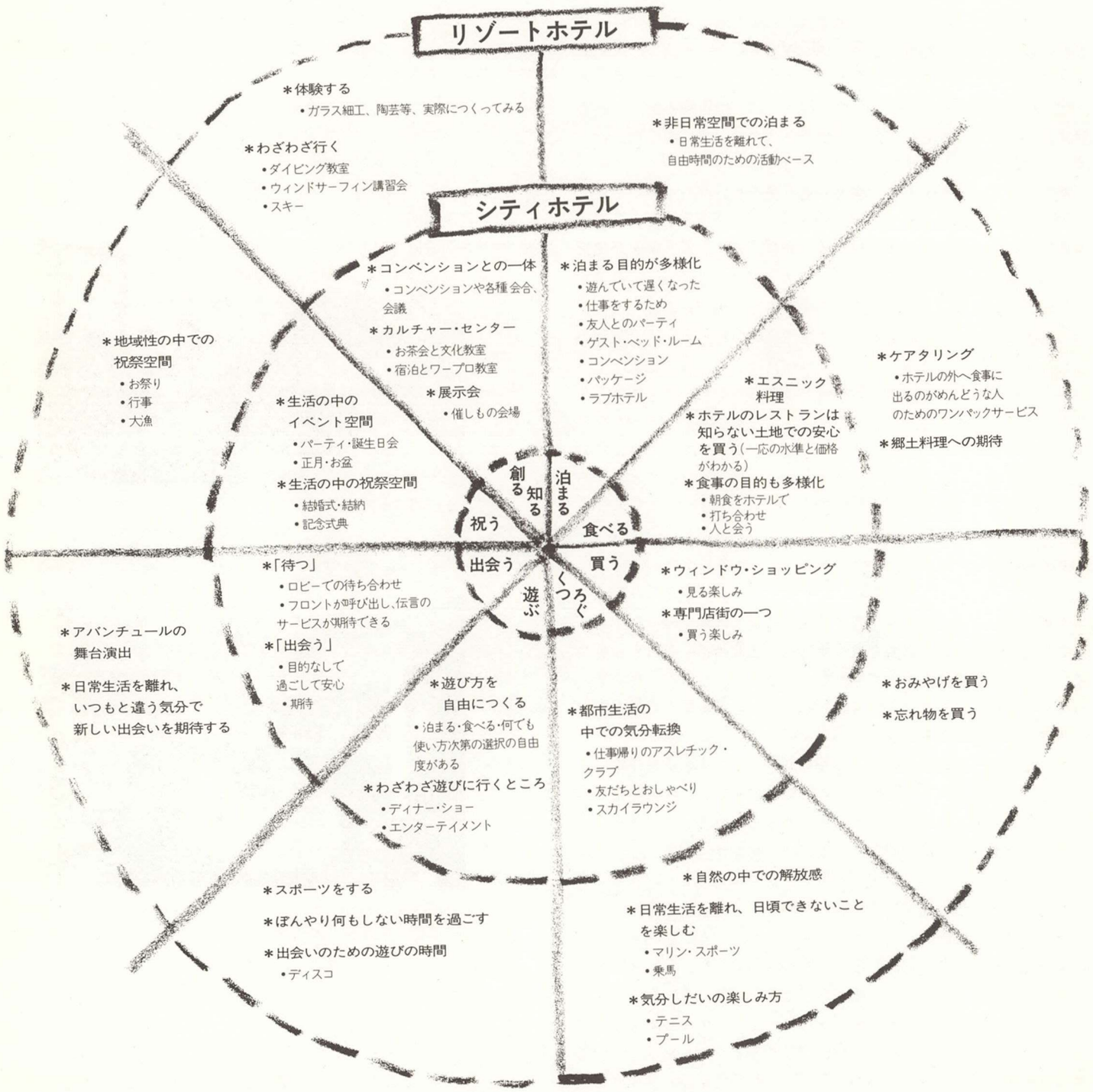
大阪ヒルトンホテル内部

ホテル機能の分類—ホテルは日常と非日常のはざまで—

ホテルは、従来の宿泊施設というイメージから、それ自体が「街化」する方向へと向かっている。生活の基本である衣食住にかかわるものから、仕事や自由時間に対するサービス、祝祭空間までそろっている。いろいろな機能を複合的に兼ね備え、いろいろな目的の人が集まり、いろいろな使われ方をしている。ホテルの全売上に対する宿泊の占める割合は年々低下しているが、これは、ホテルを生活の一部として使いこなせる人が増えてきたと同時に、ホテルが人々のニーズに対応してきていることによる。

ホテルは個性化が進み、多機能を備えるようになってはいるものの、ホテルを分類してみると、都市生活の中の日常の場としての「シティホテル」と、非日常を楽しむための「リゾートホテル」に二極化されているようだ。しかしそのどちらも多機能を備え、いろいろな使われ方をしていることには違いない。

今後のホテルのあり方を探る意味で、多様に展開されるホテルの事例等をふまえて、そのおのおのについては概念的に包括関係があったり、関連性が強く、同一にした方がよいものもあるが、一応ホテルの基本的な機能である「泊まる」「食べる」「買う」「くつろぐ」「遊ぶ」「出会う」「祝う」「創る」の８つを選んで、それがどのような使われ方をしているか、シティホテル、リゾートホテルの別に、みていきたい。



泊まる　「泊まる」機能は、多様化していることが特徴といえるだろう。

リゾートホテルは、休暇を過ごすためはもちろんのこと、ビジネスミーティングや研修、コンベンションのためにも使われる。しかし非日常的な雰囲気を求められ、リゾート特有のレクリエーション施設や周囲の環境が付加価値となり、そのホテルでの宿泊の価値を高めている。

シティホテルはビジネス、観光拠点といった従来からの使われ方のほか、残業や飲みに行った帰りに足を確保できない人の寝室にもなる。また一般的には大っぴらに宣伝していないが、ほとんどのホテルではデータイムサービスを行っているので、応接室やテンポラリーな仕事場として、またデートの場所として使われている。若いグループの間ではスィートルームを借りてパーティ会場代わりにしたり、若い女性の現代版井戸端会議所としての使われ方も一般化してきている。誰でもが気持ちの良い空間を求めるようになってきたことが根底にあるが、自宅に十分なスペースがなく、人との交流やゲストのために予備の部屋を確保することができない都市での住宅事情もホテルの宿泊目的の多様化の主たる原因である。

食べる　同じように「食べる」機能も、日本の一般的な家庭が人を招待できないときの手助けをしているように思う。家族の特別な日や、お客様のおもてなしに、ホテルは手軽に特別な雰囲気が味わえる場である。ホテル直営の宴会のケータリングはもとより、最近ではビジネスホテルと呼ばれる小規模のホテルでも、レストランを売り物にしているところが多い。リゾートホテルも、ホテル内だとメニュー、味ともに一定水準を満たしたものだろうという信頼性と安心感がある。

買う　ホテルでの買い物には安心感がある。シティホテルの高級ブランドブティックは、そのブランドのショールーム的役割を果たしている。リゾートホテルでは旅の土産や旅に必要な物を補給する。ホテルブランドの食料品がまちのスーパーマーケットで売られていたりするが、ホテルの味はその土地の香りとつながるのだろうか。

くつろぐ **遊ぶ**　「くつろぐ」機能や「遊ぶ」機能の要素は、リゾート、シティともホテルの大切な機能である。

リゾートホテルでは、マリンスポーツや乗馬など、そこに行かなければ味わうことができない能動的でダイナミックな楽しみ方が期待されている。ただゆっくりとくつろぐにしても、客室やラウンジからの景色や空気の良さなどが要求される。

都市内のシティホテルでも気分転換の場としてホテルの役割が広がっている。アスレチッククラブ、プール、テニスコートなどのスポーツ施設やバー、レストラン、ディスコなどのアフターファイブを楽しむしかけづくりがある。

リゾートホテルが自然の中での解放感を味わう場なら、シティホテルは時間からの解放感を味わえる機能が要求されている。

出会う　出会いの場としてのホテルは、舞台としての機能を要求される。アバンチュールを期待するリゾートホテル、待ち合わせ場所として日常的な生活空間に組み込まれているシティホテルとも、ドラマチックな出会いを求めてランドマークとしての役割が求められる。

祝う　また、ホテルには結婚式や各種記念祝賀パーティなどが行われる祝祭空間としての場がある。都市空間のモニュメンタルなスポットとしてのホテルには、人生の節目や記念すべきときに集い、人々に共有する想い出と感激を提供する機能がある。

創る　テーブルマナーの学習程度であった学習機能も、現在では、語学や料理などの各種文化の学習の場や、おしゃべりサロン的に知的欲求や創造力を満たす場として一般化してきている。「創る」機能としては、このように心を「創る」ことのほか、体を「創る」スポーツ、レクリエーション的な活動を受け入れる機能もある。

*

ホテルはいろいろなサービスを提供するようになってきた。ホテルの利用方法や利用者層のハイブリッド化は、ホテルの個性を主張させる方向に向かうと同時に、シティホテルとリゾートホテルの二極化を生んでいるとも言える。

しかし、リゾートにもシティにも分類できない種類のホテルがいくつかある。一つはファッションホテルと言われるもので、もう一つは外人ハウスと言われるものをあげておきたい。前者は機能が客室貸しに限られ、その他のサービスがほとんどないのが普通だ。

「ラブホテルからファッションホテルへと呼ばれ方が変わってきたように、この業界こそ人々のニーズについていかなければならない。健康指向の昨今、若い人の求めに応じ、サウナや日焼けをするマシンが設置されているし、カラオケなどもこういう場所ではそれを楽しむというより練習をしているようだ。結局自分の家で満足できない部分を補える場所なのだ。したがってケバケバしいインテリアは受け入れられず、派手であってもセンスの良さが要求される。昔は夢があるだけで良かったが、最近はより生活に近いところで求められるものを部屋に取り入れていかなければならない。また、外国人の一人のお客様が１週間滞在したり、部屋指定で予約をしてくる人が増えてきた。使用目的は使う人が決める。今後、純粋なファッションホテルは郊外型が残っていくだろう。都市型は、ビジネスホテルが内部の付加価値を高めてきたら区別がなくなっていくだろう」という安藤真久美さん（株式会社サイコ）の指摘もある。

もうひとつ、後者の外人ハウスはシティとリゾートの区別が付きかねるもので、外国人旅行者を対象に、民宿風の宿として小規模で発展してきたものだが、最近は著しい円高の影響で外国人宿泊の多いホテルには泊まれない旅行者が増加している。そこで、廉価で外国人が宿泊でき、ユースホステルのように制限事項はないというような宿泊施設が増加してきた。これは、東京や京都のように外国人が多い都市に存在する。滞在者のほとんどが観光目的の旅行者だが、リゾートのようにアメニティに富んだ空間はない。

以上のほか、ホテルの機能としては、今後も都市居住パターンに対応して、新しいタイプが浮上してくるかもしれない。しかし、基本的には、これら８つを中心に展開していくことが予測される。むしろ、これらの機能の組み合わせ方や比重の大小によって、さまざまなバリエーションの可能性があるだろうし、よりシンプルに、目的に合った機能の高度化や合理化を追求していったものが開発されていくことも考えられる。

小浦久子／高田佳子／田中直人

資料編[1]

日本のホテルおもしろランキング

●ランキングは、'86 日本ホテル年鑑（週刊ホテルレストラン編）より作成した。
●ランキングの上位は東京のホテルが占めるが、西日本では、ロイヤルホテル（大阪）の健闘が目立つ。
●帝国ホテルとホテルニューオータニ（いずれも東京）は、どのランキングにも登場し、これらのランキングで見る限りでは横綱格である。
●客室数のベスト・テンはすべて1,000室以上で、ホテルの大型化がうかがえる。
●宴会場の広さのランキングでは、温泉地のホテルが３件登場し、他のランキングの顔ぶれとは少し違っていておもしろい。
●これらのランキング表からだけでも、日本のホテルの現況が垣間見られると思いますが、皆さんはどのように読み取られますか？



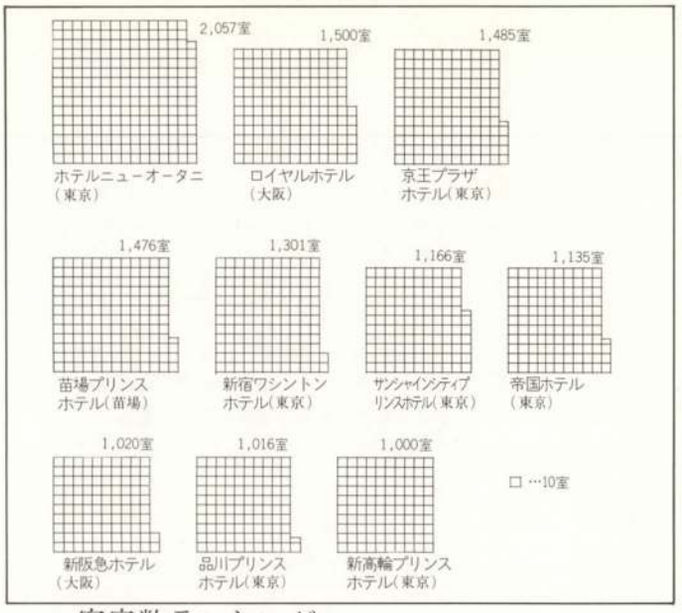
ホテルニューオータニ
（東京・千代田区）
ホテルの規模では断然他をリード。どのランキングにも顔を出し、横綱格の代表。



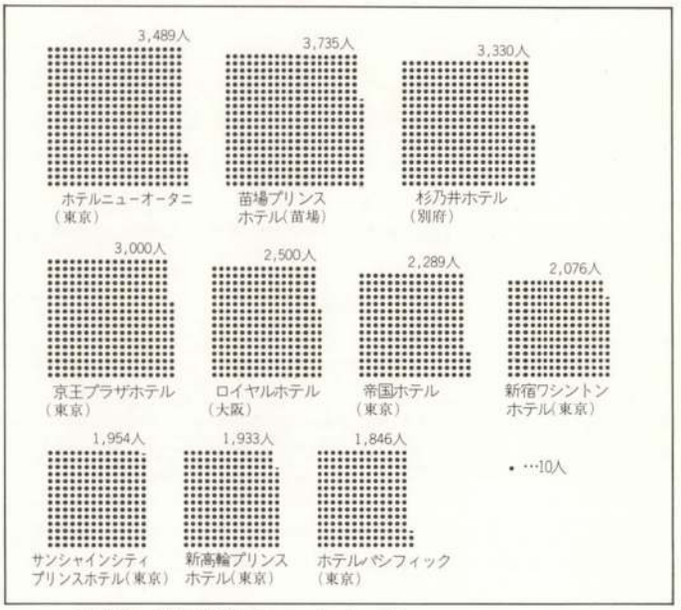
苗場プリンスホテル（新潟県・苗場）
増築に増築を重ね、日本一の巨大なリゾート・ホテルに成長。



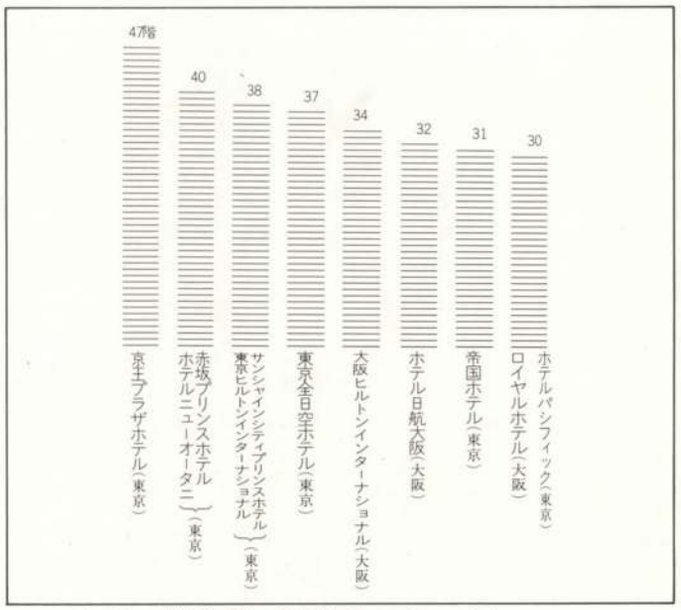
ロイヤルホテル（大阪・北区）
西日本にあってランキングで大健闘。西の横綱格。



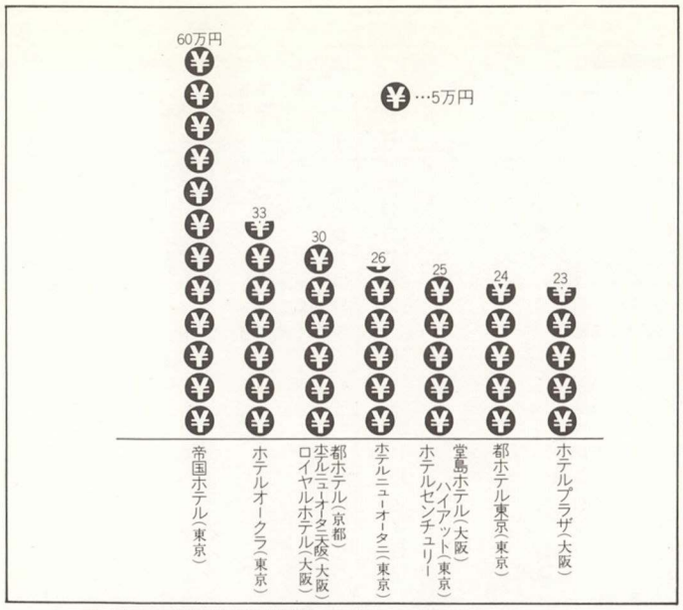
客室数ランキング



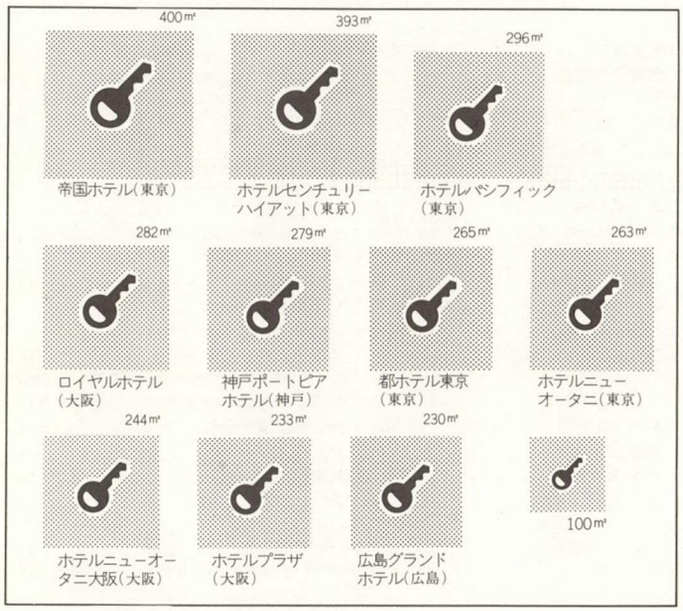
宿泊可能客数ランキング



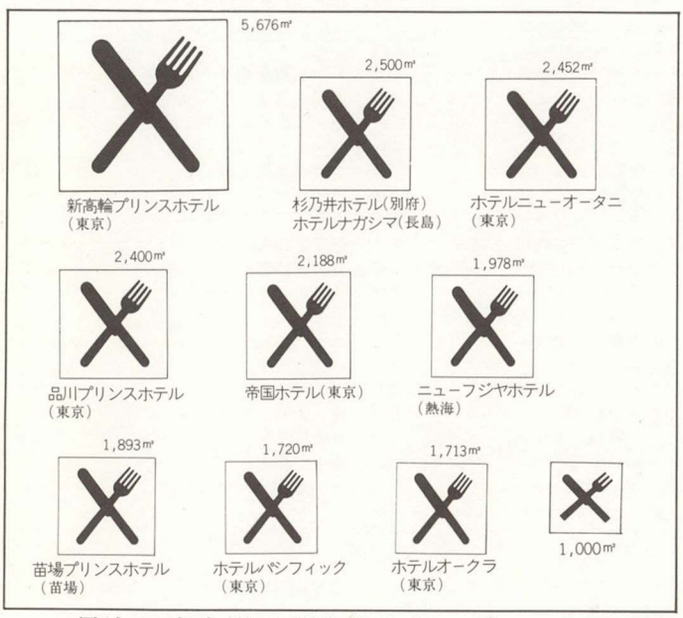
ホテル宿泊棟の階数ランキング



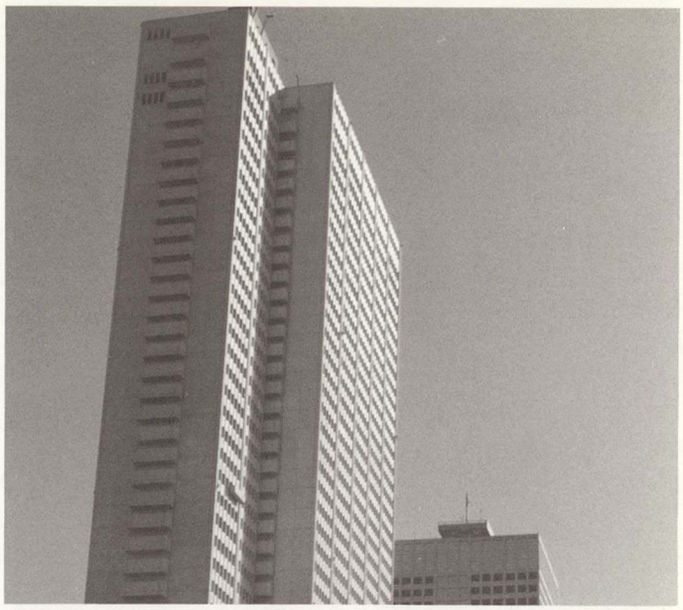
1泊の最高室料ランキング



1室の最大客室面積ランキング



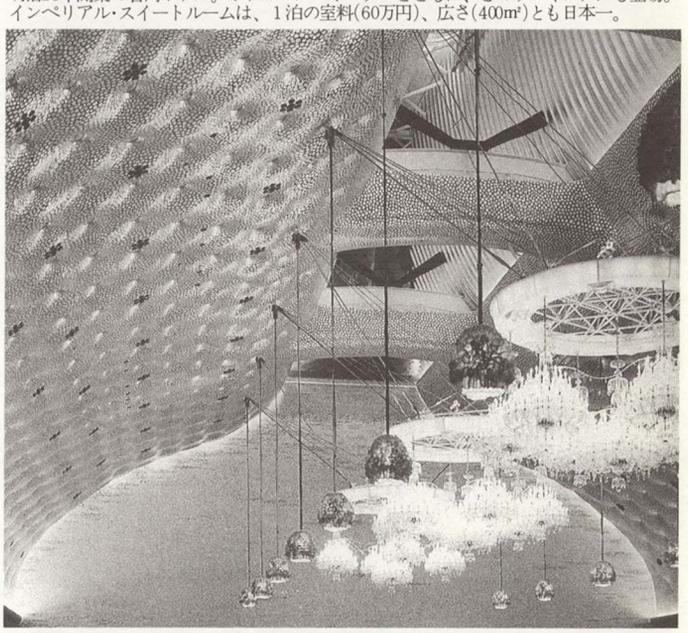
最大の宴会場の広さランキング



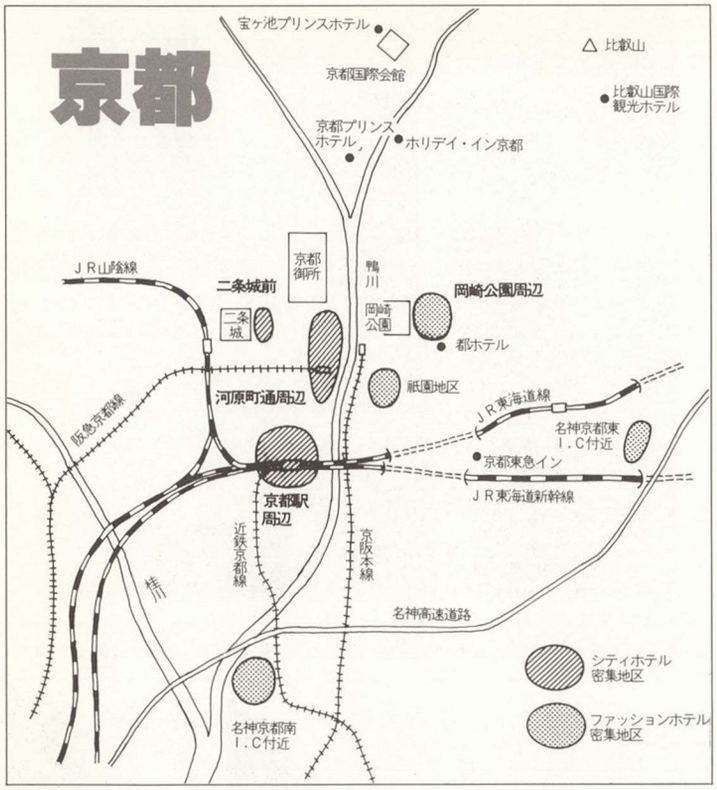
京王プラザホテル（東京・新宿区）
新宿副都心の超高層ビル第一号。階数以外のランキングでも上位を占める実力派。



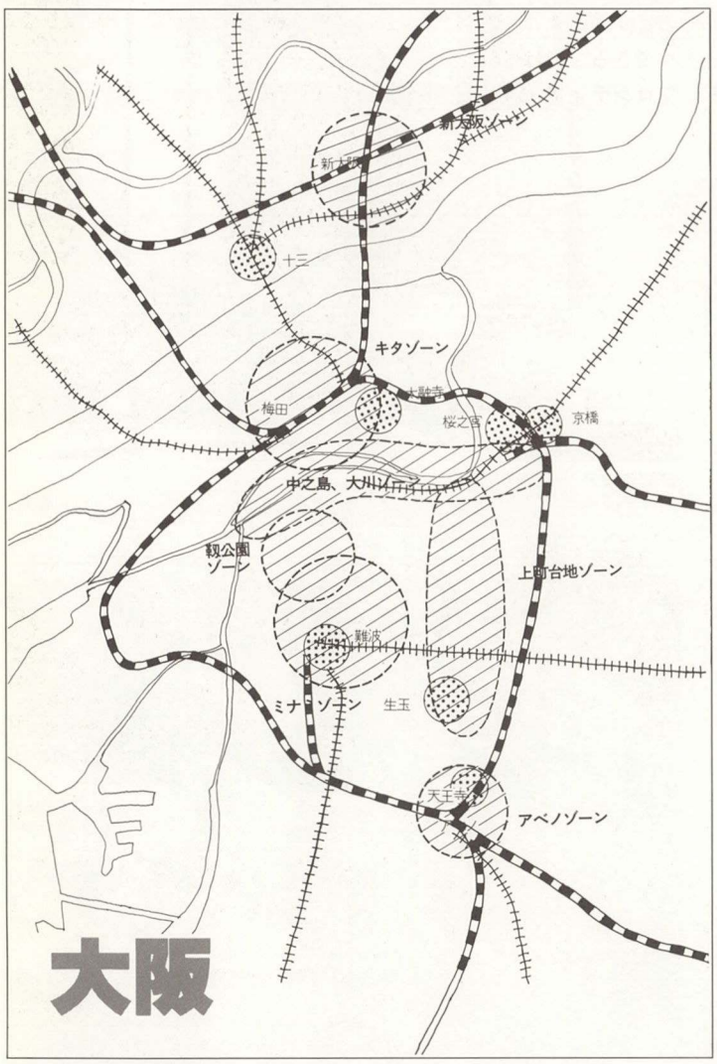
帝国ホテル（東京・千代田区）
明治23年開業の名門ホテル。ホテルニューオータニとともに、どのランキングにも登場。インペリアル・スイートルームは、1泊の室料(60万円)、広さ(400㎡)とも日本一。



新高輪プリンスホテル（東京・港区）**の大宴会場「飛天」の天井**
「飛天」自体は2,013㎡であるが、「飛天」の専用部分をすべて含めると5,676㎡にもなり、レセプションで最大5,000人を収容できる。



ホテル名	客室数	ホテル名	客室数
Ⅰ．京都駅周辺		ホテルサンフラワー京都	195
法華クラブ京都店	133	**Ⅴ．洛北地区**	
京都タワーホテル	148	比叡山国際観光ホテル	73
京都グランドホテル	572	京都プリンスホテル	100
京都パークホテル	300	ホリデイ・イン京都	270
京都第二タワーホテル	306	宝ヶ池プリンスホテル	322
新・都ホテル	714	**Ⅵ．その他**	
京都第三タワーホテル	122	嵐亭	22
京都センチュリーホテル	243	京都パレスサイドホテル	120
京都新阪急ホテル	320	京都東急イン	400
ホテル京阪京都	308	京都東急ホテル	433
Ⅱ．河原町通周辺		からすま京都ホテル	258
京都ホテル	507		
ホテルフジタ京都	195		
京都ロイヤルホテル	395		
京都祇園ホテル	140		
ホテルギンモンド京都	145		
ホテルリッチ京都	109		
サンホテル京都	160		
京都セントラル・イン	150		
ホテルアルファ京都	119		
ホテルサンルート京都	145		
Ⅲ．二条城前			
京都国際ホテル	332		
ホテルニュー京都	320		
京都ガーデンホテル	130		
京都全日空ホテル	302		
京都弥生会館	56		
Ⅳ．岡崎公園周辺			
都ホテル	445		



ホテル名	客室数	ホテル名	客室数
Ⅰ．新大阪ゾーン		ホテルＮＣＢ	174
大阪ガーデンパレス	299	ホテルニューオータニ大阪	610
大阪コロナホテル	131	三井ガーデンホテル	371
共済会館新大阪	260	ロイヤルホテル	1,500
新大阪センイシティーホテル	70	**Ⅳ．ミナミゾーン**	
チサンホテル新大阪	399	アークホテル大阪	385
ニューオーサカホテル	310	アローホテル	67
ホテルオークス	264	朝日プラザホテルアミニティー心斎橋	127
ホテルコンソルト	340	朝日プラザホテル千日前	201
ホテルミツフ	163	大阪後楽園ホテル	200
Ⅱ．キタゾーン		大阪帝国ホテル	80
イーストホテル	144	大阪富士屋ホテル	196
梅田ＯＳホテル	283	チサンホテル心斎橋	302
大阪シャンピアホテル	300	ニュー心斎橋ホテル	202
大阪ターミナルホテル	671	ビジネスホテルきくえい	58
大阪第一ホテル	478	ビジネスホテルナンバプラザ	148
大阪東急イン	402	ホテルカリフォルニア	202
大阪東急ホテル	340	ホテル・ドゥ・スポーツ・プラザ	193
大阪ヒルトンインターナショナル	553	ホテル南海	214
大阪弥生会館	82	ホテル日航大阪	655
紀州鉄道大阪梅田ホテル	66	ホリデイ・イン南海大阪	229
新阪急ホテル	1,020	ヤマトホテルオオサカ	168
新阪急ホテルアネックス	302	**Ⅴ．上町台地ゾーン**	
東興ホテル	300	大阪コクサイホテル	394
東洋ホテル	641	センバシティホテル	128
法華クラブ大阪店	451	ホームイン今里	39
ホテル大阪ワールド	54	ホテル京阪大阪	334
ホテル関西	700	ホテル・ザ・ルーテル	168
ホテルグリーンプラザ大阪	118	ホテルサンホワイト	160
ホテルサンルート梅田	221	都ホテル大阪	608
ホテル阪神	243	**Ⅵ．靱公園ゾーン**	
ホテルプラザ	548	大阪グリーンホテル	100
三井アーバンホテル大阪	410	シティルートホテル	122
Ⅲ．中之島、大川ゾーン		ニューオリエンタルホテル	120
大阪キャッスルホテル	122	パークホテル	153
大阪グランドホテル	358	ホテルサンライフ	68
大阪全日空ホテル・シェラトン	500	**Ⅶ．アベノゾーン**	
大阪リバーサイドホテル	102	大阪郵便貯金会館	46
シャトーテル大手前	56	天王寺都ホテル	151
堂島ホテル	134	ホテルエコーオーサカ	83
中之島イン	342		

京阪神三都市"ホテル事情"

京都ならではのホテル事情

国際観光都市〝京都〟では、シティホテルをはじめ、伝統と格式を誇る料理旅館、民宿・ペンションなど多様な宿泊施設が多く立地している。ただし、円高による外人観光客の減少や大規模ホテルの相次ぐ参入等により、京都でのホテル経営は激化しつつあるといえよう。

シティホテルは京都駅周辺、および京都一の繁華街である河原町通近辺に大半が立地している。京都駅周辺では、ホテルのほかに中小の旅館が多くみられる。最近では、格安ＲＹＯＫＡＮとして外人観光客に人気があるという。

また、修学旅行の団体を扱う大規模旅館が三条から四条にかけて多く分布していることも特徴のひとつである。

嵐山付近には、女性専用の小規模ホテルや民宿・ペンションが多い。ファッションホテルは、名神京都南ＩＣ付近に密集しているきらびやかなホテル群とは別に、岡崎公園の周辺や祇園地区にも分布しており、名所・旧跡や伝統的町並みの中に混在して、独自の雰囲気を醸し出している。　（Ｋ．Ｓ）

大阪シティボーイ(?)のホテル・ストーリー

○月△日

大阪城ホールで久しぶりにファッションショーを見た二人は、ライトアップに浮かぶ大阪城を背に大阪城新橋を渡り、ホテルニューオータニへ。串カツをしっかりほうりこんだ後、18Ｆのフォーシーズンズで夜遅くまでカクテルを肴に、心ゆくまで会話を楽しんだ。

□月○日

ロイヤルホテルのセラバーでスタート。梅田へ出て、ヒルトンの35Ｆのウインドーズ・オン・ザ・ワールドへ。地下鉄でミナミの日航ホテル、32Ｆのジェットストリームへ。さらに、上六の都ホテル大阪のプールで泳いだ後、21Ｆのトップ・オブ・ミヤコへ。こんなハシゴをしてみたい。

△月□日

やっと国際会議がおわった。明日は彼らを市内見学に案内するのみ。今夜は会議場でもある大阪国際交流センターのなかのホテルなのは有難い。少しはゆっくりできる。では留学生も多く集まっている、フロンティア・クラブへ顔でも出そうかな。　（Ｈ．Ｈ）

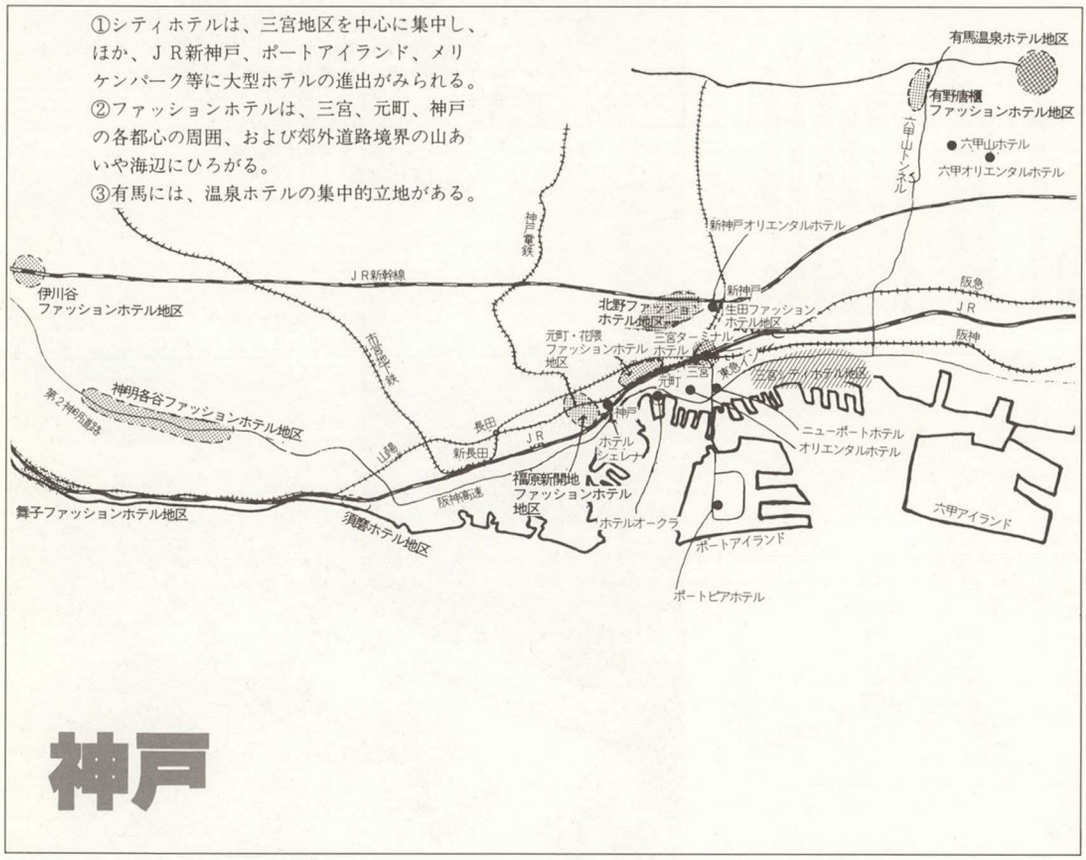
神戸からのホテル・レポート

神戸は、六甲山の緑、そして大阪湾に面する陽光きらめく、エキゾチックで明るい街である。日本丸や海王丸、若人の夢を誘う帆船もいつしかこんな街のシティモニュメントとしてイメージされてしまう。街に住まう外国人の数も多い。市内には六甲、須磨、有馬、北野、元町、そしてポートアイランドをはじめ、多彩なスポットがあり、各種のホテルの立地も見られる。

しかし京都や大阪に比べ、神戸はその魅力ある可能性に比してホテルの数は少なかった。

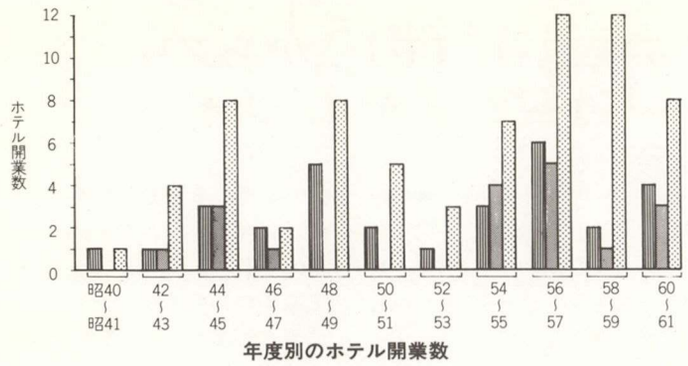
今、神戸は海に山に展開するまちづくりと同様、インナーシティの整備にも力を入れている。とりわけ国際文化都市として、コンベンション機能の強化を図っており、ポートピアホテル新館、新神戸オリエンタルホテル、ホテルオークラ等と建設ラッシュが続いている。また新たにホテルニューオータニの進出の話もあり、２年後の昭和65年までに有名都市ホテル４つが相次いでオープンすることになれば、神戸のホテル事情は一変する。

（Ｎ．Ｔ）

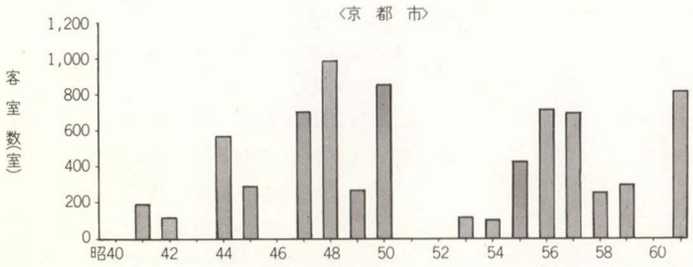


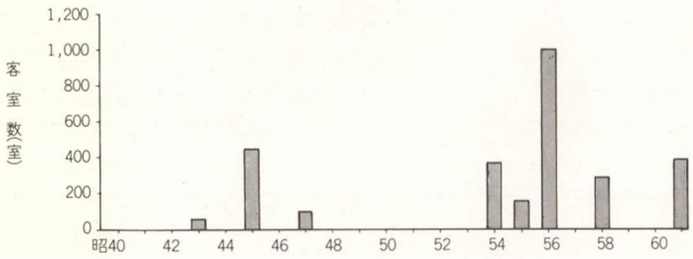
ホテル名	客室数
Ａ．都市ホテル	
オリエンタルホテル	190
ニューポートホテル	214
三宮ターミナルホテル	190
神戸ポートピアホテル	550
Ｂ．リゾートホテル	
六甲オリエンタルホテル	60
六甲山ホテル	78
Ｃ．ビジネスホテル	
タワーサイドホテル	160
ホテル水上	74
グリーンヒルホテル	102
ビジネスホテル北上	42
サンサイドホテル	103
神戸プラザホテル	144
ビジネスホテル三陽	60
ビジネスホテル北上２	55
ユニオンホテル	167
第２グリーンヒル	159
神戸ワシントンホテル	218
ホテルかたおか	60
グリーンポートホテル	40
神戸チサンホテル	290
神戸花ホテル	42
第一グランドホテル	108
ホテルシェレナ	24
東急イン	236
ホテルサンルート	119
ホテル大倉山	157
Ｄ．建設予定のホテル	
ポートピアホテル新館	270
新神戸オリエンタルホテル	600
ホテルオークラ神戸	500

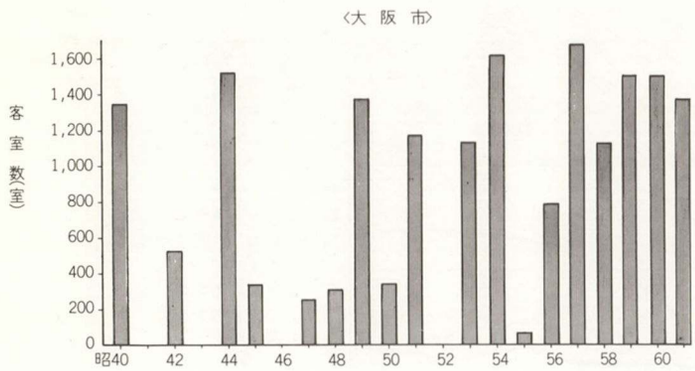
資料作成：角島健二／鈴木克彦／田中直人／平岡博／吉村英祐



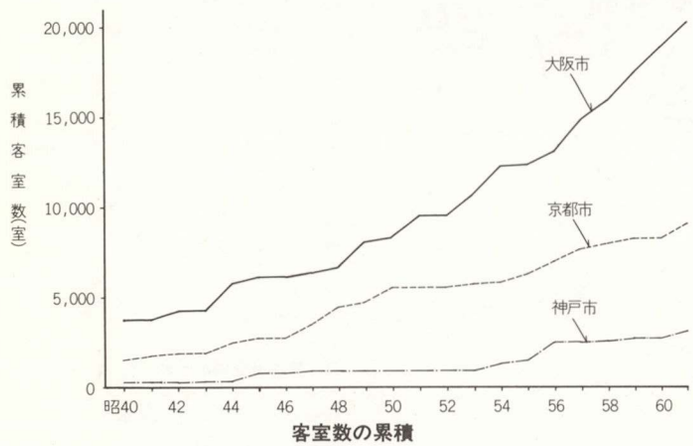
年度別のホテル開業数







年度別のホテル客室数



客室数の累積

三都市における各種データの比較（61. 12現在）

項　目	京都市	神戸市	大阪市	合　計
ホテル数	36	20	75	131
客室数(A)	9,054室	3,123室	20,279室	32,456室
宿泊可能客数(B)	18,257人	4,931人	29,575人	52,763人
B/A	2.0人	1.6人	1.5人	1.6人
建築延床面積	569,538m²	219,838m²	1,170,467m²	1,959,843m²
1ホテルあたり客室数	252室	156室	270室	248室
同・延床面積	15,821m²	10,992m²	15,606m²	14,961m²
同・宴会場面積	958m²	472m²	806m²	798m²
宴会場面積の比率	5.9%	4.1%	5.5%	5.5%

（注）日本ホテル年鑑1987年版（オータパブリケイションズ）に掲載されたホテル資料から作成した。

大阪ヒルトンインターナショナルのロビー



京阪神三都市"ホテル事情"

R.ロジャース氏と100人の日本建築家たち

薄田　学

11／20．21の両日、黒部のＹＫＫ50ビル国際会議場にて「建築デザイン会議'87ＫＵＲＯＢＥ」と銘打った会議が開催された。

この会議の目的は、そのテーマ「ゆらぎのなかの建築―建築とテクノロジーの新たな出会いをめざして」の通り、まさに「ゆらぎ―平衡から遠く離れた状態にある複雑なシステムが、新たなシステムへと自己変換を遂げる際の引き金となる不安定な動き」の只中にある現代の建築界において、そうした「ゆらぎ」をひき起こしている最も大きな要因として、テクノロジーの拡大現象を捉え、両者の関係について全面的に再検討することであった。

会議には、戦後生まれの建築家が100人招待され、オブザーバーの大部分も同世代層によって占められた。そして、特別ゲストとして、英国からR・ロジャース氏が迎えられた。モダン以後に教育を受け、今後テクノロジーの新しい局面との取り組みが避けられない世代と、先端的な問題作を世に問い続けている大建築家との間で、「拡大するテクノロジーと建築との新たな出会い」を模索しながら、活発な議論が展開されたのである。

１日目は、ロジャース氏の"The Art-The Process of Building"と題された講演があり、それに対し幾つかの質疑応答がされた。

講演の要旨は、大別して４つに分けられる。第一に『チームの設計』に関してであり、氏は、エンジニアやコンサルタント、さらにはゼネコン、メーカーとの計画初期からの共働の必要性を説き、特に「クラフトマンシップ」による建設プロセス重視の考えを力説した。続いて、現代が建築にとって「危機の時代」であるとし、自らを、「モダン・ムーブメントの継承者」として明確に位置付けた上で、『伝統と現代』と『都市のアクティヴィティー』双方の観点から、「ロンドンのあるべき姿」としてふたつのプロジェクトを紹介した。ひとつは、通過交通を地下に移し、テムズ河畔を「人の場」へと転化した上で、新しいロンドンのゲートたる橋を架けようと言う遠大な「シルバー・マイル計画」であり、他方は、トラファルガー広場の再開発計画である。特に後者の紹介において、氏は、広場の理想としてサン・マルコへのリファレンスを明言しながら、一方、古典主義に対しては、建築は装飾ではない、古典主義の様式は神のオーダーの模倣に過ぎず、人間的なスケールの所作ではない、との論旨によって、否定的な見解を示した。後に、古典のリファレンスがおかしく、ゴシックは良いと言うのは矛盾しているのではないかとの質問がなされたが、氏からは、過去を無視することはできないが、古いものが必ずしも美しいとは限らず、純粋な美的判断からリファレンスの対象を選択すべきだ、との解答がなされた。



撮影　山口広嗣　㈱竹中工務店設計部

ポンピドーセンターとロイズ本社を例にとり、氏が最後に提示したのは『未完成の美学』と言う概念である。氏によると、建築は更新の必要なメカニカルな部分とそうでない部分とに分けられるべきであり、あらかじめ進化の過程を導入された建物は、絶えず未完のまま、世に問われることとなるのである。執務スペースとして理想的な平面を確保した上で「ダイナミックに交換」されるべきサーヴィスコアを周囲にはりつかせたロイズ本社は、その思考システムの典型と言うことであった。また、その美学に関連し、デザイン上「同方向」であり「親密な競争関係にある」とするＮ・フォスターの建築が、氏の「未完」に対し、「完璧」を期したものであり、彼の表現が、エクスクルーシブであるのに対し、氏のはインクルーシブであると定義した点も非常に興味深い話題であった。

２日目は、前日の内容を踏まえ、氏もパネラーのひとりとして、テクノロジーにまつわる様々な議論が続けられた。

もとより多数の建築家が、それぞれ異なったスタンスから発言するのであり、収束すべくもない。単なる手段とし、あくまで建築家主導のテクノロジー利用を主張する人。又は、中立的なテクノロジー感を表明する人。逆に、テクノロジーに対する建築の敗北宣言をする人。そして、そうした抽象的な議論より、建築の存立基盤としてのクラフトマンシップの質の低下に警鐘を鳴らす人……。

議論は、文字通り百出し、拡散した。それは、すべての思考システムが確実な根拠を持ち得ないでいる現在の建築界をほぼ忠実にトレースしたとも言える。

そして、それは、当初より十二分に予想あるいは意図されていたことでもあった。「多様化の時代と言われる現代において、あえて共有部分を探ることにより、差異と同一とを見きわめる」ことに、その会議の意義付けがなされていたのであるから、その意義は十全に達成されたと言っても過言ではない。

少なくとも、100人もの同時代の建築家が、ひとつのテーマを巡り、極めて真摯に思考を重ね、発言を熱く繰り返したのである。このように貴重な思考の数々を提供してくれたいくつかの組織の方々に敬意を表すと共に、「未完成」のまま閉じられたその会議の継続的開催の実現を念ずるものである。

最後に、退席の間際に氏が我々に提起したふたつの問題を紹介したいと思う。それらは我々がより真摯に考え、取り組まなければならない基本的な問題であるからだ。

その第一に「日本の建築とは何であるのか。」氏は、続けてこう述べた。「神話をいたずらに追いかけてはならない。どこかに正しいバランスがあるはずだ。」

第二に、「我々それぞれの社会責任は何であるのか。」氏は、長きに渡ったその言説を次の言葉によって締めくくった。「イデオロギーとライフスタイル、そして我々の仕事を分離することは不可能だと思う。それについては私は確信している。」

（すすきだ　まなぶ　㈱竹中工務店設計部）

構造の頁

154 レーザーによるμ単位に穿孔したセラミックス型枠

羽賀　久芳

開発の経緯

コンクリートの練り混ぜには、主に施工上の理由からコンクリートの水和に必要な量をはるかに上回る練り混ぜ水が用いられている。この過剰な水は、水・セメント比を増加させ、温度応力や乾燥収縮等によるひびわれを増すばかりでなく、ブリージングや過剰水の蒸発によりコンクリートの組織全体をポーラスにする。この結果、コンクリート構造物の耐久性が低下して劣化速度が速くなるとともに、構造物の維持管理上種々の問題を生じることになる。

そこでコンクリートの練り混ぜ水量を減少するためには種々の方法が検討されており、流動化剤の使用等有効な方法が全くないわけではないが、経済性や品質管理上の問題等から常に適切な対応策が施されているとは言えないのが現状である。

ここに、種々の問題を低減させる方法として開発された「レーザーによるμ単位に穿孔したセラミックス型枠」(スリットフォーム)について、実験結果を含めて概略紹介をする。

構造および特長

型枠の表面材であるスキンプレートに、レーザー光線で約150μmmの細長い溝(スリット)を多数設け、その上から多孔性結晶体であるセラミックを約10,000℃以上の高温でプラズマ溶射した型枠である。このセラミック層(GIFU-COAT層)は、数ミクロンという細孔を有する多孔質な結晶体であるため、通気性・透水性をもった特殊フィルターとなる重要な役割を果たしている(**写真1**)。したがって、この型枠内にコンクリートを打設すると、コンクリート中の過剰な水(余剰水)および気泡が型枠外へ排出される。その原理は、**図1**に示すように推測される。

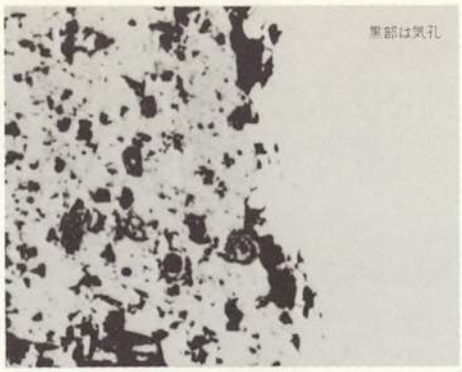


写真1　GIFU COAT断面の顕微鏡写真

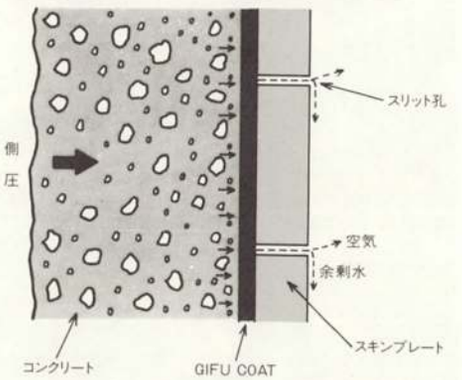


図1　スリットフォーム工法の原理図

さらにセメントペースト等の粒子は、このセラミック層を通過することができず、繰り返し使用しても目づまりすることなく、緻密なコンクリート仕上がり面を得ることが可能となる。

打設実験の概要

①型枠仕様　高速道路トンネル断面の、従来からアバタ発生率の高いとされていた逆勾配の側壁部を想定し、スリットありとスリットなしの型枠を対面させる(**図2**)。型枠表面積は3.08m²(片側)となる。

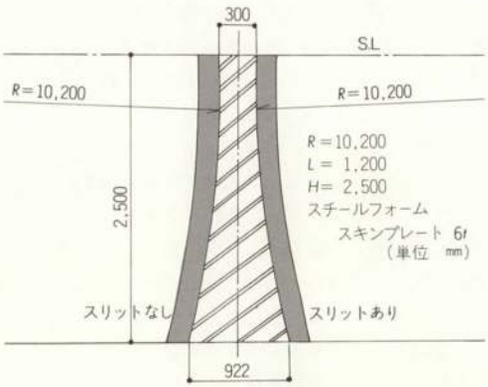


図2　型枠断面

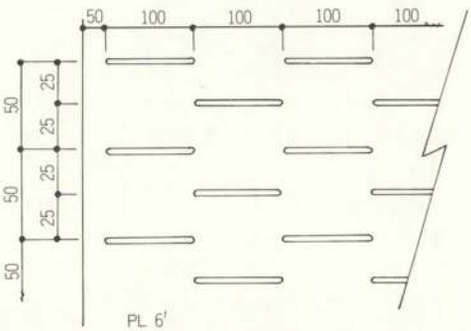


図3

②スリット寸法およびピッチ　**図3**に示す。これにセラミックを溶射し、フィルター層を作る。

③打設方法およびコンクリート仕様　コンクリートは**図4**の0.3m³ホッパーを用い、5層に分けて打設を行い、打設速度はV=2m/hrとし、1.5m³を75分間で打設した。コンクリートは**表1**に示すとおりである。セメントには高炉セメントB種を使用。なお、締め固め方法として50φ棒バイブレーターを使用した。

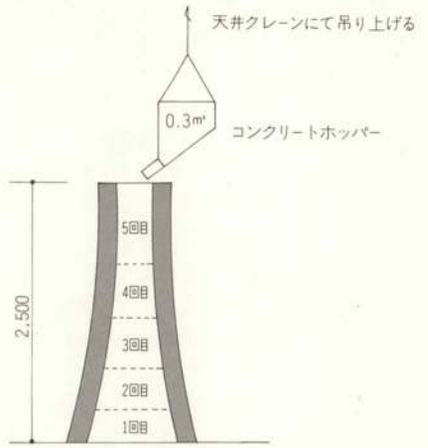


図4

表1　圧縮強度(210kg/cm²)

W/C(%)	C	W	S	G	骨材寸法
59.3%	270kg	160kg	740kg	1,130kg	40mm

スランプ15±2.5cm

以上の仕様でコンクリートの打設を行い、つぎの項目について実験を行った。

(A)余剰水量の測定　型枠を通して排出されたコンクリート中の過剰な水すなわち余剰水量を、打設開始後30分ごとにメスシリンダーで測定した。**写真2**に脱水状況、**図5**に測定結果を示す。単位面積当たりの余剰水量は、約1,000cc/m²となった。

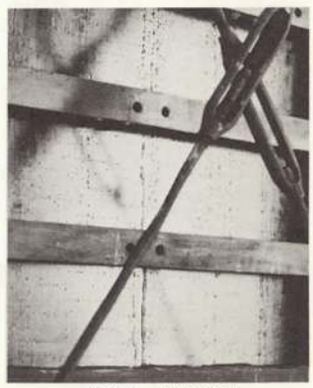


写真2　脱水状況

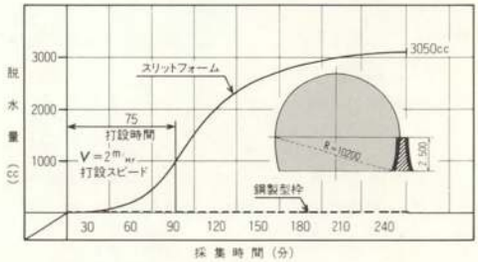


図5　型枠面からの脱水量

(B)アバタ率の比較　スリットありとスリットなしの鋼製型枠によるコンクリート仕上がり面に発生しているアバタを、基準面積の200mm×200mm枠内について測定した。測定判断基準は2φ以下の

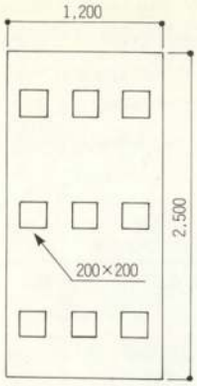


図6　アバタの測定位置

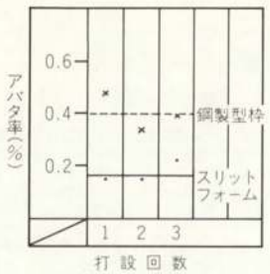


図7　アバタ率

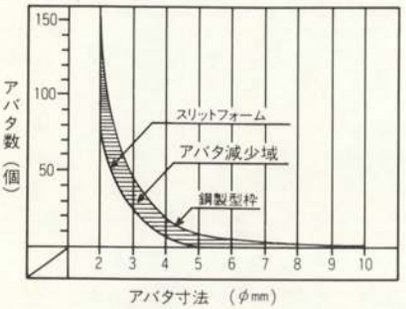
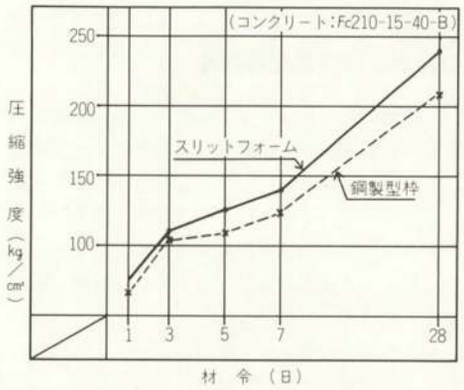


図8　アバタ分布図

微細なアバタは基準外とし、2～10φまでのアバタについて測定した。図6に測定位置を示し、基準面積に対するアバタ面積の占める割合を図7に、また、アバタの寸法および個数については図8のようになった。アバタ率は半減し、しかもアバタの個数および1個当たりの大きさについても減少する結果が得られた。

(C)コンクリート強度の比較　スリットありとスリットなしの面よりコアー抜きして圧縮強度の比較をした。その結果が図9であり、余剰水を抜くことによりコンクリート表層部の水・セメント比を減少できるために、早期の脱型強度が得られることになる。



注）材令1日目は供試体でのデーター

図9　コアー抜きでの圧縮強度試験

打設実験から施工へ

以上のデーターおよびその他の実験結果に基づき、スリットフォームによる効果を図10に示した。

しかし、コンクリートのスランプ・温度・打ち込み速度・締め固め方法やその程度により結果は多少異なるが、実験では写真3に示すような仕上がりを得ることができた。

なお、現在この方法による現地施工例は、道路トンネル・下水道トンネル工事等を含め7件を数えるに至った。しかし、まだ未解決の問題も多く

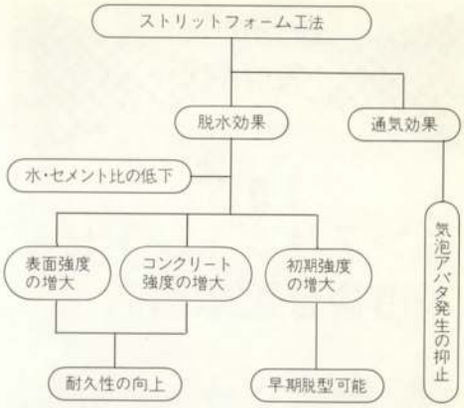
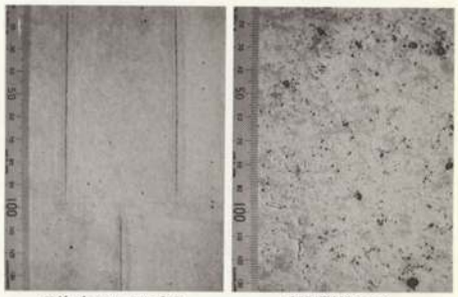


図10　スリットフォーム工法の効果



スリットフォームによるコンクリート表面　　鋼製型枠によるコンクリート表面

写真3

残されており、今後も研究努力を重ねて一つ一つを解決することにより、現在問題化している建築・土木の構造物としてのコンクリートの品質改善に大いに役立つものと確信する。

（はが　ひさよし　岐阜工業株式会社営業部開発課係長）

三晃式
屋根・壁 嵌合タイプのFシリーズ
美しさ、防水性、施工の省力化を一新した屋根・壁システム誕生!!
三晃は、従来の馳や重ねタイプとは発想を異にした、嵌合タイプによる新しい屋根・壁工法〈Fシリーズ〉を開発しました。キャップをワンタッチではめ込むだけで、ボルトが表面に現われない、優美な屋根・壁がスピーディーに施工できます。
折版 F-80、F-200　サイディング F-400　瓦棒 F-40

三晃金属工業株式会社
大阪支店　〒541　大阪市東区大川町27番地（住生淀屋橋ビル）
電話　大阪(231)8571～8番
本社　〒104　東京都中央区京橋2-9-2第一ぬり彦ビル
●長尺営業部☎03(567)3558(直通)
神戸営業所　☎078(341)3081
大津出張所　☎0775(24)7572
福知山出張所　☎0773(27)2372
泉南出張所　☎0724(66)4763～4
奈良出張所　☎07442(4)1034
高松営業所　☎0878(22)4451
松山出張所　☎0899(33)6055
東京支店　☎03(567)5101～4
名古屋支店　☎052(582)0311
広島支店　☎092(248)1576
福岡支店　☎092(441)3551
札幌支店　☎011(241)4271
仙台支店　☎022(225)7591
金沢支店　☎0762(23)4980～2

設備の頁

156 インテリジェントビル用複合配線器具

安井　孝明

インテリジェントビルの大きな核に、ＯＡ・ＢＡ・ＴＣ機能がある。なかでもＯＡ機器の導入は、１台／１人も間近と思われるほどめざましいものがある。しかしながら、そのＯＡ機器への電力・電話・データ配線は、それぞれ別の位置からとり出されており、オフィス内の配線が乱雑になり、見苦しくなる原因のひとつとなっている。そのため、ＯＡ機器に電力・電話・データの配線を１ヵ所から供給できる配線器具がほしいという強い要望があった。

こうした背景から、松下電工とＮＴＴは、ＯＡ機器の普及状況を検討し、強弱複合配線をした場合の伝送信頼性評価等を行い、インテリジェントビル用複合配線器具を開発した。発売以来約１年を経過したが、スッキリ配線の実現・美観や安全性の向上の点で好評を得ている。

種類

インテリジェントビル用複合配線器具
- フルカラー壁用配線器具
- 床用配線器具
  - ●インナーコンセント フリーアクセスフロア用
  - ●フリーアクセスフロア用配線器具・丸型

図１

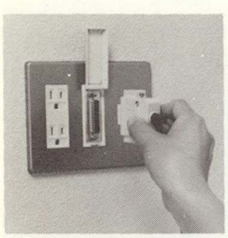


写真１　フルカラー壁用配線器具



写真２　インナーコンセントフリーアクセスフロア用



写真３　フリーアクセスフロア用配線器具

インテリジェントビル用複合配線器具の品種構成を、図１に示す。これらは、今後のインテリジェントビルに導入されるＰＢＸを中心としたＴＣ（テレコミュニケーション）システム、ホストコンピュータを中心としたＯＡ—ＬＡＮ等を考慮し電力・電話・データコンセントの複合化を図ったものである。

フルカラー壁用配線器具

壁用配線器具については、フルカラー配線器具の設計思想を活かし、用途に合わせてすでに開発済みの受け口・プレート等多くの種類の中から選択が可能になっている。また、テレホンモジュラージャックはスライド扉付き、Ｄサブコネクタ・接栓ジャックは保護カバー付きと、防塵性・耐衝撃性を考慮した。

以下に施工のポイントを示す。

■ボックスなし工事取り付けの注意事項

(1)　55.4mm以上の奥行きを確保する。

(2)　空洞部に取り付けの場合は、パネルカバー（ＷＮ3762、２連セパレータ付き）を使用する。

(3)　３連サイズ組み合わせおよび接栓ジャックとの組み合わせ商品は、ボックスなし工事取り付けはできない。

■ボックス取り付けの場合の施工ポイント

洋風モダンプレートの場合を図２に示す。

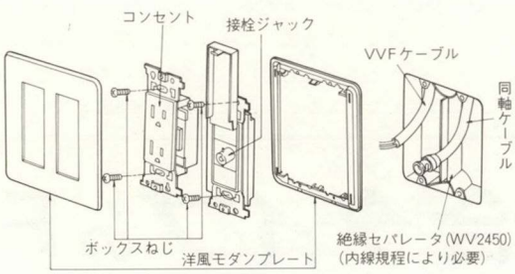


図２

インナーコンセント フリーアクセスフロア用

床用コンセントについては，従来から使用しないときには床に収納でき、使用するときは床面上に飛び出す構造のアップコンがあり、露出タイプのコンセントに比較して美観・安全性・レイアウトフリー性にすぐれ、好評を得ている。

今回は、アップコンよりもさらに高機能化を図り、「収納して使える複合フロアコンセント」をコンセプトに、インナーコンセントを開発した。

■主な仕様と施工上のポイント

主な仕様を表１に示す。

インナーコンセント　フリーアクセスフロア用

項目＼タイプ		角Ⅰ型	角Ⅱ型	角Ⅲ型
外形寸法		152×126mm	244×126mm	244×244mm
床面よりの出代		3mm（使用時のコード取り出し部16mm）		
材質	フロアプレート	ナイロン樹脂と鋼板の複合		
	ボックス	鋼板		

フリーアクセスフロアの種類は、床仕上げの方法（Ｐタイルまたはカーペット）、フロアパネルの材質（アルミ、鋼板、ＧＲＣ、ケイカル板、ウッド、樹脂）、フロアパネルの構造（リブ構造の有無）など多岐にわたっている。インナーコンセントは、それぞれに取り付けできることが必要であるが、今回は、取り付け可能な条件をつぎのように設定・標準化した。ただし、基本的に取り付け不可能なものはなく、下記条件以外のフリーアクセスフロアには、オーダーメードで対応することとした。

■標準取り付け可能条件

(1)　スラブ面からフロアパネル（仕上げ材は含まない）上面までの高さが58mm以上である。(図３)

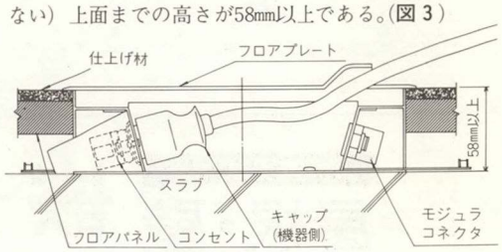


図３

(2)　フロアパネルの構造は、リブ構造でなく、裏面に凹凸がない。

(3)　仕上げ材を含むフロアパネルの厚みは18mm～36mmである。

施工性については、以下の点をとくに考慮した。

(1)　特殊な工具なしで施工できる。

(2)　フロアパネルをはずすことなく、上から、取り付け、結線作業ができる。

(3)　強電コンセントと弱電コンセントは分離施工ができる。

インナーコンセントの取り付けにはフロアパネ



写真４　露出タイプのフロアコンセント

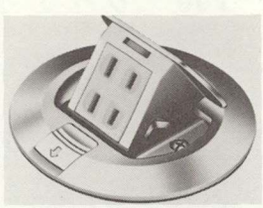


写真５　アップコン

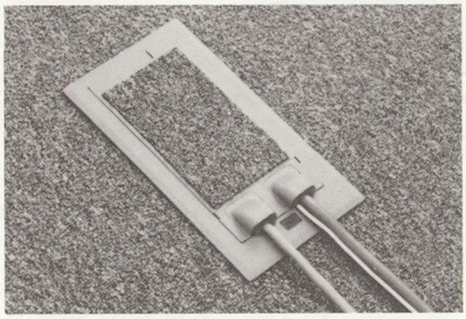
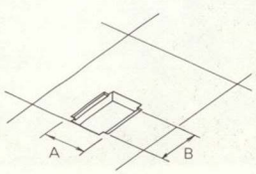


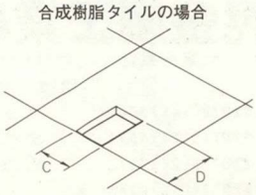
写真６　インナーコンセント



穴あけ寸法表　(mm)

	A	B
Ⅰ型	108～112	140～144
Ⅱ型	108～112	232～236
Ⅲ型	226～230	232～236

合成樹脂タイルの場合



合成樹脂タイル切り取り寸法表　(mm)

	C	D
Ⅰ型	126	108
Ⅱ型	126	200
Ⅲ型	244	200

図４

「設備の頁」は、Ｐ88へつづく

日本建築協会

月間の動き

昭和62年11月分

定時評議員会

25日　5時～5時半　於　本会会議室
出席者　多井副議長ほか44名（委任状共）
議事　(1)理事2名補選の件
(2)昭和63年度評議員選出数決定の件

理事会

常任理事会
25日　4時～4時50分　於　本会会議室
出席者　佐野会長ほか16名
議事　(1)理事2名補選の件
(2)調査業務（住・都公団）受託の件
(3)事務局職員下期賞与支給の件
(4)事務局職員定年退職の件
(5)事務局職務分担改正の件
(6)入退会者承認の件
(7)報告事項

編集委員会

第10回計画分科会
4日　6時～8時半　於　本会会議室
出席者　吉村・鈴木・角島各委員
議事　計画特集〝都心居住〟の企画
第7回投稿欄小委員会
5日　6時～8時　於　本会会議室
出席者　増渕副委員長ほか5名
議事　(1)アンケート集計と掲載方法
(2)「会員グループの頁」の企画
(3)「大先輩に聞く」の企画
第7回作品作風小委員会
11日　5時～8時　於　本会会議室
出席者　高瀬副委員長ほか3名
議事　(1)最近の掲載状況
(2)新建築調査表の選定
(3)「Gallery」内容報告・検討
(4)作品作風探訪
第8回編集委員会
12日　4時～6時　於　本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか3名
議事　(1)昭和62年11月号「建物と街並みの接点―建物の外構」特集経過報告
(2)昭和62年12月号「第34回青年技術者」特集経過報告
(3)昭和63年正月号「ホテル物語」特集経過報告
(4)2月号（予定）「軟弱地盤と基礎」特集報告
(5)2or3月号（予定）「設備におけるLCCとリフレッシュ」特集報告
(6)「東海」特集について
(7)3月号以降の特集企画
(8)来年の表紙デザインの経過報告
(9)各小委員会・分科会からの報告
(10)委員会組織への提案
(11)収支状況報告
第6回施工材料分科会
12日　6時～8時　於　本会会議室
出席者　山田幹事、大木委員
議事　63年4月号施工材料特集「建物の外装リフォーム」（仮称）の企画
第3回書評委員会
17日　6時半～8時半　於　本会会議室
出席者　増渕副委員長ほか4名
議事　12月号以降の企画と検討―「書評」、「私が読んだ本」、企業誌の検討
第2回法令分科会
18日　2時～3時半　於　本会会議室
出席者　中島幹事、松田・笠井委員
議事　「法令コーナー」の企画
第7回施工材料分科会
25日　4時～7時　於　本会会議室
出席者　山田幹事ほか3名
議事　(1)編集委員会報告
(2)63年4月号施工材料特集「建物の外装リフォーム」の企画
(3)「施工材料の頁」の企画
「中国支部」特集第2回編集委員会
25日　1時半～4時　於　広島県庁
出席者　平山委員長ほか6名
議事　特集関連掲載作品選定
第7回広告企画小委員会
26日　4時～6時　於　本会会議室
出席者　渡辺・藤田副委員長ほか5名
議事　(1)11月号「建物と街並みの接点―建物の外構」特集広告収入報告
11月号「昭和設計創立30周年記念作品経歴」広告収入報告
(2)12月号「第34回青年技術者」特集報告
12月号「ARI建築事務所創立25周年記念作品経歴」広告収入報告
(3)1月号「ホテル物語」特集報告
1月号「謹賀新年挨拶広告」収入報告
1月号「新建築・作品」収入報告

事業委員会

第5回見学会小委員会
5日　6時～7時半　於　本会会議室
出席者　福本幹事ほか9名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)9月、10月の見学会実施報告
「大阪国際交流センター新築工事の見学」
「大阪府立病院新病院の見学」
「本年度茶室見学会：大徳寺の茶室を訪ねる」
(3)11月の見学会について
「重文・旧山邑家住宅保存修理工事の見学」
(4)12月以降の見学企画について
第5回若い会員の集い小委員会
10日　6時半～9時半　於　本会会議室
出席者　石川副委員長ほか7名
議事　(1)前回の事業委員会の報告
(2)『昭和生まれ―関西の建築家50』出版記念「関西建築家50展」実施報告
(3)創立70周年記念事業関係の企画
(4)本年度の事業企画
広報小委員会第5回研修分科会
11日　6時～8時半　於　本会会議室
出席者　原見副委員長ほか5名
ゲスト　井之部氏（竹中工務店）、中元氏（安井建築設計事務所）、能丸氏（大林組）
議事　「CAD研修会」の企画
第5回事業委員会
12日　0時半～2時　於　本会会議室
出席者　鶴田副委員長ほか4名
議事　各小委員会の事業報告並びに事業企画
第33回工高生デザインコンクール入選者表彰式
21日　2時～6時　於　本会会議室
設計課題：「学校に隣接して建つ同窓会館」
出席者　坂内一の会代表、針崎七星建築懇話会代表、太田審査委員長ほか3審査員、片倉・中野教育正副委員長ほか2名

建材委員会

12日　3時半～5時半　於　本会会議室
出席者　金井委員長ほか17名
材料説明：イマルク（コルクタイル）／担当：西川委員
議事　今後の検討建材

出版委員会

19日　5時～6時　於　本会会議室
出席者　山田副委員長ほか6名
議事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定

70周年記念事業

ヨーロッパ研修旅行「ふたつの世紀末の建築を訪ねて」
■旅行説明会
4日　6時半～7時半　於　本会会議室
参加者　20名
■研修旅行
日　程　**11月21日～12月5日**〈15日間〉
参加者　29名
訪問先　ウィーン、フランクフルト、ダルムシュタット、デュッセルドルフ、ケルン、ブリュッセル、パリ、グラスゴー、ロンドン
第6回住まいの絵本編集委員会
12日　4時～5時　於　大阪市本庁
出席者　北浦委員長ほか8名
議事　(1)絵本の最終稿
(2)絵本の題名
(3)今後のスケジュール

建築クラブ

朝食会
10日　8時半～10時　於　大阪グランドホテル
演題　「我が社の経営理念」
講師　大和実業㈱社長　岡田一男氏
出席者　61名
役員会
12日　12時～2時　於　本会会議室
出席者　塚本代表ほか4委員
議事　(1)11～12月スピーカー報告
(2)10月末現在収支状況報告等
(3)新年宴会開催の件
(4)2月以降のスピーカーについて

P86の「設備の頁」よりつづく

在阪建築8団体会長会議

13日　12時～2時　於　大阪ガスビル
出席者　各団体正副会長・事務局、合計23名

忘　年　懇　親　会

第2回実行委員会

13日　3時～5時　於　建築健保会館
出席者　藤原昇委員長ほか各団体委員、事務局
議事　(1)賛助、寄贈品の申込状況報告の件
(2)今後の諸準備について
(3)その他

建築基準法改正に関する勉強会

16日　1時～5時
於　大阪社会福祉指導センター
聴講者　323名
挨拶／山田耕蔵（大阪府建築士会）
法改正の概要―単体規定―／
吉田勝也（大阪府建築指導課）
法改正の概要―集団規定―／
桐石正史（大阪市建築指導課）
質疑応答
共催：日本建築協会・新日本建築家協会ほか8団体
後援：大阪府・大阪市

11月の入会者（敬称略）

〔団体会員4社〕
暁建設工業㈱大阪支店　㈱榎並工務店
川崎設備工業㈱大阪支店　㈱ゾディアック
〔個人会員7名〕
浅野　裕（建築計画A&A浅野設計室）　小林　泰樹（竹中工務店広島支店）　住田　昌二（大阪市立大学）
多治見左近（大阪市立大学）　竹山　清明（生活空間研究所）　三宅　淳（大林組）
山崎　政人（阪神電気鉄道）
〔准会員1名〕
門三希久典（大工大）

松井昭光氏定年退職さる

本会事務局次長兼編集課長松井昭光氏には、昭和62年11月30日をもって定年退職されました。氏は、昭和28年4月13日本会に奉職し、今日まで34年8カ月の長きにわたり、本会機関誌「建築と社会」（延べ416号）、建築技術選書（38冊）、同特装版（3冊）、プロのノウハウ（12冊）の編集・発行をはじめ、建築関係法規の制定改廃に関する研究およびその普及など、本会の枢要業務を担当され、本会の発展に大きく貢献されました。

今年は、本会創立70周年の記念すべき年でありますが、本会70年の歴史のうち、実にその二分の一を本会一筋に歩んでこられた氏のご労苦を賛え、その業績に対し、誌上をもって感謝の意を表します。

社団法人　日本建築協会

ルの切り取りが必要である。**図4**にフロアパネルの切り取り寸法を示す。

■主な性能

インナーコンセントの性能については，とくに、フロアプレートの耐荷重性能を重視した。具体的には、人の歩行を考慮した結果、140kg（体重の2倍）に耐える構造とし、**図5**に示す試験方法で確認を行った。このとき荷重子の寸法は、女性のハイヒールによる集中荷重を想定し、ヒールの大きさを目途としてφ11mmと決めた。

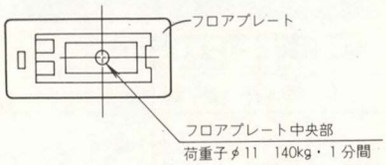


図5

フリーアクセスフロア用配線器具・丸型

近年急速に普及しつつある低床タイプに使用できる複合コンセントとして、「フリーアクセスフロア用配線器具・丸型」がある。主な仕様は以下のとおりである。

■主な仕様

(1)　外形寸法φ160mm
(2)　床面よりの最大出代15mm
(3)　フロアプレート材質；アルミダイカスト

適用可能なフリーアクセスフロアの条件をつぎに示す。

(1)　仕上げ材を含む床仕上げ高さが49mm以上。
(2)　仕上げ材を含むフロアパネルの厚みは、35mm以下。

フロアパネル面への取り付け性については、回転式はさみ金具方式（取付ねじ連動）の採用により、容易に取り付けができるようにしている。取り付け状態図、フロアパネル切り取り寸法は**図6**に示すとおりである。

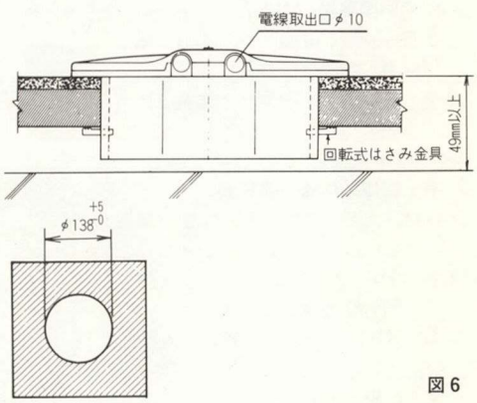


図6

おわりに

インテリジェントビル用複合配線器具のひとつとして、壁用および床用（フリーアクセスフロア用）に引き続いて、床用インナーコンセントシリーズでは、電線管工事用がすでに発売されている。さらに、時代とともに進むビル建築工法および新しい配線システムに対応した商品開発（例：フロアダクト用・光ファイバーケーブル用の充実等）を、今後とも進める予定である。

（やすい　たかあき　松下電工株式会社ＩＢＳ開発センター
商品企画開発部担当主査）

賀　正

1988
設計事務所有志



株式会社
A.R.I 建築事務所

代表取締役所長　亀井晃治

本社事務所　大阪市南区谷町7丁目3番4-203号 新谷町第3ビル2F　TEL(06)768-1771(代)
テレファックス(06)768-1406
アトリエ　東大阪市上石切町2丁目14－35　TEL (0743) 73－6137



株式会社 アーバンライフ建築事務所

代表取締役　小沼俊平

大阪市北区梅田1丁目3番1－500号　電話　大阪　06 (341) 2451－5番
東京都港区六本木3丁目3番29号　電話　東京　03 (582) 2451－5番

株式会社 伊東建築設計事務所

代表取締役　竹原永一郎

〒556 大阪市浪速区幸町2丁目2番20号(清光ビル)　電話(562)4343～5

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役社長　鋤納忠治

本　　社　名古屋市中区錦3丁目3-6(日経錦別館)　電話〈052〉951-1110(代)
東京事務所　東京都千代田区神田美土代町7(久保ビル)　電話〈03〉294-6061(代)



株式会社石本建築事務所

会　　長　長野八三二
代表取締役社長　古畠誠一
大阪支所長　山内恒男

本　　社　〒102 東京都千代田区九段南4－6－12　電話03 (262) 7161
大阪支所　〒542 大阪市南区島之内1－20－19(白水ビル)　電話06 (251) 7507代
支　　所　札幌・名古屋・九州　　出張所　仙台・横浜



株式会社 泉沢建築設計事務所

代表取締役　泉　沢　哲　史

〒530 大阪市北区神山町14番3号(木津信ビル)　TEL(06)364-9071㈹

URABESEKKEI 株式会社 浦辺設計

URBAN DESIGN & ARCHITECTURE FOR BEAUTIFUL ENVIRONMENT

代表取締役　松　村　慶　三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル〒530　電話 06(341)1727

東京事務所　電話 03(263)9758　岡山事務所　電話 0862(33)6010　福岡事務所　電話 092(761)2206

株式会社 小西設計

取締役会長　小　西　　岬

取締役社長　橋　本　正　章

本　　社　大阪市西区立売堀1丁目12番16号　電話(532)4051代表
大阪事務所　大阪市西区阿波座1丁目15番15号(第一協業ビル)　電話(532)4051代表
東京事務所　東京都千代田区神田鍛冶町3－3(大木ビル内)　電話(256)9301代表
広島事務所　広島市中区大手町2丁目7番1号(三葉ビル)　電話(246)0144



株式会社 昭和設計

建築・都市・上下水道
調査計画・設計監理

代表取締役社長　岡　本　行　善

代表取締役副社長　林　　唯　夫

本社事務所　大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル　TEL代表 532－3421
神戸事務所　神戸市中央区八幡通4丁目2番17号 郵船航空ビル　TEL078－251－0651
東京事務所　東京都港区赤坂3丁目12番5号 赤坂田町ビル　TEL 03－583－2086

株式会社 AAA(スリーエース)総合設計

代表取締役社長　浅　井　潤　一

大阪市南区東清水町66(朝日プラザ心斎橋東ビル2F)〒542　TEL06(245)7300(代)



株式会社 創美設計

代表取締役　中　原　英　雄

大阪市北区末広町3番21号 星和地所扇町ビル6階　TEL 大阪(06)312－3587代表

株式会社 大建設計

取締役社長　吉田　周

大阪市西区江戸堀1—12—8 安田生命大阪ビル　電話 06—441—9351(代)
東京・横浜・名古屋・京都・九州・室蘭

株式会社 東海設計

代表取締役社長　小坂忠勝

本　社　名古屋市中区栄3丁目7番1号(伊勢町ビル) 〒460 TEL052-261-2651(代表)
東京事務所　東京都中央区京橋1丁目14番4号(東信ビル) 〒104 TEL 03-561-0815(代表)

東西建築サービス株式会社

取締役社長　中村隆慶

本　社　〒541 大阪市東区横堀2丁目48番地　電話 06-202-3626(代)
支　社　〒103 東京都中央区日本橋馬喰町2丁目1番1号　電話 03-663-1765(代)
(住友銀行浅草橋ビル4階)

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　東畑謙三
取締役社長　市川宏

本社 大阪事務所　大阪市東区伏見町5丁目19　電話 (06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2丁目4番3号(永田町ビル)　電話 (03)581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区名駅3丁目25番9号(堀内ビル)　電話(052)571-8471
九州事務所　北九州市小倉北区魚町1丁目4番21号(清和ビル)　電話(093)541-6531

株式会社 長田建築事務所

長田正雄

〒542 大阪市南区上汐2丁目4-12　ケーエスビル　電話 768—6121

株式会社 日建設計

取締役社長　薬袋公明

〒541 大阪市東区高麗橋5丁目21番地1
電話 06-203-2361(大代表)

日積工務株式会社

代表取締役　生島道春

本　　社　〒542 大阪市南区島之内1丁目14番27号(宇野ビル)　TEL(06) 251−3195代表
東京支所　〒110 東京都台東区東上野3丁目16番5号(サンク・ユービル)　TEL(03) 836−1271代表
名古屋支所　〒460 名古屋市中区錦2丁目9番25号(豊島第2ビル)　TEL(052)221−7561代表
本社分室　〒542 大阪市南区鰻谷中之町62番地(市川ビル)　TEL(06) 245−7685代表
㈱京都日積　〒602 京都市上京区今出川通室町東入今出川町333番地(第2高橋ビル)　TEL(075)441−5690

株式会社 林設計事務所

代表取締役　林　茂

大阪事務所　〒531 大阪市大淀区長柄中3丁目1番8号　電話 (06) 351−6831
和歌山事務所　〒646 和歌山県田辺市稲成町東皆代231番地の6　電話 (0739) 22−8227

株式会社 安井建築設計事務所

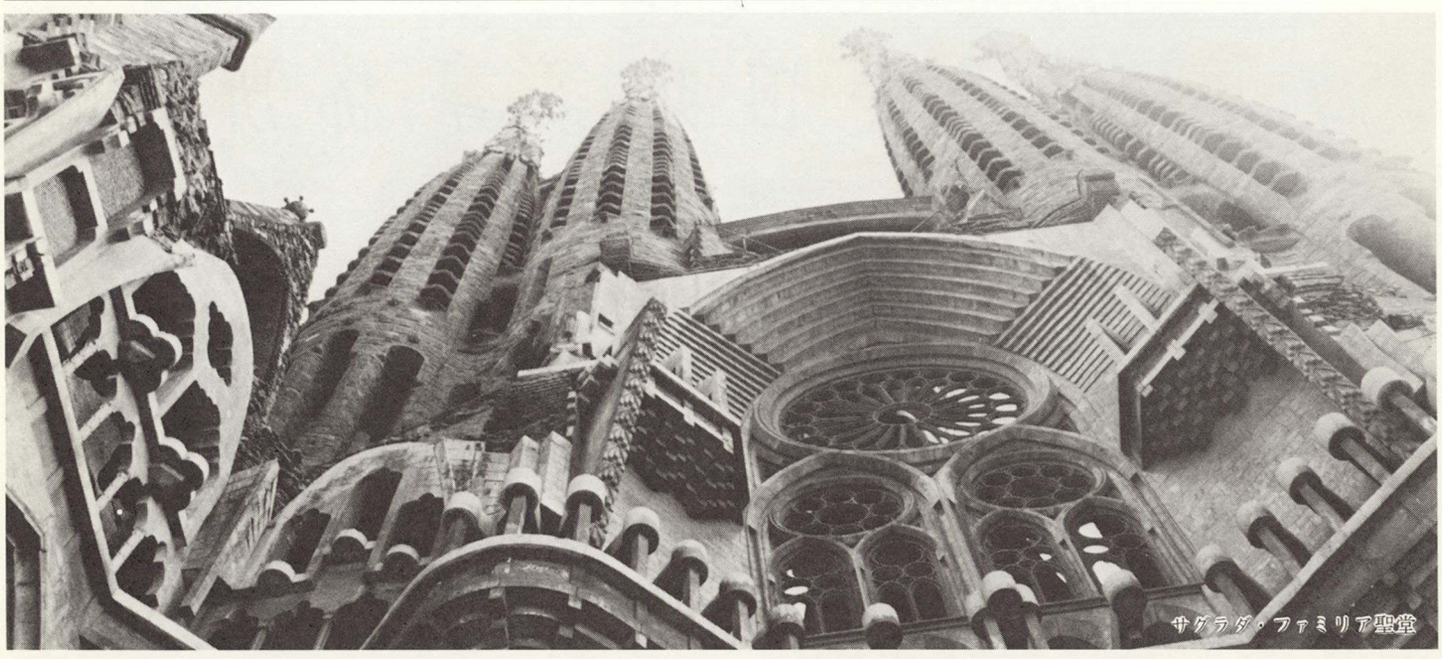
取締役社長　佐野正一

本　社　大阪市東区島町2丁目7番地　電話　06(943)1371(大代)
支　社　札幌・東京・名古屋・大阪・神戸・広島・福岡

株式会社 横河建築設計事務所

代表取締役社長　小池正雄
取締役所長　河村栄蔵

本　　社　東京都目黒区下目黒1−2−18　TEL (03) 492−7441
大阪事務所　大阪市東区伏見町5−42(大和生命ビル)　TEL (06) 202−4509



サグラダ・ファミリア聖堂

賀　正

1988
建設業者有志

株式会社　あめりか屋

取締役会長　前野慶太郎

〒530　大阪市北区中之島四丁目3番25号　電話（06）444－1501

スペースに挑む

株式会社　青木建設

代表取締役社長　青木宏悦

本　社●〒531 大阪市大淀区大淀南1－4－15　TEL 06(458)5851(大代表)
東京本社●〒150 東京都渋谷区渋谷2－17－3　TEL 03(407)8511(大代表)
支　店●札幌/仙台/東京/横浜/名古屋/京都/大阪/神戸/四国/広島/福岡/台北/香港
マカオ/シンガポール/ブルネイ/ロサンゼルス/ボルチモア・ワシントン/ドミニカ
パナマ/ロンドン/上海/サンパウロ/シドニー/バルセロナ/リスボン

株式会社　新（アタラシ）工務所

取締役社長　新　昭一

本　店・大阪市北区曽根崎新地2丁目6番11号　電話 代表 大阪(347) 0110番
支　店・東京都千代田区猿楽町2丁目1番14号　電話 代表 東京(291) 3741番
支　店・名古屋市中区大須4丁目1番71号（時計ビル）　電話 名古屋 (262) 1725番

株式会社　淺沼組

取締役社長　淺沼茂夫

本社・大阪本店　大阪市天王寺区東高津町12番6号　電話 06(768)5222
東京本店　東京都新宿区荒木町5番地　電話 03(357)0261
名古屋支店　名古屋市中村区名駅南三丁目3番41号　電話052(571)5571
支　店　札幌・仙台・横浜・広島・福岡

技術と誠意で未来を築く

安藤建設株式会社大阪支店

取締役 支店長　沖田幸作

大阪市福島区福島6丁目3番21号　電話 代表 06 (453) 2190
本　社・東京都港区芝浦三丁目12番8号　電話 大代表 03 (457) 0111
支　店・名古屋・仙台・静岡・九州・広島・横浜・札幌
営業所・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・京都・沼津・札幌・宇都宮・北九州・熊本

株式会社 今西組

取締役社長　今西壽雄

本社　大阪市天王寺区上本町6丁目6番23-309号　電話06(779)3361
支店　東京都新宿区内藤町1番地　電話03(354)0581
営業所　京都・奈良・西宮・神戸・埼玉

大木建設株式会社

代表取締役社長　野澤義勝
大阪支店長　渡邊昭典

本社　東京都千代田区神田須田町1丁目23番2号　電話　03（255）4111㈹
支店　大阪市西区南堀江2丁目12番10号　電話　06（538）3071㈹

大之木建設株式会社

取締役社長　大之木一雄

本社　呉市中央3丁目12番4号　電話　0823(21)1511番
支社　広島市中区本川町3丁目1番5号　電話　082(231)5244番
支店　東京都港区麻布台2丁目2番12号　三貴ビル4F　電話　03（585）3655番
〃　福岡市城南区神松寺2丁目13番24号　電話　092(863)7171番

株式会社 大林組

取締役社長　大林芳郎

東京本社・東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電話　03（292）1111番
本店・大阪市東区京橋3丁目37番地　電話　06（946）4578番
支店・札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州

株式会社 奥村組

取締役社長　奥村俊夫

本社　大阪市阿倍野区松崎町2の2の2　電話 大阪(06)621−1101(大代表)
東京本社　東京都港区元赤坂1の3の10　電話 東京(03)404−8111(大代表)
支社　東京・大阪
支店　札幌・仙台・浦和・横浜・千葉・新潟・名古屋・神戸・広島・高松・北九州・福岡

鹿島建設株式会社

代表取締役社長　鹿島昭一
取締役大阪支店長　津垣昭夫

本社　東京都港区元赤坂1−2−7　電話　03(404)3311(大代)
大阪支店　大阪市西区靱本町1−11−7　電話　06(448)3311(大代)



海原建設株式会社

代表取締役　海原　壹一

〒530 大阪市北区梅田1丁目2番2—300号(大阪駅前第2ビル3F)　電話06(346)1900番



株式会社 金山工務店

代表取締役社長　佐野　友彦

本社	大阪市東区内淡路町1丁目2番地	〒540	TEL 06—942—5461㈹
東京支店	東京都中央区日本橋堀留町1丁目10番12号 共同ビル6F	〒103	TEL 03—663—7844㈹
京都支店	京都市下京区烏丸通り四条下る水銀屋町635番地 梓ビル9F	〒600	TEL 075—351—5841㈹
神戸支店	神戸市中央区加納町3丁目1番25号 広瀬ビル9F	〒650	TEL 078—392—1761㈹
堺支店	堺市三国ケ丘御幸通り8番地 三国ケ丘ビル2F	〒590	TEL 0722—22—3003
滋賀支店	滋賀県大津市皇子ケ丘1丁目2番3号	〒520	TEL 0775—24—1816
出張所	横浜・吹田		



株式會社柄谷工務店

取締役社長　柄谷順一郎

本　社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(411)1451(代)
営業所　大阪・西宮・神戸・高砂・豊田・三田・川西



共立建設株式会社 大阪支店

取締役支店長　加藤毅夫

支　店　大阪市東区内本町2丁目45番地　TEL 06—942—2491(代表)
本　社　東京都渋谷区道玄坂1丁目16番10号　TEL 03—461—6141(代表)

今日を鍛え、明日に挑戦する



株式会社 近畿建設

取締役社長　川崎健市

本社	大阪市西区江之子島1丁目2番2号	電話	06(448)5601代
神戸支店	神戸市中央区加納町3丁目1—25	電話	078(392)5191代
滋賀支社	滋賀県栗太郡栗東町岡1933の1	電話	0775(52)1361代
北大阪営業所	豊中市浜3丁目6—9 中川ビル	電話	06(332)8451代



株式会社 熊谷組 大阪支店

取締役社長　熊谷太一郎
常務取締役大阪支店長　小池孝之

本　社　東京都新宿区津久戸町17番1　電話03(260)2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話06(352)1151番(大代表)

五洋建設株式会社

代表取締役社長　水野廉平
常務取締役大阪支店長　深谷林三

本　社　東京都文京区後楽2－2－8　電話 03（816）7111(代表)
支　店　大阪市北区梅田2－2－25　電話 06（345）0631(代表)

コーナン建設株式会社

代表取締役　原精一

大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話(06)308—1551大代表
東京都中央区京橋3丁目13番10号(中島ゴールドビル)　電話　(03)564—5711代表
神戸市中央区磯上通5丁目1番24号　電話 (078)221—6293代表

株式会社　鴻池組

代表取締役社長　鴻池一季

本　社
大阪本店　大阪市東区北久宝寺町4－27　電話 大阪(244)3500(ダイヤルイン受付台)
東京本店　東京都千代田区神田駿河台2-3-11　電話 東京(296)7700(ダイヤルイン受付台)
支　店　神戸・京都・横浜・名古屋・北陸・広島・四国・山陰・福岡・南九州・仙台・北海道

株式会社　金剛組

代表取締役　金剛利隆

本　社　〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目14番29号　TEL 大阪06(779)7731(代)
関東支店　〒350-02 埼玉県入間郡鶴ヶ島町脚折町1丁目40—12　埼玉0492(87) 0301

佐藤工業株式会社

取締役社長 佐藤欣治　常務取締役大阪支店長 梅木正二

本　社　東京都中央区日本橋本町4-12-20　電話　東京(661)1231(大代)
大阪支店　〒541 大阪市東区北浜1丁目25番地　電話　大阪(203)7221(代表)
支　店　札幌・東北・関東・東京・横浜・北陸・名古屋・中国・四国・九州・クアラルンプール・シンガポール

ふれあいとつくる心を大切にする

山陽工業株式会社

取締役社長　俵茂

〒730 広島市中区十日市町1丁目1番9号 相生通り 鷹匠ビル4F　電話 (082)232-6471

清水建設株式会社

社　長　吉野照蔵
取締役大阪支店長　橘節哉

本　社　東京都中央区京橋2－16－1　電話03(535)4111
大阪支店　大阪市東区本町4－15－1　電話06(263)2811
支　店　名古屋・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌・横浜・千葉

積水ハウス株式会社

代表取締役社長　田鍋健

本　社　〒530 大阪市北区中之島6丁目2番27号(中之島センタービル)　☎06(446)3111
東京支社　〒160 東京都新宿区西新宿1丁目10番1号(安田生命第2ビル)　☎03(342)7221

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長　錢高一善

本　社　大阪市西区西本町2丁目2番11号　大阪(06)531－6431
東京本社　東京都千代田区一番町31番地　東京(03)265－4611
支社・支店　大阪・東京・札幌・仙台・北関東・千葉　横浜・北陸・名古屋・広島・四国・福岡

大成建設株式会社

取締役社長　里見泰男
専務取締役大阪支店長　平島治

本　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル　TEL 東京(348)1111大代表
大阪支店　大阪市東区北浜4丁目38番地　TEL 大阪(203)1131大代表
支　店　東京・名古屋・九州・札幌・東北・広島・横浜・北信越・四国

限りない未来への挑戦

大日本土木株式会社

専務取締役大阪支店長　牧野保

大阪支店　〒530 大阪市北区堂島二丁目2番2号 近鉄堂島ビル　電話 06 (341) 5931
東京本社　〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町2丁目35番地　電話 03 (268) 5511

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541　大阪市東区本町4丁目27　電話 大阪 (252) 1201番(大代表)

鉄建建設株式会社大阪支店

専務取締役支店長　谷内与一

〒541 大阪市東区瓦町4丁目56番地(瓦町K.Tビル)　電話(201)1881(代表)
本社・東京都千代田区三崎町二丁目五番三号　電話 東京(262)3411(代表)

戸田建設株式会社

代表取締役社長　戸田守二
常務取締役　大阪支店長　加藤久郎

本　社　東京都中央区京橋1丁目7番1号　TEL東京03(562)6111
大阪支店　大阪市西区西本町1丁目13番47号　TEL大阪06(531)6095
支　店　東京・関東・横浜・大阪・名古屋・札幌・仙台・広島・四国・九州

東海興業株式會社大阪支店

常務取締役支店長　三富和

本　社　東京都中央区銀座7－13－10　電話 東京(545)5111
大阪支店　大阪市北区堂島浜2-2-8 東洋紡ビル　電話 大阪(348)5602
支　店　名古屋・仙台・札幌・福岡・横浜

飛島建設株式会社 大阪支店

専務取締役支店長　石原昭一郎

大阪市東区島町2－28－1　〒540　TEL 06(942)2481
本社/東京都千代田区三番町2　〒102　TEL 03(263)3151
支店/札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・北陸・大阪・広島・四国・福岡

南海建設株式会社

取締役社長　松川義一

本社　大阪市浪速区恵美須西3丁目14番22号　電話 06(644) 1212番
支店　東京都千代田区神田須田町1丁目5(新須田町ビル)　電話 03(251) 8431番
支店　大阪府岸和田市沼町18番1号(川長ビル)　電話 0724(23)2881番

明日をささえる

西松建設

代表取締役社長　柴田平
取締役関西支店長　瀬尾貞甚

本　社　東京都港区虎ノ門1－20－10　電話03(502)0211
関西支店　大阪市東区釣鐘町2－41　電話06(942)1131

株式会社 日興

取締役社長　平本俊友

本　社　広島市中区国泰寺町1丁目8番4号　電話（082）244－2111番

限りない可能性を追求する

日本建設株式会社

社　長　積山吉興

本　　社　大阪市東区備後町2丁目58番地　TEL(06)226－0630(代)
東京本社　東京都文京区小石川2丁目6番22号　TEL(03)818－6081(代)
支　　店　東京・大阪・名古屋・福岡・札幌・仙台・広島

日本国土開発株式会社

取締役社長　石上立夫
取締役大阪支店長　石井富雄

本　　社　東京都港区赤坂4丁目9番9号　電話（03）403－3311（大代表）
大阪支店　大阪市西区西本町1丁目10番10号（西本町全日空ビル）　電話(06)538－7351(代)

野村建設工業株式会社

取締役社長　野村文英

本　　社　大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話(202)4791代表
東京本部　東京都千代田区大手町2丁目1番1号　電話(241)4171代表

長谷工グループ

長谷川工務店

代表取締役社長　合田耕平

本　　社　東京都港区芝2－32－1　電話 03（456）5451（大代表）

先端技術と建設をむすぶ フジタ工業

大阪支店　大阪市北区堂島2丁目1番16号　電話 06(348)4510

不二建設株式会社

取締役社長　山口慎一郎

大阪本社　大阪市西区西本町1丁目1番9号　〒550　電話06－541－5534代表
FAX06－543－0229
東京本社　東京都新宿区西新宿4丁目5番2号　〒160　電話03－377－5171代表
FAX03－374－2217
支店・出張所　札幌・名古屋・福岡・ロスアンゼルス・仙台・静岡・大垣・京都・広畑・広島・大分

不動建設株式会社

取締役社長　庄野勝

大阪本社　大阪市東区平野町5丁目30番地　電話06（201）1121番
東京本社　東京都台東区台東1丁目2番1号　電話03（831）9111番
支　店　北海道・東北・千葉・横浜・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州

FUJIKI

株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤木鐵三

本　社　〒540 大阪市東区両替町1-13　☎ 06-944-1468代　本支店　大阪・東京・倉敷・四国・京都・福岡
東京本社　〒160 東京都新宿区三栄町23-4　☎ 03-357-1600代　営業所　埼玉・多摩・横浜・静岡・名古屋・宇治・泉南・神戸・岡山・広島・徳島・新居浜・長崎・南九州

豊國建設株式会社

代表取締役社長　松丸哲也

本　社　大阪市北区天満橋2丁目3番1号　電話06（353）1001
支　店　東京・京都・東北
営業所　北上・盛岡・二戸・新井・福井・敦賀・舞鶴・尼崎・加古川・滝野・益田・三隅

前田建設工業株式会社大阪支店

取締役支店長　川西光治

支　店　大阪市都島区東野田町2丁目4番20号　電話 大阪（353）7891（代表）
本　社　東京都千代田区富士見2丁目10番26号　電話 東京（265）5551（代表）

株式会社 松村組

取締役会長　松村雄二
取締役社長　松村雄吾

本　社・大阪市北区天満2丁目1番33号　電話 大代表 大阪(353)1131
支　店・東京・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡



株式会社 **道田工務店**

代表取締役社長 道田泰平

本　社・兵庫県川西市中央町18番21号　電話　0727(57) 9 7 7 7番
大阪支店・大阪市東区平野町3丁目22番1　電話　06(203) 6 8 6 8番



三井建設 株式会社 大阪支店

常務取締役大阪支店長 高尾清次

大阪支店　大阪市東区本町5－15－2（本町三井ビル）　TEL　06—243—3411
本　店　東京都千代田区岩本町3－10－1　TEL　03—864—3456



村角建設株式会社

代表取締役 辻　善仁

本　社　〒559 大阪市住之江区浜口西2丁目12番9号　電話06(672)3551～6番
支　店　東京・神戸・堺・北海道・広島・香港



村本建設株式会社

代表取締役 村本豊嗣

奈良本店　奈良県北葛城郡広陵町安部547番地　電話 0745 (55) 1151(代表)
大阪本社　大阪市天王寺区四天王寺一丁目5番43号　電話　06(774) 2111(代表)
東京本社　東京都千代田区二番町3番4　電話　03(238) 2151(代表)
支　店　札幌・東北・横浜・名古屋・三重・京都・神戸・和歌山・中国・九州他



望月建設株式会社

代表取締役社長 望月小太郎

本　社　大阪市北区中崎西2丁目3番12号　電話 大阪 (375) 2345(代表)



株式会社 **盛工務店**

代表取締役 盛　清久

〒530 大阪市北区南森町1－1－26　電　話　06 (364) 1581代表
FAX　06 (364) 1586

株式会社 森組

取締役社長 森 幸彦

本 社 大阪市東区横堀2丁目14番地 電話 201－2761(代)
支 店 東京・名古屋・奈良・神戸・九州
営業所 仙台・茨城・横浜・新潟・甲府・滋賀・京都・和歌山・紀泉・西宮・広島・高松・松山・徳島・熊本

総合建設業
株式会社 安井杢工務店

代表取締役 安井洋太郎

本 社 〒617 京都府向日市上植野町御塔道42
TEL (075)933—0012㈹ FAX (075)933—4931

株式會社 米田工務店

代表取締役 米田良男

本 社 〒543 大阪市天王寺区逢阪1丁目1番7号 TEL 大阪(06)771-7771代表
FAX 大阪(06)779-2676



賀　正

1988

団体・建材・設備工事・報道有志

財団法人 **大阪建築防災センター**

理事長　小西　岬

〒540 大阪市東区常盤町1丁目39(大阪フコク生命ビル5階)　電話 06 (943) 7253

社団法人 **日本建築協会京都支部**

支部長　橋詰一雄

〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入 建設会館　電話 075(211)2857・2877

創業33年

―もっとも信頼され、読まれている情報紙―

株式会社 **建設日報社**

代表取締役社主　重村登龍

本社　〒550 大阪市西区靱本町2－5－2　TEL 06(444)2405-9
別館　〒550 大阪市西区江之子島1-6-2　TEL 06(444)6431-4

大阪で唯一の

株式会社 **日刊建設新聞社**

代表取締役社長　中山敏夫

大阪本社　〒541 大阪市東区高麗橋1丁目25(高麗橋ビル)　電話 202－6861(代表)
社長室　〒541 大阪市東区高麗橋1丁目25(高麗橋ビル)　電話 229－0341
分室　〒541 大阪市東区高麗橋詰町26(ユニ高麗橋)　電話 941－6847(代表)

建設業界の情報は……日刊建設産業新聞
近畿圏の工事ニュースは……日刊建産速報

株式会社 **日刊建設産業新聞社**

常務取締役大阪支社長　中村勝則

大阪支社　〒541 大阪市東区淡路町1丁目14(八千代ビル)　電話06(231)8171(代)
神戸支局　〒651 神戸市中央区八幡通4丁目2－9　電話078(291)0541～2
京都支局　〒602 京都市上京区河原町丸太町東入俵屋町460　電話075(211)1911
本社　〒173 東京都板橋区板橋1丁目48－9　電話03(961)1691(代)

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依 藤 孝 蔵

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号 TEL(06)351—5428㈹
FAX(06)351—5299

株式会社 梅 彦

取締役社長 松 永 嘉 一 郎

営 業 所 大阪市北区中崎西2丁目1番3号 電話 06 (312) 6171代
茨木工場 茨木市豊川3丁目1番6号 電話0726 (43) 5185代

各種硝子販売工事請負

株式会社 大阪硝子店

代表取締役 佐々木 廣

〒541 大阪市東区本町5丁目4番地 電話 大阪06(262)3536～8

大島応用化学工業株式会社

代表取締役社長 貞 利 政 和
代表取締役副社長 武 田 邦 夫

本 社 〒535 大阪市旭区太子橋1—15—22
電話 06(954)6521 ファックス 06(954)6480

大塚グループ

大塚オーミ陶業株式会社

代表取締役社長 大 塚 正 士

本 社 大阪市東区豊後町10番地 TEL 06 (943) 6695
支 店 東京都千代田区神田司町2丁目9番地 TEL 03 (294) 1388
工 場 滋賀県甲賀郡信楽町大字柞原字寺谷 TEL 0748 (82) 3001

建築用板硝子販売施工

キムラ硝子建材株式会社

代表取締役 木 村 喜 則

〒540 大阪市東区内平野町2丁目28番地 電話 06(941) 4181㈹

クリヤマ株式会社

代表取締役社長　栗山芳雄

本　社　大阪市淀川区西中島1丁目12番4号〒532　TEL. 06—305—1812大代表
TELEX. 523—3908
東京支店　東京都渋谷区南平台町15番13号〒150　TEL. 03－463－1841代表

装飾合せグラス
レインボーグラス　セーフティオパール
JIS表示許可工場　UL規格認承工場

株式会社 サトーセン

大阪工場　〒557 大阪市西成区南津守5丁目12番3号　TEL(06)658—1305
東京工場　〒144 東京都大田区東糀谷5丁目12番7号　TEL(03)743—5851

三協アルミニウム工業株式会社
大阪支店

取締役支店長　広瀬直也

〒550 大阪市西区靱本町1－9－15(近畿富山会館ビル6F)　電話 06(443)9601
支店　東京・大阪・名古屋・福岡・仙台・広島・札幌・四国・横浜・北陸・埼玉・千葉・神戸

経験を基礎に新時代のニーズに応える

三精輸送機株式会社

代表取締役　前田完一

本　　社：大阪府吹田市江坂町1丁目13-18 〒564　☎ 06 (385) 5621 (代)
東京支店：東京都渋谷区千駄ヶ谷5の32の6　☎ 03 (356) 5651
福知山工場：福知山市長田野町2丁目45番地　☎ 0773 (27) 1211
出 張 所：札幌・青森・秋田・仙台・名古屋・金沢・広島・福岡・沖縄

新菱冷熱工業株式會社

取締役会長　加賀美勝
取締役社長　有賀聖明

本　社東京都新宿区四谷2－4　電話03(357)2151(大代表)
大阪支社 大阪市北区堂島1-1-5(梅田新道ビル)　電話06(344)7102(代　表)

創意と誠意で信頼の輪をひろげる

鈴鹿塗料株式会社

取締役社長　田中茂徳

本　　社 〒510 三重県四日市市塩浜町1番地　TEL (0593) 46—1116
大阪営業所 〒550 大阪市西区千代崎1丁目3番7号　TEL (06) 581—3091

よりよき環境へ技術で挑む――

株式会社 精研

取締役社長 和田 正八郎

クリーンルーム
バイオ関連設備
設計施工

本　　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11－16(オートセンタービル)　電話 768－5031㈹
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2－5(九段ビル)電話 262－3241㈹
四国営業所　徳島県鳴門市撫養町小桑島前浜28－3(西谷ビル)　電話0886－85－0924㈹

東西アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 タテバヤシ商店

代表取締役 舘林彦四郎

〒601 京都市南区西九条大国町37　電話 (075) 681－7221(代)
FAX (075) 681－7224

TAJIMA

株式会社 タジマ

東京営業所　〒101 東京都千代田区岩本町3－11　電話 (03) 866－6101
大阪営業所　〒550 大阪市西区京町堀1－10－5　電話 (06) 441－5951

田島ルーフィング株式会社
東西アスファルト事業協同組合

東　京：〒101　東京都千代田区岩本町3－11－13　電話 (03) 862－8531
大　阪：〒550　大阪市西区京町堀1－10－5　電話 (06) 443－0431

Quality & Creation

常に一歩、時代をリードする空間づくりをめざします。

高島屋 装飾事業部

関西装飾部
〒542 大阪市南区難波5-1-5 TEL (06)632-3191
関東装飾部
〒103 東京都中央区日本橋2-4-1 TEL (03)211-4111

東亜印ルーフィング　日本工業規格表示許可工場 許可番号585038

東亜工業株式会社

建設省計振発
第55号認可

東亜アスファルト防水事業協同組合

本　社　〒581 大阪府八尾市南太子堂6丁目4番27号　電話 0729－94－5682
営業所　東京・名古屋・九州
工　場　大阪・東京・和歌山

東洋シヤッター株式会社

代表取締役社長　岡田　敏

本　社　〒540 大阪市東区両替町1－12(日生谷町ビル) 電話(06)943-6571(代)
東京本社　〒106 東京都港区六本木6-3(第一地所麻布ビル) 電話(03)497-2911(代)

コピーの綜合コンサルタント

naigai

株式会社 ナイガイ

代表取締役社長　木下　みどり

本　社　大阪市西区京町堀1-17-16(スミトービル)　TEL (06) 443-2800
御堂営業所　大阪市東区本町4－27(御堂ビル)　TEL (06) 252-3906
横堀営業所　大阪市東区横堀2丁目36－4　TEL (06) 202-5260
神戸営業所　神戸市中央区磯辺通4－2－26　TEL (078)251-0595

造園土木　設計施工

株式会社 西川造園

〒573 大阪府枚方市北中振3丁目27番17号
TEL 0720－33－8998代

株式会社 西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長　伴　一　郎

大阪市大淀区中津六丁目8番4号　電話 大阪 (06) 458－3628

電算写植システム

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7－5－30　電話06(606)1111代
東京営業所　〒160 東京都新宿区高田馬場3-12-6高田馬場西商店街ビル801号　電話03 (360) 6847
広島営業所　〒739-01 東広島市八本松町米満109－5　電話0824 (28) 6253
津山写植センター　〒708 津山市福田1372－1　電話08682(8)4377
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4－7　三宝ビル　電話0992 (26) 4371

ビニロイド　防水　責任施工
アコシート　防水　責任施工
ACロープ35　責任施工

防熱工事設計施工
プラスオール　製造販売
コーキング

三星産業株式会社

〒550 大阪市西区京町堀1－10－8(大栄ビル)　Tel.〈443〉9721(代)
〒101 東京都千代田区神田小川町3-28(三東ビル)　Tel.〈292〉1961(代)
出張所：札　幌〈721〉6031・6307　仙台〈21〉5366(代)
名古屋〈931〉4574・3393　福岡〈78〉3361(代)

三協アルミニウム工業株式会社代理店　日丘化成工業株式會社代理店
アルケン工業株式会社代理店　新明和工業株式會社代理店
豊和工業株式會社代理店　近畿車輌株式会社 代理店
信越ユニット株式会社代理店　住友ゴム工業株式会社代理店

ムツミ産業

ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳馬正明

〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号　電話（06）大代表 441－0378番
出張所：東京・広島　　工場：大津・竹原

シート防水は リベットルーフ　目地材は クラクタイト

山出興産株式会社

代表取締役社長　山出敬二

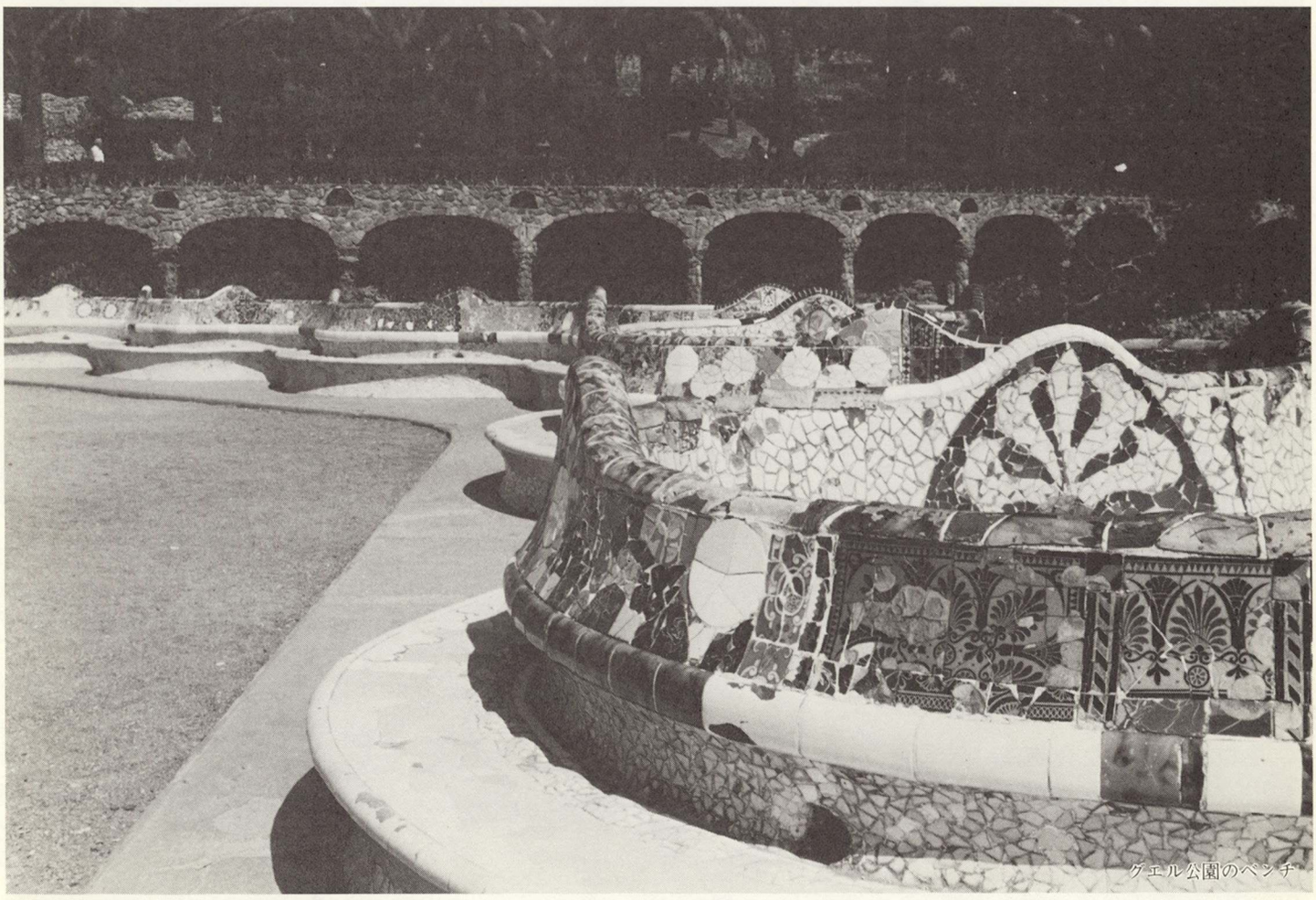
〒564 大阪府吹田市江の木町24—10 TEL（06）385—1261 FAX（06）386—6271
支店・営業所　東京・仙台・横浜・名古屋・広島・福岡

建築工事金物製品の
UNION

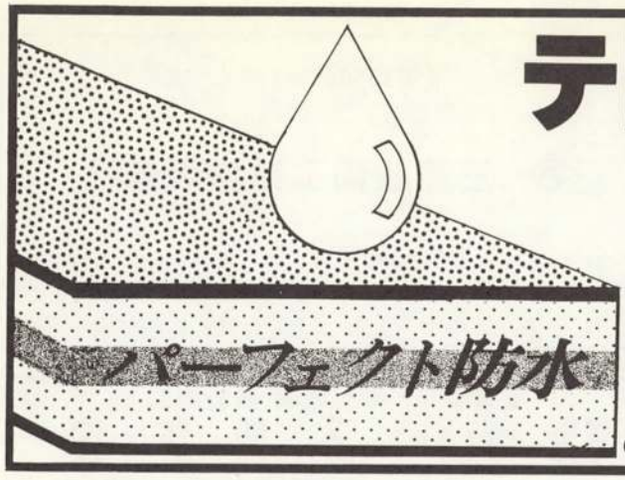
株式会社ユニオン

代表取締役　立野一郎

本社	大阪市西区南堀江2-13-22	〒550 電話 06(532)3731(代)
東京営業所	東京都江東区白河2—9—5	〒135 電話 03(630)2811(代)
名古屋営業所	名古屋市東区筒井町1-14-9	〒461 電話052(935)6021(代)
大阪ショールーム	大阪市西区京町堀1-17-16	〒550 電話 06(443)6620(代)



グエル公園のベンチ



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8—4—9	電話03（571）2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6—1—41	電話06（391）1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1—3—30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462（21）1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052（811）3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952（47）2945

■防火・防煙シャッター　■軽量シャッター
■ステンレスシャッター　■クリスタルシャッター
■アルミニュームシャッター　その他特殊シャッターの製造

アフターサービスの24時間態勢完備

鈴木シャッター工業株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号	電話大阪（06市外局番）	371代表4151～6
北陸営業所　金沢市長田町119番地	電話金沢（0762市外局番）	65－5135～6
神戸営業所　神戸市長田区大橋8-4-7	電話神戸（078市外局番）	611－7971 631－2021

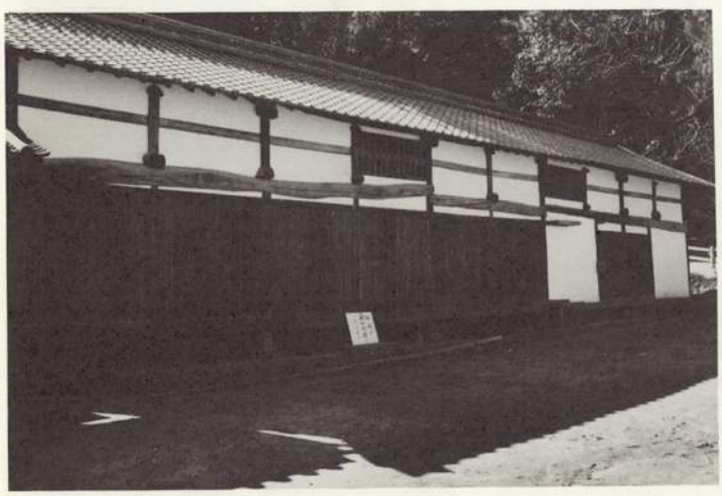
防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

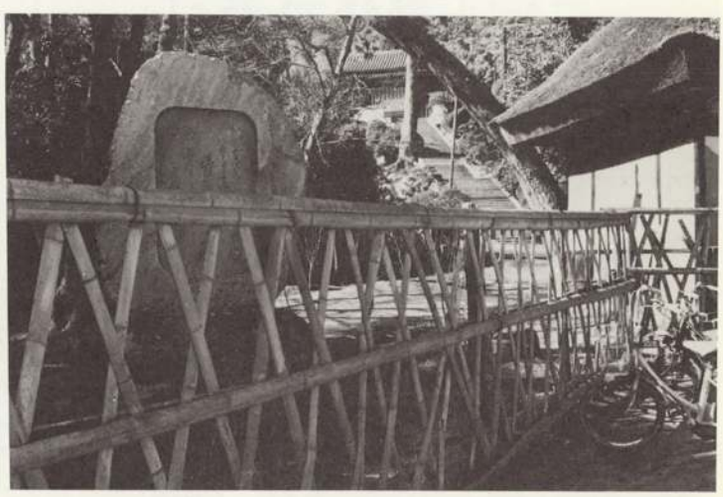
豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎（943）6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市





空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131（代）
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空調・衛生
防災・汚水処理 設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151（代）
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944（代）
神戸市中央区下山手通6－2－8 電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市東区城見ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06－363－1371
支　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222－61－3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082－247－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
営業所　札幌・横浜・京都・神戸・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・宇都宮・千葉・川崎・富山・福井・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒104 東京都中央区銀座2丁目2番17号　電話(03)535-5251
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン・スリランカ
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1,2階）
郵便番号542　電話 大阪(06) 768－5031代表
メンテナンス部　電話 大阪（06）768－1651代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル2～4階）
郵便番号102　電話 東京(03) 262－3241代表

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）
電話　03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区堂島1-5-33（中国銀行ビル）
電話　06-(346)-2581(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・松山・宇都宮・静岡・苫小牧

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号（新大ビル）
電話　（06）344－6031（代）
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話　（03）279－5671（大代）
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

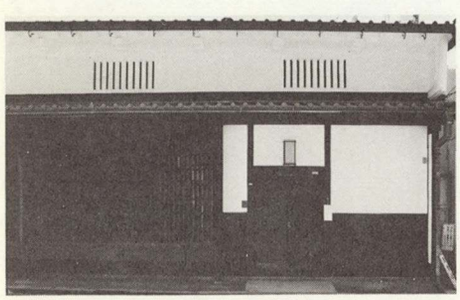
三機工業株式会社

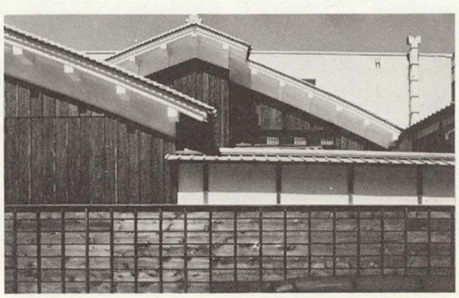
取締役社長　白谷清二
取締役大阪支店長　堀亀久治

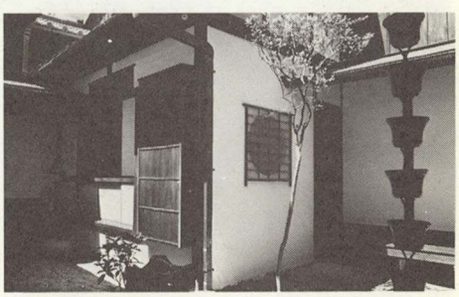
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話　大阪(202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国
営業所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港

cleanair
一年中 秋のすがすがしさ！

創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06－441－5171（大代表）〒550







電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0 6 6 5 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6 1 6 8

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・滋 賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大 阪 支 社

常務取締役支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202) 0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・新宿・横浜・名古屋・九州
営業所・出張所 全国主要都市32ヶ所

――誠実と技術でお応えする――

住友電設

取締役社長 相 馬 一 男

住友電設株式会社
本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代)
東京／〒105 東京都港区芝2丁目2－17 ☎(03)454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事
発変電設備工事
架空送配電線工事
地中送配電線工事

●設備工事
ビル電気設備工事
工場電気設備工事
防爆電気設備工事
計 装 工 事
空 調 工 事
給排水衛生工事
特 殊 配 管 工 事
消防施設設備工事

●プラント工事
●情報システム工事
光伝送システム工事
CATVシステム工事
各種アンテナ装置工事

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

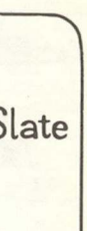
取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364) 1 4 7 1
TELEX 523－3 2 8 7
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504) 0 2 3 1
TELEX 222－6 7 2 4
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991) 5 1 3 1
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881) 5 5 7 1

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

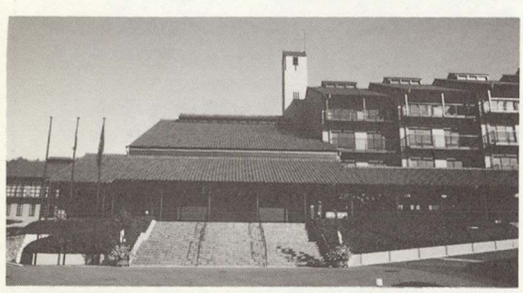
本 社 〒550 大阪市西区西本町1－13－33
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天 理 市 丹 波 市 新 町 50



Standard Board&Slate

フタバ工業

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858(代)



〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 五六一～七四一六
ファックス 五六一～七四五四

ナニワ瓦株式会社

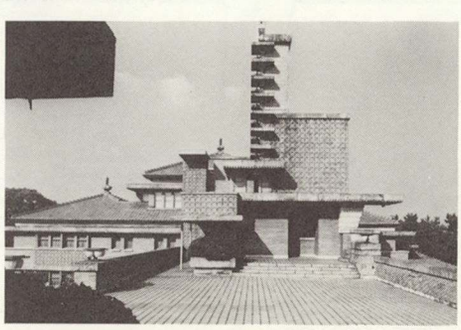
あらゆる屋根工事の相談は、

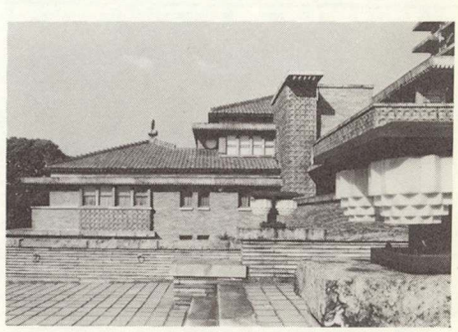
造園設計施工

富士造園土木株式会社

〒665 宝塚市山本東2－6－17
電話 0797－88－0501(代)







商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851(大代)　大阪本社 ☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津６丁目８番４号　電話大阪 (458) 3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満３丁目６番１４号
電話　０６－３６４－６６６１(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内３丁目３番１号
電話　０３－２１１－８５１１(代表)

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町２０番地の１
電話(681)　５１０１～５・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501(代)
三重支店　津市栄町２－１１１　電話(0592)26－3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431(代)
滋賀営業所　大津市中央２丁目4-28　電話(0775)22－9738(代)

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル９階)
電話　大阪 (372) ２　５　１　１ (代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台４丁目２番地

Carrier
冷暖房はキャリア
CARRIER

東洋キャリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町４０番３８号
電話大阪 (384)1201～7

MODAIR

空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靱本町３－１－２７　TEL(443) ８０７１
本社　東京都中央区京橋２丁目９　TEL(562) １３５１
支店　名古屋・福岡

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06 (606) 1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992 (26) 4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682 (4) 1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988 (55) 6100

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市北区西天満５-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９－３　電0720－49－2128

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

山田工業株式会社

本　社　大阪市西区京町堀１－６－８　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831 (代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支　店　東京・名古屋・福岡
営業所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山

飛鳥野瓦(意匠登録549771号)
渡辺式緩勾配安定瓦(実用新案登録出願中 110750 / 110751)　製造販売
各和洋瓦全般・カラーベスト・モニエル瓦・セキスイカワラU

創業67年　綜合施工卸
久保田鉄工・松下電工㈱・日本モニエル㈱・積水化学工業㈱・富士スレート㈱・特約代理店

瓦寅工業株式会社

本　社　大阪市生野区林寺１丁目５番14号　〒544
電話 06(715)　０２０１代表～５番
営業所　大阪市平野区　工場　兵庫県三原郡(淡路島)

文化庁・宮内庁・各府県庁
国宝 重要文化財 社寺・天理教教会本部　御用達

株式会社 瓦宇(かわらう)工業所

代表取締役　小林麻造
〒630 奈良市西新在家町17番地
電話 奈良(0742)26－２９０１番(代表)

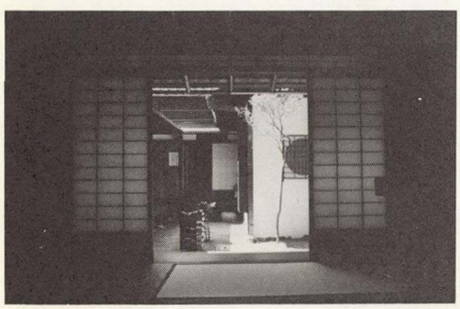
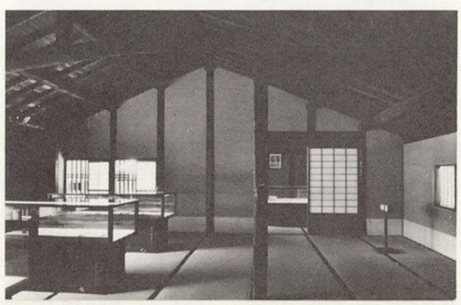
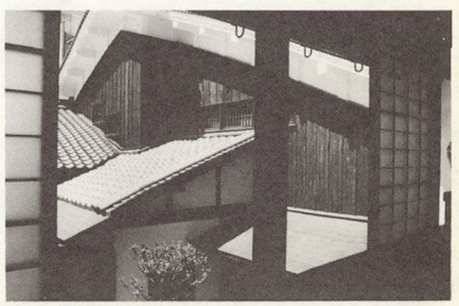
特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
製造元 日曹マスターピルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本　社/東京都港区六本木3－16－26 ☎03-582-8811
大阪営業所/大阪市東区北浜３－７ ☎06-202-3294

営業種目
●防水工事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53)第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201 S
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した,二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
(膨張性混和材)
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
(グラウト用無収縮材)
●デンカキューテックス……コンクリート軀体の漏水補修に
(止水・補修用急硬セメント)
●デンカES……地盤補強用薬液注入
(土質安定用急硬材)
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷と
ハイモメント製造用に
(製品用超高度混和材)
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）272－8501
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）584－9241
株式会社トーゴー/本社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
- オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
- 鋼板製オリエンタルフネンシングル
- オリエンタルオリセラム


体育館屋根フネンシングル

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷・姫路

東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

全国書店で好評発売中
NEW BOOKS INFORMATION

建築構造問題快答集 9

●監修　石黒徳衛
A5判・二一三頁・定価三、〇〇〇円

建築構造計算資料集

●中川　淳著
各種建築構造の計画・設計に役立つ実用便覧。〈1～8巻完結〉

第1巻　鉄筋コンクリート構造編(1)　B5判・一四〇頁・三、八〇〇円
第2巻　鉄筋コンクリート構造編(2)　B5判・二二二頁・三、八〇〇円
第3巻　鋼構造編(1)　B5判・二三五頁・三、二〇〇円
第4巻　鋼構造編(2)　B5判・一五六頁・二、五〇〇円
第5巻　鉄骨鉄筋コンクリート構造編　B5判・一〇八頁・二、二〇〇円
第6巻　基礎構造編　B5判・一四九頁・三、八〇〇円
第7巻　終局耐力編　B5判・一四七頁・三、八〇〇円
第8巻　応用計算編　B5判・一〇八頁・四、〇〇〇円

株式会社　建築技術
〒160 東京都新宿区北新宿1-8-1　中島ビル
TEL.(03)363-4211　振替東京0-72417

建築技術者必携の専門誌

建築技術2月号

1月18日　全国書店で一斉発売
定価1,200円

特集/インナーシティでの基礎工事

最近のすさまじい地価の値上り傾向は市街地敷地の細分化にますます拍車をかけ，狭い道路の奥とか，既存の隣家に近接した狭隘敷地での建築工事を余儀なくされているのが実状です。こういった密集市街地で建築の基礎工事を行なう場合には，騒音や振動，汚泥，塵埃などの発生が少なく，しかも近隣建物に悪影響を及ぼさぬような配慮が必要なことはいうまでもありませんが，また同時に，工事の質の確保，経済性，工期の短縮，省力化といった面も忘れてはなりません。そこで本号では「インナーシティでの基礎工事」を特集しました。

ここでは，基礎工事を根切山留工事，アンダーピニング・薬液注入工事，杭工事に大きく分け，それぞれの工事ごとにインナーシティ特有の制約条件に対処する技術の数々を紹介していきます。

1.根切山留工事　●インナーシティでの根切山留工事の留意点と施工例　●狭隘敷地での根切山留工事例
2.アンダーピニング・薬液注入工事　●アンダーピニング―不同沈下修正と下受け防護の事例―　●薬液注入による隣接建物の基礎補強
3.杭工事　●球根付埋込み杭―CITY GUY―　●ねじり込み式既製コンクリート杭―ＡＪパイル―　●回転圧入式細径鋼管杭工法　●ＢＨ工法

本文企画/■アメリカにおける建築CADシステムの開発・利用状況
■排熱利用融雪装置

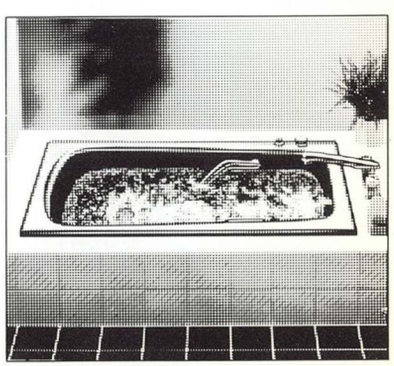


空気を吸わせると、お湯も生き返ってくれました。

お湯に吹き込む気泡が、気持ち良い〈気泡浴槽〉

TOTO

TOTOの気泡浴槽とはいったいなんだッ。それは空気を含んだお湯が心地よい、泡の出るお風呂のことだッ。この泡の働きはたいしたもので、洗っただけでは流せないような汚れや疲れを落としてしまえる。お湯も汚れてしまうけれど、TOTO独自のろ過機付きタイプなら大丈夫。お湯をきれいに保ちます。また、この泡は、背側と足側に噴出口があって、気泡の量も強さも角度も、簡単な操作で自由にコントロール。だから好き勝手に気泡浴が楽しめます。あまりの気持よさに、みんなの入浴時間が長くなってしまいそうだけれど、そこはTOTOに免じて、大目に見てください。



※カタログご希望の方は、〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 東陶機器株までご請求ください。

建築と社会　第69輯第1号
昭和63年1月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

●屋根が語る、新しい家づくりのはじまり。



くっきり、鮮やか。

――屋根はいま、新しい表情をもった

柔らかな質感、鮮やかなライン、深い色どり。美しい茸き味で、フネンシングル・一文字は日本の屋根に確実に定着してきました。美への鋭い感覚が生きてこそ伝統の屋根――フネンシングル・一文字は、素材・デザイン・色彩が一体となって、優れたアンサンブルを形成しています。その美しく、柔らかい表情は、建物の特長が屋根によって演出されることを表現しています。屋根はいま、新しい表情をもちました。日本の屋根、一歩すすめて、フネンシングル・一文字は高品質と美しさを追求。親しめる建物や環境づくりにあわせて選んだ、新色７色がそろって、さらに個性的、さらに魅力的になりました。

三星フネンシングル
一文字

西日本三星シングル工事協同組合
田島ルーフィング株式会社

大　阪　☎550 大阪市西区京町堀１－10－５　TEL06（443）0431
広　島　☎730 広島市中区西平塚町8-13　立駐広島ビル　TEL082（246）8625
福　岡　☎810 福岡市中央区港２－１－29　TEL092（712）0800
東　京　☎101 東京都千代田区岩本町３－11－13　TEL03（862）8531

雑誌　03379－1

社団法人　日本建築協会　〒530 大阪市北区梅田1-9-5 大阪駅前第一ビル二十九階
振替口座大阪一三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九五〇円（送料共）